

# 上 町 遺 跡 8

2023

飛驒市教育委員会







か ん ま ち い せ き  
上 町 遺 跡 8

2023

飛驒市教育委員会



# 序

岐阜県の最北端に位置する飛騨市は、北は富山市、南東は高山市、西は白川村に接し、面積792.31km<sup>2</sup>、内、森林が約93%を占める山間地域に、古川・河合・宮川・神岡の4つの地区から成る自治体として、約23,000人の人々が生活しています。

当市には、山の恵みと神通川に通じる宮川と高原川からの恩恵を背景に、数多くの遺跡が残されています。これらの遺跡は、これまでの考古学研究における重要な役割を担ってきました。その中でも最大規模の面積を誇るのが上町遺跡です。

本報告書は、上町遺跡内での個人住宅の造成に伴い2016年度に実施した、上町遺跡第50次調査の成果を報告するものです。ここでは、8世紀を中心とした遺跡の状況が明らかになりました。

また、これまで未報告であった試掘確認調査等についても触れました。これにより、1987年以降68次のべ21,615m<sup>2</sup>に及ぶ発掘調査を行い、3世紀後半から17世紀初頭までの竪穴建物跡121軒、掘立柱建物跡17棟などを発見したことを示し、上町遺跡全体の状況を明らかにすることができました。

本報告書を刊行・公開することによって、今後の調査研究の資料として活用され、遺跡の全容のさらなる解明に結びつきますとともに、市民の皆さんが「ふるさと飛騨市」の先人の生きた足跡に思いを巡らせ、貴重な財産である文化財の保護への関心を高めていただく一助になることを願っています。

結びに、本発掘調査の実施に対しまして深いご理解とご協力をいただきました飛騨市古川町上町地区の皆様はじめ、多くの市民の皆様、そして、本報告書の作成等に多大なるご指導・ご支援を賜りました関係者の皆様にご心からお礼申し上げます。

令和5年3月

岐阜県飛騨市教育委員会

教育長 沖 畑 康 子

## 例言

- 1 本書は、岐阜県飛騨市古川町上町・南成町・大野町に所在する上町遺跡（岐阜県遺跡番号 21217-06433）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、個人住宅の造成に伴うものであり、調査及び整理作業は、飛騨市教育委員会が実施した。
- 3 発掘調査及び一次整理作業は 2018 年度に、二次整理作業は 2019～2021 年度にかけて、文化庁の国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金（市内遺跡）（本発掘調査は、国宝重要文化財等保存整備費補助金）を得て、飛騨市教育委員会が実施した。
- 4 本書の執筆は、三好清超、石川路が行った。また、編集は榎毛野考古学研究所岐阜営業所（飛騨市古川町上町 782 番地 2）に委託し、三好の監督のもと常深尚が行った。  
三好清超 第 3 章第 3・5 節、第 5 章、第 6 章  
石川 路 第 2 章、第 3 章第 1・2・4 節、第 4 章  
三好清超・石川路 第 1 章
- 5 発掘調査における作業員雇用、現場管理、掘削、測量等を、榎毛野考古学研究所富山支所に委託して実施した。2019・2020 年度には遺物の整理作業・図面作成を直営で実施した。2021 年度には遺構・遺物のトレース作業を榎毛野考古学研究所岐阜営業所に委託して実施した。
- 6 遺物の写真撮影は、アートフォト右文に委託して実施した。
- 7 樹種同定・年代測定は、榎毛野考古学研究所岐阜営業所、バリノ・サーヴェイ㈱が実施し、その報告を第 5 章に掲載した。  
執筆は分析結果をもとに三好が行なった。
- 8 発掘調査及び報告書の作成に当たって、次の方々や諸機関から御指導・御協力をいただいた。記して感謝の意を表する次第である（敬称略・五十音順）。  
岡本直久、鹿島昌也、河合君近、河合英夫、近藤大典、鈴木景二、平井義敏  
榎玉川文化財研究所、瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター、みよし市立歴史民俗資料館  
飛騨市行政区第一区・第二区
- 9 本文中の方位は座標北であり、座標は国土交通省告示の平面直角座標系第Ⅶ系を使用する。水準は T、P、である。
- 10 土層の色調は、小山正忠・竹原秀雄 2007『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社）による。
- 11 調査記録及び出土遺物は、飛騨市教育委員会が保管している。

# 目次

序

例言・目次

第1章 調査の経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の方法と経過	4
第2章 遺跡の環境	7
第1節 地理的環境	7
第2節 歴史的環境	7
第3章 第50次調査の成果	15
第1節 層序	15
第2節 遺構と遺物の概要	15
第3節 遺構と遺構内出土遺物	18
第4節 遺構外出土遺物	73
第5節 小結 - 上町遺跡第50次調査区の遺構変遷	76
第4章 過去の試掘確認調査等の成果	97
第1節 各調査成果について	97
第2節 小結	161
第5章 自然科学分析	163
第1節 上町遺跡第50次調査出土炭化物の樹種同定	163
第2節 上町遺跡第50次調査出土炭化物の放射性炭素年代測定	165
第6章 総括	167
第1節 遺構・遺物の分布からみた遺跡範囲	167
第2節 上町遺跡における遺構の分布と変遷	169
引用・参考文献	182
写真図版・報告書抄録	
奥付	

## 挿図目次

第1図 上町遺跡位置図	2	第10図 SI03 出土遺物図 (3)	23
第2図 遺構平面・断面・堆積分類図	6	第11図 SI12 平面・断面図 (1)	25
第3図 上町遺跡と周辺の遺跡分布図	12	第12図 SI12 平面・断面図 (2)	26
第4図 第50次調査区全体図	16	第13図 SI12 出土遺物図	27
第5図 土師器皿分類図	18	第14図 SI101 平面・断面図 (1)	29
第6図 SI03 平面・断面図 (1)	19	第15図 SI101 平面・断面図 (2)	30
第7図 SI03 平面・断面図 (2)	20	第16図 SI101 平面・断面図 (3)	31
第8図 SI03 出土遺物図 (1)	21	第17図 SI101 出土遺物図 (1)	32
第9図 SI03 出土遺物図 (2)	22	第18図 SI101 出土遺物図 (2)	33

第19図	SI101 出土遺物図 (3) ……………	34	第68図	第 9 I 次調査遺構図 ……………	102
第20図	SI137平面・断面図、出土遺物図 ……	35	第69図	第 9 I 次調査出土遺物図 ……………	102
第21図	SI142平面・断面図、出土遺物図 ……	37	第70図	第 9 II 次調査遺構図 (1) ……………	103
第22図	SI147平面・断面図、出土遺物図 ……	38	第71図	第 9 II 次調査遺構図 (2) ……………	104
第23図	SI149平面・断面図、出土遺物図 ……	39	第72図	第 9 II 次調査出土遺物図 ……………	105
第24図	SI151平面・断面図、出土遺物図 ……	39	第73図	第 9 III 次調査遺構図 ……………	107
第25図	SI190平面・断面図、出土遺物図 ……	40	第74図	第 9 III 次調査出土遺物図 ……………	108
第26図	SB49 平面・断面図 ……………	41	第75図	第 10 II 次調査遺構図 ……………	109
第27図	SB49 出土遺物図 ……………	42	第76図	第 11 次調査遺構図 ……………	110
第28図	SB112 平面・断面図 (1) ……………	43	第77図	第 11 次調査出土遺物図 ……………	110
第29図	SB112 断面図 (2) ……………	44	第78図	第 12 次調査遺構図 ……………	111
第30図	SA287 平面・断面図 ……………	44	第79図	第 13 次調査出土遺物図 ……………	111
第31図	SS01・04・05・08・09・14 平面・断面図 ……	47	第80図	第 13 次調査遺構図 (1) ……………	112
第32図	SS2・63・66・67・133~135・204・222・240・261 平面・断面図 ……	49	第81図	第 13 次調査遺構図 (2) ……………	113
第33図	SS01・14・67・222 出土遺物図 ……	50	第82図	第 14 次調査遺構図 ……………	114
第34図	SD15・194 平面・断面図 ……………	52	第83図	第 15 次調査遺構図 ……………	114
第35図	SD208・232 平面・断面図 ……………	53	第84図	第 17 次調査遺構図 ……………	114
第36図	SD15・194 出土遺物図 ……………	53	第85図	第 18 次調査遺構図 ……………	115
第37図	SK10・27・28・32・38・39・43・48・57・85 平面・断面図 ……	55	第86図	第 19 次調査遺構図 ……………	115
第38図	SK90・106・138・139・141・157・165・167・171・177 平面・断面図 ……	56	第87図	第 20 次調査遺構図 ……………	115
第39図	SK180・181・185~187・191・205・224 平面・断面図 ……	57	第88図	第 21 次調査遺構図 ……………	116
第40図	SK235~239・243・252・253 平面・断面図 ……	58	第89図	第 22 次調査遺構図 ……………	117
第41図	SK10・39・90・138・166・180・181・187・202・239・243 出土遺物図 ……	59	第90図	第 22 次調査出土遺物図 ……………	118
第42図	SP06・11・13・16~26・29~31・33・34・285 平面・断面図 ……	62	第91図	第 23 次調査遺構図 ……………	120
第43図	SP35~37・40~42・44~47・50~56・58 平面・断面図 ……	63	第92図	第 24 次調査遺構図 ……………	121
第44図	SP59~61・69~84・86 平面・断面図 ……	64	第93図	第 25 III 次調査遺構図 ……………	121
第45図	SP87~89・91~100・102~105・107~110 平面・断面図 ……	65	第94図	第 29 II 次調査遺構図 ……………	121
第46図	SP111・113~125・128~132・136・140・143~145 平面・断面図 ……	66	第95図	第 34 次調査遺構図 ……………	122
第47図	SP166・168・169・170・173~175・182~188~174・176・201 平面・断面図 ……	67	第96図	第 34 次調査出土遺物図 ……………	122
第48図	SP178・179・182~184・186・189・192・193・195~200・206・207 平面・断面図 ……	68	第97図	第 35 次調査遺構図 ……………	123
第49図	SP200・211・213~217・220・221~225・227・229・230・232・234・236 平面・断面図 ……	69	第98図	第 36 次調査遺構図 ……………	124
第50図	SP245~251・254~260・262~266・270~272 平面・断面図 ……	70	第99図	第 38 次調査遺構図 ……………	124
第51図	SP273~280・282・284 平面・断面図 ……	71	第100図	第 39 次調査遺構図 ……………	125
第52図	SP 出土遺物図 (1) ……………	72	第101図	第 39 次調査出土遺物図 (1) ……	126
第53図	SP 出土遺物図 (2) ……………	73	第102図	第 39 次調査出土遺物図 (2) ……	127
第54図	遺構確認面出土遺物図 ……………	74	第103図	第 39 次調査出土遺物図 (3) ……	128
第55図	表土出土遺物図 ……………	75	第104図	第 39 次調査出土遺物図 (4) ……	129
第56図	第 50 次調査遺構変遷図 ……………	77	第105図	第 39 次調査出土遺物図 (5) ……	130
第57図	第 50 次調査遺構全体図割付図 ……	78	第106図	第 39 次調査出土遺物図 (6) ……	131
第58図	第 50 次調査遺構全体図分割図 (1) ……	79	第107図	第 39 次調査出土遺物図 (7) ……	132
第59図	第 50 次調査遺構全体図分割図 (2) ……	80	第108図	第 39 次調査出土遺物図 (8) ……	133
第60図	第 50 次調査遺構全体図分割図 (3) ……	81	第109図	第 40 次調査遺構図 ……………	140
第61図	第 50 次調査遺構全体図分割図 (4) ……	82	第110図	第 40 次調査出土遺物図 ……	140
第62図	第 50 次調査遺構全体図分割図 (5) ……	83	第111図	第 42 次調査遺構図 ……………	140
第63図	上町遺跡における過去の状態確認調査等位置図 ……	98	第112図	第 43 次調査遺構図 ……………	141
第64図	第 8 I 次調査遺構図 ……………	99	第113図	第 43 次調査出土遺物図 ……	141
第65図	第 8 I 次調査出土遺物図 ……………	99	第114図	第 44 次調査遺構図 ……………	141
第66図	第 8 II 次調査遺構図 ……………	101	第115図	第 46 次調査遺構図 ……………	142
第67図	第 8 III 次調査遺構図 ……………	101	第116図	第 47 次調査遺構図 ……………	142

第117図	第48次調査遺構図	143	第136図	第63次調査遺構図	154
第118図	第48次調査出土遺物図	143	第137図	第64次調査遺構図	155
第119図	第51次調査遺構図	145	第138図	第64次調査出土遺物図	156
第120図	第51次調査出土遺物図	145	第139図	第65次調査遺構図	157
第121図	第52次調査遺構図	146	第140図	第66次調査遺構図	157
第122図	第53次調査遺構図(1)	147	第141図	第66次調査出土遺物図	158
第123図	第53次調査遺構図(2)	148	第142図	第67次調査遺構図	159
第124図	第53次調査出土遺物図	148	第143図	第68次調査遺構図	159
第125図	第54次調査遺構図	149	第144図	遺跡外1遺構図	160
第126図	第54次調査出土遺物図	149	第145図	炭化物の顕微鏡写真	164
第127図	第55次調査遺構図	151	第146図	年代測定暦年校正図	166
第128図	第56次調査遺構図	151	第147図	上町遺跡範囲図	168
第129図	第57次調査遺構図	151	第148図	上町遺跡1期遺構図	173
第130図	第57次調査出土遺物図	152	第149図	上町遺跡2期遺構図	174
第131図	第58次調査遺構図	152	第150図	上町遺跡3期遺構図	175
第132図	第59次調査遺構図	152	第151図	上町遺跡4期遺構図	177
第133図	第60次調査遺構図	153	第152図	上町遺跡5期遺構図	178
第134図	第61次調査遺構図	153	第153図	上町遺跡6期遺構図	179
第135図	第62次調査遺構図	153	第154図	上町遺跡7期遺構図	181

## 挿表目次

第1表	上町遺跡調査次数一覧表(1)	3	第26表	第9Ⅱ次調査出土遺物観察表	106
第2表	上町遺跡調査次数一覧表(2)	4	第27表	第9Ⅲ次調査出土遺物観察表	108
第3表	発掘調査及び整理作業体制表	4	第28表	第11次調査出土遺物観察表	110
第4表	上町遺跡と周辺の主な遺跡一覧(1)	13	第29表	第13次調査出土遺物観察表	111
第5表	上町遺跡と周辺の主な遺跡一覧(2)	14	第30表	第22次調査出土遺物観察表	119
第6表	第50次調査出土遺物集計表	17	第31表	第34次調査出土遺物観察表	123
第7表	第50次調査土坑出土遺物集計表	54	第32表	第39次調査出土遺物観察表(1)	135
第8表	第50次調査柱穴出土遺物集計表(1)	60	第33表	第39次調査出土遺物観察表(2)	136
第9表	第50次調査柱穴出土遺物集計表(2)	61	第34表	第39次調査出土遺物観察表(3)	137
第10表	第50次調査遺構一覧表(1)	84	第35表	第39次調査出土遺物観察表(4)	138
第11表	第50次調査遺構一覧表(2)	85	第36表	第39次調査出土遺物観察表(5)	139
第12表	第50次調査遺構一覧表(3)	86	第37表	第40次調査出土遺物観察表	140
第13表	第50次調査遺構一覧表(4)	87	第38表	第43次調査出土遺物観察表	141
第14表	第50次調査遺構一覧表(5)	88	第39表	第48次調査出土遺物観察表	144
第15表	第50次調査遺物観察表(1)	89	第40表	第51次調査出土遺物観察表	144
第16表	第50次調査遺物観察表(2)	90	第41表	第53次調査出土遺物観察表	146
第17表	第50次調査遺物観察表(3)	91	第42表	第54次調査出土遺物観察表	150
第18表	第50次調査遺物観察表(4)	92	第43表	第57次調査出土遺物観察表	152
第19表	第50次調査遺物観察表(5)	93	第44表	第64次調査出土遺物観察表	156
第20表	第50次調査遺物観察表(6)	94	第45表	第66次調査出土遺物観察表	158
第21表	第50次調査遺物観察表(7)	95	第46表	放射性炭素年代測定及び暦年校正結果一覧表	166
第22表	第50次調査遺物観察表(8)	96	第47表	上町遺跡調査遺構数一覧表	170
第23表	試掘確認調査等出土遺物集計表	97	第48表	時期別の遺構集計表	171
第24表	第8Ⅰ次調査出土遺物観察表	100	第49表	上町遺跡の消長表	180
第25表	第9Ⅰ次調査出土遺物観察表	102			

## 挿入写真目次

1 第48次調査 1号トレンチ調査終了状況(東から) … 1	6 第50次調査 遺構調査状況 ……42
2 第48次調査 遺物出土状況 …… 1	7 第63次調査 全景(東から) …… 161
3 第50次調査 遺構検出作業 …… 6	8 第53次調査 全景(南東から) …… 162
4 第50次調査 現地説明会の様子 …… 6	9 第53次調査 T4調査終了状況(南西から) … 162
5 第50次調査 遺構検出状況 ……42	

## 写真図版目次

図版1 第50次調査 全景(南東から)	第50次調査 SB112(P1) C-C' 土層断面(南東から)
図版2 第50次調査 全景(北西から)	第50次調査 SB112(P1)・SP193 E-E' 土層断面(南東から)
図版3 第50次調査 全景(西から)	第50次調査 SB112(P6) H-H' 土層断面(東から)
第50次調査 全景(上から)	第50次調査 SB112(P7) I-I' 土層断面(東から)
図版4 第50次調査 SI03 完掘状況(北西から)	図版16 第50次調査 SS01 調査終了状況(北から)
第50次調査 SI03 遺物出土状況(北東から)	第50次調査 SS01 礫検出状況(西から)
図版5 第50次調査 SI03 カマド遺物出土状況(西から)	図版17 第50次調査 SS08-09-62-63 覆検出状況(東から)
第50次調査 SI03 南西側礎石調査終了状況(南東から)	第50次調査 SS08-09 A-A' 土層断面(南から)
第50次調査 SI03 カマド西側礎石検出状況(西から)	図版18 第50次調査 SD15 調査終了状況(北東から)
第50次調査 SI03 南東側礎石調査終了状況(南東から)	第50次調査 SD15-SK28-SP25 土層断面(北東から)
第50次調査 SI03・SI12 D-D' 土層断面(北東から)	第50次調査 SD15-36 C-C' 土層断面(北東から)
図版6 第50次調査 SI12 調査終了状況(南西から)	第50次調査 SD194 C-C' 土層断面(北から)
第50次調査 SI12 遺物出土状況(西から)	第50次調査 SD194 B-B' 土層断面(南から)
図版7 第50次調査 SI12 A-A' 土層断面(北西から)	図版19 第50次調査 SD194 検出状況(南から)
第50次調査 SI12 B-B' 東側土層断面(北東から)	第50次調査 SD194 調査終了状況(南西から)
図版8 第50次調査 SI101 完掘状況(南西から)	図版20 第50次調査 SD208 調査終了状況(北東から)
第50次調査 SI101 遺物出土状況(北東から)	第50次調査 SD232 調査終了状況(南東から)
図版9 第50次調査 SI101 北東カマド埋土掘削状況(西から)	図版21 第50次調査 SK205 調査終了状況(北東から)
第50次調査 SI101 北東カマドF-G' 土層断面(南西から)	第50次調査 SK205 B-B' 土層断面(北東から)
第50次調査 SI101 北西カマド調査終了状況(南東から)	第50次調査 SK165-166-167-SP168 完掘状況(北西から)
第50次調査 SI101 遺物№76須恵器検み遺出状況(南東から)	第50次調査 SK186-187-SP210 調査終了状況(南から)
第50次調査 SI101・SB112 C-C' 土層断面(南東から)	第50次調査 SK238-239 完掘状況(北西から)
図版10 第50次調査 SI137 調査終了状況(北西から)	図版22 第50次調査 SI03出土遺物(1)
第50次調査 SI137 A-A' 土層断面(北東から)	図版23 第50次調査 SI03出土遺物(2)
図版11 第50次調査 SI142-SP148 調査終了状況(北東から)	図版24 第50次調査 SI12出土遺物
第50次調査 SI142 カマドB-B' 土層断面(南西から)	図版25 第50次調査 SI1101出土遺物(1)
図版12 第50次調査 SI147 調査終了状況(北東から)	図版26 第50次調査 SI1101出土遺物(2)
第50次調査 SI149 調査終了状況(北東から)	図版27 第50次調査 SI-SB-SD出土遺物
図版13 第50次調査 SI151 調査終了状況(北から)	図版28 第50次調査 SS出土遺物
第50次調査 SI190 調査終了状況(東から)	図版29 第50次調査 SK出土遺物
図版14 第50次調査 SB49 北半分調査終了状況(北東から)	第50次調査 SP出土遺物
第50次調査 SB49(P1) C-C' 土層断面(東から)	図版30 第50次調査 SP・確認面・表土出土遺物
第50次調査 SB49(P3) E-E' 土層断面(南東から)	図版31 第39次調査 T1 調査終了状況(北から)
第50次調査 SB49(P5) G-G' 土層断面(北東から)	第39次調査 T3 調査終了状況(西から)
第50次調査 SB49(P7) I-I' 土層断面(北東から)	第54次調査 T1 調査終了状況(南西から)
図版15 第50次調査 SB112 完掘状況(北西から)	図版32 第64次調査 T2 調査終了状況(北西から)

## 第1章 調査の経過

### 第1節 調査に至る経緯

**事業の計画・調整と試掘確認調査** 上町遺跡は、岐阜県飛騨市古川町上町ほかに所在する。2023（令和5）年3月までに、68次にわたり延べ21,615㎡の調査を実施してきており、7冊の報告書を刊行している（第1図、第1・2表）（上町遺跡C地点発掘調査団1989・1991、上町遺跡トヨタ地点・0地点・栗原センター地点発掘調査団1994、上町遺跡金子地点・氷見地点発掘調査団2001、飛騨市教育委員会2013・2016・2018）。それにより、古代を中心とし、古墳時代初頭から中近世までの遺構が残る複合遺跡であると判明している。また、調査が行われていない範囲でも濃密な遺物散布が認められ、南北1.5km・東西0.5kmほどの大規模な遺跡と明らかになっている（飛騨市教育委員会2019）。

2016（平成28）年、本遺跡内の現況水田地において個人住宅の新築が計画された。飛騨市教育委員会では、事業者と協議・調整を重ねて発掘調査の同意を得て、2016（平成28）年7月13・14日に試掘確認調査を上町遺跡第48次調査として実施し、現地地表下25cmで古代の遺構・遺物を確認した。この調査結果は第4章にて詳述する。事業は、個人住宅の新築に伴って敷地の耕作土を撤去して入れ替えるもので、敷地面積545㎡で影響があると想定された。

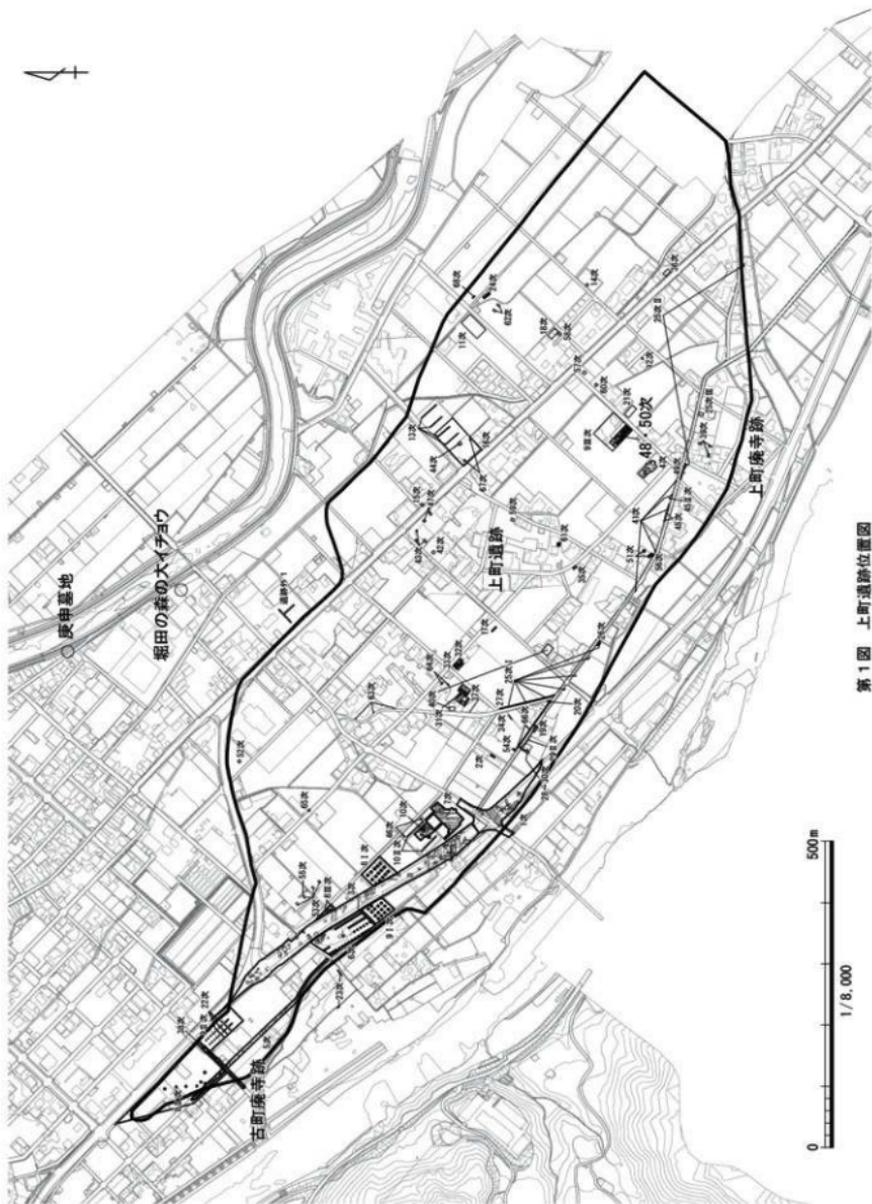
事業者にはすぐに結果を報告し、遺構面に影響を及ぼす工事の場合は事前の発掘調査が必要になることを伝えた。また、平成28年10月5日付け飛教生文第324号にて発掘調査終了報告書を岐阜県教育委員会へ提出した。

**文化財保護法93条の届出と本発掘調査の実施** 事業者は平成28年10月5日付けで周知の埋蔵文化財包蔵地における文化財保護法93条の埋蔵文化財発掘の届出を岐阜県教育委員会へ提出した。岐阜県教育委員会では、事業者宛に平成28年10月27日付け社文第63号の475にて、耕土撤去範囲を対象に本発掘調査を実施するように指示した。飛騨市教育委員会は、上町遺跡第50次調査として、11月21日～12月20日にかけて518㎡の本発掘調査を実施した（第3表）。また、平成28年11月15日付け飛教生文第484号にて法99条による報告を提出した。

調査中の12月4日には現地説明会を実施し、78名の参加があった。調査終了後には、平成29年1月17日付け飛教生文第543号にて発掘調査終了報告書を岐阜県教育委員会に提出した。



1 第48次調査 1号トレンチ調査終了状況（東から） 2 第48次調査 遺物出土状況



第1表 上町遺跡調査回数一覧表(1)(令和4年度末現在)

調査回数	調査地点・報告書名称	調査期間	調査種別	調査面積 (㎡)	報告年度
1	C地点	19870801～19880331	本調査	1,700	1989
2	O地点	19871120～19871130	本調査	20	1994
3	D地点	19880917～19891214	本調査	10,684	1991
4	栗原センター地点	19900514～19900619	本調査	403	1994
5	向町地点	19900601～19901227	本調査	2,572	2013
6	トヨタ地点	19900912～19901205	本調査	1,114	1994
7	金子地点	19910724～19911129	本調査	1,296	2001
8 I	コスモ石油	19930511～19900515	試掘調査	64	本報告書
8 II	南成町	-	試掘調査	32	本報告書
8 III	トヨタカローラ前	1993	試掘調査	13	本報告書
9 I	丸仲建設株式会社	19930511～19930515	試掘調査	56	本報告書
9 II	開発計画に伴う埋蔵文化財の試掘調査	19941122～19941130	試掘調査	24	本報告書
9 III	柳不動産	19980707～19980709	試掘確認調査	40	本報告書
10	水見地点	19980805～19980922	本調査	724	2001
10 II	水見・試掘確認調査地点	19970828～19970906	試掘確認調査	144	本報告書
11	工場建設	20040901	試掘調査	38	本報告書
12	南古川不動産	20051024	工事立会	5	本報告書
13	藤崎草クボタ	20061207～20061209	試掘調査	134	本報告書
14	個人住宅	20070316	工事立会	15	本報告書
15	下水道管理設	20070518	工事立会	2	本報告書
16	藤崎草クボタ	20070604	工事立会	0	本報告書
17	個人住宅	20080530	工事立会	2	本報告書
18	個人住宅	20080829	工事立会	2	本報告書
19	個人住宅	20080908	工事立会	1	本報告書
20	防災行政無線屋外拡声器増設工事	20081209	工事立会	1	本報告書
21	宅地造成	20100218	工事立会	1	本報告書
22	藤トヨタ	20100517～20100521	試掘確認調査	60	本報告書
23	農道整備	20100726～20100727	試掘確認調査	15	本報告書
24	イーモバイル携帯電話アンテナ	20110414～20110415	試掘確認調査	48	本報告書
25 I	上町線道路改良工事	20111128～20111129	試掘確認調査	40	2018
25 II	上町線道路改良工事	20120413	試掘確認調査	8	2018
25 III	宮川漁業	20120612～20120622	工事立会	4	本報告書
26	上町線道路改良工事	20120618～20120624	本調査	10	2018
27	上町線道路改良工事	20121029～20121203	本調査	180	2018
28	個人住宅	20121201～20121204	試掘確認調査	50	2016
29	個人住宅塋壁工事	20130325～20130330	工事立会	33	2016
29 II	上町下水道敷設	20130305	工事立会	2	本報告書
30	個人住宅	20130509～20130524	本調査	115	2016
31	個人住宅	20130520～20130522	試掘確認調査	10	2016
32	個人住宅	20130523～20130524	試掘確認調査	10	2016
33	個人住宅	20130610～20130628	本調査	158	2016
34	個人住宅	20130730～20130731	試掘確認調査	10	本報告書
35	個人住宅	20130730～20130731	試掘確認調査	10	本報告書
36	個人住宅	20130809	工事立会	10	本報告書
37	個人住宅	20040306～20040324	本調査	486	2016
38	下水道管理設・市道	20140221	工事立会	2	本報告書
39	宅地造成	20040411～20040416	立会・試掘確認調査	30	本報告書
40	宅地造成	20141002	工事立会	12	本報告書
41	上町線道路改良工事	20150430～20150501	試掘確認調査	5	2018
42	宅地造成	20150529	工事立会	10	本報告書
43	店舗解体	20150715～20150717	工事立会	3	本報告書
44	倉庫建設	20150826	工事立会	1	本報告書
45	上町線道路改良工事	20151019～20151023	本調査	23	2018
45 II	上町線拡幅に伴う電柱移設	20160407	工事立会	3	本報告書
46	集合住宅	20160513	工事立会	2	本報告書
47	集合住宅	20160602	工事立会	2	本報告書
48	個人住宅	20160713～20160714	試掘確認調査	30	本報告書

#### 4 第1章 調査の経過

第2表 上町遺跡調査次数一覧表(2)(令和4年度末現在)

調査次数	調査地点・報告書名称	調査期間	調査種別	調査面積 (㎡)	報告年度
49	市道拡幅	20161109～20161118	本調査	57	2018
50	個人住宅	20161121～20161220	本調査	518	本報告書
51	グループホーム	20170831～20170901	試掘確認調査	10	本報告書
52	店舗建設	20171018	試掘確認調査	4	本報告書
53	工場建設	20171106～20171108	試掘確認調査	60	本報告書
54	個人住宅	20180530	試掘確認調査	10	本報告書
55	工場建設	20180723	工事立会	45	本報告書
56	中部電力電柱及び支線の撤去・新設	20180926	工事立会	2	本報告書
57	アルプス薬品資材置き場造成	20181122	工事立会	6	本報告書
58	飛騨防災車庫新築	20190227	工事立会	4	本報告書
59	個人住宅	20190328～20190420	工事立会	2	本報告書
60	個人住宅	20191105	工事立会	3	本報告書
61	個人住宅	20200331	工事立会	2	本報告書
62	農作物倉庫建設	20200408	工事立会	3	本報告書
63	市道拡幅工事	20200416～20200417	試掘確認調査	7	本報告書
64	個人住宅	20200525～20200526	試掘確認調査	10	本報告書
65	側溝修繕工事	20201202	工事立会	32	本報告書
66	側溝工事	20211019	工事立会	50	本報告書
67	宅地造成・道路設置	20220404～20220405	工事立会	2	本報告書
68	工場建設	20220518	試掘確認調査	10	本報告書
遺跡外1	店舗新築	20080422～20080424	試掘確認調査	309	本報告書
	合計			21,615	㎡

第3表 発掘調査及び整理作業体制表

年度	2016	2019	2020	2021	2022
教育長	山本 幸一	仲畑 康子			
事務局長	清水 貢	谷尻 孝之		野村 賢一	
課長	森瀬 誠	大庭 久幸	畑上 あづき	大上 雅人	
課長補佐	鈴木 茂樹(～4月)(故人)	—	古田 一也		
係長	水口 晃	清水 則久	三好 清昭		
担当	清水 則久	三好 清昭	石川 露		
調査担当	三好 清昭(生涯学習係)	三好 清昭	三好 清昭、石川 露		
作業員	中嶋 美香 橋本 真由美 島中 裕子	橋本 真由美 島中 裕子 垣添 敦子			
委託業者	発掘調査支援業務委託 第50次調査 和毛野考古学研究所富山支所 管理技術者・早川麗司 副管理技術者・常深尚	—	—	遺構・遺物図デジタルト レース委託 和毛野考古学研究所岐阜営業所 管理技術者・常深尚	報告書作成委託 和毛野考古学研究所岐阜営業所 管理技術者・常深尚

2016年度の発掘調査は生涯学習課文化係が担当。2019年度に文化振興課が新設され、整理作業・報告書刊行を担当。

## 第2節 調査の方法と経過

### 1 調査の方法

**グリッドの設定** 上町遺跡では、世界測地系座標を基に100m×100mの大グリッドを設定し、その中に5m×5mの小グリッドを設定している。小グリッドは北から南へA～T、西から東へ1～20とし、調査区画の呼称は北西隅の番号を用いている。第50次調査も、このグリッドに従った。

**掘削** 表土掘削は重機で行い、遺物包含層掘削、遺構検出、遺構掘削の各作業は全て人力で行った。

**記録作成** 遺構番号は検出順に通番を付した。遺構記号は『発掘調査のてびき』（平成22年、文化庁）に準拠した。本報告書内では各次数の種別と検出番号が重複するため、必要に応じて次数番号を頭に付して「50SI01」などのように記す。平面図・断面図は三次元測量図化システムにより作図した。一部の断面図は手実測によるものをデジタルトレースして作図した。遺構調査にあたっては、原則として全て平断面図を作成した。計測は最大幅を長軸とし、それに直行する軸を短軸とした。深さは最も深い位置で計測した。攪乱や他遺構に切られている場合、調査区外に及ぶ場合は残存値を計測し、括弧書きで記載した。

平面形状と底面形状は、円形・方形・不定形の3種に分類した。埋土堆積状況は、単層・水平堆積・中央が窪む堆積・片側の壁に偏る堆積の4種に分類した。断面形状は、半円形・方形・逆三角形・フラスコ形・2段掘り込み形の6種に分類した（第2図）。

記録写真は35mmカメラ（モノクロ・カラー）、中判カメラ（モノクロ・カラー）、フルサイズデジタル一眼レフカメラで撮影した。景観写真は、ラジコンヘリコプターによるフィルム撮影とした。

**遺物の取り上げ** 検出作業時及び遺構内出土遺物については2cm以上の破片を一点上げとし、その他は一括取り上げとした。遺物包含層出土遺物は残りが良い資料を一点取り上げとし、ほとんどをグリップ単位の一括取り上げとした。

## 2 発掘作業の経過

第50次 平成28年11月21日 重機による表土掘削の開始。順次検出作業を開始。

25日 堅穴建物跡を検出。

28日 柱穴は段下げを実施。柱痕跡の有無等を確認。

29日 富山大学人文学部・鈴木景二教授来跡。

30日 遺構検出状況写真撮影。

12月1日 遺構掘削開始。

2日 岐阜県博物館・近藤大典学芸員来跡。

3日 堅穴建物に伴うカマドの調査開始。

4日 現地説明会開催、78名参加。

12日 景観写真撮影。

都竹淳也飛騨市長来跡。

19日 遺構完掘。写真撮影終了。埋め戻し開始。

富山市教育委員会・鹿島昌也氏来跡。

20日 埋め戻し終了。現場引き渡し。

## 3 整理等作業の経過

**一次整理作業** 第50次調査では発掘調査終了後からすぐ、遺構図面の整理及び整理遺物洗浄・注記・接合等の一次整理作業を行った。注記は手書きにとし、記入は略号（上町遺跡：KM）・調査次数・取り上げ番号とした。遺物の一次整理作業の終了時には、コンテナ数が10箱と判明したため、平成29年5月25日付け飛市教文第24号にて埋蔵文化財保管証を岐阜県教育委員会へ、同日付け飛市教文第25号にて法108条及び遺失物法第4条第1項の規定による埋蔵物発見届を飛騨警察署長へ提出した。

岐阜県教育委員会から、平成29年6月13日付け文伝第78号の22にて埋蔵物の文化財認定を受けた。その後、詳細分布調査、姉小路氏城館跡調査により整理作業を中断することとした。

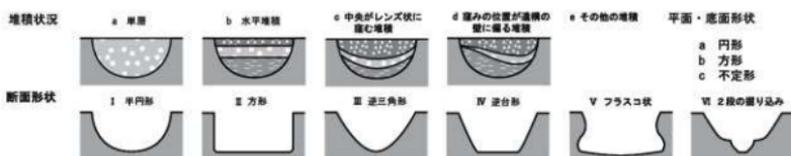
出土品については、法第107条第1項の規定により平成29年11月27日付け飛市教文第138号にて飛騨市教育委員会から岐阜県教育委員会に譲与申請した。岐阜県教育委員会からは、平成29年12月14日付け文伝第70号の35にて通知を受け、飛騨市教育委員会へ出土品が譲与された。

**二次整理作業と報告書発行** 2019(令和元)年度には報告書掲載遺物の選別から二次整理作業を再開した。出土遺物を遺構ごとに分け、遺構内出土遺物は遺跡の時期を決定する資料と考えて選別した。遺構外出土遺物は、遺跡の性格を反映するもの、資料的価値の高いもの、分類別の代表的な物を選別して掲載した。

同年度2月14日には直営で遺物の実測図作成を開始し、2020年度にかけて行った。2020(令和2)年4月13日には(公財)瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター・岡本直久氏、河合君近氏に瀬戸美濃焼・山茶碗等の見方についてご教示を受けた。2020(令和2)年8月3・4日には榊玉川文化財研究所・河合英夫氏に遺物の見方についてご教示を受けた。また、2021(令和3)年3月18日には、みよし市立歴史民俗資料館において、平井義敏氏に灰釉陶器の窯資料を実見しながら見方についてご教示を受けた。

トレース作業は2021年(令和3)年6月24日～2022年(令和4)年2月21日まで銜毛野考古学研究所岐阜営業所に委託して実施した。実測図原本は委託先の整理作業場へ持ち出した。同年度にはオートフォト右文に委託して遺物写真撮影を行った。

2022年度に執筆等を行い、同年度に報告書を刊行した。なお、本報告書では本調査を行った第50次の報告に加え、これまで未報告の試掘確認調査、工事立会についても報告する。



第2図 遺構平面・断面・堆積分類図



3 第50次調査 遺構検出作業



4 第50次調査 現地説明会の様子

## 第2章 遺跡の環境

### 第1節 地理的環境

上町遺跡は岐阜県飛騨市古川町上町周辺に所在する。

飛騨市は岐阜県最北端に位置し、北は富山県と県境を接し、南と東は高山市、西は白川村と接する。平成16(2004)年2月に古川町・河合村・宮川村・神岡町の2町2村が合併し誕生した。人口は約23,000人、面積は792.31㎏である。周囲は3,000mを越える北アルプスや飛騨山脈などの山々に囲まれ、市域の約93%は山地・森林である。山々の間には小河川や支谷が形成され、宮川や高原川などに注ぐ。これら河川が深いV字谷を刻みながら浸食により幾階層もの河岸段丘を形成している。市内の平地は本遺跡が位置する飛騨市古川町から高山市国府町に広がる古川・国府盆地や神岡町の市街地を中心とした地域でみられる。

盆地を取り囲む山地は、船津花崗岩類や手取層、濃飛流紋岩により形成される。船津花崗岩類は本遺跡の北側に広がる。手取層は礫岩・砂岩・頁岩等からなり、本遺跡の南側において宮川を東西に横切るように分布する。濃飛流紋岩は、大規模な火山活動によって形成された火砕物の堆積物であり、溶結凝灰岩である。岐阜県の3分の1に及ぶ広大な範囲に分布しており、本遺跡周辺に広がっている。

古川町では盆地のやや西寄りを北西から南東へ宮川が貫流する。本遺跡はその宮川中流域右岸の下位段丘に位置する、さらに遺跡北側にはその支流の荒城川が流れ、本遺跡は両河川に挟まれた微高地に立地する。荒城川は本遺跡の西側で宮川と合流する。合流点の標高は約490mである(第3図)。宮川は高山盆地に、荒城川は高山市国府町の通称荒城谷から流れる。高山盆地と荒城側の双方に通じる位置としても、本遺跡は重要であったと考えられる。

本遺跡の地山として確認した第IV・V層は河川由来の砂礫である。第V層は礫層で、その凹凸を埋めるように第IV層砂層が堆積する。河川の氾濫の影響を受けなくなり、最終的に離水して安定した土地に変化したのであろう。本遺跡では弥生時代末から古墳時代の方形周溝墓が見つかっているため、土壌生成が進行する過程において弥生時代末頃に人々の生活が営まれるようになったと推測される。

### 第2節 歴史的環境

飛騨市古川町から高山市国府町にかけて、宮川に沿って形成された盆地内の段丘上や微高地上に多くの遺跡を確認している(第3図)。とくに古墳時代以降では、古墳及び古代寺院推定地が数多く分布しており、高山盆地とともに古代飛騨の中心を形成していたと考えられている。

#### 1 縄文時代

盆地内の麓に広がる上位段丘上には縄文時代の遺跡が多く分布している。これまで古川町内で発掘調査された縄文時代の遺跡には、岡前遺跡(4)、御番屋敷遺跡(5)、黒内細野遺跡(2)、中野山越遺跡(17)、沢遺跡(6)などがある。最も古い遺跡は沢遺跡(6)である。古川町上気多字沢に所在する。昭和39(1964)年の予備調査に続き、昭和42・61(1967・1986)年の2次にわたり調査が行われ、堅穴建物跡や土坑な

どを発見している(大野政雄・佐藤達夫 1967、飛騨市教育委員会 2017a)。縄文時代早期前葉の「沢式土器」の標識遺跡として知られており、調査範囲は昭和 63 (1988) 年に飛騨市史跡として指定された。最も多くの堅穴建物跡を確認したのは中野山越遺跡 (17) である。古川町中野字山越に所在し、昭和 51 ~ 54 (1976 ~ 1979) 年に発掘調査が行われ、縄文中期から晩期にかけて 32 軒の堅穴建物跡を確認した(中野山越遺跡発掘調査団 1993)。昭和 63 (1988) 年には調査範囲が飛騨市史跡として指定されている。また、出土遺物のうち土器・土製品・石器・石製品 362 点が、平成 8 (1996) 年に国の重要文化財の指定を受けた。岡前遺跡 (4) は盆地の北西に位置する遺跡で、岐阜県文化財保護センターにより発掘調査が実施され、縄文中期後半を中心とする堅穴建物跡が 8 軒調査されている(財団法人岐阜県文化財保護センター 1995)。黒内細野遺跡 (2) は古川町黒内字細野に所在する遺跡で、平成 10 (1998) 年に町道建設に伴い調査を行った(飛騨市教育委員会 2014)。縄文中期から後期の堅穴建物跡 5 軒と多数の土坑を発見している。御番屋敷遺跡 (5) は昭和 29 (1954) 年に開田工事の際に縄文時代中期の堅穴建物跡を発見し、昭和 34 (1959) 年に「御番屋敷先史時代住居跡」として岐阜県史跡に指定された。高山市国府町域では、荒城川沿いに森ノ木遺跡 (8)・立石遺跡 (11)・荒城神社遺跡 (7) が分布し、高山盆地にかけては村山遺跡 (9) が分布する。村山遺跡 (9) は飛騨地域で最初に発掘調査報告書が出された学史上重要な遺跡である(大野政雄ほか 1960)。上町遺跡 (1) では遺構の確認はないものの、縄文土器・石器の散布が認められる(上町遺跡 C 地点発掘調査団 1989、上町遺跡トヨタ地点・0 地点・栗原センター地点発掘調査団 1994、飛騨市教育委員会 2018b)。

## 2 弥生時代

古川町内では弥生時代の遺跡は少ない。発掘調査で遺構を検出した遺跡には中野大洞平遺跡 (3) がある。古川町中野字大洞平に所在し、農道整備に伴い岐阜県文化財保護センターにより発掘調査が行われた(財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター 2006・2007)。弥生時代後期の堅穴建物跡 4 軒、弥生時代後期の方形周溝墓 1 基が調査されている。遺物では弥生中期後半の横羽状文甕等が出土している。また、杉崎庵寺跡 (68) の中枢部において横羽状文甕や北陸系の弥生土器が出土した(飛騨市教育委員会 2012)。国府町では立石遺跡 (11)・半田垣内遺跡 (12) で遺物が出土する(国府町教育委員会 1993、国府町史刊行委員会 2007・2011)。さらに、深沼遺跡 (70) では飛騨地域で初めて水田遺構が確認された(財団法人岐阜県文化財保護センター 1992)。それが弥生時代に遡るとの見解もある(国府町史刊行委員会 2011)。上町遺跡向町地点では弥生時代末の堅穴建物跡を確認している(飛騨市教育委員会 2013)。

## 3 古墳時代

宮川の河岸段丘上を中心に、古川町から国府町にかけて古墳が点在している。前期の遺跡は少なく、上町遺跡 (1) と中野大洞平遺跡 (3) で方形周溝墓を調査している(上町遺跡 C 地点発掘調査団 1991、財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター 2006・2007)。前方後円墳では 6 世紀前半と考えられる信包八幡神社跡前方後円墳 (38) がある。宮川左岸の段丘端部に位置し、全長 64.2 m、前方部の最大幅は 38 m を有する(八賀晋 2004)。埋葬施設は横穴式石室で、奥壁には巨石を上下二段に積み、側壁は割石や扁平な自然石による小口積みである。金銅製の馬具類等が出土している。巨大な切石を用いた横穴式石室として、高野水上古墳 (52) や高野光泉寺古墳 (53)、大洞平第 1・2 号墳 (43) などがある。墳形は前者 2 つは円墳で後者 2 つは方墳である。また、国府町には前方後円墳として県内最大級の横穴式石室を

持つつう峠口古墳 (59) や、三日町大塚古墳 (57) がある。さらに古川・国府盆地の南端には亀塚古墳 (62) があつた。大正期に取り壊されたが大型円墳であつたと考えられており、甲冑の出土が注目されている (国府町史刊行委員会 2007)。高山盆地では前方後円墳が確認されていないため、古墳時代の主体は古川・国府盆地であつたと考えられる。上町遺跡の南側には、遺跡を見下ろすように方墳の海具江古墳 (55) がある。

集落跡としては、上町遺跡 (1) の調査において古墳後期の竪穴建物跡や掘立柱建物跡を検出した (上町遺跡金子・氷見地点発掘調査団 2001、上町遺跡 C 地点発掘調査団 1989・1991、上町遺跡トヨタ地点・0 地点・栗原センター地点発掘調査団 1994、飛騨市教育委員会 2013・2016)。また、太江遺跡 (63) では後期の竪穴建物跡や溝跡を確認している (財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター 2005、財団法人岐阜県文化財保護センター 2002)。杉崎廃寺跡 (68) では中期の竪穴建物跡を確認している (杉崎廃寺跡発掘調査団 1998)。

#### 4 古代

古代の集落跡は、上町遺跡 (1) や岡前遺跡 (4)、中野大洞平遺跡 (3) などで竪穴建物跡や掘立柱建物跡が見つかっている (上町遺跡金子・氷見地点発掘調査団 2001、上町遺跡 C 地点発掘調査団 1989・1991、上町遺跡トヨタ地点・0 地点・栗原センター地点発掘調査団 1994、財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター 2006、財団法人岐阜県文化財保護センター 1995、飛騨市教育委員会 2013・2016・2018b)。上町遺跡 (1) は市内で最大規模の集落跡であり、古川盆地の南に位置する。2022 年末時点で大小合わせ 68 次調査まで行い、176 軒の竪穴建物跡や 51 棟の掘立柱建物跡を確認している。そのことから古代の飛騨において中心的な役割を担った遺跡である可能性が高い。

岡前遺跡 (4) では飛騨地方で初となる「和同開珎」が出土した (財団法人岐阜県文化財保護センター 1995)。飛騨地域の古代を特徴付けるのが古代寺院である。古川・国府盆地内における古代寺院については、古川町域では杉崎廃寺跡 (68)、寿楽寺廃寺跡 (71)、沢渡寺跡 (72)、古町廃寺跡 (73)、上町廃寺跡 (74) がある。国府町域内では塔ノ腰廃寺跡 (大日廃寺跡) (75)、堂前廃寺跡 (76)、安国寺廃寺跡 (77)、石橋廃寺跡 (78)、光寿庵跡 (79)、名張廃寺跡 (80) があり、合わせて 11ヶ寺を数える (国府町史刊行委員会 2007)。瓦散布地全てを古代寺院とするかの判断は難しいが、高山盆地の飛騨国分寺・飛騨国分尼寺・三仏寺廃寺跡・東光寺跡・大幡寺跡の 5ヶ寺に比べ、飛騨における古代寺院造営の主体は古川・国府盆地であつたことが想定される。古川・国府盆地の古代寺院のうち発掘調査が行われたのは杉崎廃寺跡 (68)、寿楽寺廃寺跡 (71)、古町廃寺跡 (73)、石橋廃寺跡 (78) である (上町遺跡 C 地点発掘調査団 1991、国府町教育委員会 2005、財団法人岐阜県文化財保護センター 2002、杉崎廃寺跡発掘調査団 1998)。

杉崎廃寺跡 (68) は、伽藍中樞部が全面調査された唯一の事例である (杉崎廃寺跡発掘調査団 1998、飛騨市教育委員会 2012)。礎敷きに金堂・塔・講堂・鐘楼が配置された法起寺式伽藍であつた。寿楽寺廃寺跡 (71) では講堂跡とそれに取り付く回廊跡が検出されている。遺物は「高家寺」と墨書された須臾器が注目される他、鶴尾・塑像・蹄脚礎・三足火舎などの寺院に関わるものが多く出土している (財団法人岐阜県文化財保護センター 2002)。創建時の瓦は、3km ほど西へ離れた信包中原田古窯跡 (81) で生産された (飛騨市教育委員会 2017b)。

本遺跡内には古町廃寺跡 (73)、上町廃寺跡 (74)、塔ノ腰廃寺跡 (75) が含まれる。これらで出土する軒丸瓦の様子は共通し、上町廃寺跡・塔ノ腰廃寺跡には瓜葉釜洞古窯跡 (84) から、古町廃寺跡には芦谷古窯跡 (丸山古窯跡) (83) から供給されたと推定される (上町遺跡 C 地点発掘調査団 1991、

三好清超 2019)。

平安期の遺構としては、西ヶ洞廃寺跡 (69) において鍛冶関連遺構が確認されている (財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター 2006)。他にも「十能寺」と線刻された須恵器や灰釉陶器が採集されており、山林寺跡としての可能性が指摘されている。上町遺跡 (1)、中野山越遺跡 (17)、岡前遺跡 (4)、太江遺跡 (63) では平安時代の堅穴建物跡が調査されている (財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター 2005、財団法人岐阜県文化財保護センター 1995・2002、中野山越遺跡発掘調査団 1993、上町遺跡 C 地点発掘調査団 1991)。しかし、遺構数は激減するため、平安時代には高山盆地に飛驒の中心地が移ったものと考えられる。

## 5 中世・近世

古川・国府盆地では宮川や街道沿いの山上に中世城館跡が集中している。高山市国府町には広瀬城跡 (117) や梨打城跡 (108)、高堂城跡 (119) 等の中世城館が点在する。特に広瀬城跡は高山市内でも大規模な山城跡である。古川盆地には中世遺物が含まれる散布地が点在し、街道沿いに城館跡が位置する。特に古川城跡 (94)、小島城跡 (95)、小鷹利城跡 (97)、向小島城跡 (98) の4城は飛驒国司であった姉小路氏の居城と伝わる。野口城跡 (96) は明確な資料は確認できないが、縄張りや遺構の状況から姉小路氏の城館であった可能性が高いと考えられる。近年、これらの発掘調査を実施し、古川城跡や小島城跡、小鷹利城跡では礎石建物跡を、野口城跡、向小島城跡では掘立柱建物跡を確認した。また、15世紀後半から16世紀前半の瀬戸美濃焼や土師器皿などの遺物が出土した。これらのことから、姉小路氏、三木氏、金森氏という中世から近世における飛驒の支配勢力の変遷を辿ることができると考えられる。なお、三木氏は飛驒市神岡町城を拠点とした江馬氏を1582(天正10)年に破っている。この時に持ち帰ったとする大般若経が古川町太江の寿楽寺に伝わっており、岐阜県重要文化財に指定されている。上町遺跡でも中世の遺構・遺物を散見できる。古川城跡から見下ろす位置にあるため、密接な関係があったものと推測される (飛驒市教育委員会 2022)。

古川城跡から1kmほど北の山上に中世の山城跡である百足城跡 (102) がある。『飛州志』でも記載がみられ (岡村利平 1909)、古くから城として認識されていた。城主や築城年代は不明だが、古川城跡との距離は1kmほどで古川城の支城であったと考えられる (飛驒市教育委員会 2019)。また、2017年度に実施した発掘調査で石垣を確認した (飛驒市教育委員会 2017c)。百足城跡からさらに1.1km北西へ進むと落岩城跡 (101) がある。落岩城跡は『斐太後風土記』では「古城あり」と記され、古くから城として認識されてきた (蘆田伊人 1968)。岐阜県の調査で主郭や切岸が確認されているが、古墳であった可能性が指摘されている (岐阜県教育委員会 2005)。当市の踏査でくぼみを7ヶ所確認し、古墳に関連する可能性を推定した (飛驒市教育委員会 2019)。落岩城跡から500m北西には、中世遺物等が散布する上野上野東遺跡 (18) がある (飛驒市教育委員会 2018a)。

古川盆地の北側の古川町杉崎には姉小路氏の館跡と推定される岡前館跡 (93) が所在する。地籍図による調査に基づき、水路で囲まれた範囲が城館跡として登録されている。北東の諏訪神社の近くには姉小路氏の墓と伝わる五輪塔が存在する。岡前館跡の周辺には袈裟九祖父あん遺跡 (92) や岡前奥御堂跡 (91) が位置している。袈裟九祖父あん遺跡は中世遺物等が疎らに散布している (飛驒市教育委員会 2019)。岡前奥御堂跡は中世の社寺跡であり、『斐太後風土記』によれば、宮谷寺の境内にあたり小島氏衰退の後に廃れたとされている (蘆田伊人 1968)。

小島城跡(95)から同じ尾根根元に1.1km東へ離れた位置に中世の山城跡である下北城跡(100)がある。主郭の東側には堀切が設けられているが、小島城跡側には防衛遺構が認められない。このため、小島城跡との関係性が想定される(岐阜県教育委員会2005)。小島城跡(95)から盆地を挟んで西側の盆地に突き出した山稜の山頂に池之山城跡(99)がある。池之山城跡(99)では尾根の東西に曲輪が位置し、複数の堀切が設けられている(飛騨市教育委員会2019)。野口城跡(96)、小島城跡(95)を含む盆地全体を見渡すことができ、向小島城跡(98)との距離が1.6kmしかないことから姉小路氏の山城とされる(岐阜県教育委員会2005)。小島城跡(95)の北側集落には太江遺跡(63)や中世遺物等が散布する杉崎北野遺跡(14)がある(飛騨市教育委員会2018a)。また、周辺の中世遺物等の散布地として、太江集落から神岡町方面へ至る街道沿いに太江上番場遺跡(15)、小島城跡南側の集落に沼町川原遺跡(65)がある。

向小島城跡(98)から殿川を挟んだ向かい側の山頂に城見寺城跡(103)がある。『古川町史史料編三』に所載される「明治十年小鷹利村地誌」に「城見廃寺跡」とあり、古くから寺と認識されていた(古川町1986)。堀切や虎口が残っていることから中世城館の可能性が高いと推定されている(岐阜県教育委員会2005)。また、白川郷方面から古川盆地を通る街道を見下ろし、向小島城跡(98)と相対しているため、立地上重要な山城であったと想定されている(飛騨市教育委員会2019)。

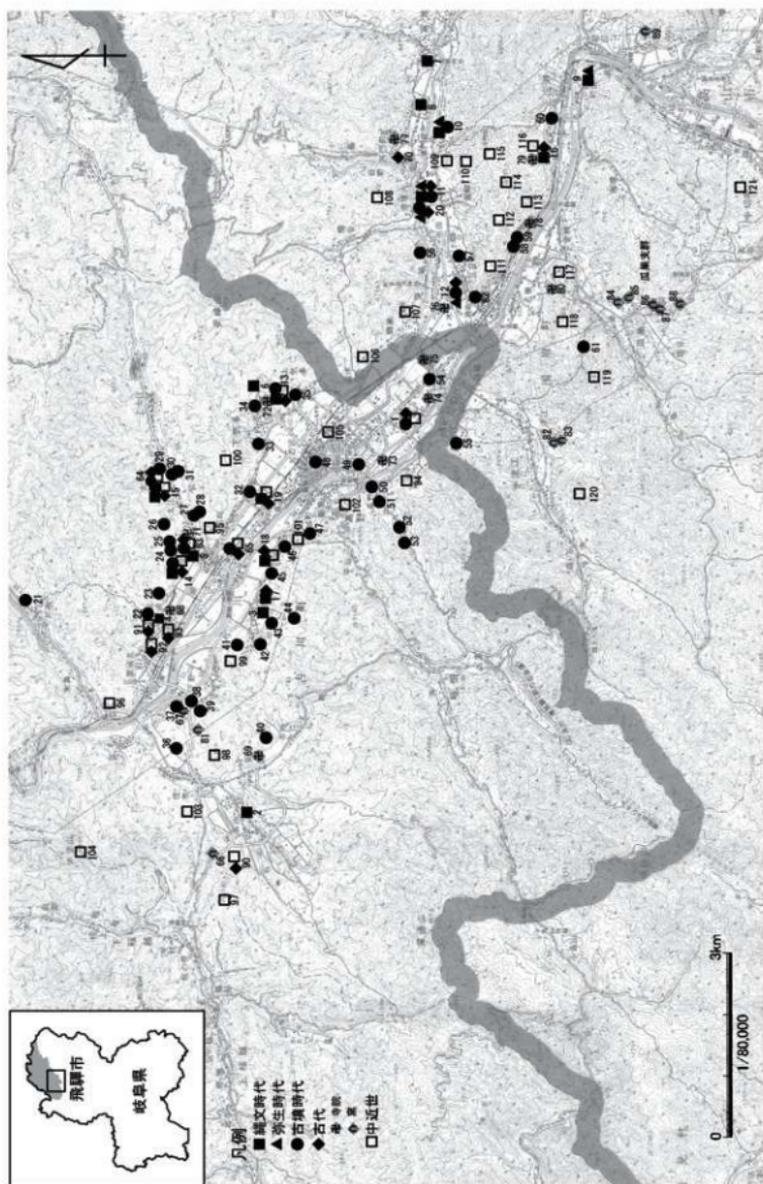
小鷹利城跡(97)から東へ下ると黒内古屋敷遺跡(90)がある。現在はグラウンドの一部になっているが、過去に須恵器や中世の土師器皿等といった遺物を採集している(飛騨市教育委員会2019)。小鷹利城跡(97)の北側にそびえる本堂山の山頂には本堂山城跡(104)があり、古川方面を見渡すことができる。『古川町史史料編三』の「明治十年細江村地誌」によれば「城山」と呼ばれていた(古川町1986)。曲輪などのほかに主郭から延びる三方向の尾根には複数の堀切が設けられている(岐阜県教育委員会2005)。

増島城跡(105)は古川町片原町に所在する平城である。金森長近が天正13(1585)年に飛騨に侵攻した後には築城され、養子の可重に治めさせたとされる。平成9・16・17・20～21(1997・2004・2005・2008～2009)年と4回にわたる発掘調査を行い、石垣・堀・曲輪などの状況が明らかになった(飛騨市教育委員会2010)。天守櫓台は昭和34(1959)年岐阜県史跡に指定されている。

## 6 小結

飛騨市古川町から高山市国府町にかけて、宮川に沿って形成された盆地内の段丘上や微高地上に多くの遺跡を確認している(第3図・第4・5表)。古川町では、縄文時代の遺跡が山麓裾部に集まる。これに対し、弥生時代になると低位段丘に遺跡が営まれる。また、古墳時代から古代にかけて営まれる集落跡・散布地の近隣には、古墳と古代寺院が立地する。この典型的な例が上町遺跡である。中世になると古川町や神岡町を中心に、集落遺跡に加えて盆地を取り囲む山々に城館跡が点在するようになる。特に姉小路氏城館跡はそれぞれ盆地の端や街道沿いに位置し、古川盆地への敵の侵入を防ぐように配置されていたことが見てとれる。また、支城と考えられる小規模な城館跡も確認できる。このように城館跡が集中することから、中世の古川盆地ではその支配をめぐる争いがあった可能性が想定される。このような背景のなか、古川城跡の麓に位置する上町遺跡、小鷹利城跡の麓に位置する黒内古屋敷遺跡は、古代から中世にかけて存続するため、各城跡の成立と大きく関わったものと考えられる。

以上、上町遺跡では古墳時代・古代から中世の遺構や遺物を確認でき、飛騨市を代表する集落遺跡の一つであるといえる。



第3図 上町遺跡と周辺の遺跡分布図

第4表 上町遺跡と周辺の主な遺跡一覧(1)

番号	遺跡名	所在地	種別	時代	備考
1	上町遺跡	古川町上町	亀冨跡	古墳・古代・鎌倉	
2	黒内畑野遺跡	古川町黒内	散布地	縄文	
3	中野大淵平遺跡	古川町中野	散布地	縄文	
4	岡向遺跡	古川町杉崎	散布地	縄文	
5	新巻船歌遺跡	古川町太江	亀冨跡	縄文	岐阜県史跡
6	穴遺跡	古川町上気多	亀冨跡	縄文	岐阜県史跡
7	尾張神社遺跡	国府町宮地	散布地	縄文	岐阜県史跡
8	森ノ本遺跡	国府町東門前	亀冨跡	縄文	
9	村山遺跡	国府町上広瀬	亀冨跡	縄文・弥生	一部岐阜県史跡
10	南畑内遺跡	国府町今	散布地	縄文～古墳	
11	立石遺跡	国府町通船内	散布地	縄文～古代	
12	半田畑内遺跡	国府町三日町	亀冨跡	縄文・古墳・古代	
13	上気多上野遺跡	古川町上気多	散布地	縄文・古墳・奈良・平安・中世	
14	杉崎北野遺跡	古川町杉崎	散布地	縄文・古墳・古代・中世	
15	太江上巻船遺跡	古川町太江	散布地	縄文・古墳・古代・中世	
16	宮ノ下遺跡	国府町上広瀬	亀冨跡	縄文・古代	
17	中野山越遺跡	古川町中野	亀冨跡	縄文・古代	岐阜県史跡
18	上野上野東遺跡	古川町上野	散布地	縄文・古代・中世	
19	下気多川原遺跡	古川町上気多	散布地	縄文・古代・中世	
20	根本遺跡	国府町通船内	散布地	弥生～古代	
21	戸石古墳敷古墳	古川町戸石	古墳	古墳	2基
22	岡田諏訪神社裏古墳	古川町杉崎	古墳	古墳	2基
23	杉崎低瀬古墳	古川町杉崎	古墳	古墳	10基
24	稲穂神社古墳	古川町杉崎	古墳	古墳	3基
25	太江多度古墳	古川町太江	古墳	古墳	9基
26	太江高平古墳	古川町太江	古墳	古墳	3基
27	太江中ノ野古墳	古川町太江	古墳	古墳	6基
28	沼野天王瀬古墳	古川町沼野	古墳	古墳	
29	太江稲蔵古墳	古川町太江	古墳	古墳	2基
30	太江沢古墳	古川町太江	古墳	古墳	
31	太江中目野古墳	古川町太江	古墳	古墳	
32	種村古墳	古川町下気多	古墳	古墳	
33	小坂神社跡古墳	古川町下気多	古墳	古墳	
34	上気多沢古墳	古川町上気多	古墳	古墳	3基
35	上気多古墳	古川町上気多	古墳	古墳	
36	丸山古墳	古川町信包	古墳	古墳	
37	羽根坂古墳	古川町下野	古墳	古墳	6基
38	信包八幡神社跡南方後円墳	古川町信包	古墳	古墳	岐阜県史跡
39	八幡古墳	古川町信包	古墳	古墳	
40	寺地西ノ洞古墳	古川町寺地	古墳	古墳	5基
41	中野宮田古墳	古川町中野	古墳	古墳	
42	中野新宮ノ洞古墳	古川町中野	古墳	古墳	
43	大淵平古墳	古川町中野	古墳	古墳	5基
44	中野山越古墳	古川町中野	古墳	古墳	12基
45	上野赤上洞古墳	古川町上野	古墳	古墳	17基
46	上野丹西古墳	古川町上野	古墳	古墳	23基
47	上野城山古墳	古川町上野	古墳	古墳	6基
48	中気多二塚古墳	古川町志之町	古墳	古墳	3基
49	石阿部塚古墳	古川町高野	古墳	古墳	
50	高野山ノ上古墳	古川町高野	古墳	古墳	
51	高野護国古墳	古川町高野	古墳	古墳	
52	高野水上古墳	古川町高野	古墳	古墳	岐阜県史跡
53	高野光泉寺古墳	古川町高野	古墳	古墳	岐阜県史跡
54	上野二塚古墳	古川町上野	古墳	古墳	3基
55	海丸江古墳	国府町平淨江	古墳	古墳	高山市史跡
56	樽淵古墳	国府町平田	古墳	古墳	
57	三日町大塚古墳	国府町三日町	古墳	古墳	
58	広瀬古墳	国府町広瀬町	古墳	古墳	高山市史跡
59	こら崎古墳	国府町広瀬町	古墳	古墳	岐阜県史跡
60	瀬ノ口古墳	国府町上広瀬	古墳	古墳	2基、1号墳高山市史跡
61	かうと洞古墳	国府町瓜鬼	古墳	古墳	
62	亀塚古墳	国府町広瀬町	古墳	その他の墓	
63	太江遺跡	古川町太江	亀冨跡	古墳・古代・中世	
64	太江上巻船遺跡	古川町太江	散布地	古墳・古代・中世	
65	沼野川原遺跡	古川町沼野	散布地	古墳・古代・中世	
66	信包稲蔵古墳跡	古川町信包	生産遺跡	奈良	須恵器
67	上野羽根坂古墳跡	古川町下野	生産遺跡	奈良	須恵器
68	杉崎南寺跡	古川町杉崎	社寺跡	平安	一部岐阜県史跡
69	西ノ洞寺跡	古川町寺地	社寺跡	平安	
70	深沼遺跡	国府町東門	散布地	古代	

第5表 上町遺跡と周辺の主な遺跡一覧(2)

番号	遺跡名	所在地	種別	時代	備考
71	寿楽寺南寺跡	吉川町太江	社寺跡	古代	
72	穴塚寺跡	吉川町上気多	社寺跡	古代	
73	吉町南寺跡	吉川町吉町	社寺跡	古代	
74	上町南寺跡	吉川町上町	社寺跡	古代	
75	藤ノ腰寺跡(大日如来寺跡)	高山市広瀬町	社寺跡	古代	
76	安南院寺跡	国府町本郷内	社寺跡	古代	
77	空因寺南寺跡	国府町三日町	社寺跡	古代	
78	石橋院寺跡	国府町広瀬町	社寺跡	古代	
79	光寿院寺跡	国府町上広瀬	社寺跡	古代	高山市史跡
80	名乗院寺跡	国府町名乗	社寺跡	古代	
81	信包中原田古窯跡	吉川町信包	生産遺跡	古代	山陽藩
82	小千ヶ瀬古窯跡	国府町宇津江	生産遺跡	古代	
83	赤倉古窯跡(丸山古窯跡)	国府町宇津江	生産遺跡	古代	2葉、須磨器
84	瓜壺大洞古窯跡	国府町瓜壺	生産遺跡	古代	2葉、須磨器
85	瓜壺大洞古窯跡	国府町瓜壺	生産遺跡	古代	2葉、須磨器
86	瓜壺中高古窯跡	国府町瓜壺	生産遺跡	古代	須磨器
87	瓜壺小坂古窯跡	国府町瓜壺	生産遺跡	古代	須磨器
88	瓜壺わせ洞古窯跡	国府町瓜壺	生産遺跡	古代	須磨器
89	大洞古窯跡	国府町三川	生産遺跡	古代	須磨器
90	黒川尾尾敷遺跡	吉川町黒内	散布地	古代・中世	
91	岡南奥御堂跡	吉川町杉崎	散布地	古代・中世	
92	裏松丸屋又かん遺跡	吉川町裏松丸・杉崎	散布地	古代・中世	
93	岡南館跡	吉川町裏松丸・杉崎	散布地	古代・中世	
94	吉川城跡	吉川町高野	城郭跡	室町	姉小路氏城郭跡
95	小島城跡	吉川町沼町	城郭跡	室町	姉小路氏城郭跡
96	野口城跡	吉川町大字野口	城郭跡	室町	姉小路氏城郭跡
97	小栗利城跡	河合町福越・吉川町黒内	城郭跡	室町	姉小路氏城郭跡
98	小向山城跡	吉川町柳ノ国	城郭跡	室町	姉小路氏城郭跡
99	池之山城跡	吉川町土野	城郭跡	室町	姉小路氏城郭跡
100	下北城跡	吉川町下気多	城郭跡	室町	
101	落北城跡	吉川町土野	城郭跡	室町	
102	石見城跡	吉川町高野	城郭跡	室町	
103	城見寺城跡	吉川町信包	城郭跡	中世	
104	本堂山城跡	吉川町谷・河合町小無藤	城郭跡	中世	
105	増島城跡	吉川町殿町	城郭跡	中世	一部岐阜県史跡
106	平塚跡	国府町山本	城郭跡	中世	
107	大洞館跡	国府町船場	城郭跡	中世	
108	蟹内城跡	国府町八日町・藤垣内	城郭跡	中世	高山市史跡
109	首輪裏洞城跡	国府町首輪	城郭跡	中世	
110	白米城跡(首輪城跡)	国府町首輪	城郭跡	中世	
111	山崎城跡	国府町広瀬町	城郭跡	中世	
112	中山城跡	国府町広瀬町	城郭跡	中世	
113	陣ヶ平砦跡	国府町広瀬町	城郭跡	中世	
114	境の砦跡	国府町広瀬町	城郭跡	中世	
115	牛道砦跡	国府町三日町	城郭跡	中世	
116	光寿院城跡	国府町上広瀬	城郭跡	中世	
117	広瀬城跡	国府町名乗	城郭跡	中世	
118	寺掛砦跡群	国府町名乗	城郭跡	中世	
119	高草城跡	国府町瓜壺	城郭跡	中世	岐阜県史跡
120	源代山城跡	国府町宇津江	城郭跡	中世	
121	中切城跡	中切町	城郭跡	中世	

## 第3章 第50次調査の成果

### 第1節 層序

上町遺跡では、これまでの発掘調査で大きく5層の基本層序を確認している（上町遺跡C地点発掘調査団1989・1991、飛騨市教育委員会2013・2016・2018b）。今回の調査でも、既往調査の基本層序に対応させて調査を実施し、層名も準拠した。調査面は1面であり、検出面を第IV層か第V層の上面とした（第4図）。

**第I層** 表土層である。水田や畑作の耕土、道路の造成土等が該当する。水田では、上層の作土であるI a層と、下層の床土であるI b層に細分できる。また、これまでの調査では土地改良前の旧耕作土をI cとするが、第50次調査では確認できなかった。

**第II層** 平安時代以降中近世までの遺物包含層である。中世から近世にかけての遺物を包含するII a層と、平安時代の遺物を包含するII b層に細分される。II層上辺には鉄分の堆積やマンガン斑点など水田層に起因すると想定される堆積がある。

**第III層** 弥生時代以降奈良時代にかけて堆積した土層である。当該時期の遺物を包含する上層のIII a層と、IV層にかけての漸移層であるIII b層に細分できる。

**第IV層** 宮川に由来する黄橙色砂の無遺物層である。第V層の河岸礫層を覆う地山であり、全面に認められない。

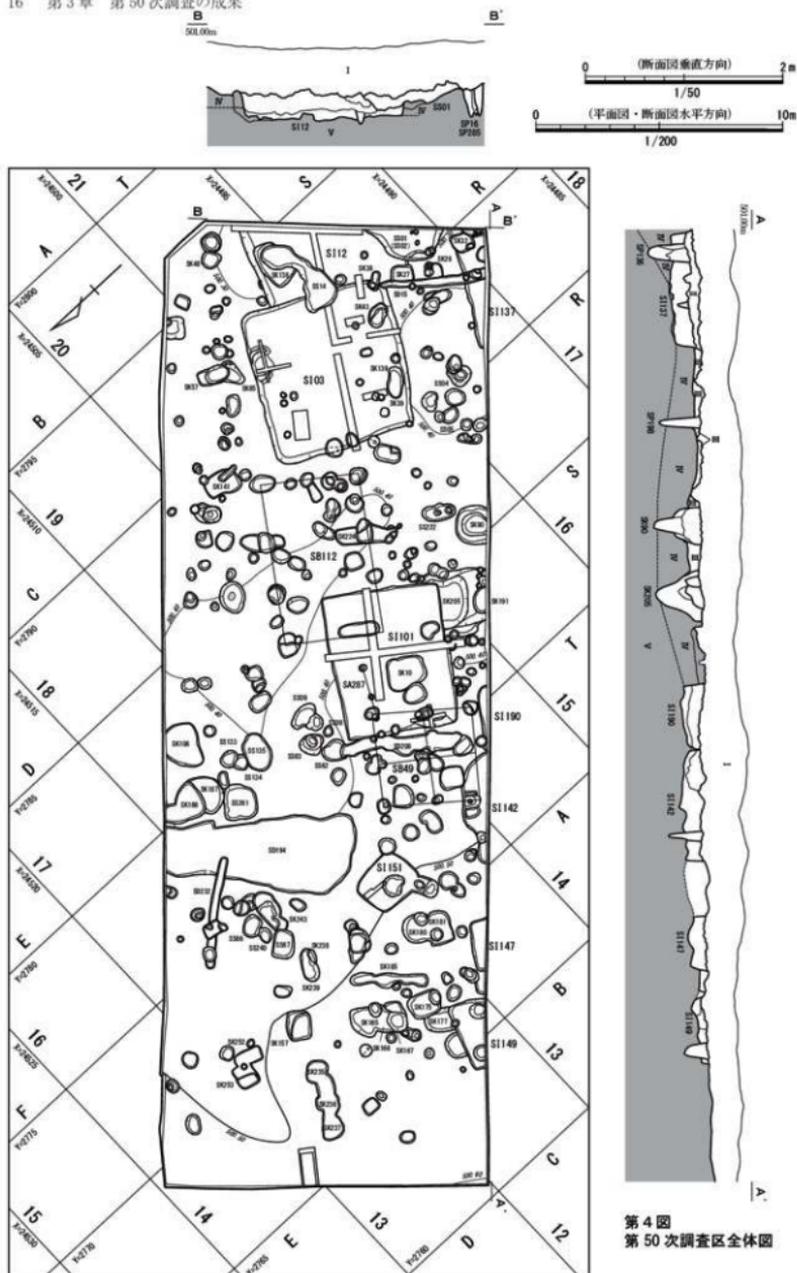
**第V層** 宮川に由来する無遺物層の河岸礫層であり、地山である。遺跡内で起伏が認められ、その窪みに第IV層の砂層が堆積している。

### 第2節 遺構と遺物の概要

遺構は堅穴建物跡5軒、堅穴状遺構4基、掘立柱建物跡2棟、柵列遺構1基、溝4条、集石遺構17基、土坑37基、柱穴203基を確認した（第4図）。今回の調査では堅穴建物跡より小規模な遺構を堅穴状遺構とした。遺構検出面はIV層としたが、堅穴建物跡1軒（SI142）及び堅穴状遺構4基（SI147・SI149・SI151・SI190）は第III層上面、土坑2基（SK90・205）は第III b層より掘りこむことを確認した。遺物は第I層表土掘削時から多くの遺物が出土し、堅穴建物跡からも時期決定が可能な遺物が出土した。合計で須恵器854点、土師器510点、灰釉陶器12点、中世陶磁器64点、その他90点、合計1,530点である（第6表）。その他の内訳は、古代瓦2点、土製品1点、中近世陶磁器8点、近世陶磁器6点、近現代陶磁器3点、石器・石製品10点、金属製品6点、炭化物4点、その他50点である。次に以下の分類で、碗や皿等の器種分類、器形等の細分類を行った。

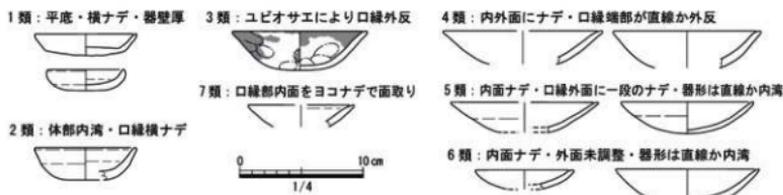
最も多いのは須恵器である。都城の土器集成や猿投窯の器種分類などを参考にして、飛騨市教育委員会刊行の報告書の器種分類に従った（飛騨市教育委員会2017b）。また、年代観は猿投窯を参考にした（愛知県2010・2015）。

次に多いのは土師器である。古代器種と中世器種がある。中世土師器皿は、全て手づくねである。器形やナデを基準に、飛騨市古川町内の遺跡で見つかるものを7分類しており、それに従った（第5図）



第4図  
第50次調査区全体図





第5図 土師器皿分類図

(三好清超 2021)。1類は平底を呈し、ヨコナデにより体部が短く立ち上がり、口縁端部を丸く仕上げる。器壁は厚めで、径は小さい。2類は体部が緩く内湾し、口縁部がヨコナデにより外傾する。3類はナデかユビオサエにより、口縁を外反させる。4類は内外面にナデを施し、口縁端部が直線か外反する。5類は内面にナデを施し、口縁端部が直線か外反する。6類は内面にナデを施し、外面は未調整である。7類は口縁部内面をヨコナデにより面取りし、直線的に開く器形である。

灰釉陶器は生産地の分類に従った(愛知県 2015)。瀬戸美濃焼は生産地の分類に従った(藤澤良祐 2008)。中国製陶磁器では、青磁・白磁・中国製染付磁器が出土した。これらは国立歴史民俗博物館の分類に従った(国立歴史民俗博物館 1993)。珠洲焼は生産地の分類に従った(吉岡康暢 1994)。瓦は種類及び用途に分けて提示した。

### 第3節 遺構と遺構内出土遺物

#### 1 竪穴建物跡

(1) 竪穴建物跡 SI03 (第6～10図、第10・15・16表)

**位置層位** 18A・18T・18S・19T・19Sにかけて位置し、第IV層地山上面から掘り込む。

**重複関係** SI12を切る。SS14・SK38・SK39・SK43・SD15・SP06・SP37・SP83に切られる。

**遺存状況** 幾つかの遺構に切られるものの、全体の形状を把握することができる。

**平面形状** 方形を呈する。

**規模** 長軸(南北)6.43m×短軸(東西)6.16mである。

**主軸方位** カマドを基準に求めると、N-29°-Eである。

**壁** やや開きぎみに立ち上がり、最も残りが良い南壁で壁高23.8cmを測る。

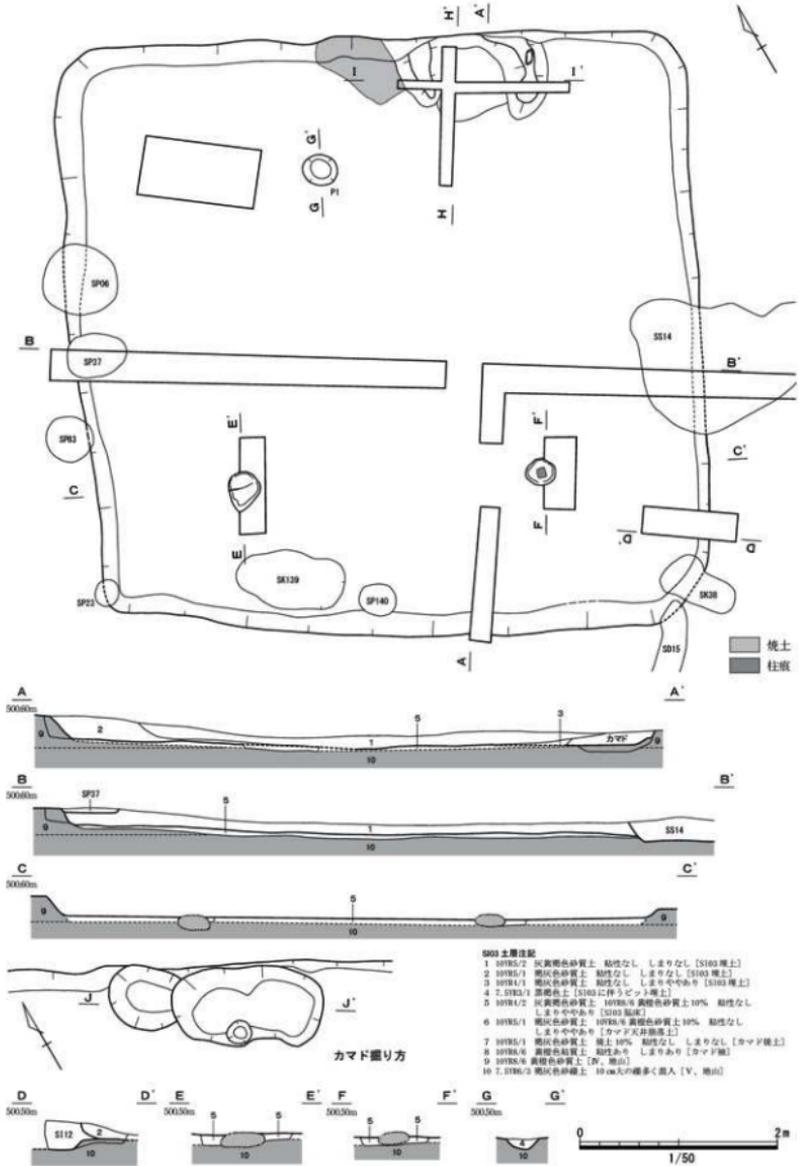
**床面** 灰黄褐色砂質土で貼床が施され、ややしまりを持つ。

**柱穴** 南辺で2石の礎石を確認し、対角線上に位置するものと想定された。礎石は掘り方を持たず、断面で貼床と同時に据えられていることを確認した。

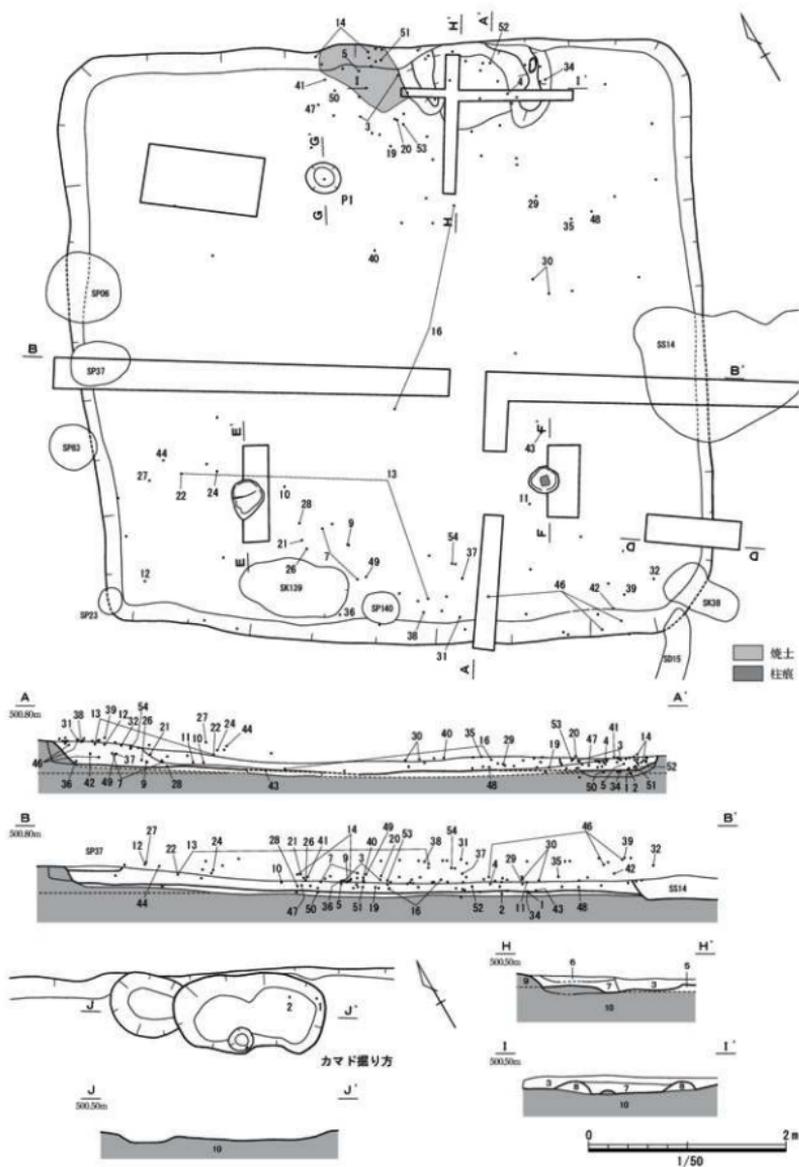
**壁溝** 確認しなかった。

**埋土** 北壁と南壁近くに褐灰色砂質土が堆積した後、灰黄褐色砂質土が全体に堆積する。

**厨房施設** 北壁中央よりやや東寄りにカマドを設ける。天井部は失われていた。最終的に検出できた範囲は、焚口部から煙道の立ち上がりまで78cm、両袖部最大幅93cm、焚口部65cmである。袖部は、粘性としまりがある黄褐色粘質土で形成される。小礫が混入し、芯材として入れられたものの可能性



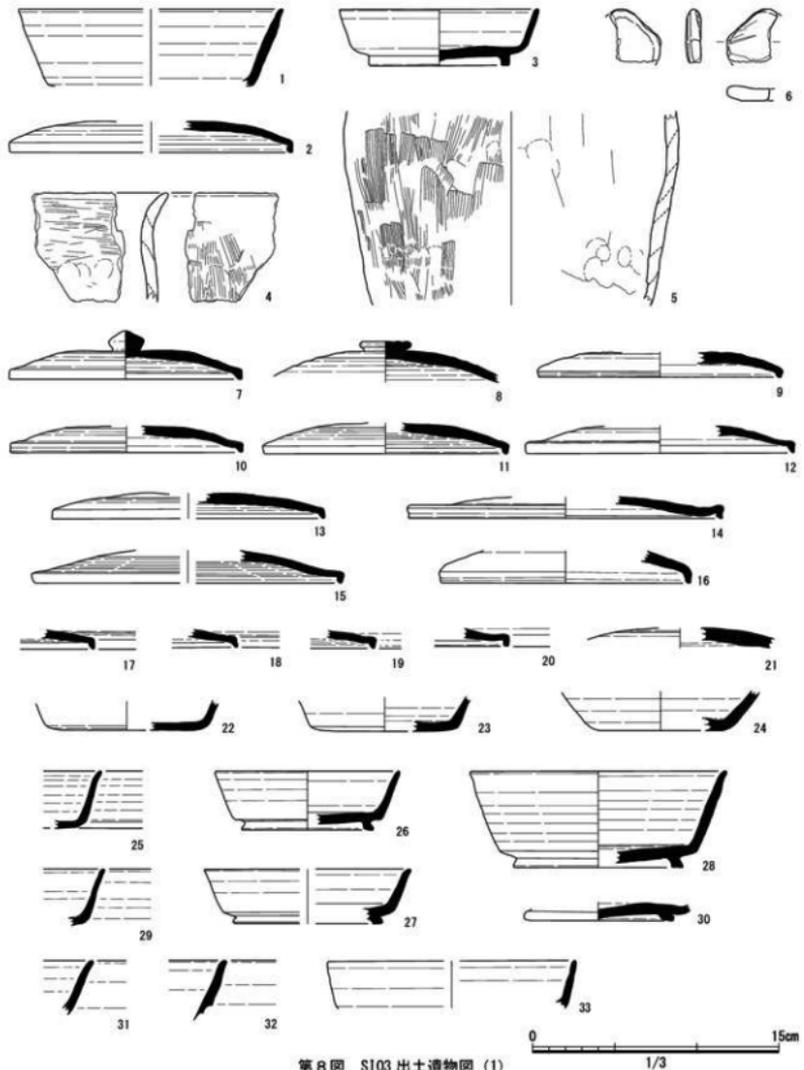
第6図 S103 平面・断面図 (1)



第7図 S103平面・断面図(2)

がある。火床面は皿状を呈し、奥壁の立ち上がりは急である。

その西側、北壁のほぼ中央に焼土面が広がる。焼土を撤去したところ、西側袖部にあたるところが円形に窪み、火床面が皿状を呈することを確認した。中央には支脚用の埋設穴と推定される小穴がある。



第8図 S103 出土遺物図(1)

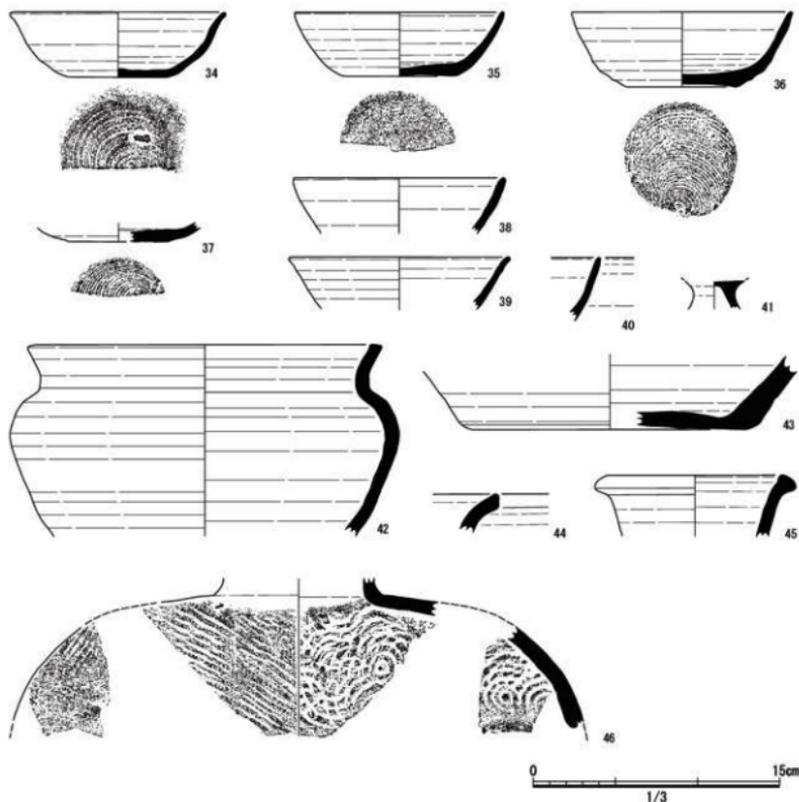
これらのことから、カマドは当初北壁中央に設けられ、その後、やや東寄りに作り変えられたと考えられる。

**出土遺物** 旧カマドからは土師器甕片4点が出土した。

カマド掘り方からは、須恵器摘み蓋1点・杯2点、土師器甕1点、計4点が出土し、須恵器杯1点を図示した。1は体部が直線的に開く杯である。

カマド埋土からは、須恵器摘み蓋1点・杯1点・壺瓶類1点・甕3点、土師器杯類1点・甕23点、計30点が出土し、須恵器2点、土師器2点を図示した。2は須恵器摘み蓋の口縁部破片である。口縁端部を丸く仕上げる。3は須恵器杯Bである。高台から平坦部を設けて体部が立ち上がる。4・5は土師器甕である。4は外面に縦方向ハケ目、内面に横方向ハケ目を施す。5は外面に縦方向ナデ、内面に縦方向板ナデを施す。

柱穴P1からは、土製品1点が出土した。6は土製品破片であり、全形状を知りえない。土師器甕



第9図 S103 出土遺物図(2)

を転用したものと推測される。

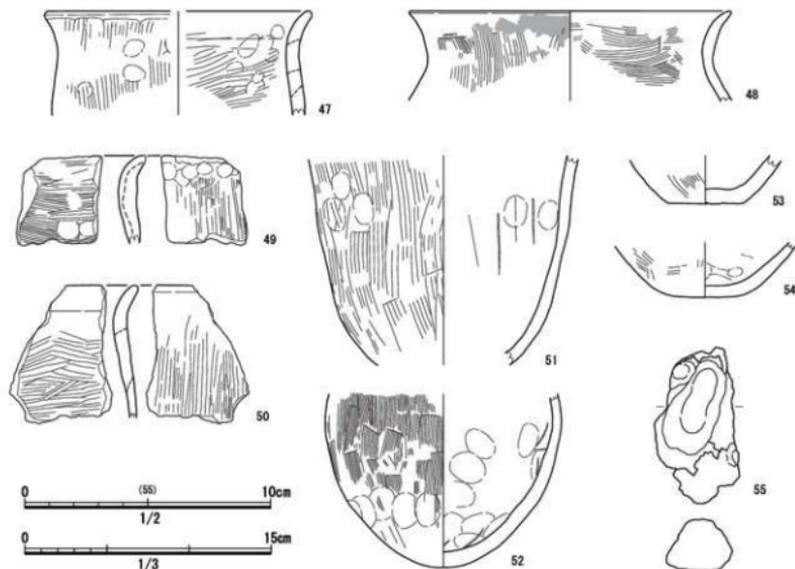
埋土からは、須恵器杯H1点・摘み蓋34点・蓋4点・杯A12点・杯B12点・杯22点・碗A6点・碗6点・杯か碗10点・高杯1点・鉢4点・壺3点・瓶7点・甕41点・その他1点、土師器杯類2点・高杯1点・壺2点・甕100点、山茶碗1点、中近世陶器1点、金属製品2点、炭化物2点、計303点が出土した。須恵器40点、土師器8点を図示した。

7～46は須恵器である。7～21は須恵器摘み蓋である。7は宝珠形の摘みが、8は偏平な摘みが付く。9～20は口縁端部を垂下させる。9～11は口縁端部を丸く仕上げ、12は三角形を呈する。14は口縁端部が外反し、三角形を呈する。22～25は底部に回転ヘラケズリを施す杯Aである。いずれも底部と体部の境は明瞭である。24に対し、22・23は体部の傾きが小さい。26～30は、底部に高台が付く杯Bである。いずれも高台から平坦部を設けて体部が立ち上がる。27・28は口縁部が外反する。31～33は体部から口縁部が直線的に立ち上がり、杯AかBの口縁部片と考えられる。34～37は、底部に回転糸切り痕が残る碗Aである。38～40は碗である。38・40は口縁部が内湾し、39は外反する。41は高杯の脚部である。42～43は、鉢である。44は口縁部が外反する鉢、45は口径が狭いため壺の口縁部片と考えられる。46は、内面に当て具痕が残る横瓶である。

47～54は土師器甕である。47～50は口縁部破片であり、外面に縦方向、内面に横方向のハケ目を施す。51～54は底部付近の破片であり、51・52は丸底、53・54は平底である。

55は不明金属製品である。

所見 全景を確認でき、支柱穴の位置2ヶ所で礎石を確認した。礎石を有する堅穴建物跡は、高



第10図 S103出土遺物図(3)

山市国府町の半田塚田遺跡で2例、桜木遺跡で1例確認されており、4例目である。また、カマドの残りも良好で造り替えも認められた。

埋土の掘削中に多くの遺物が出土し、特にカマド周辺では土師器甕の破片が多く、また、南壁周辺で遺物が集中した。特徴として、摘み蓋に摘みが宝珠形の7と偏平な8があり、杯A・Bで体部の傾きが大きい24と小さい3・22・23・26・28、碗Aでも傾きが小さい35・36と大きい39が挙げられる。これらの様相より、I-25号窯式期からNN-32号窯式期に位置付けられる。SI12を切ることから、8世紀中葉から後葉と考えられる。

## (2) 竪穴建物跡 SI12 (第11～13図、第10・16・17表)

**位置層位** 19T・19Sに位置し、第IV層地山上面から掘り込む。

**重複関係** SK138・SP219を切る。SI03・SS01・SS14・SK27・SK38・SK43・SD15・SP40・SP42に切られる。

**遺存状況** 東半分は調査区外に及んでいる。

**平面形状** 方形を呈する。

**規模** 確認できる西壁で一边が6.29mを測る。

**主軸方位** 西壁から求めると、N-29°-Eである。SI03とほぼ一致する。

**壁** ほぼ垂直に立ち上がり、壁高最大20.5cmを測る。

**床面** 褐灰色砂質土で貼床が施され、しまりがある。

**柱穴** 断面A-A'で柱穴を第10層として確認した。他の柱穴を平面で捉えることはできなかった。

**壁溝** 確認しなかった。

**埋土** 全体が断面A-A'第9層で埋まり、南側のみ第8層が薄く認められる。

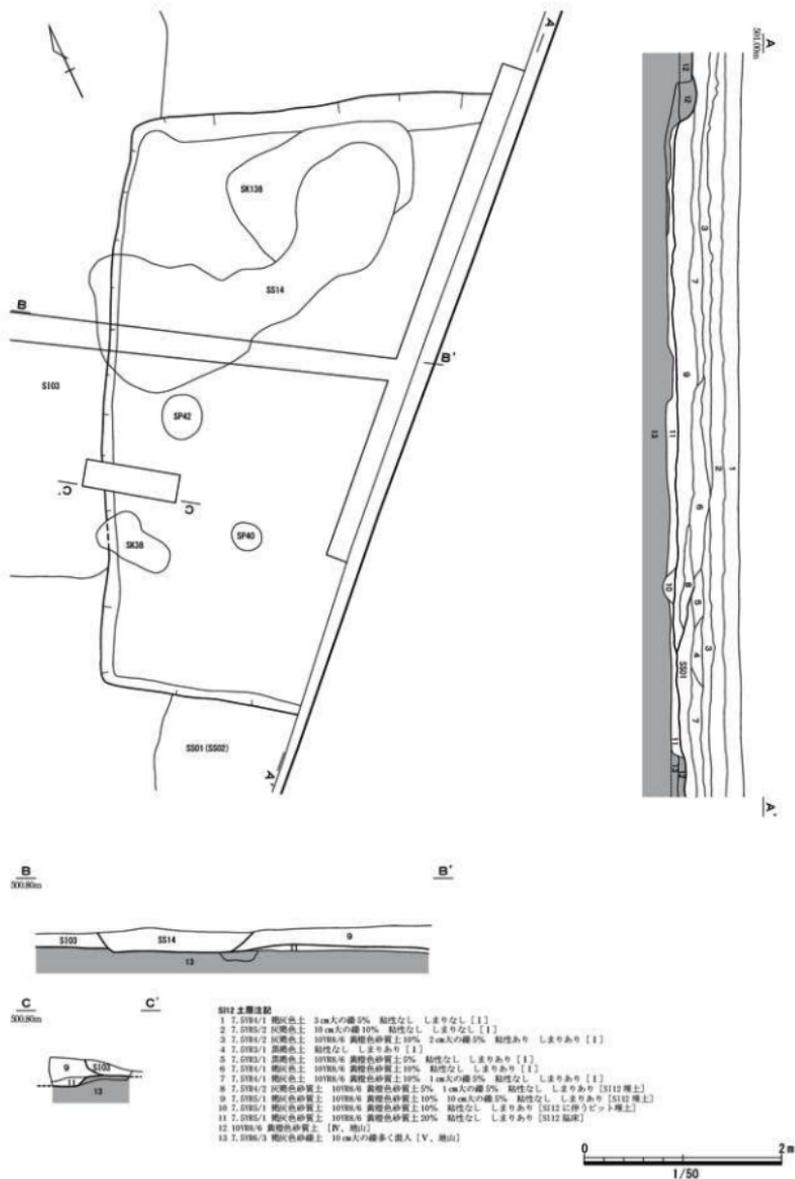
**厨房施設** カマドは認められなかったが、北壁西寄りの遺物が集中する地点に付設されていたと推測される。その下層にはSK138が位置する。カマド掘り方の可能性が想定された。ここでは別遺構として報告した。

**出土遺物** 埋土から須恵器杯G1点・蓋1点・杯A3点・杯B2点・杯1点・碗A5点・杯か碗2点・甕8点、土師器甕23点、紡錘車1点、計47点が出土し、須恵器12点、土師器3点、紡錘車1点を図示した。

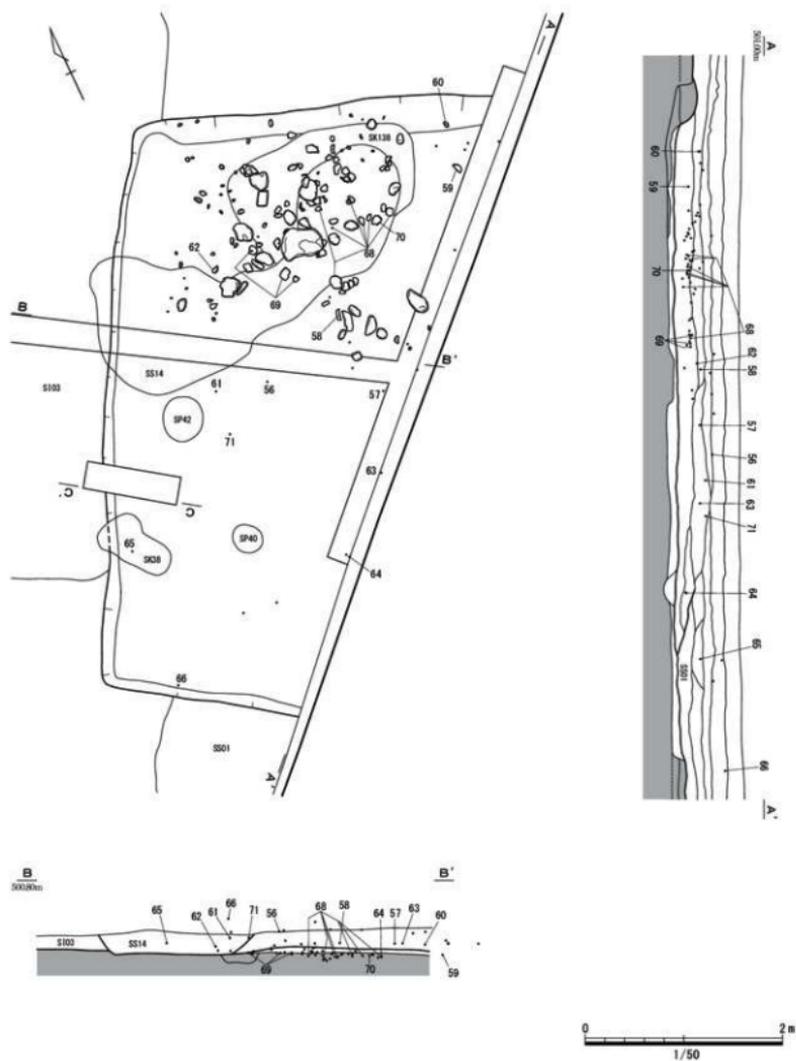
56～67は須恵器である。56は底部回転ヘラ切り後にナデを施した、杯G底部である。57～59は底部に回転ヘラケズリを施す杯Aである。体部の傾きが小さい。60・61は杯Bである。いずれも高台から平坦部を設けて体部が立ち上がる。62～65は底部に回転系切りが残る碗Aである。体部の腰が張る器形である。63・64は底部の径が大きく、体部の傾きが大きい。65は底部の傾きが小さい。66・67は碗の口縁部破片である。66は口縁部を短く立ち上げ、端部をゆるやかに外反させる。68～70は土師器甕である。いずれも外面に縦方向ハケ目、内面に横方向ハケ目を施す。最も残りが良い68では、体部内面中央部に縦方向板ナデの後、口縁部と底部に横方向ハケ目を施したと観察することができる。71は石製紡錘車である。凝灰岩製である。

**所見** 杯Aで体部傾きが小さい57～59、碗Aで傾きが大きい63・64と小さい65がある。I-25号窯式期からNN-32号窯式期に位置付けられる。SI03に切られるため、8世紀中葉のものと考えられる。

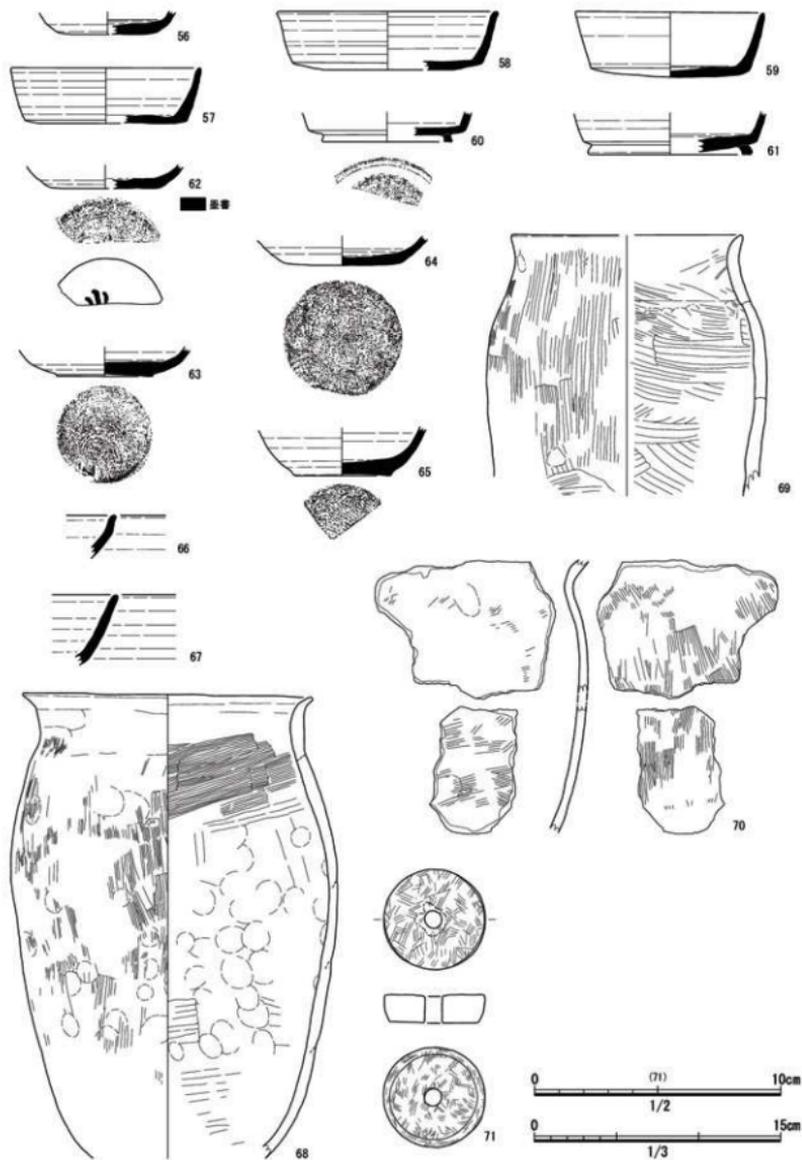
なお、SI12を切るSS14及びSK138より、土師器甕の大破片や完形の須恵器が出土する。これらはSI12由来の可能性が高い。



第11図 S112平面・断面図(1)



第12図 S112平面・断面図(2)



第13図 S112出土遺物図

(3) 竪穴建物跡 SI101 (第14～19図、第10・17・18表)

**位置層位** 16B・16A・17Aにかけて位置し、第IV層地山上面から掘り込む。

**重複関係** SB112、SK205を切る。SB49、SK10、SP11・SP13・SP26・SP30・SP31・SP158・SP267・SP268・SP269に切られる。

**遺存状況** 幾つかの遺構と切り合いがあるものの、全体の形状を把握することができる。

**平面形状** 方形を呈する。

**規模** 長軸(南北)6.00m×短軸(東西)4.78mを測る。

**主軸方位** 西壁を基準に求めると、N-30°-Eである。SI03とはほぼ一致する。

**壁** 立ち上がりが急で、壁高最大24.9cmを測る。

**床面** 貼床は確認できず、掘り込み面をならした直床式の構造である。

**柱穴** 確認しなかった。

**壁溝** 確認しなかった。

**埋土** 単層で、褐灰色砂質土が堆積する。人為的埋土と考えられる。

**厨房施設** 西壁の南西寄りにカマドを設ける。SB49-P2に切られているため、残存状況がわるい。カマドに伴う土層と掘り方を断面でのみ確認した。西側袖部と天井部は失われており、崩落した土層が堆積する。最終的に検出できた範囲は、焚口部から煙道の立ち上がりまで66cm、両袖部最大幅118cmである。袖部は黄橙色粘質土が用いられる。火床面は皿状を呈し、奥壁の立ち上がりは急である。

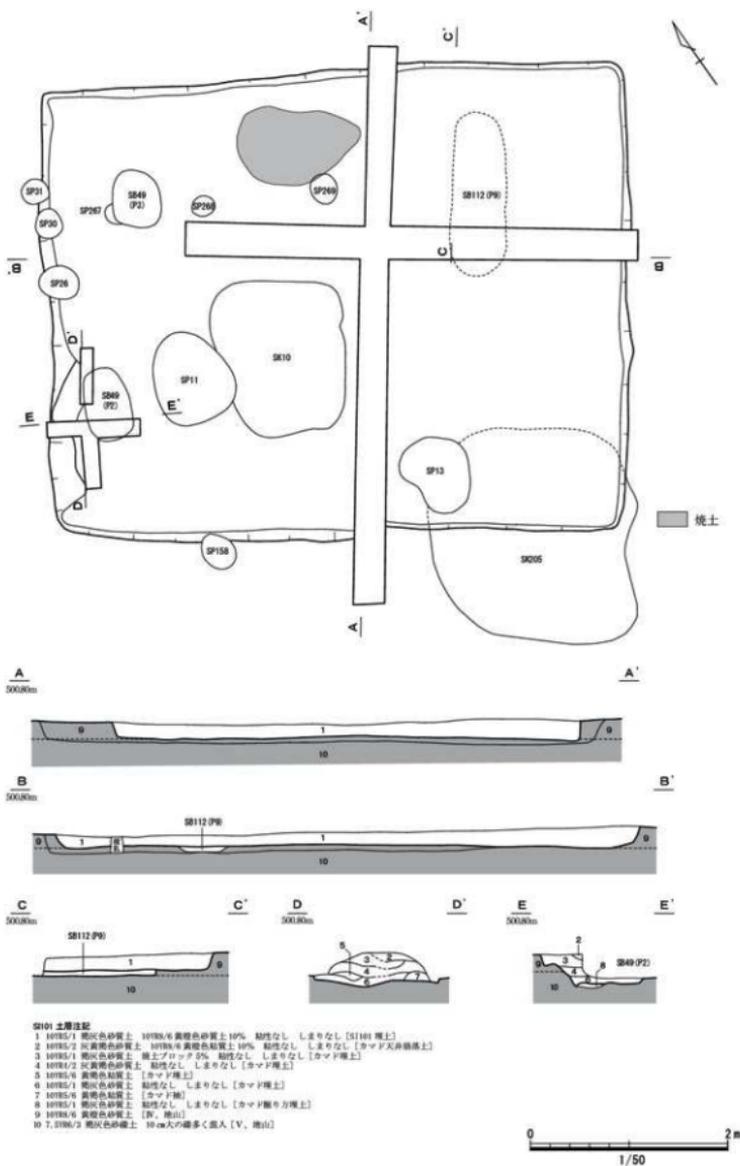
また、北壁中央にも床面に焼土が広がる状況を確認した。焼土を除去したところ、袖部の痕跡と想定される2条の土盛りを確認した。最終的に検出できた範囲は、焚口部から煙道の立ち上がりまで102cm、両袖部最大幅124cm、焚口幅58cmである。袖部は、しまりがある黄橙色粘質土で形成される。火床面は皿状を呈する。

これらのことから、カマドは当初北壁中央に設けられ、その後、西壁南西寄りに作り変えられたと考えられる。

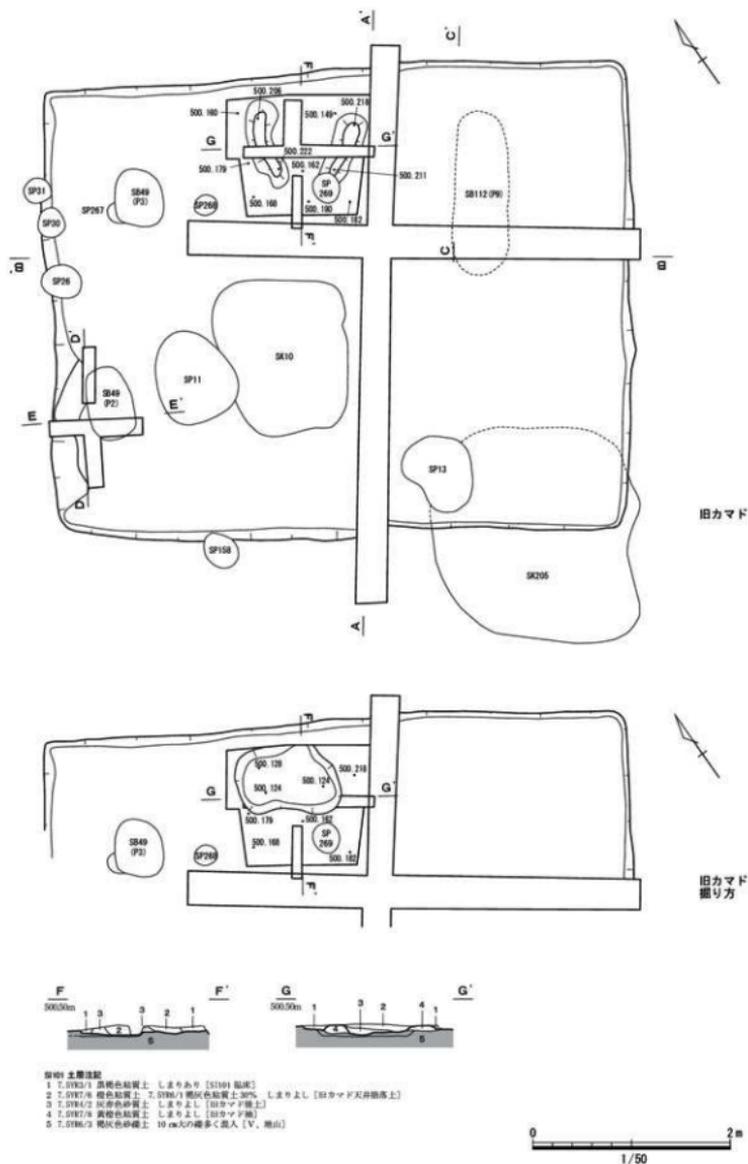
**出土遺物** カマドから、須恵器杯B1点・杯か碗1点・甕5点、土師器甕7点、計14点が出土した。

埋土から、杯H蓋2点・杯G1点・摘み蓋18点・蓋3点・杯A7点・杯B8点・杯18点・碗A3点・碗3点・盤2点・鉢3点・壺4点・瓶4点・壺瓶類1点・甕50点、灰釉陶器碗1点、土師器杯類2点・高杯1点・甕133点・皿1点、中世陶器1点、瀬戸美濃焼1点、石製品1点、その他4点、計272点が出土した。須恵器26点、灰釉陶器1点、土師器9点、中世陶器1点、石製品1点を図示した。

72～97は須恵器である。72・73は杯H蓋である。72は天井部に手持ちヘラケズリを施す。74は底部にヘラ切りを施す杯Gである。75～80は摘み蓋である。75には宝珠形の摘みが付く。いずれも口縁端部を垂下させる。75・77～80は口縁端部を外反させる。76は内面に墨が付着する。78は内面に付着物がある。81～85は杯Bである。いずれも高台から平坦部を設けて体部が立ち上がる。86・87は杯AかBの口縁部片である。88～90は、底部回転糸切り痕が残る、碗Aである。88・89は体部の傾きが小さい。90は外面に墨が付着する。91・92は碗である。91は口縁部が水平に折れる。92は体部外面に墨が付着する。93は脚付盤である。94も盤の体部破片である。95は短頸壺の口縁部片であり、端部が内側に屈曲する。96は、口縁端部に縁帯をめぐらせる長頸瓶の口縁部片である。97は甕である。同一個体と考えられる3点を図示した。内面には液体が飛んだような付着物があり、その上から痘痕状の摩滅痕が残る。体部中央の外面にも摩滅痕は残る。



第14図 SI101平面・断面図(1)



第15図 SI101平面・断面図(2)

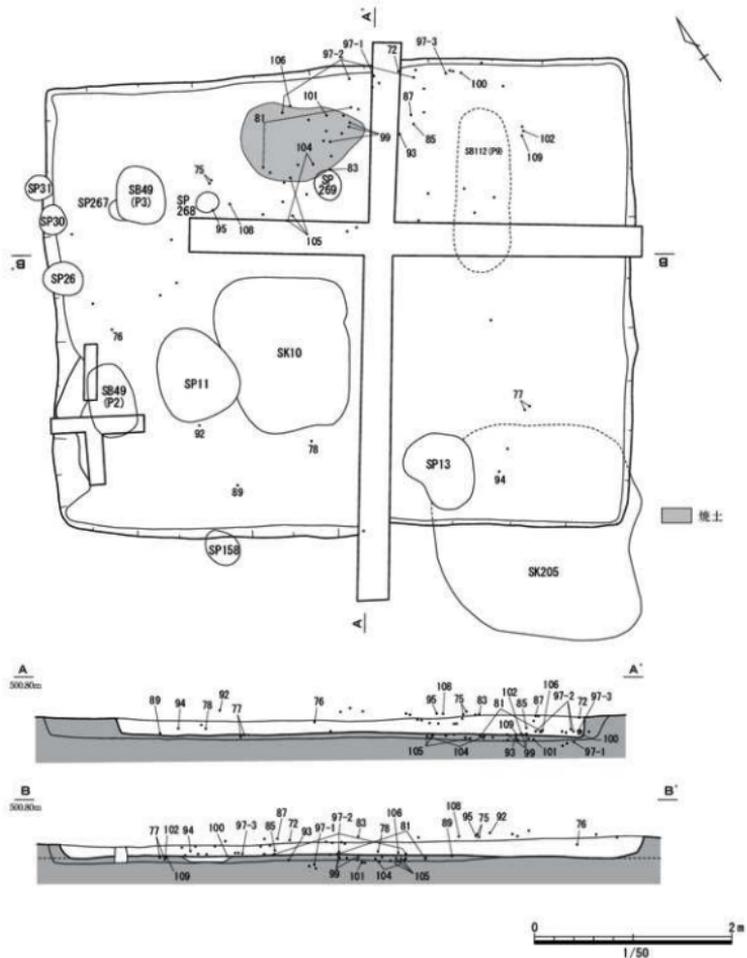
98は灰軸陶器碗である。体部外面の灰軸は水平方向に直線で施されるため、ハケ塗りによると考えられる。

99～106は土師器甕である。いずれも外面に縦方向ハケ目、内面に横方向ハケ目を施す。

107は土師器皿である。径が小さく、口縁部が短く立ち上がり、端部を丸く仕上げる。1類に属する。

108は口縁端部が水平に折れる中世陶器である。ここでは盤と考えた。産地の特定に至らなかった。

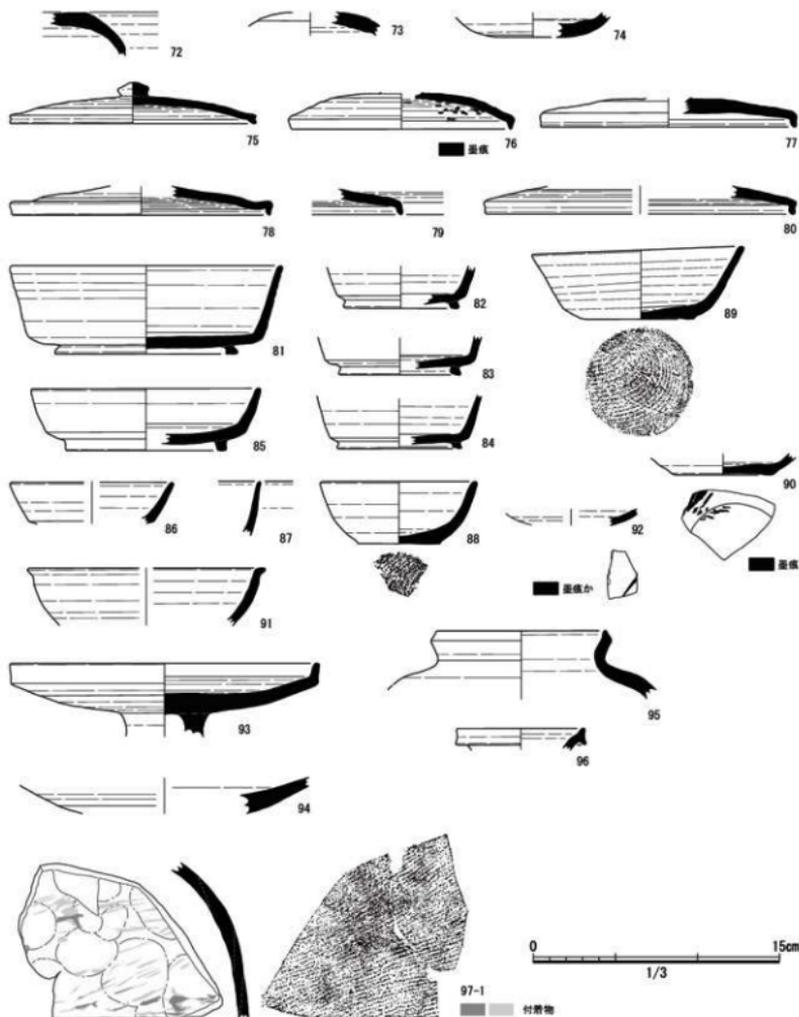
109は敲打痕が残る敲石である。被熱があり、煤が付着する。表裏面と右側面は緩やかなカーブを



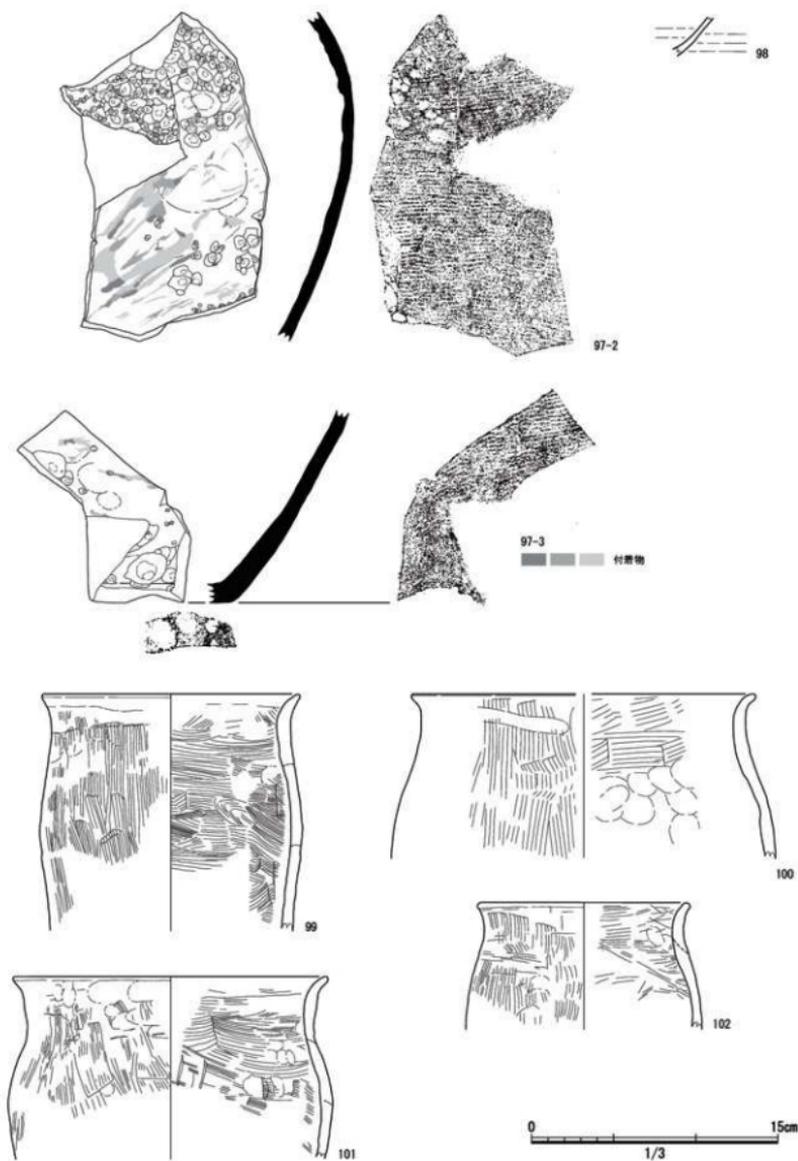
第16図 S1101平面・断面図(3)

描くように研磨されており、石棒を転用した可能性が想定される。

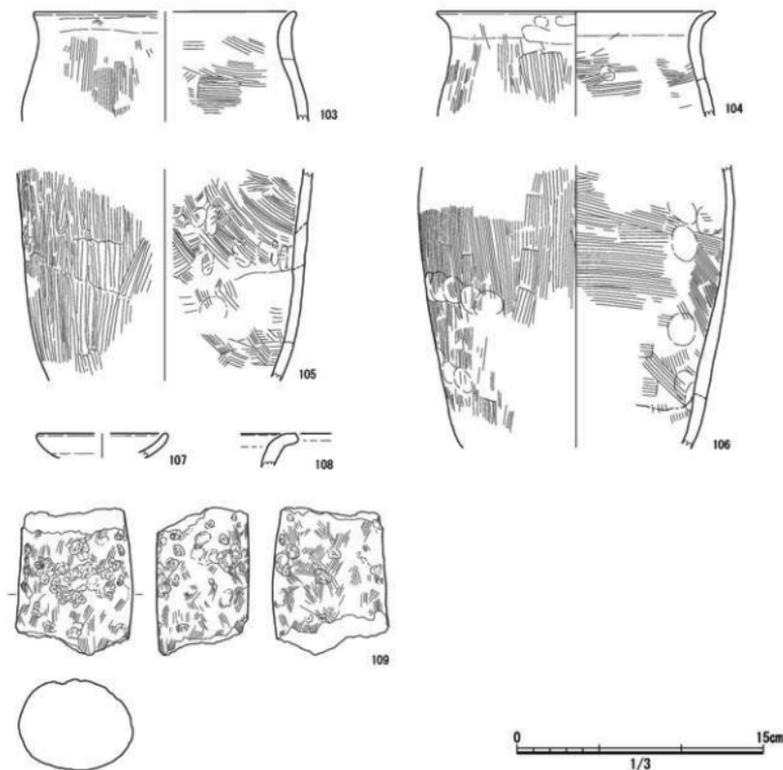
所見 多くの時期の遺物が出土したが、焼土付近で土師器甕が多く出土し、中心となる時期は古代と考えられる。残りが良い81～85の杯B、88・89の碗Aから、I-25号窯式期からNN-32号窯式期に位置付けられ、8世紀中葉のものと考えられる。



第17図 S1101出土遺物図(1)



第18図 S1101出土遺物図(2)



第19図 SI101出土遺物図(3)

(4) 竪穴建物跡 SI137 (第20図、第10・18表)

**位置層位** 18S・18Rにかけて位置し、第IV層地山上面から掘り込む。

**重複関係** SD15・SK32・SP17・SP20・SP29・SP136に切られる。

**遺存状況** 北側1/5ほどを確認し、大半は調査区外に及ぶ。

**平面形状** 方形を呈する。

**規模** 確認できた北壁で一辺4.45mを測る。

**主軸方位** 北壁を基準に求めると、 $N-27^{\circ}-E$ である。SI03とほぼ一致する。

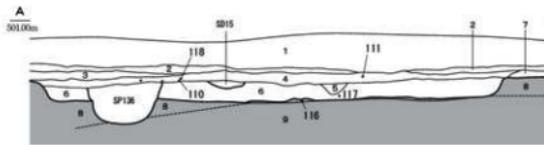
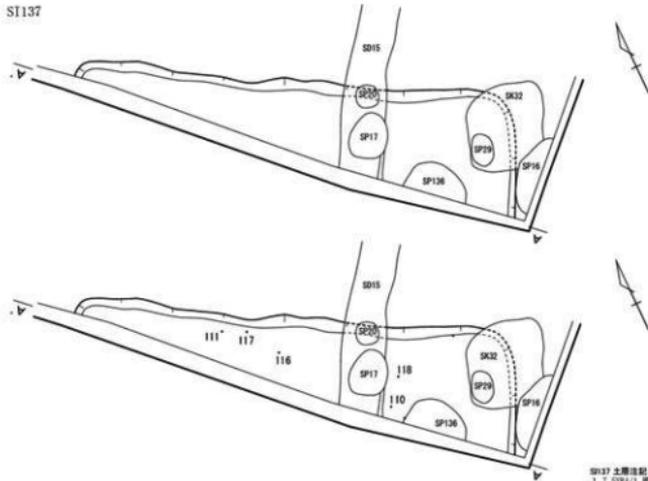
**壁** やや開きぎみに立ち上がり、最も残りの良い北壁で壁高26.8cmを測る。

**床面** 貼床は確認できず、掘り込み面をならした直床式の構造である。

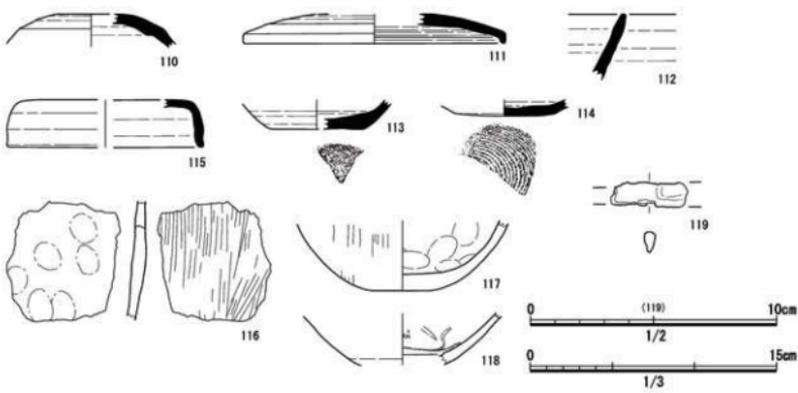
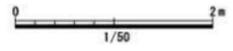
**柱穴** 確認しなかった。

**壁溝** 確認しなかった。

SI137



- SI137 土層遺記
- 1 7.5%W/L 褐色土 3cm以下の層 2% 粘性なし  
しまりなし【1】
  - 2 7.5%W/L 灰褐色土 10cm以下の層 10% 粘性なし  
しまりなし【1】
  - 3 7.5%W/L 灰褐色土 10%W/L 黄褐色砂質土 10%  
2cm以下の層 2% 粘性あり しまりあり【1】
  - 4 10%W/L 2 以上の黄褐色砂質土 1cm以下の層 2%  
粘性あり しまりあり【1】
  - 5 10%W/L 3 以上の黄褐色砂質土 粘性なし  
しまりあり【1】
  - 6 7.5%W/L 灰褐色砂質土 10%W/L 黄褐色砂質土  
プック 10% 10cm以下の層 2% 灰化物 1%  
粘性なし しまりあり【5(1)2 層上】
  - 7 10%W/L 2 灰褐色砂質土 1cm以下の層 10%  
粘性なし しまりあり【1】
  - 8 10%W/L 6 黄褐色砂質土【1】 層上
  - 9 7.5%W/L 2 褐色土 10cm以下の層多く混入  
【V、地山】



第20図 SI137 平面・断面図、出土遺物図

**埋 土** 貼床は確認できず、掘り込み面をならした直床式の構造である。

**厨房施設** 確認しなかった。

**出土遺物** 埋土から、須恵器杯H蓋1点・摘み蓋1点・蓋1点・杯2点・碗A2点・杯か碗1点・甕3点、土師器甕17点、青磁1点、金属製品1点、その他1点、計31点が出土した。須恵器6点、土師器2点、青磁1点、金属製品1点を図示した。

110～115は須恵器である。110は天井部に回転ヘラケズリを施す杯H蓋である。111は口縁端部が垂下する摘み蓋である。口縁端部は丸く仕上げる。112は杯AかBの口縁部から体部の破片である。傾きは小さい。113・114は底部回転糸切り痕が残る碗Aである。底部から体部にかけて、大きく開く器形である。115は天井部が水平で、口縁部が垂直に折れ、口縁端部は外反する。壺蓋と考えられる。

116・117は土師器甕であり、116は体部片、117は平底を呈する底部片である。外面に縦方向へハケ目、内面に指頭圧痕が残る。

118は青磁碗である。内面に片彫りにより画花文を施す。櫛描きによる施文も認められる。

119は刀子の刀身部分である。

**所 見** 中心となる時期の遺物は、須恵器摘み蓋111・杯112・碗A113・114と考えられる。これらより、NN-32号窯式期に位置付けられ、8世紀中～後葉の時期と考えられる。

#### (5) 竪穴建物跡 SI142 (第21図、第10・18表)

**位置層位** 15A・15Bにかけて位置し、第III層上面から掘り込む。

**重複関係** SB49を切り、SP192・SP281に切られる。

**遺存状況** 北側1/5ほどを確認し、大半は調査区外に及ぶ。

**平面形状** 円形を呈する。

**規 模** 確認できた北壁で一辺3.15mを測る。

**主軸方位** カマドを基準に求めると、N-32° -Eである。SI03とほぼ一致する。

**壁** ほぼ垂直に立ち上がり、最も残りが良い北西壁で壁高19.8cmを測る。

**床 面** 貼床は確認できず、掘り込み面をならした直床式の構造である。

**柱 穴** 確認しなかった。

**壁 溝** 確認しなかった。

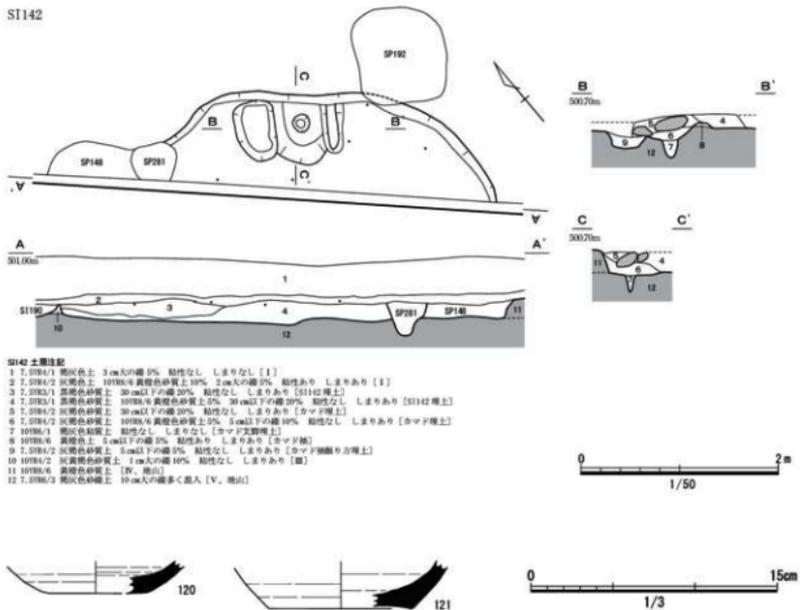
**埋 土** 第4層が全体に堆積した後、東壁近くにA-A'断面第3層が堆積する。ともに粘性がなく、しまりがある黒褐色砂質土を基調とする。

**厨房施設** 北壁中央にカマドを設ける。袖部西側と天井部は失われていた。最終的に検出できた範囲は、焚口部から煙道の立ち上がりまで62cm、焚口幅46cmである。袖部は、粘性としまりがある黄橙色土で形成される。カマド埋土に礫が混入し、用材であった可能性がある。火床面は皿状を呈し、奥壁の立ち上がりは急である。中央には支脚用の埋設穴と推定される小穴がある。

**出土遺物** 埋土から、須恵器杯G1点・杯A1点・杯2点・壺瓶類1点・甕4点、計9点が出土し、須恵器2点を図示した。120は底部にヘラ切り痕が残る杯Gである。121は壺瓶類の底部片である。

**所 見** 8世紀中～後葉のSB49を切り、また、中世遺物の出土はない。このため、8世紀後葉頃のものと考えられる。

SI142



第21図 SI142 平面・断面図、出土遺物図

## 2 竪穴状遺構

(1) 竪穴状遺構 SI147 (第22図、第10・18表)

位置層位 14Bに位置し、第III層上面から掘り込む。

重複関係 確認しなかった。

遺存状況 北側1/4ほどを確認し、大半は調査区外に及ぶ。

平面形状 方形を呈する。

規模 確認できた北壁で一辺2.10mを測る。

主軸方位 北壁を基準に求めると、N-55° -Wである。

壁 やや開きぎみに立ち上がり、最も残りが良い北壁で壁高18.6cmを測る。

床面 貼床は確認できず、掘り込み面をならした直床式の構造である。

柱穴 確認しなかった。

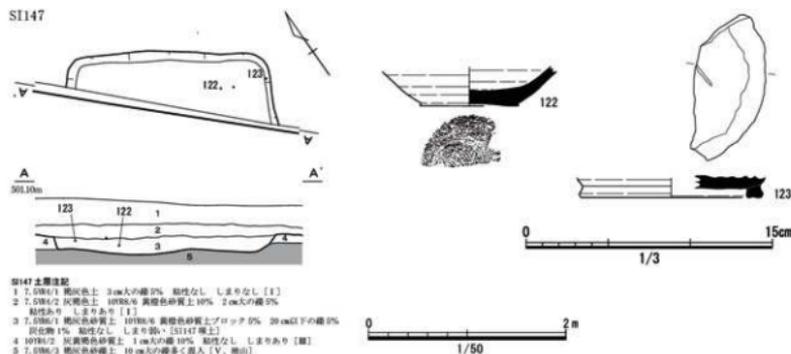
埋土 しまりがわるい褐灰色砂質土が単層で堆積する。

出土遺物 埋土から、須恵器杯1点・椀A1点・瓶1点・甕2点、計5点が出土し、須恵器2点を図示した。

122は底部回転糸切り痕が残り、椀Aである。体部の傾きは大きい。123は瓶類の底部片である。内面に刻線が認められる。

所見 122は体部が開き、傾きが大きい椀Aであり、8世紀中から後葉のものと考えられる。

SI147



第22図 SI147平面・断面図、出土遺物図

## (2) 竪穴状遺構 SI149 (第23図、第10・18表)

**位置層位** 13C・14Cにかけて位置し、第三層上面から掘り込む。

**重複関係** SK177・SP170を切る。SP282・SP283に切られる。

**遺存状況** 北側1/3ほどを確認し、残りは調査区外に及ぶ。

**平面形状** 隅丸方形を呈する。

**規模** 確認できた北壁で一辺2.84mを測る。

**主軸方位** 北壁を基準に求めると、 $N-73^{\circ}-W$ である。

**壁** 床面まで掘削されており、壁は残っていない。

**床面** 黒褐色砂質土で貼床が施され、しまりを持つ。

**柱穴** 北辺で2穴の柱穴を確認した。

**埋土** 確認しなかった。

**出土遺物** 埋土から、須恵器壺瓶類1点・甕1点、青磁1点、計3点が出土し、青磁1点を図示した。

124は青磁碗である。外面に鎬蓮弁文を施し、龍泉窯系B1類に属する。

**所見** 幅広い年代観の遺物が出土するが、全て検出作業中の出土である。最も残りの良い龍泉窯系B1類124より、13世紀代の可能性が高いと考えられる。

## (3) 竪穴状遺構 SI151 (第24図、第10・18・19表)

**位置層位** 15C・15Bにかけて位置し、第四層上面から掘り込む。

**重複関係** SP154・SP183を切る。SS204に切られる。

**遺存状況** 全体の形状を把握することができる。

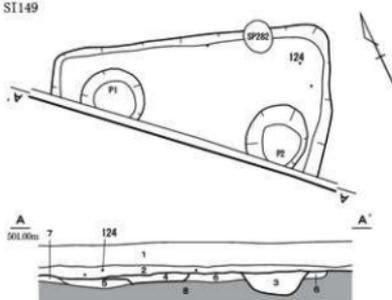
**平面形状** 隅丸方形を呈する。

**規模** 長軸(南北)2.27m×短軸(東西)1.90mを測る。

**主軸方位** 中軸線を基準に求めると、 $N-3^{\circ}-E$ である。

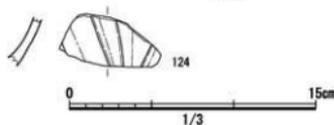
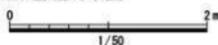
**壁** やや開きぎみに立ち上がり、最も残りが良い南壁で壁高4.2cmを測る。

SI149



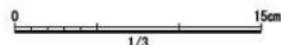
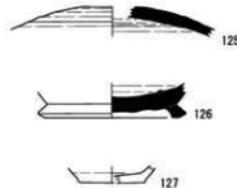
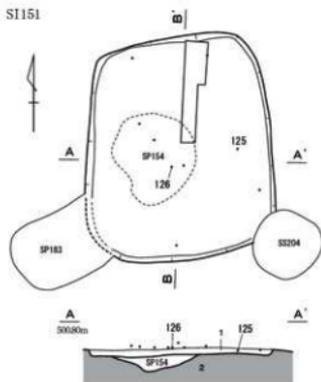
## SI149土層表記

- 1 T.5014/7 褐色色土 3cm程度の層 粘性なし、しまりなし【Ⅰ】
- 2 T.5014/2 灰褐色土 100% 美濃色砂質土 10% 2cm程度の層 粘性あり、しまりあり【Ⅱ】
- 3 1018/1 褐色色砂質土 1018B 美濃色砂質土プロップ 30% 10cm以下の層 30% 粘性なし、しまりあり【SI149に併せて掘削】
- 4 1018/1 褐色色砂質土 1018B 美濃色砂質土プロップ 30% 20cm程度の層 30% 粘性なし、しまりあり【SI149に併せて掘削】
- 5 1018/2 褐色色砂質土 20cm程度の層 30% 粘性なし、しまりあり【SI149掘削】
- 6 1018/2 褐色色砂質土 1018B 美濃色砂質土プロップ 30% 20cm程度の層 30% 粘性なし、しまりあり【SI149掘削】
- 7 1018/2 灰黄褐色砂質土 1cm程度の層 10% 粘性なし、しまりあり【Ⅲ】
- 8 T.5016/3 褐色色砂質土 10cm程度の層多量入【Ⅳ、地山】



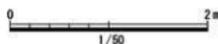
第23図 SI149 平面・断面図、出土遺物図

SI151



## SI151土層表記

- 1 1018/1 褐色色砂質土 数分程度 粘性なし、しまりなし【SI151掘削】
- 2 1018B 美濃色砂質土【Ⅳ、地山】



第24図 SI151 平面・断面図、出土遺物図

床 面 貼床は確認できず、掘り込み面をならした直床式の構造である。

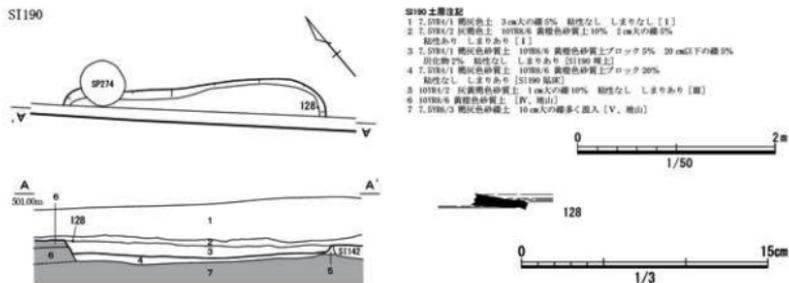
柱 穴 確認しなかった。

埋 土 褐色色砂質土が単層で堆積する。

出土遺物 埋土から、須恵器摘み蓋1点・蓋1点・杯1点・碗B1点・瓶1点・甕3点、土師器皿1点、瀬戸美濃焼1点、中近世陶器1点、計11点が出土し、須恵器2点、土師器1点を図示した。

125は須恵器の蓋である。天井部に回転ヘラケズリを施す。126は底部回転糸切り痕が残る、碗Bである。高台が方形を呈し、やや外を向く。接地面は内端である。127は土師器皿である。ロクロナデにより調整され、底部に回転糸切り痕が残る。

所 見 幅広い時期の遺物が出土するが、須恵器の出土が多いため、古代の遺構と考えられる。須恵器碗Bの126は器形よりI-25号窯式期に位置付けられ、8世紀中葉のものと考えられる。



第25図 SI190 平面・断面図、出土遺物図

#### (4) 竪穴状遺構 SI190 (第25図、第10・19表)

**位置層位** 15A・16A にかけて位置し、第III層上面から掘り込む。

**重複関係** SP274 に切られる。

**遺存状況** 北側 1/4 ほどを確認し、大半は調査区外に及ぶ。

**平面形状** 隅丸方形を呈する。

**規模** 確認できた北壁で一辺 2.67 m を測る。

**主軸方位** 北壁を基準に求めると、N-55° -W である。

**壁** やや開きぎみに立ち上がり、最も残りが良い北東隅で壁高 16.1 cm を測る。

**床面** 褐灰色砂質土で貼床が施され、しまりを持つ。

**柱穴** 確認しなかった。

**埋土** 褐灰色砂質土が単層で堆積する。

**出土遺物** 埋土から、須恵器摘み蓋 1 点が出土し、図示した。128 は摘み蓋の天井部片である。

**所見** 他の竪穴状遺構は、古代もしくは中世のものである。当遺構からも須恵器摘み蓋 128 の断片が出土したため、8 世紀代に属するものと考えられる。

### 3 掘立柱建物跡

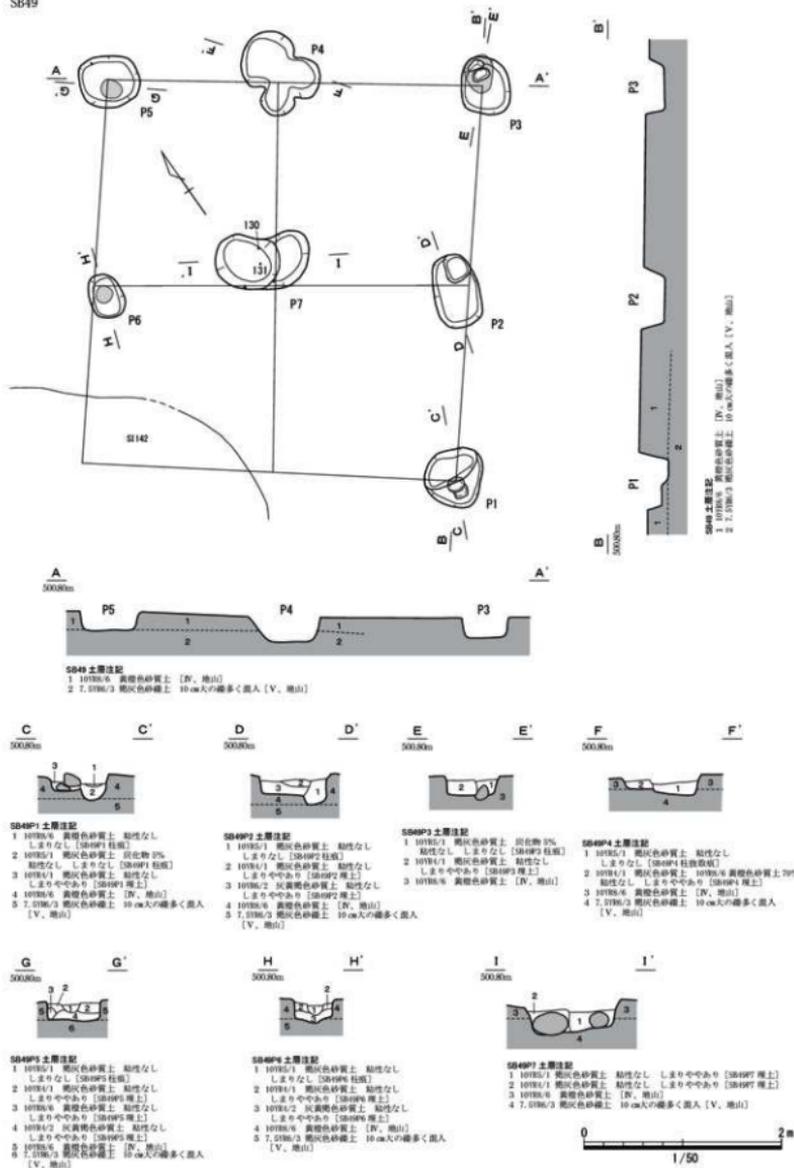
#### (1) 掘立柱建物跡 SB49 (第26・27図、第10・19表)

**遺構** 15B・15A・16B・16A において、第IV層地山上面で確認した。P2・P3 が竪穴建物跡 SI101 を切る。7 基の柱穴で構成され、南辺西側寄りの 2 穴は確認することができなかったものの、2 間四方の総柱建物を想定した。梁行は 3.8 m を測り、柱間が東から 2.1 m、1.7 m である。桁行は 4.0 m を測り、柱間は 2.0 m 等間である。主軸方位は、東辺の柱列を基準に求めると N-38° -E である。なお、南西隅の柱穴は、SI142 に切られている可能性がある。

確認した柱穴の遺存状況は良好である。P1・P2・P3・P5・P6 で柱痕を確認した。P4 では柱穴上端が不定形を呈し、柱の抜き取りがあったものと推測された。底面の状況は、P1・P2・P4 では片側に、P6 では中央がくぼむ。

**遺物** 構成する柱穴 P2 より須恵器碗 A が 1 点出土し、図示した。129 は、底部回転糸切り痕が残り、内湾しながら立ち上がる須恵器碗 A である。P3 より須恵器甕 1 点、P5 より土師器皿 1 点が出土し、

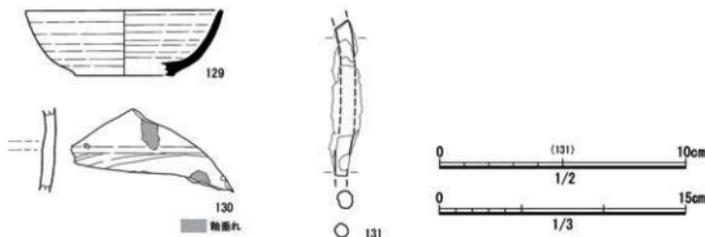
SB49



第26図 SB49平面・断面図

細片のため図示しえなかった。P7より須恵器蓋1点・甕1点、瀬戸美濃焼1点、釘1点、打製石斧1点が出土し、瀬戸美濃焼1点、釘1点を図示した。130は瀬戸美濃焼壺である。外面に灰釉の軸垂れが認められる。内面のロクロ回転ナデの間隔が狭く、古瀬戸後I～II期に位置付けられる。131は断面方形を呈する釘である。

**所見** 8世紀中葉の竪穴建物跡SI101を切り、椀Aが出土するため、8世紀中葉から後葉のものと考えられる。



第27図 SB49出土遺物図

(2) 掘立柱建物跡SB112 (第28・29図、第10表)

**遺構** 17B・17A・18A・18Tにおいて、第IV層地山上面で確認した。SP284に切られ、SK224・SP193・SP195を切る。また、西辺の2穴が確認できず、大きめの柱穴P9を竪穴建物跡SI101の下層で確認した。残りの8基の柱穴P1～P8から3間×2間の側柱建物を想定した。梁行は4.0mを測り、柱間が2.0m等間である。桁行は6.6mを測り、柱間が2.2m等間である。主軸方位は、桁行を基準に求めるとN-57°-Wである。

P1では柱痕を確認した。P2・P6・P7は柱穴底面が、P3・P4は柱穴上端が不定形を呈するため、柱の抜き取りがあったものと推定された。

**遺物** 構成する柱穴のうち、P2より須恵器杯A1点・杯1点、P6より須恵器杯1点・甕2点が出土した。細片のため図示しえなかった。

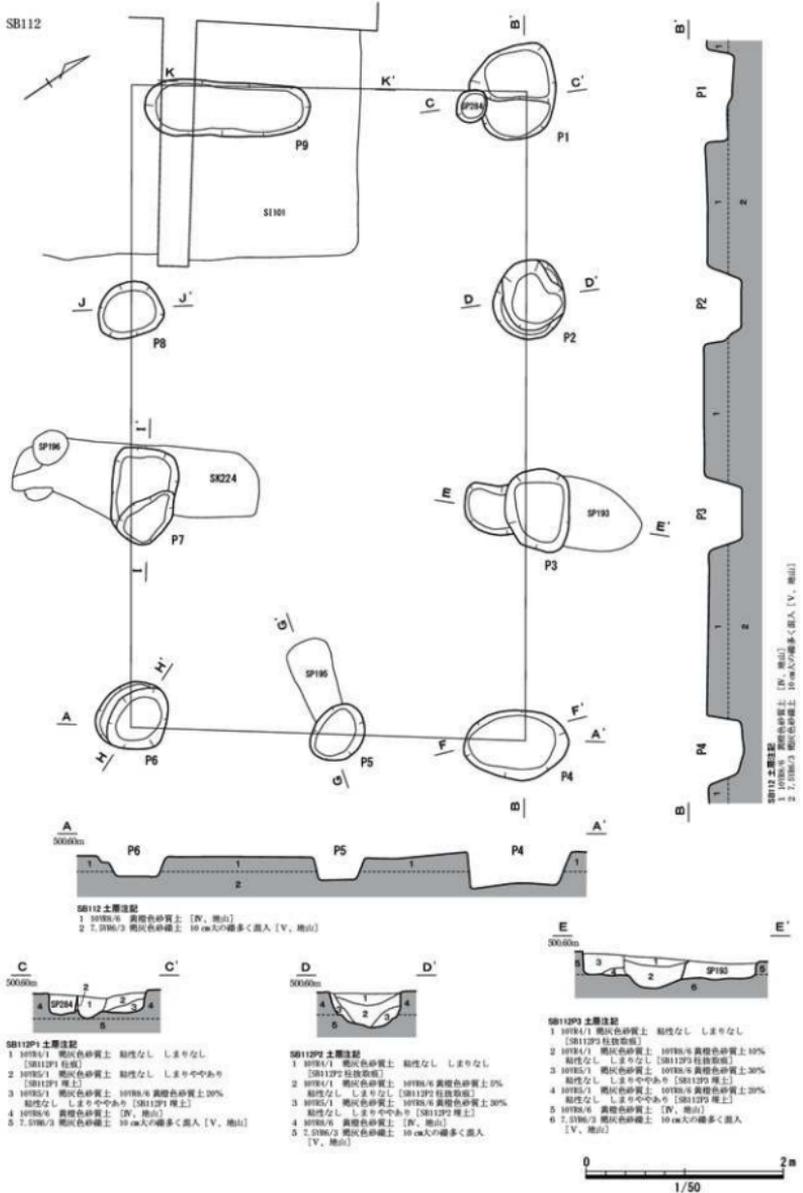
**所見** 須恵器杯Aが出土し、8世紀中葉の竪穴建物跡SI101に切られることから、8世紀前葉頃のものと考えられる。



5 第50次調査 遺構検出状況

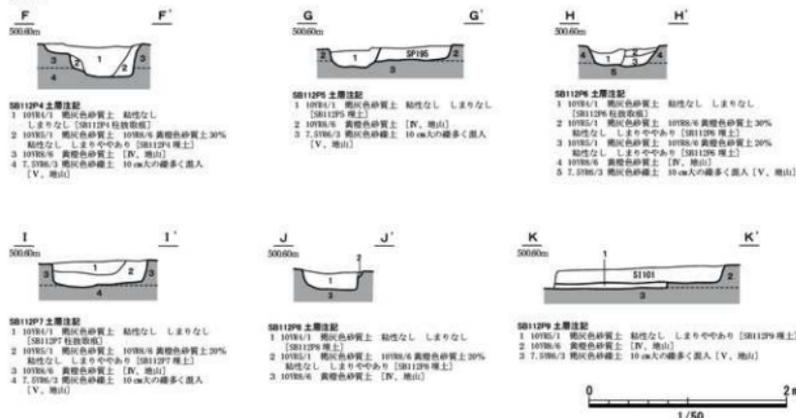


6 第50次調査 遺構調査状況



第28図 SB112平面・断面図(1)

## SB112



第29図 SB112断面(2)

## SA287



第30図 SA287平面・断面

## 4 柵列

(1) 柵列 SA287 (第30図、第10表)

**遺構** 16A・16Bにおいて、第IV層地山上面で確認したP1～P3を柵列と考えた。SI101・SB49に切られ、遺存状況は悪い。全てSI101の調査後に浅い掘り込みを確認したもので、本来の深さではないものと考えられる。

**遺物** 遺物の出土は無かった。

**所見** 8世紀中葉から後葉の掘立柱建物跡SB49、8世紀中葉の竪穴建物跡SI101に切られるため、それ以前のものと考えられる。

## 5 集石遺構 (第31～33図、第10・19表)

(1) 集石遺構 SS01

19Sにおいて、第IV層地山上面で確認した。SI12・SP41を切る。長径3.20 m、短径1.28 m、最大深0.402 mを測る。南側は調査区外に及んでいる。検出した範囲では、平面形は不定形を呈する。主

軸方位は、下層の礫の並びから求めるとN-43° - Eである。掘削時には、検出面の礫を撤去しつつ埋土を発掘していたところ、掘り込み底面の第IV層地山直上で礫が並ぶ状況を確認した。

遺物は、埋土より、須恵器摘み蓋1点・杯1点・横瓶1点・壺瓶類1点・甕1点、土師器甕2点、計7点が出土し、須恵器2点を図示した。132は摘み蓋である。口縁部を緩やかに垂下させ、端部を丸く仕上げる。133は杯の口縁部片である。体部の傾きは小さい。

遺構の時期は、8世紀中葉の堅穴建物跡SI12と132・133の器形より、8世紀後葉から9世紀前半のものと考えられる。

#### (2) 集石遺構 SS04

17Sにおいて、第IV層地山上面で確認した。重複関係はない。長径0.80 m、短径0.70 m、最大深0.154 mを測る。平面形は楕円形を呈する。検出面に礫があり、その下層に掘り込みを確認した。

遺物は、埋土より、灰釉陶器碗が出土した。細片のため図示しえなかった。

遺構の時期は、灰釉陶器の出土より、9世紀代と考えられる。

#### (3) 集石遺構 SS05

17Sにおいて、第IV層地山上面で確認した。SP87に切られる。長径0.77 m、短径0.57 m、最大深0.121 mを測る。平面形は楕円形を呈する。浅い掘り込みの中に、10 cm大の小礫が混入していた。

遺物の出土は無かった。遺構の時期も知りえない。

#### (4) 集石遺構 SS08

16Bにおいて、第IV層地山上面で確認した。重複関係はない。長径0.47 m、短径0.39 m、最大深0.117 mを測る。平面形は楕円形を呈する。小礫の散布内に浅い掘り込みが認められた。

遺物の出土は無かった。遺構の時期も知りえない。

#### (5) 集石遺構 SS09

16Bにおいて、第IV層地山上面で確認した。重複関係はない。長径1.23 m、短径0.18 m、最大深0.370 mを測る。平面形は不定形を呈する。検出面に礫が散在し、その下層に、3段の掘り込みを有する。底面は第V層地山上面を大きく掘り込む。

遺物は、埋土より、手持ち砥石が出土した。割った破片を利用し、表裏面に研磨痕が認められる。図示しえなかった。

遺構の時期は知りえない。

#### (6) 集石遺構 SS14

19T・19Sにおいて、SI03・SI12上面で確認した。SI03・SI12・SK138を切る。長径3.54 m、短径1.55 m、最大深0.246 mを測る。平面形は不定形を呈する。主軸方位は、南側上端から求めるとN-83° - Wである。検出に小礫が散在し、その下層に浅い掘り込みを確認した。

遺物は、埋土より、須恵器摘み蓋4点・杯A3点・杯1点・杯か碗1点・甕1点、土師器杯類2点・甕40点、土師器皿1点、中世陶器1点、中近世陶器1点、その他2点、計57点が出土し、須恵器2点、

土師器4点を図示した。

134・135は須恵器摘み蓋である。134の摘みは擬宝珠形である。口縁部は垂下し、口縁端部はやや外反し、三角形を呈する。135は口縁端部が垂下し、三角形を呈する。136～139は、土師器甕である。外面は縦方向のハケ目、内面には横方向のハケ目を施す。

遺構の時期は、摘み蓋の器形より、8世紀後半と考えられる。

#### (7) 集石遺構 SS62

16Bにおいて、第IV層地山上面で確認した。SD208に切られる。長径0.98 m、短径0.84 m、最大深0.141 mを測る。平面形は不整楕円形を呈する。小礫の散布内に浅い掘り込みが認められた。

遺物の出土は無かった。

遺構の時期は、8世紀中葉以前と考えられるSP208に切られるため、それ以前のものと考えられる。

#### (8) 集石遺構 SS63

16Bにおいて、第IV層地山上面で確認した。重複関係はない。長径0.99 m、短径0.89 m、最大深0.465 mを測る。平面形は不整楕円形を呈する。検出面に礫が散在し、その下層に、3段の掘り込みを有する。底面は第V層地山上面を大きく掘り込む。

遺物は、埋土より須恵器壺瓶類1点、土師器甕1点が出土した。細片のため図示しえなかった。

遺構の時期は、古代のものと考えられる。

#### (9) 集石遺構 SS66

15D・15Cにおいて、第IV層地山上面で確認した。重複関係はない。長径0.91 m、短径0.68 m、最大深0.239 mを測る。平面形は楕円を呈する。底面は第V層地山礫層を掘り込む。

遺物は出土しなかった。遺構の時期は、判然としない。

#### (10) 集石遺構 SS67

15Cにおいて、第IV層地山上面で確認した。長径1.18 m、短径0.87 m、最大深0.261 mを測る。平面形は長方形を呈する。底面は第V層地山礫層に達する。

遺物は、埋土より、須恵器摘み蓋1点・杯1点・壺1点・壺瓶類1点、灰軸陶器1点、瀬戸美濃焼壺瓶類1点・珠洲焼すり鉢1点、計7点が出土し、珠洲焼1点を図示した。140は珠洲焼すり鉢である。内面に8条1単位のすり目を施す。

遺構の時期は、古代のものが細片で中世のものの破片が大きいのが、時期幅が大きく判断が難しい。

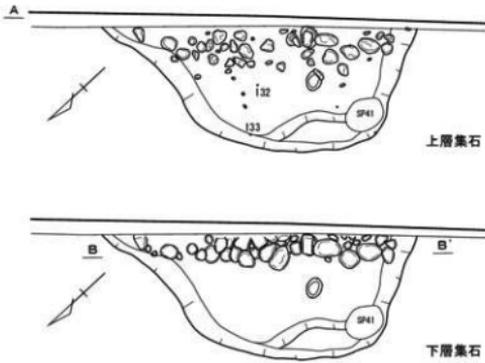
#### (11) 集石遺構 SS133

17Cにおいて、第IV層地山上面で確認した。SS134を切る。長径0.73 m、短径0.59 m、最大深0.144 mを測る。平面形は楕円形を呈する。浅い掘り込みに礫が散在する。底面は第V層地山礫層に達する。

遺物の出土は無かった。

遺構の時期は、SS134を切ることから、9世紀代以降と考えられる。

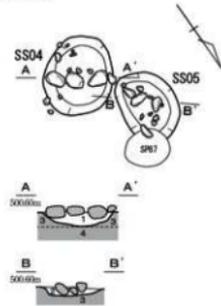
SS01



上層集石

下層集石

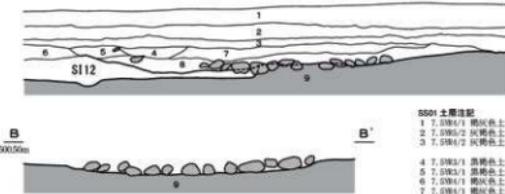
SS04・05



SS04・05 土層注記

- 1 101B1/2 褐色砂質土 101B1/6 黄褐色砂質土ブロック 5% 2cm大の礫 5% 粘性なし しまり中なり [SS04 埋上]
- 2 101B1/2 灰黄褐色砂質土 101B1/6 黄褐色砂質土 5% 粘性中なり しまりあり [SS05 埋上]
- 3 101B1/6 黄褐色砂質土 [IV, 地山]
- 4 2.510B1/2 褐色粘土 10cm大の礫多く散入 [IV, 地山]

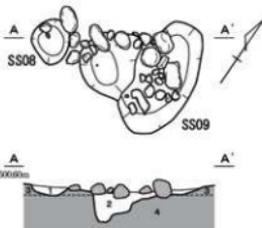
SS01



SS01 土層注記

- 1 2.510A1/1 褐色粘土 3cm大の礫 5% 粘性なし しまりなし [1]
- 2 2.510B1/2 灰黄粘土 10cm大の礫 10% 粘性なし しまりなし [1]
- 3 2.510B1/2 灰黄粘土 101B1/6 黄褐色砂質土 10% 2cm大の礫 5% 粘性あり しまりあり [1]
- 4 2.510B1/1 黄褐色粘土 粘性なし しまりあり [1]
- 5 2.510B1/1 黄褐色粘土 101B1/6 黄褐色砂質土 5% 粘性なし しまりあり [1]
- 6 2.510A1/1 褐色粘土 101B1/6 黄褐色砂質土 10% 粘性なし しまりあり [1]
- 7 2.510A1/1 褐色粘土 101B1/6 黄褐色砂質土 10% 1cm大の礫 5% 粘性なし しまりあり [1]
- 8 2.510A1/1 褐色粘土 101B1/6 黄褐色砂質土ブロック 20% 30cm以下の礫 5% 粘性なし しまりあり [SS01 埋上]
- 9 101B1/6 黄褐色砂質土 [IV, 地山]

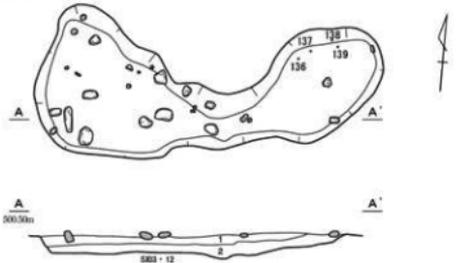
SS08・09



SS08・09 土層注記

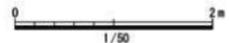
- 1 2.510A1/1 褐色粘土 101B1/6 黄褐色砂質土 20% 10cm大の礫 10% 粘性なし しまりあり [SS08 埋上]
- 2 2.510A1/1 褐色粘土 101B1/6 黄褐色砂質土 5% 20cm大の礫 20% 粘性中なし しまりあり [SS09 埋上]
- 3 101B1/6 黄褐色砂質土 [IV, 地山]
- 4 2.510B1/2 褐色粘土 10cm大の礫多く散入 [IV, 地山]

SS14



SS14 土層注記

- 1 101B1/2 灰黄褐色砂質土 101B1/6 黄褐色砂質土 5% 30以下の礫 20% 粘性なし しまりあり [SS14 埋上]
- 2 101B1/2 灰黄褐色砂質土 101B1/6 黄褐色砂質土 5% 3cm以下の礫 10% 粘性なし しまりあり [SS14 埋上]



第31図 SS01・04・05・08・09・14平面・断面図

(12) 集石遺構 SS134

16Cにおいて、第IV層地山上面で確認した。SS133に切られる。長径0.63 m、短径0.60 m、最大深0.180 mを測る。平面形は楕円形を呈する。浅い掘り込みに礫が散在する。

遺物は、埋土より、灰軸陶器碗1点が出土した。内外面無軸である。細片のため図示しえなかった。遺構の時期は、灰軸陶器の出土より9世紀代と考えられる。

(13) 集石遺構 SS135

16C・16Bにおいて、第IV層地山上面で確認した。長径1.61 m、短径1.08 m、最大深0.155 mを測る。平面形は楕円形を呈する。検出面に礫が散在する状況を確認した。

遺物の出土は無かった。

遺構の時期は、SS134に切られることから、9世紀代以前と考えられる。

(14) 集石遺構 SS204

15Bにおいて、第IV層地山上面で確認した。SI151を切る。長径0.68 m、短径0.65 m、最大深0.181 mを測る。平面形は円形を呈する。検出面に礫が散在し、その下層に掘り込みを持つ。

遺物は、埋土より、須恵器杯1点・短頸壺1点・壺瓶類1点、灰軸陶器壺瓶類1点、計4点が出土した。細片のため図示しえなかった。

遺構の時期は、須恵器の出土より古代に属するものと考えられる。

(15) 集石遺構 SS222

17Tにおいて、第IV層地山上面で確認した。重複関係はない。長径1.36 m、短径0.68 m、最大深0.689 mを測る。検出面に礫が散在し、底面に2穴の掘り込みを有する。底面は第V層地山礫層を掘り込む。

遺物は、埋土より、青磁碗1点が出土し、図示した。141は、内面に画花文を施し、内外面に櫛描きにより施文する。

遺構の時期は、青磁碗141の年代観より12世紀頃と考えられる。

(16) 集石遺構 SS240

16Cにおいて、第IV層地山上面で確認した。重複関係はない。長径0.62 m、短径0.48 m、最大深0.231 mを測る。平面形は不定形を呈する。底面は第V層地山礫層を掘り込む。

遺物の出土は無かった。遺構の時期は、明らかにできなかった。

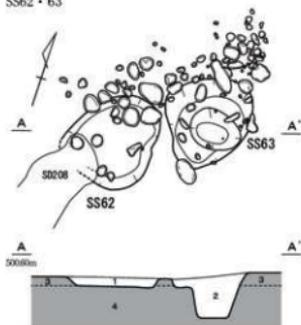
(17) 集石遺構 SS261

16Cにおいて、第IV層地山上面で確認した。長径1.42 m、短径1.34 m、最大深0.265 mを測る。平面形は方形を呈する。検出面に礫が散在する。底面は第V層地山礫層をに達する。

遺物は、埋土より、須恵器杯2点が出土した。細片のため図示しえなかった。

遺構の時期は、須恵器の出土より古代に属するものと考えられる。

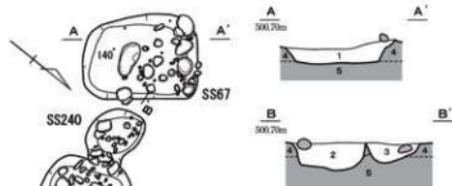
SS62・63



SS62・63 土層注記

1. SS62/1 褐色砂質土 10193/6 黄褐色砂質土 10%  
20 cm以下の層 20% 粘性なし、しまりあり [SS62 棟上]
2. SS62/1 褐色砂質土 20 cm以下の層 30%  
粘性あり、しまりあり [SS62 棟上]
3. 10193/6 黄褐色砂質土 [IV、地山]
4. SS62/2 褐色砂質土 10 cm以下の層多く混入 [V、地山]

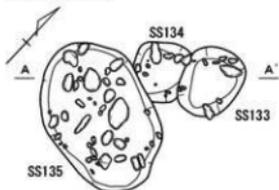
SS66・67・240



SS66・67・240 土層注記

1. SS66/1 褐色砂質土 10193/6 黄褐色砂質土 0%  
20 cm以下層 30% 粘性なし、しまりあり [SS67 棟上]
2. SS66/1 褐色砂質土 10193/6 黄褐色砂質土 0%  
20 cm以下層 20% 粘性なし、しまりあり [SS66 棟上]
3. SS66/1 褐色砂質土 10193/6 黄褐色砂質土 0%、粘厚 10%  
10 cm以下の層 30% 粘性なし、しまりあり [SS240 棟上]
4. 10193/6 黄褐色砂質土 [IV、地山]
5. SS66/3 褐色砂質土 10 cm以下の層多く混入 [V、地山]

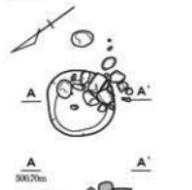
SS133・134・135



SS133・134・135 土層注記

1. 10193/1 褐色砂質土 10193/6 黄褐色砂質土 10% 20 cm以下の層 50% 粘性なし、しまりあり [SS133 棟上]
2. 10193/1 褐色砂質土 10193/6 黄褐色砂質土 10% 20 cm以下の層 20% 粘性なし、しまりあり [SS134 棟上]
3. 10193/1 褐色砂質土 10193/6 黄褐色砂質土 10% 50 cm以下の層 50% 粘性なし、しまりあり [SS135 棟上]
4. 10193/6 黄褐色砂質土 [IV、地山]
5. SS133/3 褐色砂質土 10 cm以下の層多く混入 [V、地山]

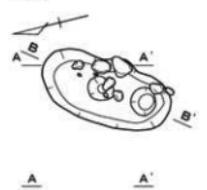
SS204



SS204 土層注記

1. SS204/1 褐色砂質土 10 cm以下の層 10%  
粘性なし、しまり中やあり [SS204 棟上]
2. 10193/6 黄褐色砂質土 [IV、地山]
3. SS204/3 褐色砂質土 10 cm以下の層多く混入 [V、地山]

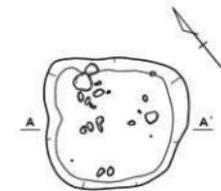
SS222



SS222 土層注記

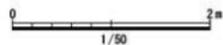
1. SS222/1 褐色砂質土 20 cm以下の層 20%  
粘性なし、しまりあり [SS222 棟上]
2. 10193/6 黄褐色砂質土 [IV、地山]
3. SS222/3 褐色砂質土 10 cm以下の層多く混入 [V、地山]

SS261

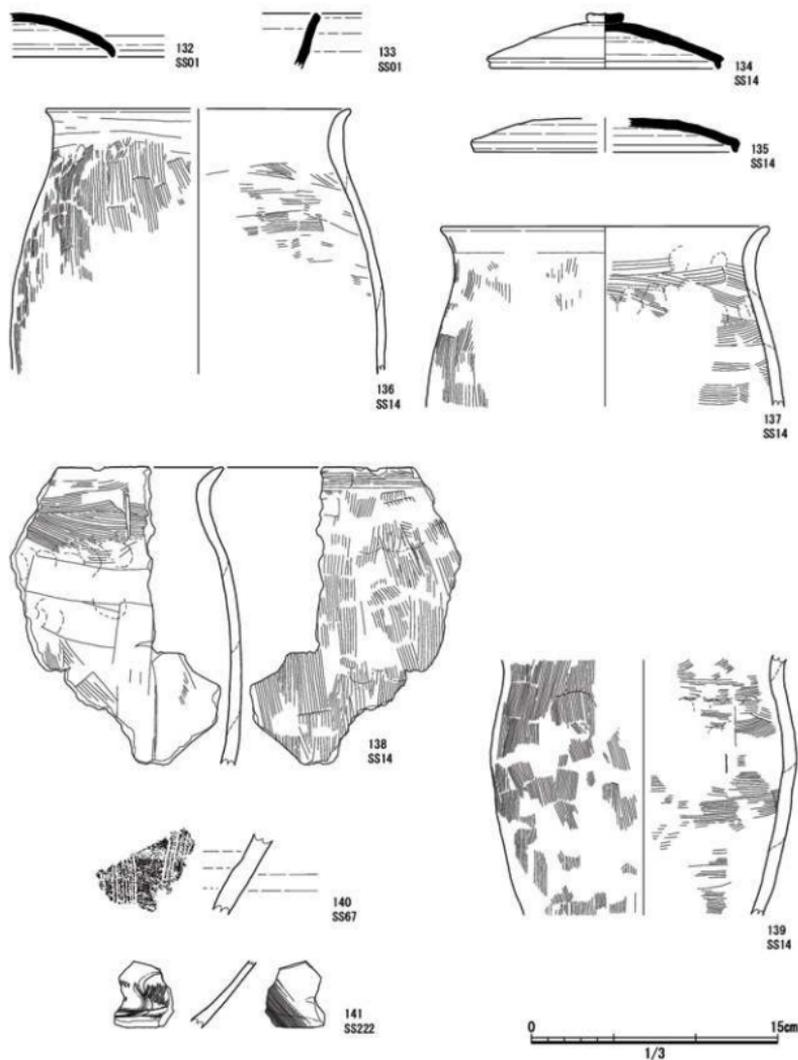


SS261 土層注記

1. SS261/1 黄褐色砂質土 10193/6 黄褐色砂質土 3% 20 cm以下の層 10%  
粘性なし、しまり弱 [SS261 棟上]
2. 10193/6 黄褐色砂質土 [IV、地山]
3. SS261/3 褐色砂質土 10 cm以下の層多く混入 [V、地山]



第32図 SS62・63・66・67・133～135・204・222・240・261 平面・断面図



第33図 SS01・14・67・222出土遺物図

## 6 溝 (第34～36図、第11・19表)

## (1) 溝SD15

18S・18R・19Sにおいて、第IV層地山上面で確認した。SI03・SI12・SI137・SK27・SK28・SP17・SP20・SP36を切る。現存長4.31m、最大幅0.40m、最大深0.213mを測る。南端は調査区外に及ぶ。主軸方位はN-37°-Eである。

遺物は、埋土より、須恵器蓋1点・杯2点・甕3点、白磁1点、計7点が出土し、白磁碗1点を図示した。142は体部が直線的に開き、外面の露胎に櫛状工具による刺突を施す。

遺構の時期は、白磁碗142の器形より12世紀代のものと考えられる。

## (2) 溝SD194

15C・15B・16D・16C・16Bにおいて、第IV層地山上面で確認した。底面は第V層地山礫層に達する。SD232に切られる。現存長7.68m、最大幅3.16m、最大深0.289mを測る。北端は調査区外に及ぶものの、検出した範囲では平面形は不定形を呈する。主軸方位はN-1°-Wである。

遺物は、埋土より、須恵器摘み蓋10点・蓋1点・杯A12点・杯B2点・杯8点・椀A1点・椀1点・杯か椀2点・盤1点・横瓶2点・壺瓶類4点・甕26点・甕1点・その他1点、土師器杯類3点・高杯1点・甕1点・その他1点、中近世陶器1点、計79点が出土した。須恵器13点を図示した。

143～155は須恵器である。143～145は口縁端部が垂下する摘み蓋である。146～148は底部外面に回転ヘラケズリを施す杯Aである。いずれも底部と体部の境は明瞭で、体部の傾きは小さい。149・150は底部周縁に高台が貼付する杯Bである。151は体部から口縁部が直線的に開き、口縁端部が外反し、椀とした。152は口縁部が強く折れて外反し、盤とした。153は外面にカキ目があり、横瓶の体部片と考えた。154は外反する口縁部の器形から甕とした。155は須恵器の双耳甕である。把手が付く。

遺構の時期は、遺物の年代が幅広く絞り込むのは難しいが、最も残りが良い杯A146の年代観より、8世紀後半には機能していたと考えられる。

## (3) 溝SD208

15A・16Bにおいて、第IV層地山上面で確認した。底面は第V層地山礫層に達する。SI101・SP31・SP273に切られる。SS62を切る。現存長4.95m、最大幅0.94m、深さ0.212mを測る。ほぼ全体形状を確認でき、平面形は不定形を呈する。主軸方位はN-43°-Eである。

遺物の出土は無かった。

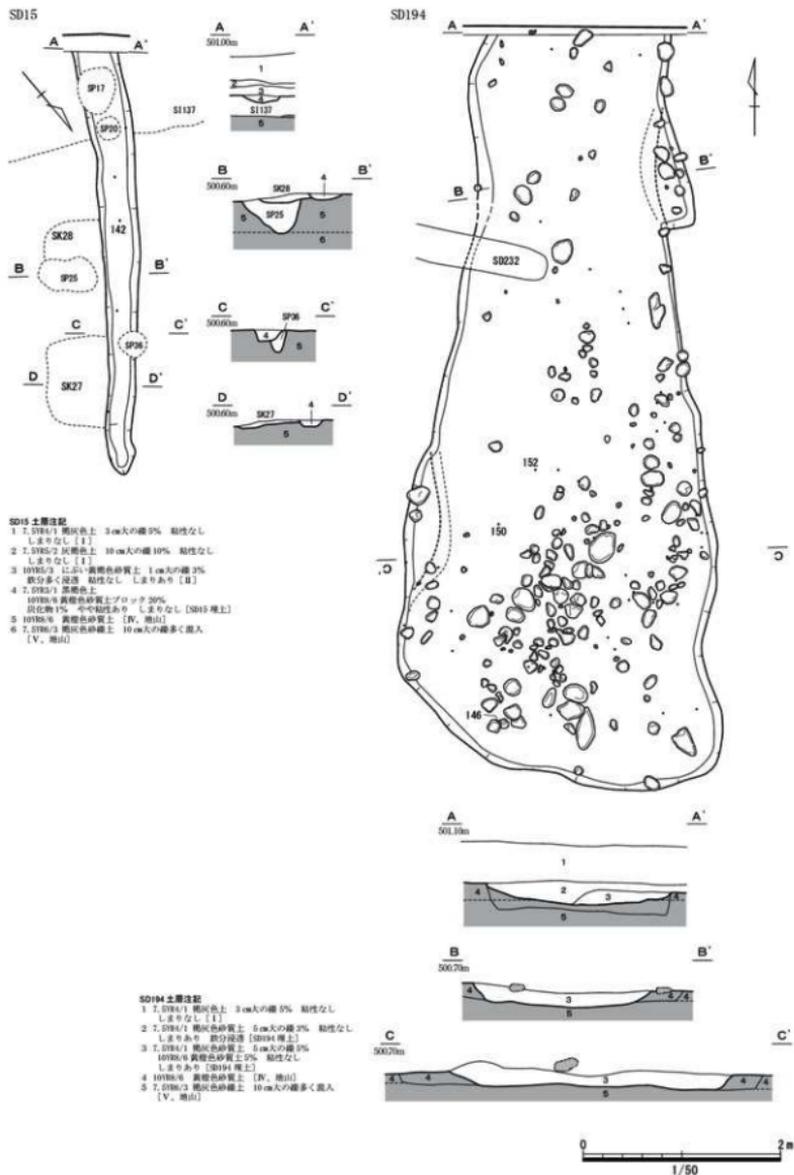
遺構の時期は、8世紀中葉のSI101に切られるため、それ以前のものと考えられる。

## (4) 溝SD232

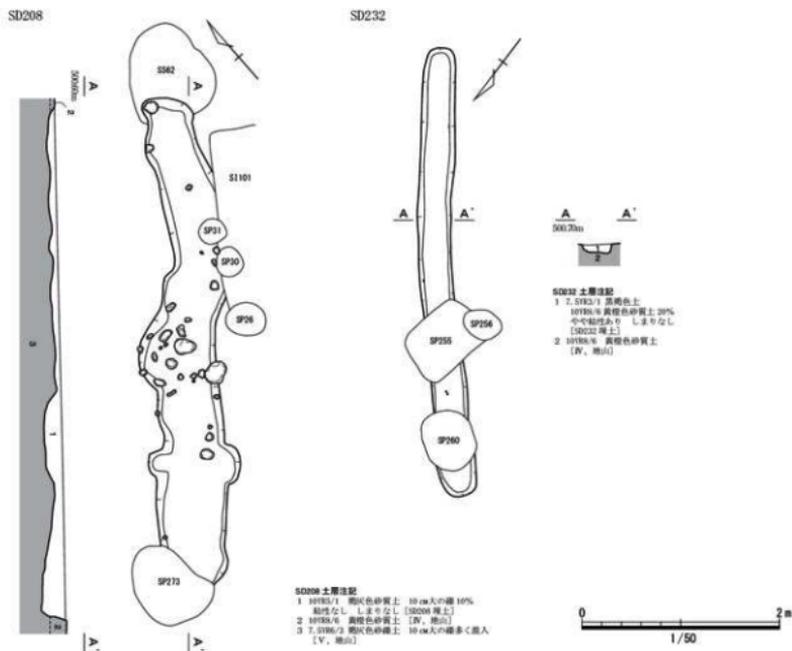
16D・16Cにおいて、第IV層地山上面で確認した。SD194・SP260を切る。SP255に切られる。現存長4.59m、最大幅0.35m、最大深0.162mを測る。全体形状を確認できる。主軸方位はN-40°-Wである。

遺物は、須恵器杯1点・椀1点・甕1点、計3点が出土した。細片のため図示しえなかった。

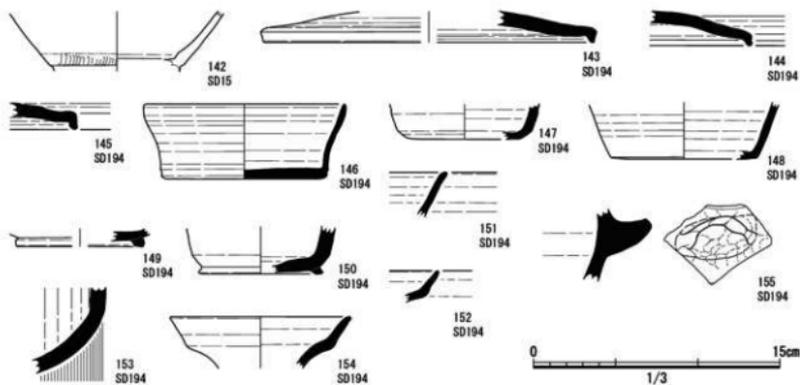
遺構の時期は、須恵器の出土より、8世紀代のものと考えられる。



第34図 SD15・194平面・断面図



第 35 図 SD208・232 平面・断面図



第 36 図 SD15・194 出土遺物図

## 7 土坑

**遺構** 37基を確認した(第37～40図、第11表)。竪穴建物跡・溝の上面から掘り込むものが5基あり、残り31基は全て第IV層地山直上で検出した。平面形は、円形1基、方形15基、不定形21基である。径は1m未満が14基、2m未満が21基、2m以上が2基である。調査区の全体に分布する。

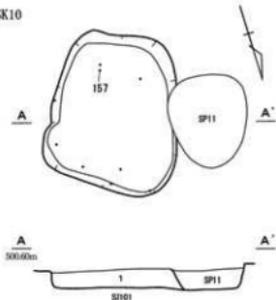
**遺物** 27基から須恵器75点、灰軸陶器1点、土師器55点、中世陶磁器13点、中近世陶器4点、石製品1点、計149点が出土した(第41図、第7・19・20表)。

SK10から、須恵器杯G156、土師器皿157が出土した。156は、底部へラ切り痕が残る。157は内外面に横ナデを施し、土師器皿4類に位置付けられる。SK39から、須恵器杯B158・碗159、青磁皿160が出土した。158は、底部破面に高台が貼付していた痕跡を確認できるため、杯Bとした。その場合、底部周縁に高台が付く器形となる。159は、体部が直線的に開き、口縁部が外反する碗である。体部の傾きが大きい。160は、龍泉窯系青磁皿である。内面見込みに櫛描きにより面花文を施す。釉調が他の青磁より明るい緑色を呈する。底部外面は焼成前に軸を掻き取る。SK90から、須恵器碗A161・162・甕163が出土した。161・162は、底部に回転糸切り痕が残る。163は甕の頸部である。SK138から、須恵器杯B164、土師器甕165・166が出土した。164は、高台から平坦部を設けて体部が立ち

第7表 第50次調査土坑出土遺物集計表

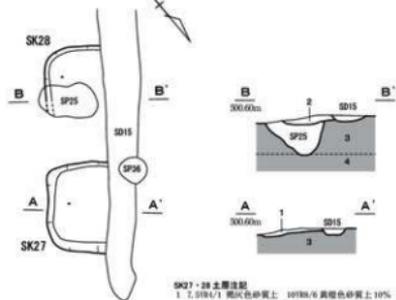
種別	須恵器										土師器					灰軸陶器		中世陶磁器	その他	計					
	杯H	杯G	杯A	杯B	杯C	杯D	碗	皿	鉢	高杯	鉢	壺	甕	その他	杯類	高杯	壺				皿	その他	碗・皿	その他	
SK10		1	2			1	1	1						2			2	1				1	12		
SK27						1	1	1														1	3		
SK28					1																		1		
SK38					1										1								2		
SK39				1			2															1	4		
SK43					1							1					8						10		
SK57								1															1		
SK90			1				3							5			1				1	1	12		
SK106			1		1					1													3		
SK138				2	1			1						1			37						42		
SK141														1									1		
SK164														1									1		
SK165													1										1		
SK166														3	1							1	5		
SK167													1	1									2		
SK175							1						1		1							1	5		
SK177													1	1									2		
SK180						1		1				1		2							1	1	7		
SK181						1		1				1											4		
SK185							1																1		
SK186																1							1		
SK187					1									1								1	4		
SK205					1		3	1			1	1	5		2		1				3	18			
SK235					1																		1		
SK238														1									1		
SK239													1									2	3		
SK243													1										1		
器種計		1	4	3	9	3	7	8	3		1	2	9	24	1	2	2	1	48	2		1	13	5	149
割合(%)		0.67	2.68	2.01	6.04	2.01	4.69	5.36	2.01		0.67	1.34	6.04	16.10	0.67	1.34	1.34	0.67	32.21	1.34		0.67	8.72	3.35	100%
種別計								75									55				1		13	5	149
割合(%)								50.33									36.91				0.67		8.72	3.35	100%

SK10



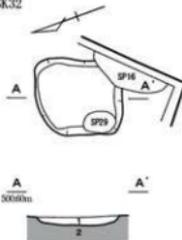
SK10 土層注記  
1 10184/1 褐色色砂質土 5cm大の礫 0%  
粘性なし。しまりややあり [SK10 棟上]

SK27・28



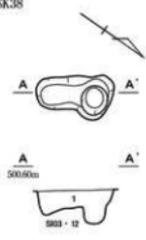
SK27・28 土層注記  
1 1. 10184/1 褐色色砂質土 10186/4 黄褐色色砂質土 10%  
粘性なし。しまりあり [SK27 棟上]  
2 2. 10184/1 褐色色砂質土 10186/4 黄褐色色砂質土ブロック 20%  
5cm大の礫 10% 粘性あり。しまり強い [SK28 棟上]  
3 10186/4 黄褐色色砂質土 [IV、地山]  
4 2. 10186/3 褐色色砂質土 10cm大の礫多く混入 [V、地山]

SK32



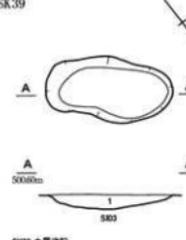
SK32 土層注記  
1 1. 10184/1 褐色色砂質土  
10186/4 黄褐色色砂質土 20%  
2cm大の礫 10% 粘性強 1%  
粘性なし。しまり強い [SK32 棟上]  
2 10186/4 黄褐色色砂質土 [IV、地山]

SK38



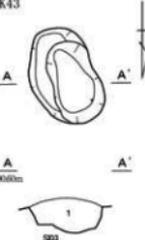
SK38 土層注記  
1 10184/1 褐色色砂質土  
10186/4 黄褐色色砂質土ブロック 40%  
5cm大の礫 0% 粘性強 1%  
粘性なし。しまりややあり [SK38 棟上]

SK39



SK39 土層注記  
1 10184/1 褐色色砂質土 粘性強 10%  
粘性なし。しまりややあり [SK39 棟上]

SK43



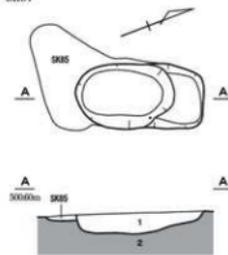
SK43 土層注記  
1 1. 10186/2 灰褐色砂質土 粘性強 0%  
10cm大の礫 10% 粘性なし。  
しまりあり [SK43 棟上]

SK48



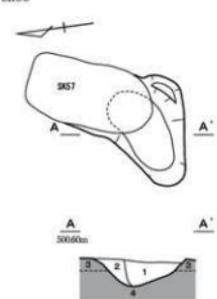
SK48 土層注記  
1 1. 10184/1 褐色色砂質土  
10186/4 黄褐色色砂質土ブロック 30%  
粘性なし。しまり強い [SK48 棟上]  
2 10186/4 黄褐色色砂質土 [IV、地山]

SK57



SK57 土層注記  
1 1. 10184/1 褐色色砂質土  
10186/4 黄褐色色砂質土 5%  
粘性なし。しまりややあり [SK57 棟上]  
2 10186/4 黄褐色色砂質土 [IV、地山]

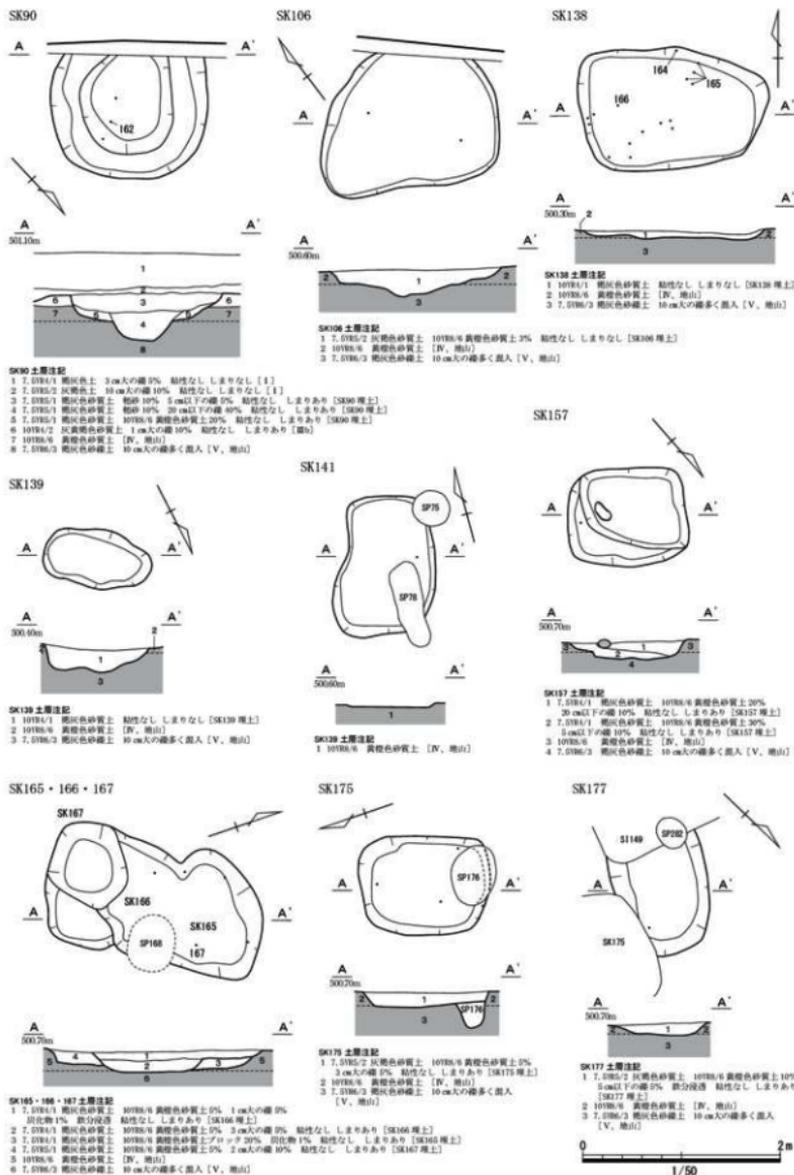
SK85



SK85 土層注記  
1 1. 10184/1 褐色色砂質土  
10186/4 黄褐色色砂質土 5%  
粘性強 1% 粘性なし。  
しまりあり [SK85 棟上]  
2 10184/1 褐色色砂質土  
10186/4 黄褐色色砂質土 40%  
粘性あり。しまりあり  
[SK85 棟上]  
3 10186/4 黄褐色色砂質土  
4 1. 10186/2 褐色色砂質土  
10cm大の礫多く混入 [V、地山]

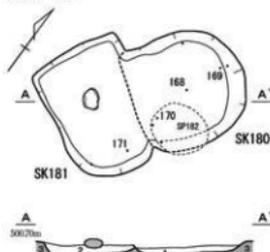


第37図 SK10・27・28・32・38・39・43・48・57・85 平面・断面図



第38図 SK90・106・138・139・141・157・165～167・175・177平面・断面図

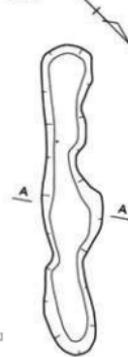
SK180・181



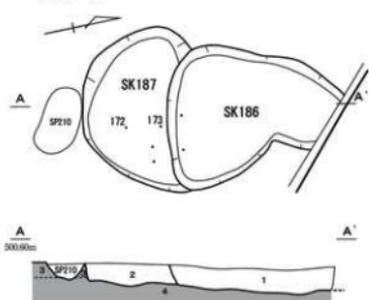
SK180・181 土層注記

- 1 10185/1 褐色色砂質土 10188/6 黄褐色砂質土 10%  
2 cm大の礫 10% 粘性なし、しまりあり [SK180 棟上]
- 2 10185/1 褐色色砂質土 10188/6 黄褐色砂質土 5%  
30 cm以下の礫 10% 粘性なし、しまりあり [SK181 棟上]
- 3 10188/6 黄褐色砂質土 [IV、地山]
- 4 2.5186/3 褐色色砂質土 10 cm大の礫多く混入 [V、地山]

SK185



SK186・187



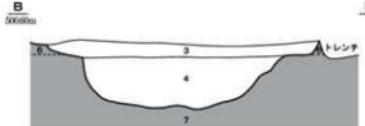
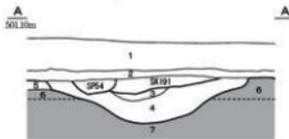
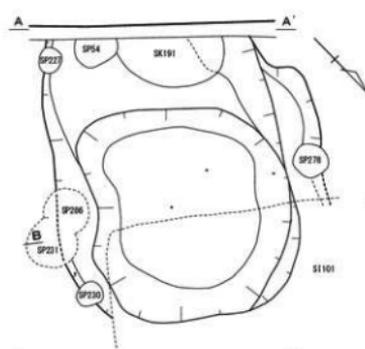
SK186・187 土層注記

- 1 10185/1 褐色色砂質土 10188/6 黄褐色砂質土ブロック 10%  
30 cm以下の礫 20% 粘性なし、しまりあり [SK186 棟上]
- 2 10185/1 褐色色砂質土 10188/6 黄褐色砂質土 5%  
30 cm以下の礫 5% 粘性なし、しまりあり [SK187 棟上]
- 3 10188/6 黄褐色砂質土 [IV、地山]
- 4 2.5186/3 褐色色砂質土 10 cm大の礫多く混入 [V、地山]

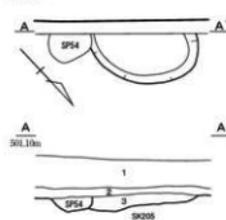
SK188 土層注記

- 1 10185/1 褐色色砂質土 10188/6 黄褐色砂質土 5%  
10 cm以下の礫 5% 粘性なし、しまりあり [SK188 棟上]
- 2 10188/6 黄褐色砂質土 [IV、地山]
- 3 2.5186/3 褐色色砂質土 10 cm大の礫多く混入 [V、地山]

SK205



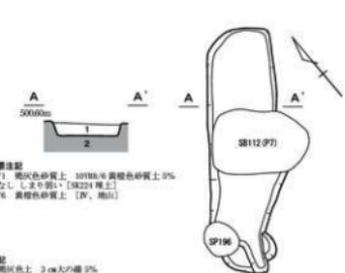
SK191



SK191 土層注記

- 1 2.5187/1 褐色土 3 cm大の礫 5% 粘性なし、しまりなし [I]
- 2 2.5186/2 灰褐色土 10 cm以下の礫 10% 粘性なし、しまりなし [I]
- 3 2.5186/2 褐色色砂質土 10188/6 黄褐色砂質土 5% 3 cm大の礫 5% 粘性なし、しまりあり [SK191 棟上]

SK224

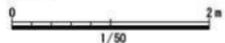


SK224 土層注記

- 1 10185/1 褐色色砂質土 10188/6 黄褐色砂質土 5% 粘性なし、しまりあり [SK224 棟上]
- 2 10188/6 黄褐色砂質土 [IV、地山]

SK205 土層注記

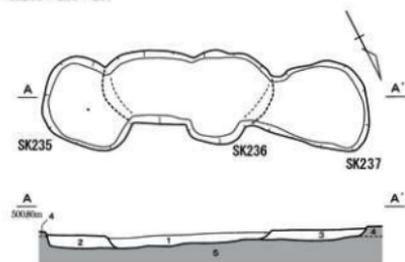
- 1 2.5187/1 褐色土 3 cm大の礫 5% 粘性なし、しまりなし [I]
- 2 2.5186/2 灰褐色土 10 cm以下の礫 10% 粘性なし、しまりなし [I]
- 3 10185/1 褐色色砂質土 10188/6 黄褐色砂質土 5% 3 cm以下の礫 5% 粘性なし、しまりあり [SK205 棟上]
- 4 10185/1 褐色色砂質土 10188/6 黄褐色砂質土ブロック 5% 30 cm以下の礫 10% 粘砂 5% 粘性なし、しまりあり [SK205 棟上]
- 5 10185/1 灰黄褐色砂質土 1 cm大の礫 10% 粘性なし、しまりあり [IIIa]
- 6 10188/6 黄褐色砂質土 [IV、地山]
- 7 2.5186/3 褐色色砂質土 10 cm大の礫多く混入 [V、地山]



第39図 SK180・181・185・186・187・191・205・224 平面・断面図

上がる。165は外面に縦方向ハケ目、内面の頸部あたりに横方向ハケ目・体部に縦方向ナデを施す。166は外面に縦方向ハケ目、内面に横方向ハケ目を施す。SK166から、瀬戸美濃焼の入子が出土した。167は、口縁部は8単位の輪花文となる。直線的に立ち上がる器形から、古瀬戸前Ⅲ期～中Ⅱ期のものと考えられる。SK180から、須恵器蓋168・杯か碗169・鉢170が出土した。168は、天井部に回転ヘラケズリを施す。169は、垂直に近い立ち上がりの角度から杯の可能性が高いが、小破片のため杯か碗とした。170は体部から口縁部にかけて直線的に開き、口縁端部は方形に仕上げる。ここでは鉢とした。SK181から、須恵器摘み蓋が出土した。摘みが擬宝珠形を呈する。SK187から、珠洲焼すり鉢172、中近世陶器甕173が出土した。9条1単位のすり目を施す。体部はゆるやかに内湾して立ち上がり、口縁部は方形を呈し、口縁端面が外傾する。珠洲Ⅳ期に属する。173は内外面に鉄釉を施す。SK205から、須恵器鉢174、山茶碗175、中世陶器甕176が出土した。174は底部から体部が垂直に近い角度で立ち上がる。ここでは鉢とした。175は高台がなく、立ち上がりが内湾し、口縁端部が肥厚する。内外面に自然釉がかかる。器形より尾張型第6型式に位置付けられる。176は口縁部が外反し、口縁端部が内湾する。中世陶器の甕の口縁部片である。SK239から、青磁177、瀬戸美濃焼花瓶178が出

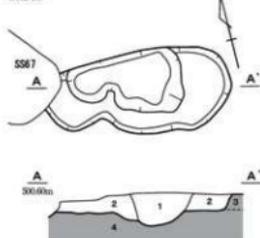
SK235・236・237



SK235・236・237 土層注記

- 1 1018a/1 黄褐色砂質土 1018b/6 黄褐色砂質土 10% 20 cm以下層 20% 粘性なし、しまりあり [SK236 埋上]
- 2 1018a/1 黄褐色砂質土 1018b/6 黄褐色砂質土 70% 20% 10 cm以下層 5% 粘性なし、しまりあり [SK236 埋上]
- 3 1018a/1 黄褐色砂質土 1018b/6 黄褐色砂質土 10% 粘性なし、しまりあり [SK237 埋上]
- 4 1018b/3 黄褐色砂質土 [浮層、地山]
- 5 7. 5186c/3 黄褐色砂質土 10 cm以下の縁多量入 [V層、地山]

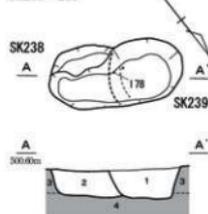
SK243



SK243 土層注記

- 1 7. 5186a/1 黄褐色砂質土 1018b/6 黄褐色砂質土 20% 20 cm以下の縁 5% 粘性なし、しまりあり [SK243 埋上]
- 2 7. 5186a/1 黄褐色砂質土 1018b/6 黄褐色砂質土 10% 5 cm以下層 5% 粘性なし、しまりあり [SK243 埋上]
- 3 1018b/6 黄褐色砂質土 [浮層、地山]
- 4 7. 5186c/3 黄褐色砂質土 10 cm以下の縁多量入 [V層、地山]

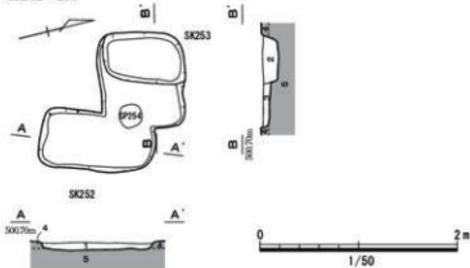
SK238・239



SK238・239 土層注記

- 1 1018a/1 黄褐色砂質土 1018b/6 黄褐色砂質土 30% 20% 3 cm以下の縁 5% 粘性なし、しまりあり [SK238 埋上]
- 2 1018a/1 黄褐色砂質土 1018b/6 黄褐色砂質土 70% 20% 20 cm以下層 30% 粘性なし、しまりあり [SK238 埋上]
- 3 1018b/6 黄褐色砂質土 [浮層、地山]
- 4 7. 5186c/3 黄褐色砂質土 10 cm以下の縁多量入 [V層、地山]

SK252・253

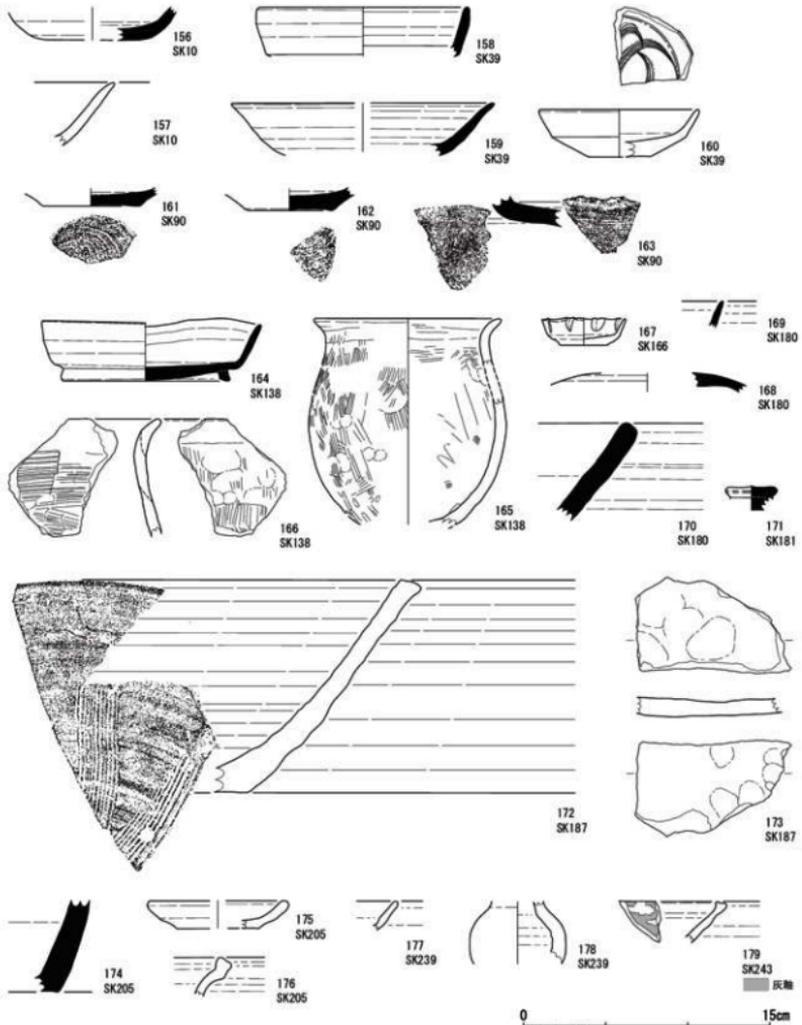


SK252・253 土層注記

- 1 7. 5186a/1 黄褐色砂質土 1018b/6 黄褐色砂質土 30% 粘性なし、しまりあり [SK252 埋上]
- 2 7. 5186a/1 黄褐色砂質土 1018b/6 黄褐色砂質土 20% 粘性なし、しまりあり [SK253 埋上]
- 3 7. 5186a/1 黄褐色砂質土 1018b/6 黄褐色砂質土 30% 粘性なし、しまりあり [SK253 埋上]
- 4 1018b/6 黄褐色砂質土 [浮層、地山]
- 5 7. 5186c/3 黄褐色砂質土 10 cm以下の縁多量入 [V層、地山]

第40図 SK235～239・243・252・253 平面・断面図

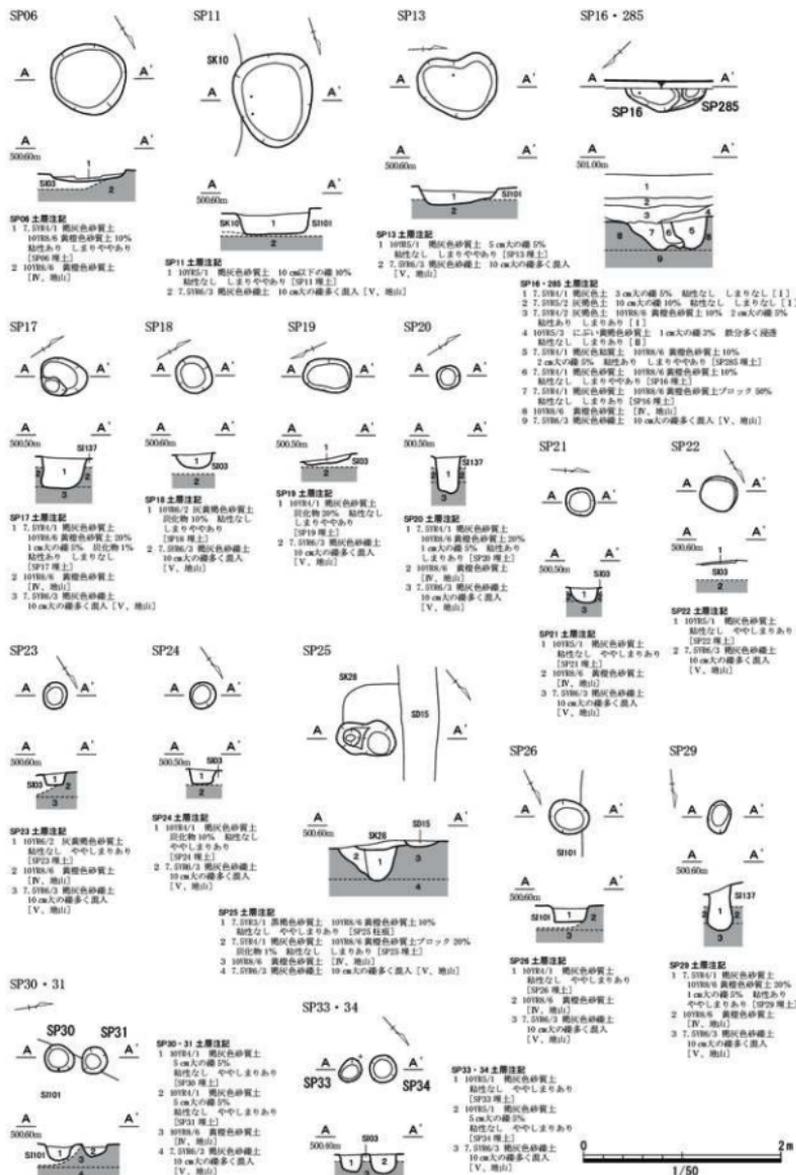
土した。177は青磁盤である。口縁部が折れ、上方に立ち上がる器形から盤と考えられる。178は体部に沈線がなく、古瀬戸中Ⅰ～Ⅱ期に位置付けられる。外面の釉葉が剥落する。SK243から、瀬戸美濃焼酎皿179が出土した。体部が直線的に開き、口縁部内面に突起を持ち、口縁端部は丸く仕上げる。内面の灰釉が剥落する。



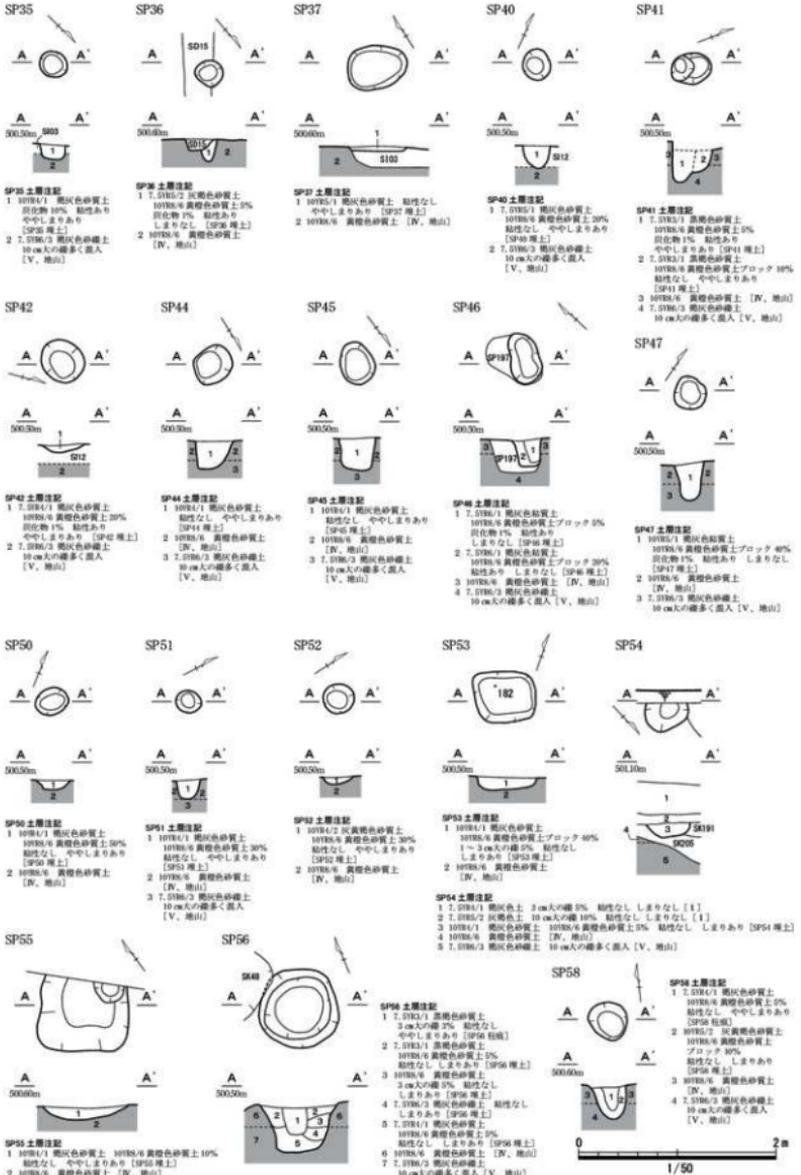
第41図 SK10・39・90・138・166・180・181・187・205・239・243出土遺物図



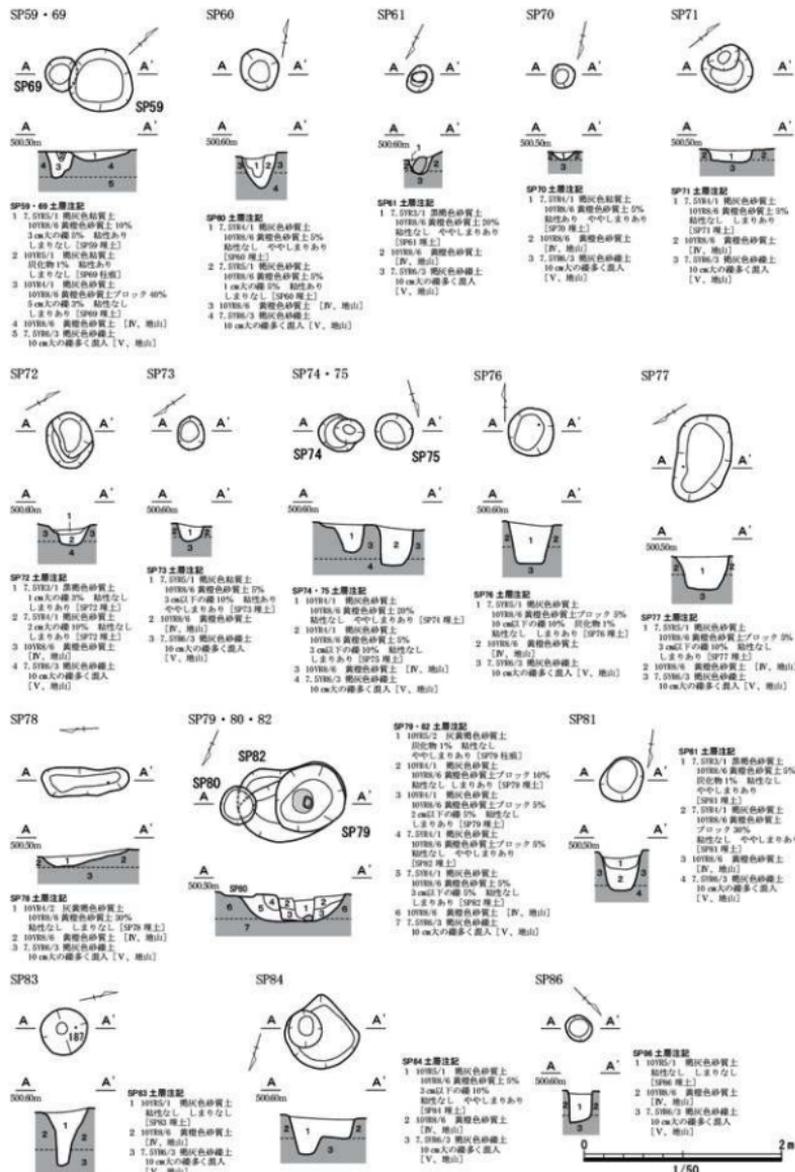




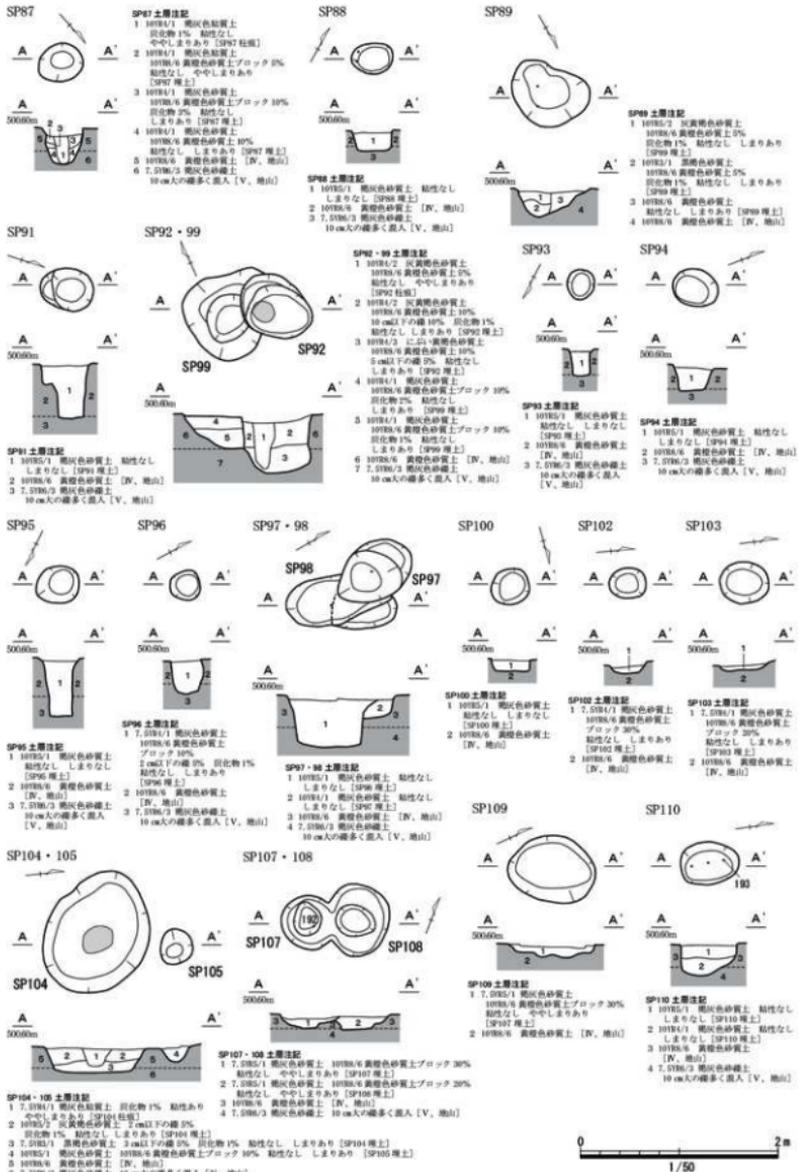
第42図 SP06・11・13・16～26・29～31・33・34・285 平面・断面図



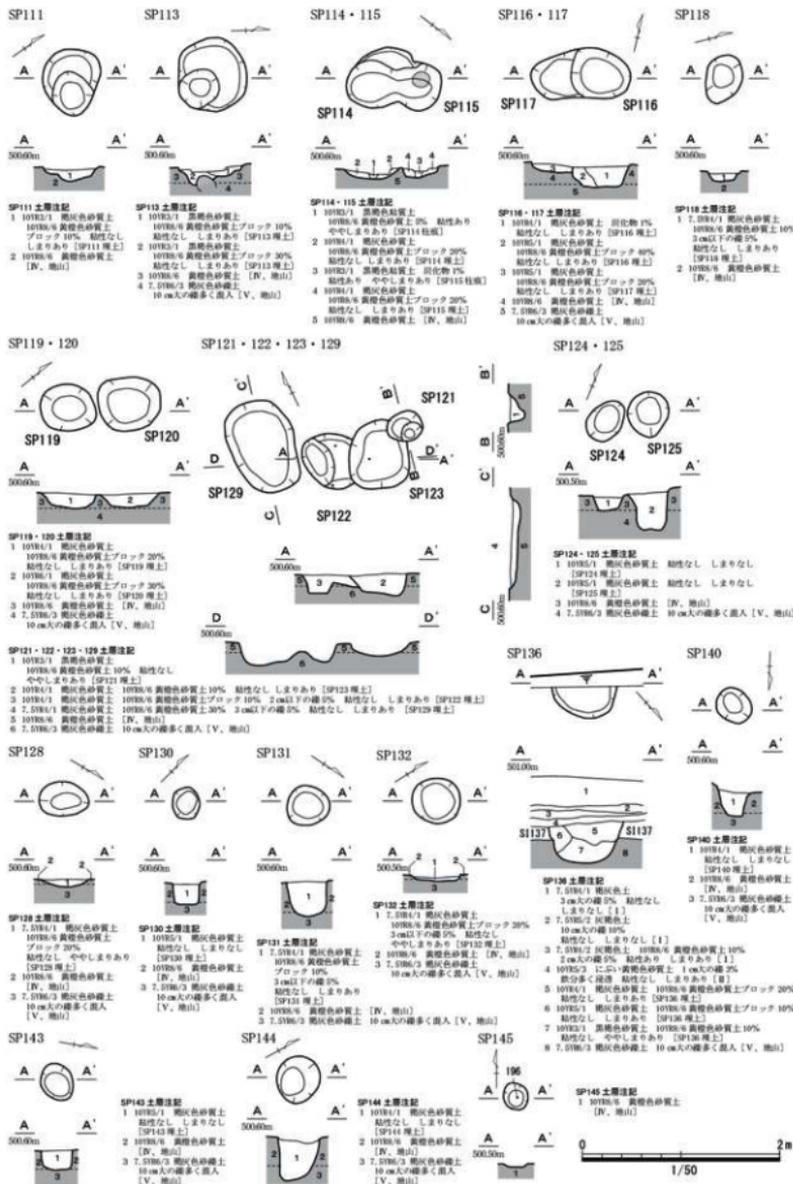
第43図 SP35～37・40～42・44～47・50～56・58 平面・断面図



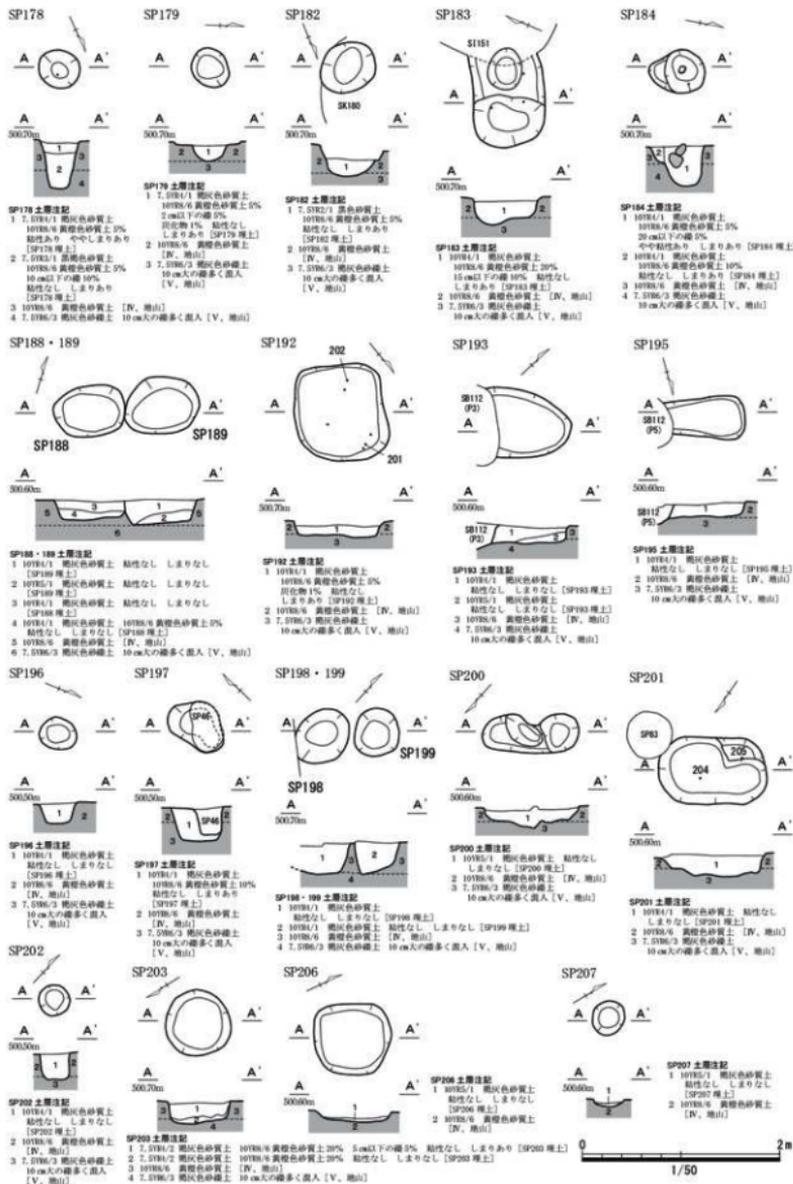
第44図 SP59～61・69～84・86 平面・断面図



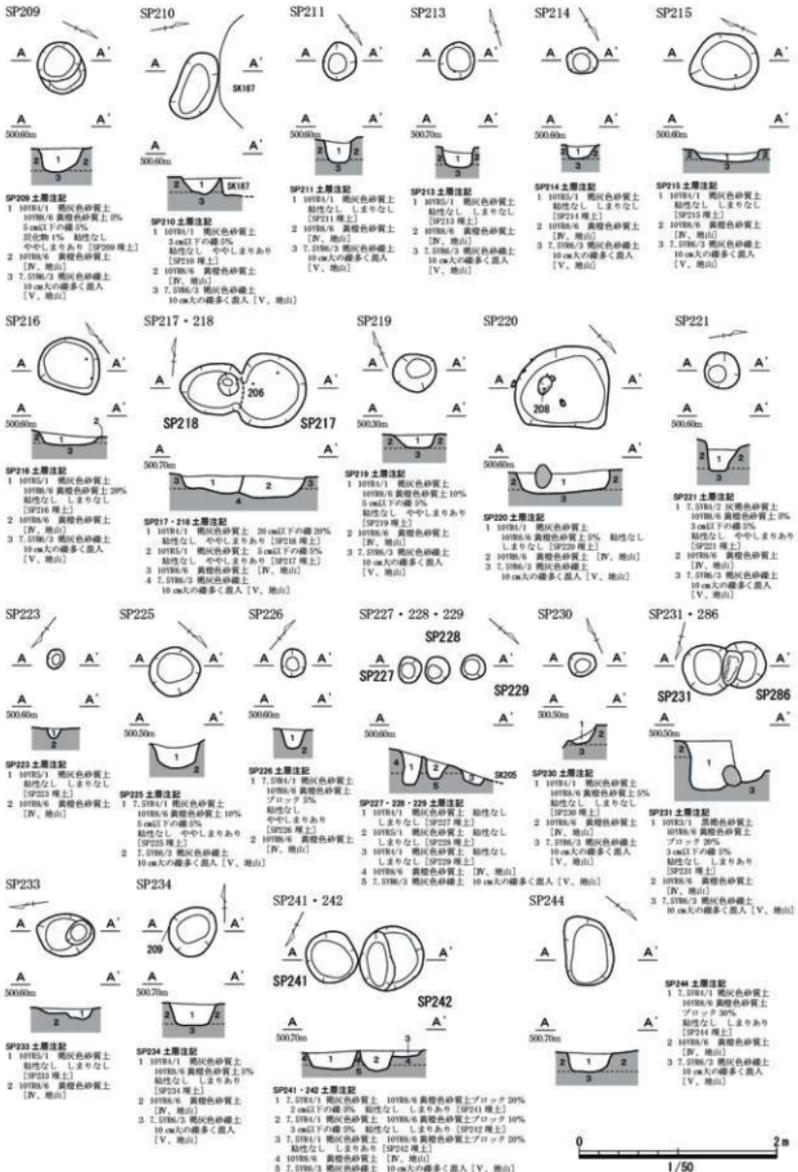
第 45 図 SP87 ~ 89・91 ~ 100・102 ~ 105・107 ~ 110 平面・断面図



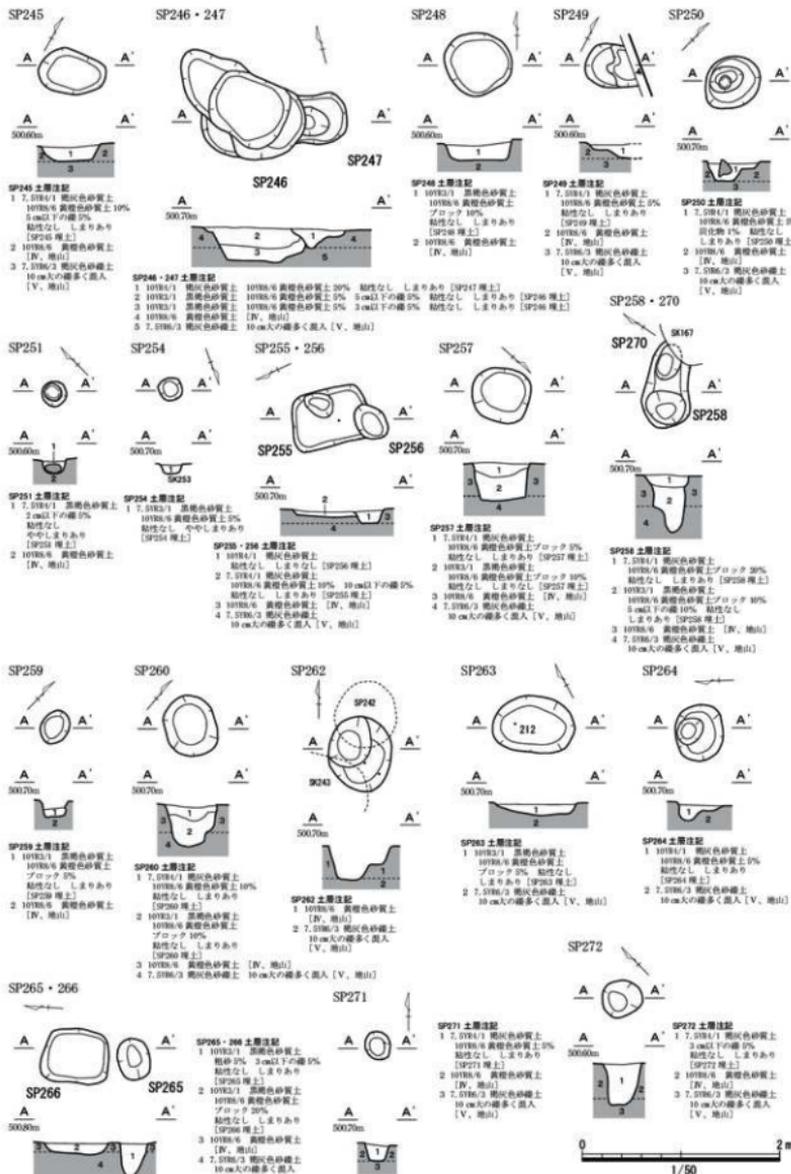




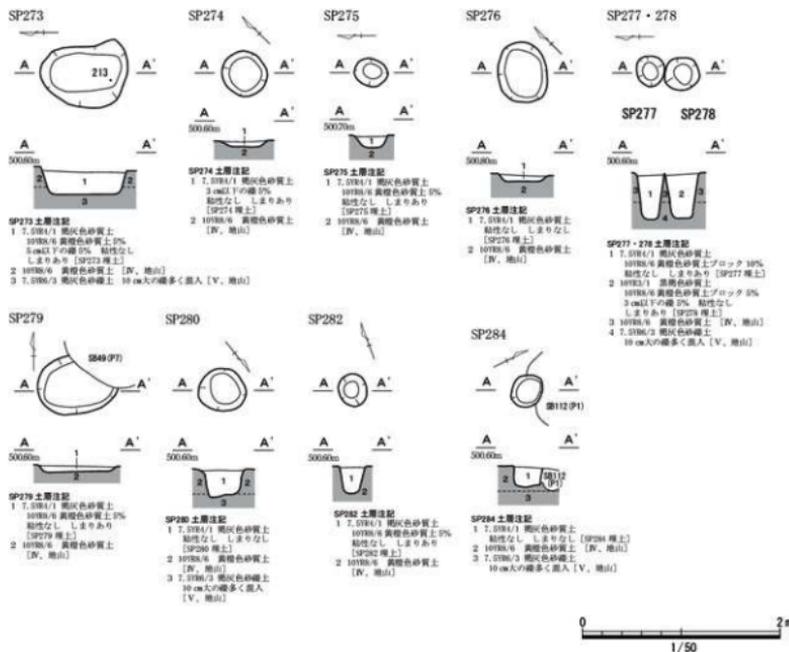
第48図 SP178・179・182～184・188・189・192・193・195～203・206・207 平面・断面図



第 49 図 SP209～211・213～221・223・225～231・233・234・241・242・244・286 平面・断面図

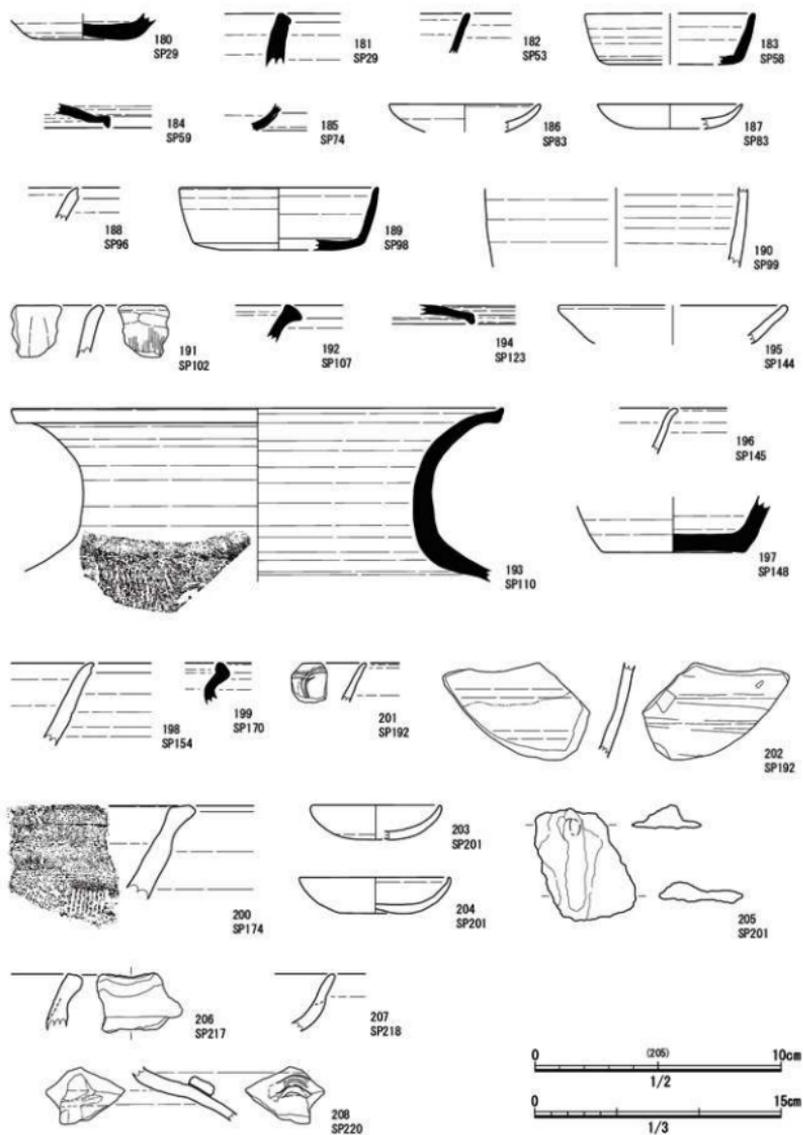


第50図 SP245～251・254～260・262～266・270～272 平面・断面図

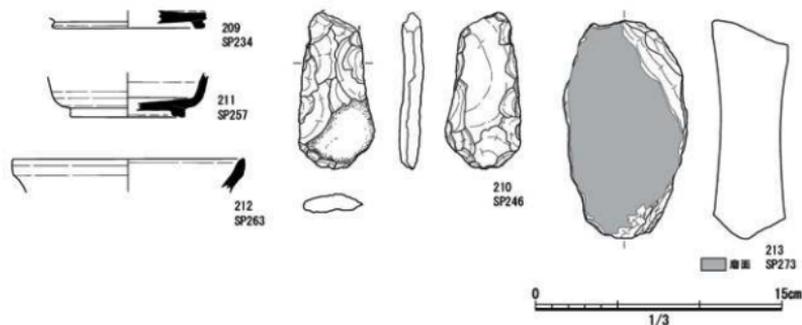


第 51 図 SP273～280・282・284 平面・断面図

SP98 から、須恵器杯 A 189 が出土した。底部外面にヘラケズリを施す。底部と体部の境は明瞭であり、体部の傾きは小さい。SP99 から白磁が出土した。体部片であり、内外面に施釉が認められる。器種は不明である。SP102 から、土師器甕 191 が出土した。内外面に縦方向のハケ目を施す。SP107 から、須恵器甕 192 が出土した。192 は口縁部片である。口縁部が開き、口縁端部が肥厚する。SP110 から、須恵器甕 193 が出土した。頸部は垂直に立ち上がり、口縁部は開く。口縁端部は小さく立ち上がり、縁帯がめぐる。SP123 から、須恵器摘み蓋 194 が出土した。口縁部を垂下させ、口縁端部を丸く仕上げ上げる。SP144 から、土師器皿 195 が出土した。内外面にナデを施し、4 類に属する。SP145 から、灰釉陶器碗 196 が出土した。口縁部がやや外反し、口縁端部を丸くおさめる。SP148 から、須恵器甕 197 が出土した。底部片である。SP154 から、山茶碗 198 が出土した。198 は口縁部が直線的に開き、口縁部外面に凹線が巡り、口縁端部が尖る。尾張型第 5 型式に属する。SP170 から、須恵器壺 199 が出土した。口縁部が外反し、口縁端部は内傾する。SP174 から、珠洲焼すり鉢 200 が出土した。口縁部は外側に引き出され、三角形を呈し、口縁端面は水平である。9 条以上 1 単位のすり目を持つ。珠洲Ⅳ～Ⅴ期に属する。SP192 から、青磁碗 201、瀬戸美濃焼壺 202 が出土した。201 は内面に片彫りによる施文を施す。202 は内外面に灰釉を施す。内面のロクロ回転ナデの間隔が狭く、古瀬戸後Ⅰ～Ⅱ期に位置付けられる。SP201 から、土師器皿 203・204、金属製品 205 が出土した。203 は内面ナデ



第52図 SP出土遺物図(1)



第53図 SP出土遺物図(2)

調整、外面を底部以外は調整を施す。4類に属する。204は内面にナデ調整を施し、外面未調整である。6類に属する。205は不明金属製品である。中央部に膨らみを持つ。SP217から、珠洲焼片口鉢206が出土した。片口部であり、内面に9条以上1単位のすり目を持つ。SP218から土師器皿207が出土した。内面にナデ調整、外面口縁部に一段の横ナデを施し、外面体部は未調整である。5類に属する。SP220から、瀬戸美濃焼四耳壺208が出土した。把手部分の破片である。外面に灰漆を施す。内面の回転ナデの間隔が広く、古瀬戸中期に属する。SP234須恵器杯B 209が出土した。底部片である。高台が外傾する。SP246から打製石斧210が出土した。表面に自然面が残り、円礫を利用したものである。凝灰岩製である。SP257から、須恵器杯B 211が出土した。高台は方形を呈し、外端接地で内傾する。SP263から須恵器杯壺瓶類212が出土した。口縁部片であり、口縁部が短く直立する。SP273から、砥石213が出土した。擦面は表裏面が顕著であり、側面の入ると4面ある。研磨痕はあらゆる方向に認められる。凝灰岩製である。

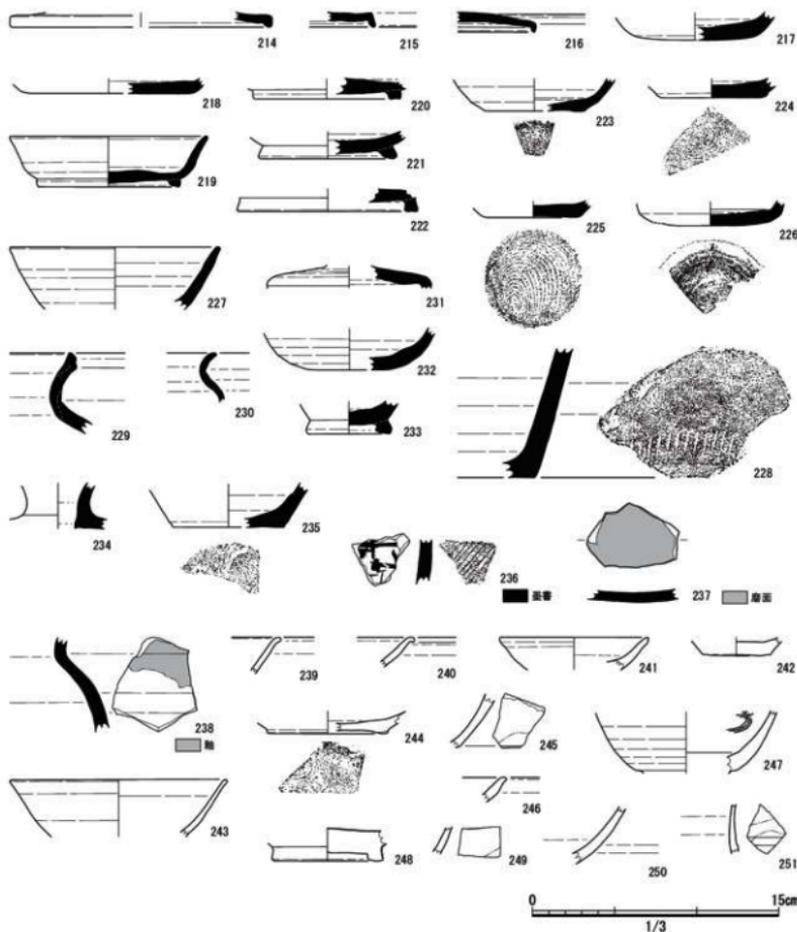
## 第4節 遺構外出土遺物

### 1 遺構確認面

遺構検出作業で出土した遺物163点のうち、38点を図示し、報告する(第54図、第21・22表)。

214～216は須恵器擠み蓋である。214は口縁部が垂下し、端部は三角形を呈する。215は端部が外反する。216は端部が内傾する。217・218は須恵器杯Aである。いずれも底部回転ヘラケズリ後、ナデを施す。219～222は須恵器杯Bである。219は口縁部が外反する。内面にはエビオサエのような凹みがある。また、底部内面には多方向のナデの痕跡が明確に残る。220は方形の高台を貼付する。221は底部と体部の境に高台を貼付する。222は方形の高台を貼付する。223～225は須恵器碗Aである。223は底部に回転糸切り痕が残る。体部は腰がやや張る。224・225は底部片で、回転糸切り痕が残る。226は須恵器碗Bである。高台貼付痕が残る。227は碗の口縁部片である。体部は直線的に開き、口縁端部は方形を呈する。228は須恵器鉢である。底部から体部下半の破片であり、体部下端外面にヘラ状工具によるキザミを施す。229・230は須恵器短頸壺である。229は口縁直下に一条の凹線がめぐ

る。口縁端部は上方につまみあげ、三角形を呈する。230は頸部がくの字状に屈曲し、口縁端部は外反し、やや尖る。同一個体と想定できる破片を他に2点確認している。231は須恵器小形壺である。肩部片であり、外面には横位に沈線をもつ。232は須恵器壺である。底部片で、平底である。233は須恵器小型瓶である。体部と底部の境に高台を持ち、外端接地で内傾する。234は須恵器瓶類である。頸部片で内外面に回転ナデを施す。235は須恵器小型壺瓶類である。底部は平底で、回転糸切り痕が残る。236は須恵器甕である。胴部片で、内外面に墨痕が残る。237は須恵器転用硯である。内面に



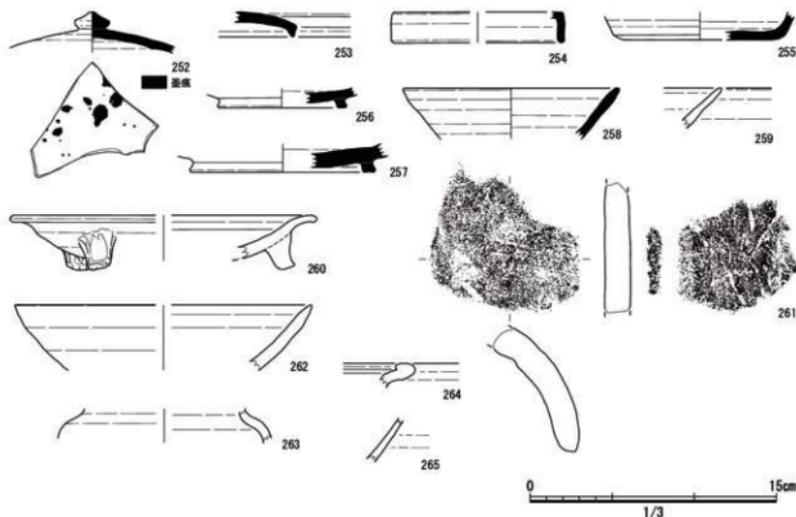
第54図 遺構確認面出土物図

磨面が残り、甕の転用と想定できる。238は須恵器双耳甕の肩部である。内外面に黒色の釉薬を施す。239は灰軸陶器碗である。外面が外反する形状からK-90号窯式期に位置付けられる。240は灰軸陶器皿である。口縁部は外反する。無軸である。241は山茶碗小皿である。口縁下に段を持つ。体部は外反して開く。口縁端部は上方につまみ上げ、尖る。底部と体部の境がゆるやかな曲線でつながる。尾張型第5型式に位置付けられる。242は山茶碗小碗である。内面にわずかに重ね焼き痕が残る。高台がなく、底径が狭く、底部と体部の境がゆるやかな曲線でつながる。尾張型第5型式に位置付けられる。243は山茶碗の碗である。口縁部にくびれがなく、断面方形を呈する。大畑大洞4号窯式期に位置付けられる。244は丸みを持つ高台を貼付し、底部内面が凹む。胎土に長石が多い。底部外面に重ね焼き痕が残る。大谷洞14号窯式期に位置付けられる。245は瀬戸美濃焼天目茶碗である。体部片で、直線的に開く。体部に錆軸が薄く施され、古瀬戸後Ⅰ～Ⅱ期に属する。246は瀬戸美濃焼平碗である。口縁部がくびれて短く外反する。古瀬戸後Ⅱ～Ⅲ期に位置付けられる。247は青磁碗である。体部はやや丸みを帯び、内面に櫛描きによる画花文を施す。248は青磁盤とした。高台は方形で、削り出し高台である。249・250は白磁碗である。いずれも体部片である。250は体部が丸みを帯びる。251は近世陶器碗のくびれ部である。釉の透明度が高く、流しかけである。

## 2 表土

表土掘削中の出土遺物130点のうち、14点を図示し、報告する(第55図、第22表)。

252・253は須恵器摘み蓋である。252は宝珠形の摘みを持つ。内面には墨が付着する。253は口縁部が垂下する。端部は三角形を呈する。254は須恵器蓋である。口縁部は丸くおさめる。壺蓋と考え



第55図 表土出土遺物図

られる。255は須恵器杯Aである。底部に回転ヘラケズリを施し、底部と体部の境は明瞭で、体部は直線的に立ち上がる。256・257は須恵器杯Bである。どちらも方形の高台を貼付する。258は杯である。体部の傾きが大きく、直線的に開く。口縁部は肥厚し、端部は丸くおさめる。259は土師器皿である。内面にナゲ調整、外面口縁部に一段の横ナゲを施し、外面下部は未調整である。5類に属する。260は灰軸陶器三足盤である。口縁部は外反する。261は丸瓦右側縁部の破片である。凸面には縦方向にケズリ、後に横方向ケズリを施す。凹面には布目圧痕が残る。262は瀬戸美濃焼平碗である。体部は直線的に開き、口縁部でくびれ、口縁端部は尖る。古瀬戸中I期に属する。263は瀬戸美濃焼小壺である。体部片で、外面は鉄軸を施す。焼成不良である。古瀬戸後期に属する。264は瀬戸美濃焼折縁皿である。口縁部は外反し、口縁端部を内側に折り返す。古瀬戸中III期に属する。265は白磁碗である。体部片であり、貫入が入る。

## 第5節 小 結—上町遺跡第50次調査区の遺構変遷—

上町遺跡第50次調査では、主に8世紀代と中世の遺構を確認した。ここでは、8世紀前葉・8世紀中葉・8世紀中～後葉・8世紀後葉～9世紀・中世の5段階の遺構変遷を示す(第56図)。

8世紀前葉には、側柱の掘立柱建物SB112と溝SD208が存在する。竪穴建物跡は見られない。両遺構は軸線を揃えており、この頃には規格性をもって集落が営まれていた可能性が高い。

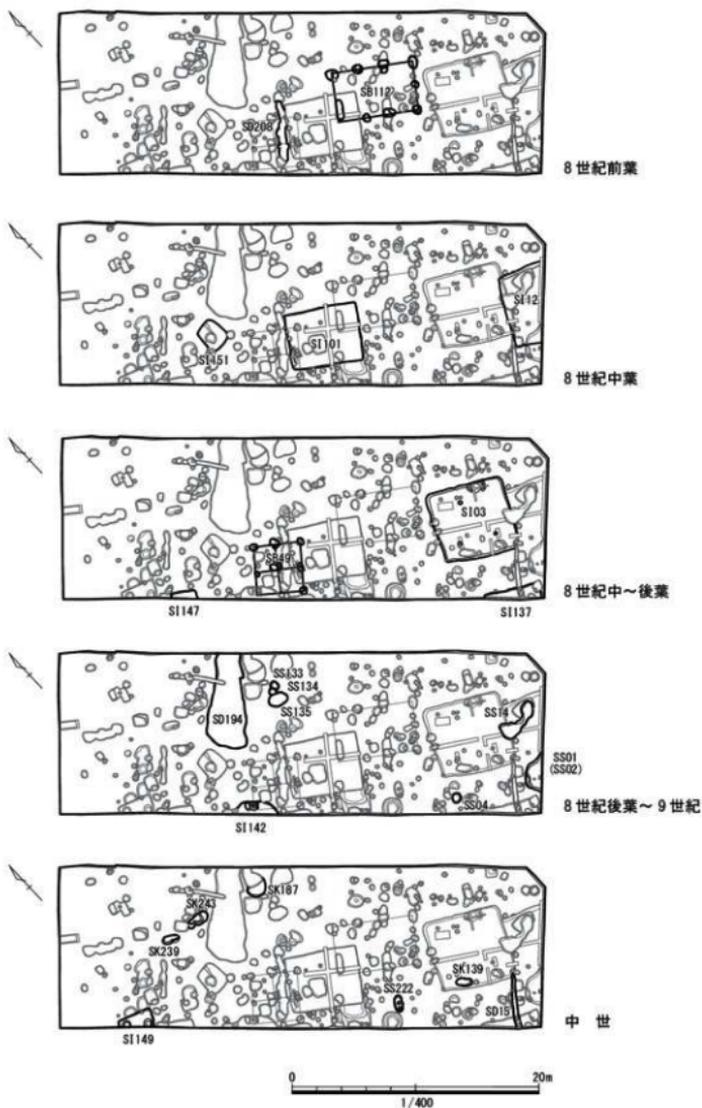
8世紀中葉には、竪穴建物跡SI12・SI101、竪穴状遺構SI151が属する。明確に居住域を確認できる時期である。2棟以上の竪穴建物跡で集団を構成していた可能性がある。今回の調査区では掘立柱建物を確認していない。

8世紀中～後葉には、竪穴建物跡SI03・SI137、竪穴状遺構SI147、総柱の掘立柱建物SB49が属する。SB49は2間×2間であり、倉庫であった可能性が高い。SI03とSI137の距離が近く、数棟の竪穴建物跡で倉庫を共有していたような構造を想定することができる。

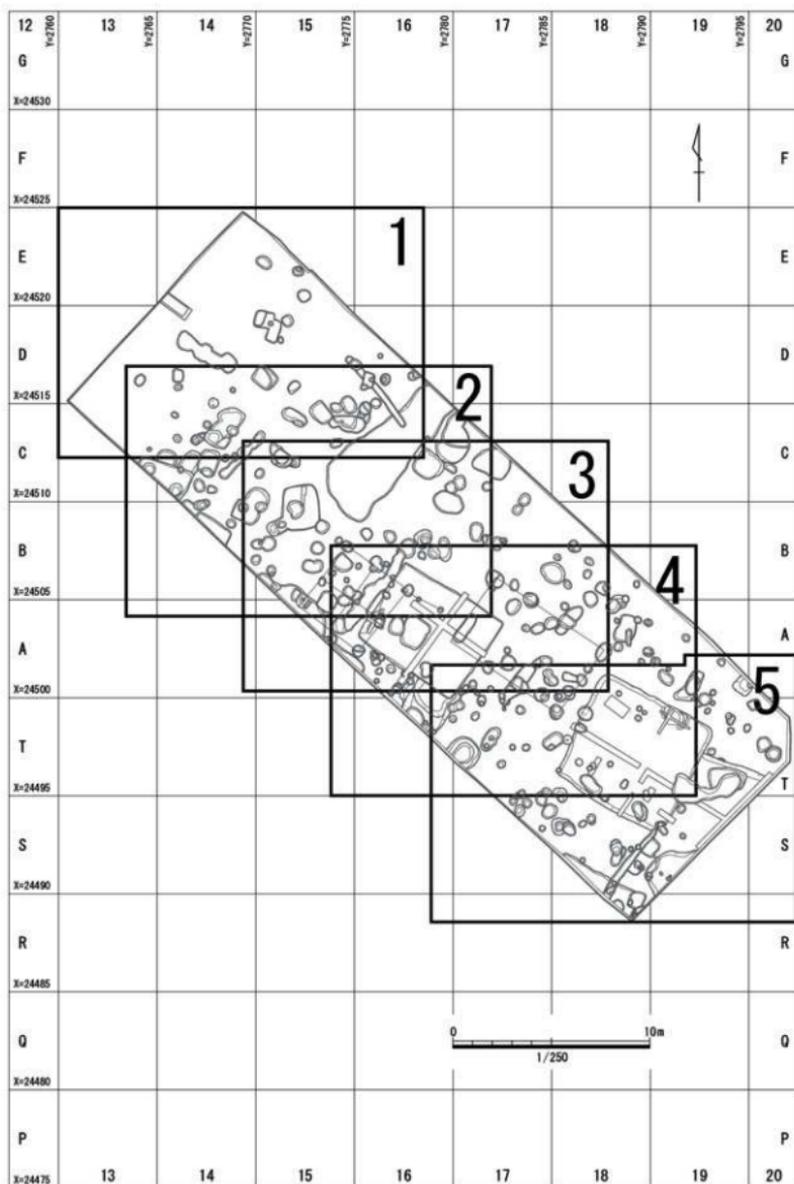
8世紀後葉～9世紀にかけては、竪穴建物跡SI142、溝SD194、集石遺構SS01・SS04・SS14・SS133・SS134・SS135が属する。竪穴建物跡は1棟に減少し、掘立柱建物跡は確認できず、集石遺構を確認するようになる。居住域としての役目を終え始め、別の性格をもった区画に変わっていく段階と考えられる。古代の遺構は、これ以降確認できない。

中世に該当する遺物は12世紀代のもと考えられる青磁碗や山茶碗などから、16世紀代と考えられる土師器皿4類・5類などまで出土している。今回の調査区における中世段階の始期と終期を示す遺物と考えられる。この時期に、竪穴状遺構SI149、溝SD15、集石遺構SS222、土坑SK139・SK187・SK239・SK243が営まれたが、集落における位置付けを明確にすることができない状況である。

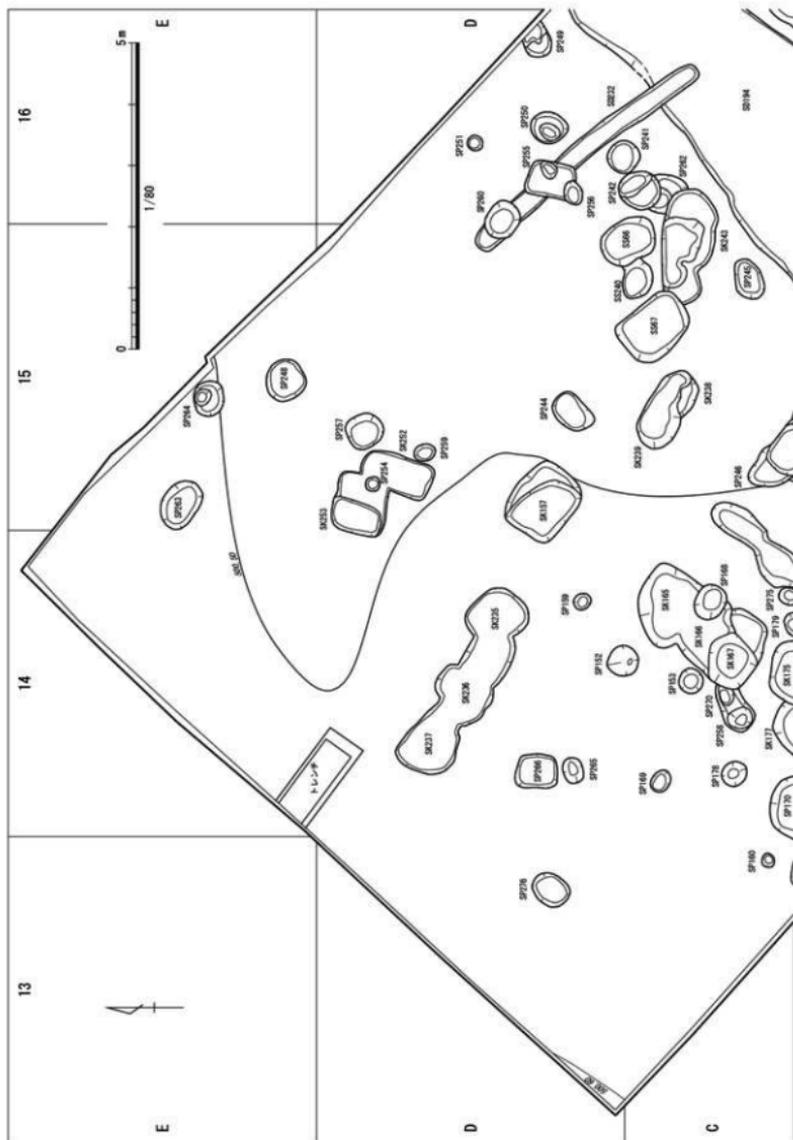
以上、第50次調査の遺構変遷を示した。すなわち、8世紀前葉に集落が営まれ始め、8世紀中葉には居住域として利用され始め、8世紀中～後葉には少なくとも2棟の竪穴建物跡が倉庫共有する構造を持ち、8世紀後葉～9世紀には居住域としての役目を終えている。また、中世段階にも何らかの土地利用はあった。今回の調査区では、主に8世紀代の変遷を細かく見て取ることができた。第6章では、これを上町遺跡全体の変遷と比較し、検討したい。



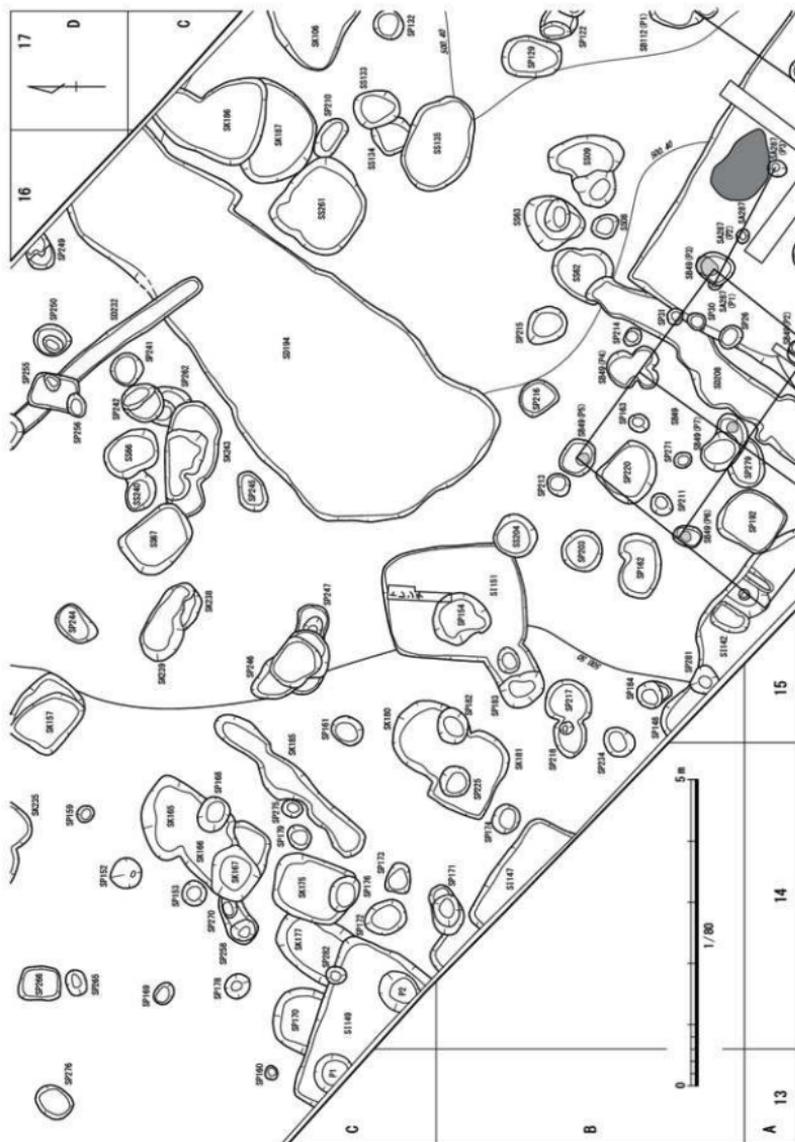
第56図 第50次調査遺構変遷図



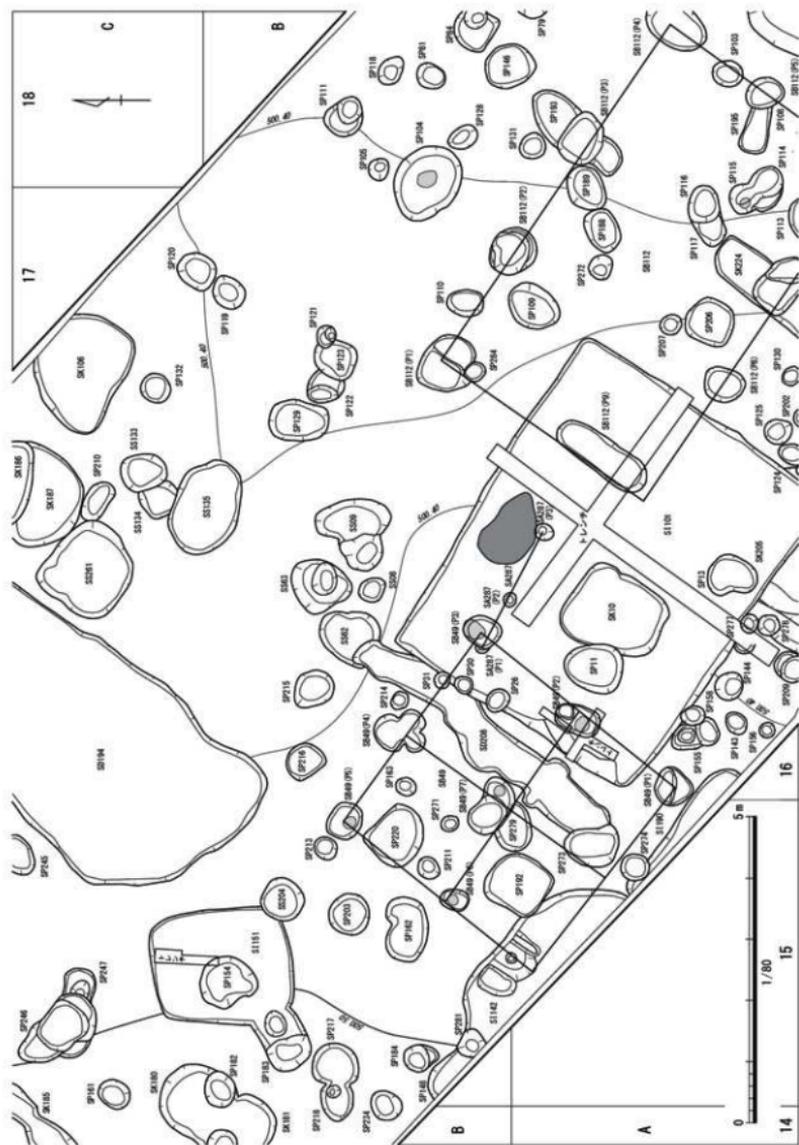
第57図 第50次調査遺構全体図割付図



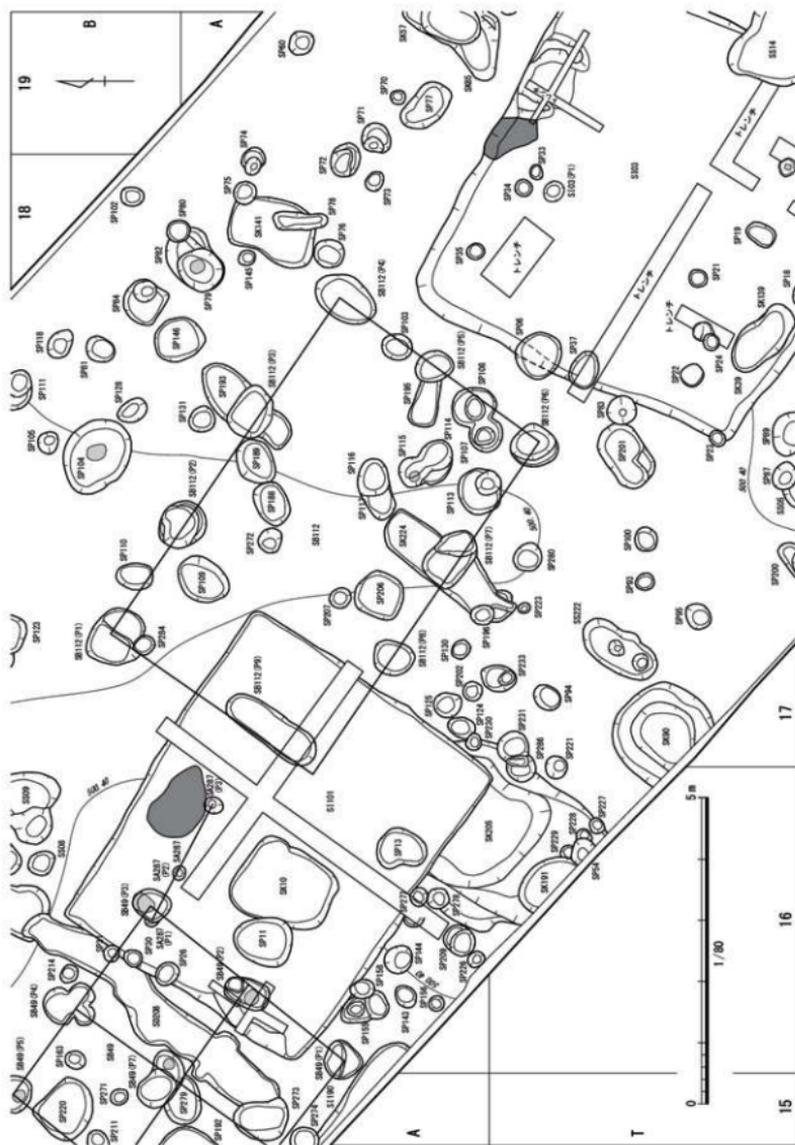
第58図 第50次調査遺構全体図分割図(1)



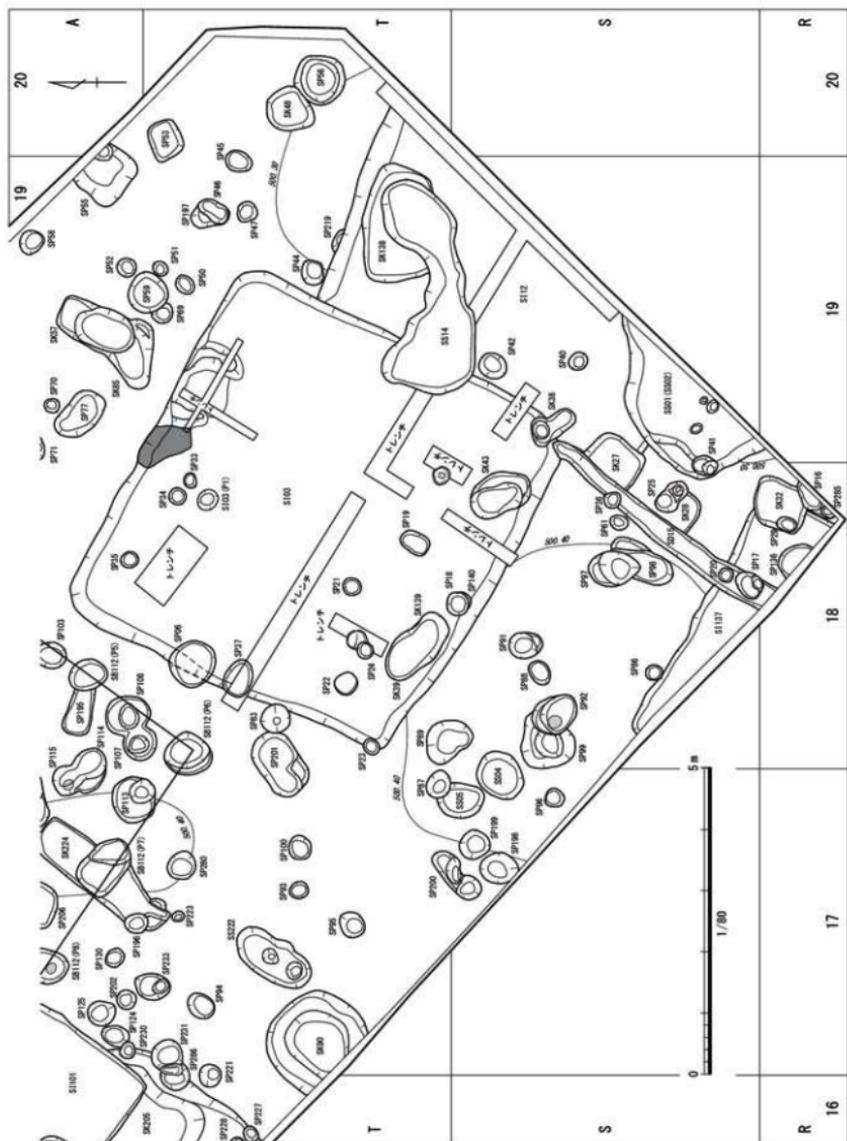
第59図 第50次調査遺構全体図分割図(2)



第60図 第50次調査遺構全体図分割図(3)



第61図 第50次調査遺構全体区分割図(4)



第62図 第50次調査遺構全体図(5)



第11表 第50次調査遺構一覧表(2)

遺構名	グリッド	検出位置	堆積	形状	法量 (m)			出土遺物	備考	
					平面	断面	長さ			幅
SD 15	18K, 18S, 19S	IV	単	不定形	逆台形	4.31	0.40	0.213	須恵器(杯類2・皿1・壺3)、中世陶磁器(白磁1)	S103・S112・S1137・SK27・SK28・SP17・SP20・SP26を切る。
SD 194	15K, 15C, 16K, 16C, 16D, 17C	IV	単	不定形	逆台形	-	3.16	0.289	須恵器(HA12・杯類2・杯類10・碗類2・皿1・壺1・高杯類6・壺26・埴土、土師器(杯類3・高杯1・壺1他))、中世陶磁器	SP202に切られる。
SD 208	15K, 16A, 16B	IV	単	不定形	逆台形	4.95	0.94	0.212		S1101・SP31・SP273に切られる。SK62を切る。
SD 232	15D, 16C, 16D	IV	単	不定形	方形	4.59	0.35	0.162	須恵器(杯類1・碗類1・壺1)	SP194・SP260を切る。SP255に切られる。
SK 30	6A	S1101	単	方形	方形	1.58	1.32	0.212	須恵器(H6G身1・杯類2・杯類1・碗類1・皿1・壺2)、土師器(壺2・皿1)、中世陶磁器	S1101を切る。SP112に切られる。
SK 27	18S, 19S	IV	単	不定形	逆台形	0.92	-	0.020	須恵器(杯類1・壺1)、中世陶磁器(珠洲1)	S105に切られる。S112を切る。
SK 28	18S	IV	単	方形	逆台形	-	-	0.053	須恵器(杯類)	S105に切られる。SP25を切る。
SK 32	18K, 18S	IV	単	方形	逆台形	0.89	0.76	0.192	須恵器(杯類)	SP16・SP29Cに切られる。S1137を切る。
SK 38	19S	S103・12	単	不定形	逆台形	0.78	0.33	0.414	須恵器(杯類1)、土師器(杯類)	S103・S112を切る。
SK 39	18T	S103	単	不定形	逆台形	1.28	0.65	0.209	須恵器(杯類1・壺類2)、中世陶磁器(青磁1)	S103・SK139を切る。
SK 43	18S	S103	単	不定形	逆台形	1.03	0.65	0.447	須恵器(杯類1・壺類類1)、土師器(壺)	S103を切る。
SK 48	20T	IV	単	方形	半円形	0.70	0.68	0.098		SP96を切る。
SK 57	19A	IV	単	不定形	逆台形	1.30	0.63	0.180	須恵器(壺)	SK85を切る。
SK 85	19A, 19T	IV	その他	不定形	逆三角 形	1.14	0.87	0.253		SK87に切られる。
SK 90	16T, 17T	III b	その他	不定形	2段	1.60	-	0.402	須恵器(HA1・碗類3・壺5)、土師器(壺)、中世陶磁器(瀬戸美濃1)、石製品1	
SK 106	17C	IV	単	不定形	逆台形	1.74	-	0.302	須恵器(HA1・杯類1・高杯)	S112・SK142に切られる。
SK 138	19T	IV	単	方形	逆台形	1.94	1.17	0.265	須恵器(杯類2・杯類1・皿1・壺1)、土師器(壺3)	S112・SK142に切られる。
SK 139	18T	IV	単	不定形	逆台形	1.28	0.67	0.188		SK30に切られる。
SK 141	18A	IV	-	方形	逆台形	1.41	0.96	0.091	須恵器(壺)	SP23・SP26Cに切られる。
SK 157	14D, 15B	IV	その他	方形	2段	1.19	0.99	0.210		
SK 165	14C	IV	単	不定形	逆台形	1.26	1.05	0.184	須恵器(壺類類)	
SK 166	14C	IV	水平	不定形	2段	1.45	1.10	0.311	須恵器(壺類1他)、中世陶磁器(瀬戸美濃1)	SK165・SK167・SP168を切る。
SK 167	14C	IV	単	不定形	逆台形	0.85	0.90	0.311	須恵器(壺類類1・壺)	
SK 175	14C	IV	単	方形	逆台形	1.32	1.03	0.121	須恵器(碗類1・壺類類1)、土師器(杯類1)、中世陶磁器(青磁・白磁1)、中世陶器	SP176を切る。SK177と切り合い不明。
SK 177	14C	IV	単	不定形	逆台形	-	0.86	0.124	須恵器(壺類類1・壺)	S1149に切られる。SK175と切り合い不明。
SK 180	14K, 14C, 15B, 15C	IV	単	不定形	逆台形	-	1.17	0.381	須恵器(杯類1・皿1・鉢1・壺2)、中世陶磁器(瀬戸美濃1)、中世陶器	SK181・SP182を切る。
SK 181	14K, 14C, 15B	IV	単	方形	逆台形	1.37	0.95	0.490	須恵器(杯類1・壺1・壺類類1)、中世陶器	SP225を切る。SK190に切られる。
SK 185	14C, 15C	IV	単	不定形	逆台形	3.16	0.62	0.252	須恵器(壺)	
SK 186	16C, 17C	IV	単	不定形	方形	1.79	0.88	0.209	土師器(壺)	SK187を切る。
SK 187	16C, 17C	IV	単	不定形	逆台形	1.58	-	0.266	須恵器(杯類1・壺1)、中世陶磁器(珠洲1)、中世陶器	
SK 191	16T	SK205	単	不定形	逆台形	1.08	-	0.110		SK205・SP229を切る。SP54に切られる。
SK 205	16A, 16T, 17A, 17T	III b	水平	不定形	逆台形	-	2.45	0.667	須恵器(杯類1・皿1・鉢1・壺類類1・壺5)、土師器(高杯2・皿2)、中世陶磁器(山形類1・珠洲1他)	S101・SP54・S1101に切られる。SP124と切り合い不明。
SK 224	17A	IV	単	不定形	逆台形	2.50	0.76	0.203		SK112(IV)に切られる。SP196と切り合い不明。
SK 235	14D	IV	単	方形	方形	0.97	0.93	0.179	須恵器(杯類)	SK236に切られる。
SK 236	14D	IV	単	方形	逆台形	0.98	0.82	0.030		SK215・SK237を切る。
SK 237	14D	IV	単	方形	逆台形	0.92	0.88	0.141		SK236に切られる。
SK 238	15C	IV	単	円形	方形	0.66	-	0.270	須恵器(壺)	
SK 239	15C	IV	単	不定形	逆台形	1.33	0.59	0.367	須恵器(壺類類1)・中世陶磁器(瀬戸美濃1・青磁1)	
SK 243	15C, 16C	IV	その他	不定形	2段	1.91	0.84	0.270	須恵器(壺類類1)、中世陶磁器(瀬戸美濃1)	SK67と切り合い不明。SK262を切る。
SK 252	15D	IV	単	方形	逆台形	1.18	0.60	0.118		SP245に切られる。SK253と切り合い不明。
SK 253	14D, 15B	IV	その他	方形	2段	0.98	0.89	0.166		SP254に切られる。SK252と切り合い不明。
SP 06	18T	IV	単	円形	方形	0.76	0.72	0.123		S103を切る。
SP 11	6A	S1101	単	不定形	方形	0.97	0.78	0.234	須恵器(壺2)、土師器(壺)	SK10・S1101を切る。
SP 13	6A	S1101	単	不定形	逆台形	0.79	0.58	0.354	須恵器(杯類1・壺1)、土師器(壺)	S1101・SK205を切る。
SP 16	18B	IV	その他	不定形	逆台形	0.54	0.28	0.390	須恵器(H6G身1・壺類類1)	SK32を切る。SP285に切られる。
SP 17	18K, 18S	S1127	単	不定形	方形	0.47	0.38	0.480		S1137を切る。SK101に切られる。
SP 18	18S	S103	単	円形	半円形	0.38	0.35	0.188		S103・SP140を切る。
SP 19	18T	S103	単	不定形	方形	0.48	0.34	0.212		S103を切る。
SP 20	18S	S1137	単	円形	方形	0.25	0.24	0.542		S1137を切る。SK151に切られる。
SP 21	18T	S103	単	方形	半円形	0.30	0.28	0.361		S103を切る。
SP 22	18T	S103	単	方形	方形	0.38	0.35	0.074		S103を切る。
SP 23	18T	S103	単	円形	方形	0.28	0.24	0.148		S103を切る。
SP 24	18T	S103	単	円形	逆台形	0.28	0.26	0.244		S103を切る。
SP 25	18S	IV	その他	不定形	逆台形	0.60	0.31	0.445		SK28に切られる。
SP 26	16B	S1101	単	円形	方形	0.40	0.34	0.197		S1101を切る。

第12表 第50次調査遺構一覧表(3)

遺構名	グリッド	検出層	堆積	形状		法量 (m)			出土遺物	備考
				平面	断面	長さ	幅	深さ		
SP 29	18R	S137	Ⅲ	不定形	方形	0.34	0.23	0.538	銅器(帯)	S1137・S132を切る。
SP 30	18R	S1301	Ⅲ	円形	逆円形	0.29	0.27	0.206	銅器(蓋)	S1101を切る。
SP 31	18R	Ⅳ	Ⅲ	円形	逆円形	0.29	0.24	0.168		S1101・S1028を切る。
SP 33	18T	S103	Ⅲ	円形	方形	0.24	0.23	0.245		S103を切る。
SP 34	18T	S103	Ⅲ	円形	方形	0.28	0.27	0.275		S103を切る。
SP 35	18A	S103	Ⅲ	円形	方形	0.28	0.25	0.219		S103を切る。
SP 36	18S	Ⅳ	Ⅲ	円形	逆円形	0.27	0.25	0.551		S15に知られる。
SP 37	18T	S103	Ⅲ	不定形	方形	0.60	0.44	0.034		S103を切る。
SP 40	19S	S112	Ⅲ	円形	逆三角	0.32	0.28	0.370		S112を切る。
SP 41	18S, 19S	Ⅳ	その他	不定形	2段	0.42	0.31	0.534	銅器(帯)	S101に知られる。
SP 42	19S	S112	Ⅲ	円形	半円形	0.44	0.43	0.229		S112を切る。
SP 44	19T	Ⅳ	Ⅲ	円形	逆円形	0.40	0.38	0.255	銅器(蓋)	
SP 45	19T, 20T	Ⅳ	Ⅲ	円形	方形	0.44	0.35	0.329	銅器(帯)	
SP 46	19T	Ⅳ	その他	不定形	方形	0.54	0.28	0.315		
SP 47	19T	Ⅳ	Ⅲ	円形	逆円形	0.32	0.34	0.431		
SP 50	19T	Ⅳ	Ⅲ	円形	逆円形	0.34	0.38	0.099		
SP 51	19T	Ⅳ	Ⅲ	円形	逆円形	0.27	0.23	0.194		
SP 52	19A	Ⅳ	Ⅲ	円形	半円形	0.33	0.30	0.049		
SP 53	19T, 20T	Ⅳ	Ⅲ	方形	方形	0.62	0.53	0.112	銅器(杯類)	
SP 54	16T	3820S	Ⅲ	不定形	逆円形	0.44	-	0.137		SK191・SK205・SP226・SP229を切る。
SP 55	19A, 20A	Ⅳ	Ⅲ	不定形	半円形	0.89	-	0.061		
SP 56	20T	Ⅳ	その他	円形	逆円形	0.80	0.78	0.067	土師器(帯)	SK48に知られる。
SP 58	19A	Ⅳ	レンズ	円形	逆円形	0.41	0.39	0.308	銅器(杯A1・帯)	
SP 59	19A, 19T	Ⅳ	Ⅲ	円形	逆円形	0.63	0.62	0.075	銅器(蓋)	SP109を切る。
SP 60	19A	Ⅳ	レンズ	不定形	逆三角	0.42	0.39	0.311	銅器(帯)	
SP 61	18S	Ⅳ	Ⅲ	円形	逆円形	0.29	0.26	0.314		
SP 69	19T	Ⅳ	レンズ	円形	逆円形	0.35	0.33	0.331		SP59に知られる。
SP 70	19A	Ⅳ	Ⅲ	円形	半円形	0.24	0.23	0.066		
SP 71	19A	Ⅳ	Ⅲ	不定形	方形	0.52	0.48	0.229		
SP 72	18A, 19A	Ⅳ	その他	円形	逆円形	0.58	0.47	0.239		
SP 73	18A	Ⅳ	Ⅲ	円形	逆円形	0.34	0.28	0.194		
SP 74	18A, 19A	Ⅳ	Ⅲ	不定形	逆円形	0.47	0.38	0.274	銅器①	
SP 75	18A	Ⅳ	Ⅲ	円形	方形	0.48	0.37	0.400		SK41を切る。
SP 76	18A	Ⅳ	Ⅲ	円形	逆円形	0.40	0.45	0.424	銅器(帯)	
SP 77	18A	Ⅳ	Ⅲ	不定形	逆円形	0.90	0.54	0.309	銅器(帯)	
SP 78	18A	Ⅳ	Ⅲ	不定形	逆円形	0.89	0.28	0.146	銅器(杯類)	SK141を切る。
SP 79	18A	Ⅳ	その他	不定形	逆円形	0.71	0.68	0.259		SP82を切る。
SP 80	18A, 18B	Ⅳ	-	円形	逆円形	0.39	0.36	0.070		SP82を切る。
SP 81	18B	Ⅳ	レンズ	円形	逆円形	0.49	0.41	0.433	銅器(帯)	
SP 82	18A, 18B	Ⅳ	その他	不定形	逆円形	1.07	0.74	0.339	銅器(帯)	SP79・SP80に知られる。
SP 83	18T	Ⅳ	Ⅲ	円形	逆円形	0.48	0.47	0.542	銅器(帯類)	土師器(皿)
SP 84	18B	Ⅳ	Ⅲ	不定形	逆円形	0.76	0.74	0.365	銅器(杯類)	S101・SP201を切る。
SP 86	18S	Ⅳ	Ⅲ	円形	方形	0.27	0.26	0.331	銅器(帯)	
SP 87	17T	Ⅳ	その他	不定形	逆円形	0.44	0.39	0.428	銅器(帯)	
SP 88	18S	Ⅳ	Ⅲ	不定形	方形	0.42	0.31	0.252	銅器(帯)	土師器(帯5)
SP 89	18S, 18T	Ⅳ	その他	不定形	逆円形	0.80	0.60	0.228	銅器(杯類)・赤銅類	
SP 91	18S	Ⅳ	Ⅲ	不定形	2段	0.53	0.42	0.566	銅器(帯)	
SP 92	18S	Ⅳ	その他	不定形	逆円形	0.78	0.60	0.616	銅器(杯類)・銅器①、土師器(杯類)・銅器②、中世陶器(青銅・白銅)	SP99を切る。
SP 93	17T	Ⅳ	Ⅲ	円形	方形	0.30	0.28	0.234		
SP 94	17T	Ⅳ	Ⅲ	円形	逆円形	0.48	0.38	0.316		
SP 95	17T	Ⅳ	Ⅲ	不定形	方形	0.43	0.39	0.535		
SP 96	17S	Ⅳ	Ⅲ	不定形	方形	0.31	0.29	0.392	中世陶器(山形銅)	
SP 97	18S	Ⅳ	Ⅲ	不定形	方形	0.84	0.59	0.647	銅器(帯)	土師器(帯5)
SP 98	18S	Ⅳ	Ⅲ	不定形	逆円形	1.12	0.32	0.519	銅器(杯A1・杯類①)、土師器(杯類)・銅器①	SP96を切る。
SP 99	18S	Ⅳ	その他	不定形	方形	0.99	0.87	0.421	銅器(帯)	中世陶器(白銅)、その他③
SP 100	17T	Ⅳ	Ⅲ	円形	方形	0.28	0.36	0.064		
SP 102	18B	Ⅳ	Ⅲ	不定形	逆円形	0.38	0.31	0.112	土師器(帯)	
SP 103	18A	Ⅳ	Ⅲ	円形	逆円形	0.50	0.43	0.074		
SP 104	17B, 18B	Ⅳ	その他	不定形	逆円形	1.29	1.04	0.294	銅器(杯類)・銅器②	
SP 105	18B	Ⅳ	Ⅲ	円形	逆円形	0.37	0.33	0.249		
SP 107	18A, 18T	Ⅳ	Ⅲ	円形	逆円形	0.57	0.54	0.164	銅器(帯)	SP188を切る。
SP 108	18A, 18T	Ⅳ	Ⅲ	円形	逆円形	0.72	0.64	0.179		SP107に知られる。
SP 109	17A	Ⅳ	Ⅲ	不定形	方形	0.89	0.67	0.118		
SP 110	17B	Ⅳ	水葦	不定形	逆円形	0.59	0.43	0.270	銅器(赤銅類)・銅器②	
SP 111	18B	Ⅳ	Ⅲ	不定形	2段	0.69	0.58	0.198		
SP 113	17A, 17T	Ⅳ	その他	円形	2段	0.73	0.74	0.042		
SP 114	17A, 18A	Ⅳ	その他	不定形	逆円形	0.75	0.55	0.188		
SP 115	17A	Ⅳ	その他	不定形	方形	0.50	-	0.086		
SP 116	17A	Ⅳ	その他	不定形	逆円形	0.62	0.51	0.198		SP117を切る。

第13表 第50次調査遺構一覧表(4)

遺構名	グリッド	検出層	堆積	形状		法量 (m)			出土遺物	備考	
				平面	断面	長さ	幅	高さ			
SP 117 17A	IV	Ⅲ	不定形	方形	-	0.45	0.083			SP116に切られる。	
SP 118 18B	IV	Ⅲ	不定形	逆台形	0.50	0.38	0.110				
SP 119 17B	IV	Ⅲ	不定形	逆台形	0.56	0.48	0.213				
SP 120 17B,17C	IV	Ⅲ	不定形	逆台形	0.63	0.54	0.175				
SP 121 17B	IV	Ⅲ	円形	逆三角		0.36	0.30	0.164	土師器(Ⅲ)	SP123を切る。	
SP 122 17B	IV	Ⅲ	不定形	2段	0.60	0.56	0.176	須恵器(杯類+曲輪型+Ⅱ)		SP123に切られる。	
SP 123 17B	IV	Ⅲ	方形	逆台形	0.71	0.61	0.199	須恵器(杯A+蓋+Ⅱ),土師器(高杯)		SP122を切る,SP121に切られる。	
SP 124 17A	IV	Ⅲ	不定形	逆台形	0.46	0.32	0.351	須恵器(杯類)		SP230を切る,SK205と切り合い不明。	
SP 125 17A	IV	Ⅲ	不定形	方形	0.47	0.42	0.507				
SP 128 19B	IV	Ⅲ	不定形	逆台形	0.59	0.34	0.313				
SP 129 17B	IV	Ⅲ	方形	逆台形	0.95	0.66	0.119				
SP 130 17A	IV	Ⅲ	円形	方形	0.33	0.28	0.258				
SP 131 16A	IV	Ⅲ	円形	方形	0.44	0.41	0.434				
SP 132 17C	IV	Ⅲ	円形	方形	0.49	0.47	0.051				
SP 136 19B	SI137	Ⅲ	その他	不定形	逆台形	0.64	-	0.503	須恵器(Ⅱ),土師器(Ⅱ),その他		SI137を切る。
SP 140 18S,18T	IV	Ⅲ	円形	逆台形	0.38	0.32	0.293			SP181に切られる。	
SP 143 16A	IV	Ⅲ	円形	方形	0.39	0.32	0.259				
SP 144 16A	IV	Ⅲ	円形	方形	0.49	0.44	0.470	土師器(Ⅲ)			
SP 145 18A	IV	-	円形	逆台形	0.28	0.25	0.075	灰土輪器(Ⅲ)			
SP 146 18A,19B	IV	-	不定形	逆台形	0.83	0.72	0.089				
SP 148 15B	IV	Ⅲ	-	逆台形	-	-	0.166	須恵器(杯類+Ⅱ)		SI142と切り合い不明。	
SP 152 14C,14B	IV	その他	円形	2段	0.52	0.50	0.459				
SP 153 14C	IV	Ⅲ	円形	半円形	0.49	0.39	0.055				
SP 154 15B	IV	Ⅲ	不定形	逆台形	0.88	0.76	0.251	須恵器(杯類+曲輪型),中世陶磁器(山草類)		SI151に切られる。	
SP 155 15A,16A	IV	その他	不定形	2段	0.80	0.48	0.413			SP158と切り合い不明。	
SP 156 16A	IV	Ⅲ	円形	逆台形	0.27	0.24	0.192				
SP 158 16A	IV	-	円形	-	0.39	0.32	0.351			SI101を切る,SP155に切られる。	
SP 159 14D	IV	Ⅲ	円形	半円形	0.28	0.26	0.061				
SP 160 13C	IV	Ⅲ	円形	方形	0.23	0.21	0.247				
SP 161 15C	IV	Ⅲ	円形	方形	0.54	0.43	0.476	須恵器(Ⅱ)			
SP 162 15B	IV	Ⅲ	不定形	逆台形	1.08	0.63	0.312	須恵器(杯A+曲輪型+Ⅱ)			
SP 163 16B	IV	Ⅲ	円形	逆台形	0.34	0.29	0.285				
SP 168 14C	IV	Ⅲ	円形	逆台形	0.39	0.48	0.420			SK166に切られる。	
SP 169 14C	IV	Ⅲ	円形	方形	0.39	0.29	0.271				
SP 170 13C,14C	IV	Ⅲ	不定形	逆台形	1.04	-	0.095	須恵器(曲輪型+Ⅱ)		SI149に切られる。	
SP 171 14B,14C	IV	その他	不定形	2段	0.85	0.49	0.341				
SP 172 14C	IV	Ⅲ	不定形	逆台形	0.69	0.53	0.059				
SP 173 14C	IV	Ⅲ	不定形	方形	0.50	0.41	0.199	須恵器(Ⅱ)			
SP 174 14B	IV	Ⅲ	円形	逆台形	0.48	0.43	0.475	須恵器(曲輪型),中世陶磁器(珠洲)			
SP 176 14C	IV	Ⅲ	不定形	逆台形	0.61	0.45	0.485			SK175に切られる。	
SP 178 14C	IV	水平	方形	逆台形	0.41	0.37	0.459	中世陶磁器(珠洲)			
SP 179 14C	IV	Ⅲ	円形	逆台形	0.40	0.38	0.179				
SP 182 15B	IV	Ⅲ	円形	逆台形	0.54	0.51	0.382			SK180に切られる。	
SP 183 15B	IV	Ⅲ	方形	逆台形	0.72	0.52	0.259	須恵器(杯類+Ⅱ),中世陶磁器(珠洲)		SI151に切られる。	
SP 184 15B	IV	その他	不定形	2段	0.44	0.46	0.456	須恵器(Ⅱ)			
SP 188 17A	IV	水平	不定形	逆台形	0.72	0.59	0.196				
SP 189 17A,18A	IV	變層	不定形	逆台形	0.77	0.59	0.260	土師器(Ⅱ)			
SP 192 15A,15B	IV	Ⅲ	方形	方形	0.98	0.92	0.134	須恵器(蓋+曲輪型+Ⅱ),中世陶磁器(瀬戸表鏡+青磁)		SI142と切り合い不明。	
SP 193 18A	IV	その他	不定形	方形	1.81	0.72	0.312			SK120P3に切られる。	
SP 195 18A	IV	その他	不定形	方形	-	0.40	0.245			SK120P3に切られる。	
SP 196 17A,17T	IV	Ⅲ	円形	逆台形	0.38	0.34	0.255			SK24と切り合い不明。	
SP 197 19T	IV	Ⅲ	不定形	逆台形	0.63	0.46	0.315	須恵器(杯類)		SP162に切られる。	
SP 198 17S	IV	Ⅲ	不定形	逆台形	0.63	0.51	0.522				
SP 199 17S	IV	Ⅲ	不定形	逆台形	0.49	0.45	0.389	須恵器(Ⅱ)			
SP 200 17S	IV	Ⅲ	不定形	2段	0.87	0.29	0.358				
SP 201 17T,18T	IV	Ⅲ	方形	2段	1.09	0.68	0.343	須恵器(曲輪型),土師器(Ⅲ),金属製品		SP163に切られる。	
SP 202 17A	IV	Ⅲ	円形	方形	0.34	0.32	0.370				
SP 203 15B	IV	その他	円形	方形	0.49	0.45	0.231				
SP 206 17A	IV	Ⅲ	方形	逆台形	0.78	0.72	0.065				
SP 207 17A	IV	Ⅲ	円形	方形	0.35	0.32	0.435				
SP 209 16A	IV	Ⅲ	不定形	逆台形	0.53	0.46	0.256				
SP 210 18C,17C	IV	Ⅲ	不定形	逆台形	0.70	0.39	0.160			SK261+SK187と切り合い不明。	
SP 211 15B	IV	Ⅲ	円形	方形	0.39	0.34	0.278				
SP 213 13B	IV	Ⅲ	円形	方形	0.39	0.37	0.191	須恵器(Ⅲ)			
SP 214 16B	IV	Ⅲ	円形	方形	0.31	0.26	0.162				
SP 215 16B	IV	Ⅲ	不定形	逆台形	0.68	0.56	0.265	中世陶磁器(珠洲)			
SP 216 16B	IV	Ⅲ	不定形	逆台形	0.62	0.54	0.120	須恵器(Ⅱ),灰土輪器(杯+Ⅲ)			
SP 217 15B	IV	Ⅲ	円形	逆台形	0.74	0.68	0.236	須恵器(杯類+Ⅱ),中世陶磁器(珠洲)		SP182に切られる。	
SP 218 14B,15B	IV	Ⅲ	円形	逆台形	0.62	0.52	0.306	土師器(Ⅲ)		SP177を切る。	
SP 219 19T	IV	Ⅲ	不定形	逆台形	0.42	0.39	0.282				

第14表 第50次調査遺構一覧表(5)

遺構名	グリッド	棟出番	増積	形状		法量 (m)			出土遺物	備考
				平面	断面	長さ	幅	深さ		
SP 220	15B	IV	単	不定形	方形	0.94	0.93	0.290	須恵器(有蓋1・無1)、中世陶磁器(瀬戸美濃1)	
SP 221	16T, 17T	IV	単	円形	逆台形	0.37	0.34	0.394		
SP 223	17T	IV	単	円形	逆三角 形	0.20	0.18	0.258		
SP 225	14B	V	単	円形	逆台形	0.52	0.49	0.490		SK181に切られる。
SP 226	16A	IV	単	円形	逆台形	0.30	0.25	0.181		SK205と切り合い不明。
SP 227	16T	IV	単	円形	逆台形	0.27	0.24	0.394		SP54に切られる。SK205と切り合い不明。
SP 228	16T	IV	単	不定形	逆台形	0.27	-	0.338		SK191・SP54に切られる。SK205と切り合い不明。
SP 229	16T	IV	単	不定形	逆台形	0.26	0.25	0.400		SP131に切られる。SK205と切り合い不明。
SP 230	17A	IV	単	円形	逆台形	0.28	0.23	0.289		SP131に切られる。
SP 231	17T	IV	単	円形	方形	0.52	0.50	0.578		SP286と切り合い不明。
SP 233	17A, 17T	IV	単	不定形	2段	0.59	0.43	0.158		
SP 234	14B, 15B	IV	単	円形	逆台形	0.51	0.48	0.231	須恵器(群)	
SP 241	16C, 16D	IV	単	円形	逆台形	0.53	0.52	0.231		
SP 242	16C, 16D	IV	その他	円形	2段	0.67	0.64	0.261	須恵器(群)・(無)1	SP282を切る。
SP 244	15B	IV	単	不定形	逆台形	0.70	0.49	0.168		
SP 245	15C	IV	単	不定形	逆台形	0.69	0.46	0.216		
SP 246	15C	IV	壁脚	不定形	逆台形	1.42	0.87	0.429	土師器1, 打製石斧1, その他2	SP247に切られる。
SP 247	15C	IV	単	不定形	2段	0.54	0.51	0.287		SP286を切る。
SP 248	15E	IV	単	円形	方形	0.68	0.64	0.219		
SP 249	16B	IV	単	不定形	2段	0.62	0.44	0.171		
SP 250	16B	IV	単	円形	2段	0.55	0.53	0.209		
SP 251	16B	IV	単	円形	逆台形	0.27	0.25	0.195		
SP 254	15D	SK253	単	円形	逆台形	0.24	0.23	0.127		SK252・SK253を切る。
SP 255	16B	IV	単	方形	方形	0.78	0.68	0.174	中世陶磁器1	SD232を切る。SP256に切られる。
SP 256	16D	IV	単	不定形	逆台形	0.40	0.31	0.145		SP255を切る。
SP 257	15D	IV	単	不定形	方形	0.60	0.55	0.431	須恵器(群)	
SP 258	14C	IV	水平	不定形	2段	0.39	0.33	0.594		SP270と切り合い不明。
SP 259	15D	IV	単	円形	方形	0.38	0.29	0.167		
SP 260	15B, 16B	IV	レンズ	円形	逆台形	0.62	0.53	0.407		SD232に切られる。
SP 262	16C	IV	-	円形	2段	0.73	0.64	0.338	須恵器1(逆船形), 中世陶磁器1	SP242・SK243に切られる。
SP 263	15E	V	単	不定形	逆台形	0.84	0.58	0.098	須恵器1(逆船形)	
SP 264	15E	V	単	円形	2段	0.57	0.49	0.079		
SP 265	14D	IV	単	円形	逆台形	0.43	0.31	0.202		
SP 266	14D	IV	単	方形	形	0.65	0.56	0.142		
SP 270	14C	IV	-	不定形	2段	0.88	0.47	0.529	須恵器(無)1	SK167に切られる。SP258と切り合い不明。
SP 271	15B	IV	単	円形	逆台形	0.29	0.24	0.165	須恵器(無)2	
SP 272	17A	IV	単	円形	逆台形	0.40	0.37	0.435		
SP 273	15A	IV	単	不定形	逆台形	0.89	0.62	0.296	礎石1	SK208を切る。
SP 274	15A	IV	単	円形	逆台形	0.47	0.45	0.061		SK199を切る。
SP 275	14C	IV	単	円形	逆台形	0.34	0.29	0.126		
SP 276	13B	IV	単	円形	逆台形	0.62	0.51	0.081		
SP 277	16A	IV	単	円形	逆台形	0.32	0.29	0.521		SK101と切り合い不明。
SP 278	16A	IV	単	円形	逆台形	0.36	0.33	0.506		SK205と切り合い不明。
SP 279	15A, 15B	IV	単	不定形	逆台形	0.84	0.62	0.067		
SP 280	17T	IV	単	円形	方形	0.48	0.43	0.412		
SP 281	15B	IV	単	円形	2段	0.47	0.45	0.374		SK142・SP148を切る。
SP 282	14C	IV	単	円形	逆台形	0.33	0.29	0.373		SK149を切る。
SP 284	17B	IV	単	円形	方形	0.35	0.31	0.190		SK112(P1)を切る。
SP 285	15B	IV	単	不定形	逆台形	0.24	-	0.383		SP16を切る。
SP 286	16T, 17T	V	-	円形	逆台形	0.49	0.47	0.465		SP231と切り合い不明。

第15表 第50次調査遺物観察表(1)

遺物番号	層位	出土遺構	種別	法量 (cm)			破片数	胎土	焼成	色調		成形・調整等		備考	図面番号		
				口径	底径	器高				外面	内面	外面	内面				
1	カマド	壁方	灰器器 杯	(16.0)	-	-	2	赤	直径2cm以下の長石を多く含む。	良好	016/1 灰	06/0 灰	回転ナズ。	回転ナズ。	-	22	
2	カマド	壁方	灰器器 蓋	(17.0)	-	-	2	赤	直径2cm以下の長石・チャートも多く含む。	良好	7.016/1 灰	7.016/2 灰	回転ナズ。天井部回転ヘラケズリ。	回転ナズ。	口縁部外面に自然釉。	-	
3	カマド	壁方	灰器器 杯B	(12.0)	(8.5)	3.45	2	赤	直径2cm以下の長石をわずかに含む。	良好	017/1 灰白	2.017/1 灰白	回転ナズ。底部回転ヘラケズリ。	回転ナズ。	-	22	
4	カマド	壁方	土師器 甕	-	-	-	2	赤	直径2cm以下の長石・石英・チャートも多く含む。	普通	10107/3 灰白	10107/2 灰白	縦方向ハケメ。口縁部周辺ヨコナズ。	横方向ハケメ。口縁部周辺ヨコナズ。	ユビオサエ。板ナズ肌。	-	22
5	カマド	壁方	土師器 蓋	-	-	-	2	赤	直径2cm以下の長石・チャート・赤色酸化土を多く含む。	普通	2.017/1 灰白	10107/2 灰白	縦方向ハケメ。輪値み肌。	ユビオサエ。板ナズ肌。	-	22	
6	柱穴	壁方	土師器 不明	-	-	-	1	赤	直径1cm以下の長石をわずかに含む。	良好	10106/3 灰白	10106/4 灰白	ナズ。	ナズ。	摩滅。土師器蓋の転用か。	-	
7	埋土	壁方	灰器器 蓋	(14.2)	-	2.9	2	普通。	普通。	普通	016/1 灰	016/1 灰	回転ナズ。天井部回転ヘラケズリ。	回転ナズ。	-	22	
8	埋土	壁方	灰器器 蓋	(14.5)	-	-	3	普通。	直径1cm以下の長石を多く含む。	不良	018/2 灰白	018/1 灰白	回転ナズ。天井部回転ヘラケズリ。	回転ナズ。	-	22	
9	埋土	壁方	灰器器 蓋	(14.0)	-	-	2	赤	直径1cm以下の長石を多く含む。	良好	2.016/1 灰白	10106/1 灰白	回転ナズ。天井部回転ヘラケズリ。	回転ナズ。	露部に自然釉。	-	
10	埋土	壁方	灰器器 蓋	(14.0)	-	-	1	赤	直径1cm以下の長石を多く含む。	良好	017/1 灰白	2.016/1 灰白	回転ナズ。天井部回転ヘラケズリ。	回転ナズ。	-	-	
11	埋土	壁方	灰器器 蓋	(15.0)	-	-	1	普通。	普通。	普通	2.017/1 灰白	2.016/1 灰白	回転ナズ。天井部回転ヘラケズリ。	回転ナズ。	-	23	
12	埋土	壁方	灰器器 蓋	(16.4)	-	-	2	普通。	普通。	普通	018/3 灰白	018/3 灰白	回転ナズ。天井部回転ヘラケズリ。	回転ナズ。	-	-	
13	埋土	壁方	灰器器 蓋	(16.3)	-	-	3	赤	直径2cm以下の長石・チャートも多く含む。	良好	017/1 灰白	016/1 灰白	回転ナズ。天井部回転ヘラケズリ。	回転ナズ。	-	-	
14	埋土	壁方	灰器器 蓋	(19.0)	-	-	2	赤	直径1cm以下の長石を多く含む。	良好	7.017/1 灰白	3.017/1 灰白	回転ナズ。天井部回転ヘラケズリ。	回転ナズ。	-	23	
15	埋土	壁方	灰器器 蓋	(18.0)	-	-	1	普通。	普通。	普通	7.018/1 灰白	7.017/1 灰白	回転ナズ。天井部回転ヘラケズリ。	回転ナズ。	-	-	
16	埋土	壁方	灰器器 蓋	(15.0)	-	-	2	赤	直径2cm以下の長石を多く含む。	良好	2.016/1 灰白	2.017/1 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	天井部外面隆起。	-	
17	埋土	壁方	灰器器 蓋	-	-	-	1	普通。	普通。	普通	017/1 灰白	016/1 灰白	回転ナズ。天井部回転ヘラケズリ。	回転ナズ。	-	-	
18	埋土	壁方	灰器器 蓋	-	-	-	1	普通。	普通。	普通	0106/2 灰白	7.0106/1 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	-	-	
19	埋土	壁方	灰器器 蓋	-	-	-	1	普通。	普通。	普通	017/1 灰白	2.016/1 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	内面に塗釉。口唇部にキズ肌。	-	
20	埋土	壁方	灰器器 蓋	-	-	-	1	普通。	普通。	普通	2.017/1 灰白	017/1 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	-	-	
21	埋土	壁方	灰器器 蓋	-	-	-	1	普通。	普通。	普通	018/1 灰白	018/1 灰白	回転ナズ。天井部回転ヘラケズリ。	回転ナズ。	-	-	
22	埋土	壁方	灰器器 杯A	-	(10.0)	-	1	赤	直径2cm以下の長石・チャートをわずかに含む。	良好	7.016/1 灰白	017/1 灰白	回転ナズ。底部回転ヘラケズリ。	回転ナズ。	-	-	
23	埋土	壁方	灰器器 杯A	-	(9.0)	-	2	普通。	普通。	普通	016/1 灰白	016/1 灰白	回転ナズ。底部回転ヘラケズリ。	回転ナズ。	-	22	
24	埋土	壁方	灰器器 杯A	-	(7.0)	-	1	普通。	普通。	普通	017/1 灰白	017/1 灰白	回転ナズ。底部回転ヘラケズリ後ナズ。	回転ナズ。	-	22	
25	埋土	壁方	灰器器 杯A	-	-	-	1	普通。	普通。	普通	2.017/1 灰白	2.017/1 灰白	回転ナズ。底部回転ヘラケズリ。	回転ナズ。	-	-	
26	埋土	壁方	灰器器 杯B	(11.2)	(8.0)	3.6	1	普通。	普通。	普通	017/1 灰白	017/1 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	-	22	
27	埋土	壁方	灰器器 杯B	(12.6)	(9.2)	3.3	2	普通。	普通。	普通	2.018/2 灰白	2.018/2 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	-	-	
28	埋土	壁方	灰器器 杯B	(15.6)	(10.4)	5.9	1	普通。	普通。	普通	018/1 灰	016/1 灰	回転ナズ。底部回転ヘラケズリ。高台基付後に周辺ナズ。	回転ナズ。	-	22	
29	埋土	壁方	灰器器 杯B	-	-	-	1	赤	直径1cm以下の長石を多く含む。	良好	7.016/1 灰	2.016/1 灰	回転ナズ。	回転ナズ。	-	-	
30	埋土	壁方	灰器器 杯B	-	(9.0)	-	3	普通。	普通。	普通	2.016/1 灰	017/1 灰白	回転ナズ。底部回転ヘラケズリ。高台基付後に周辺ナズ。	回転ナズ。	-	22	
31	埋土	壁方	灰器器 杯	-	-	-	2	普通。	普通。	普通	018/1 灰白	018/1 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	外面に輪付着。	-	
32	埋土	壁方	灰器器 杯	-	-	-	1	普通。	普通。	普通	2.016/1 灰	2.016/1 灰	回転ナズ。	回転ナズ。	-	-	
33	埋土	壁方	灰器器 杯	(15.0)	-	-	1	赤	直径1cm以下の長石をわずかに含む。	普通	2.016/1 灰	2.016/2 灰	回転ナズ。	回転ナズ。	-	-	
34	埋土	壁方	灰器器 杯A	(13.0)	(6.0)	4.0	2	普通。	普通。	不良	2.018/1 灰白	2.018/1 灰白	回転ナズ。底部回転ヘラケズリ。	回転ナズ。	-	22	

第16表 第50次調査遺物観察表(2)

遺物番号	部位	出土遺構	種類	法量 (cm)			破片数	胎土	構成	色調		成形・調整等		備考	図面番号	
				口徑	底徑	器高				外面	内面	外面	内面			
35	埋土	S103	灰志器 碗A	(12.4)	(7.0)	4.3	3	普通	普通	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	回転ナズ。底部回 転糸切り。	回転ナズ。	-	22	
36	埋土	S103	灰志器 碗A	(13.4)	(6.6)	4.6	2	普通	普通	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/2 灰白	回転ナズ。底部回 転糸切り。	回転ナズ。	-	22	
37	埋土	S103	灰志器 碗A	-	(6.0)	-	1	泥、長石をわずかに含 む。	不貞	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/1 灰白	回転ナズ。底部回 転糸切り後に周辺 ナズ。	回転ナズ。	-	22	
38	埋土	S103	灰志器 碗	(13.0)	-	-	1	普通	普通	5Y8/2 灰白	5Y8/2 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	-	-	
39	埋土	S103	灰志器 碗	(13.4)	-	-	1	普通	普通	5Y8/3 灰白	5Y8/1 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	-	-	
40	埋土	S103	灰志器 碗	-	-	-	1	泥、直径1mm以下の長石 を多く含む。	良好	7.5Y8.6/3 褐色	10Y8.5/2 灰黄褐	回転ナズ。	回転ナズ。	-	-	
41	埋土	S103	灰志器 高杯	-	-	-	1	普通	普通	10Y8.6/1 褐色	10Y8.6/1 褐色	回転ナズ。	回転ナズ。	脚部貼り付け。	23	
42	埋土	S103	灰志器 鉢	(21.6)	-	-	2	普通	普通	10Y7/1 灰白	10Y7/1 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	-	-	
43	埋土	S103	灰志器 鉢	-	(18.0)	-	2	普通	普通	7.5Y4/1 灰	7.5Y4/1 灰	回転ナズ。底縁ナ ズ。	回転ナズ。	-	-	
44	埋土	S103	灰志器 鉢	-	-	-	1	普通	普通	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	回転ナズ。口縁下 横ナズ。	回転ナズ。	-	23	
45	埋土	S103	灰志器 蓋	(12.2)	-	-	1	普通	普通	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 黄灰	回転ナズ。	回転ナズ。	内外面自然焼。	23	
46	埋土	S103	灰志器 模範	-	-	-	3	普通	普通	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	平行タタキ。	同心円文当て具 焼。	外面に自然焼。	23	
47	埋土	S103	土師器 壺	(16.0)	-	-	1	直径1mm以下の長石・ チャートを多く含む。	普通	10Y8.6/4 浅黄褐	10Y8.6/4 浅黄	縦方向ハケメ。ユ ビオササ。	縦方向ハケメ。 口縁下横ナズ。 ユビオササ。	内面に焼付着。	23	
48	埋土	S103	土師器 壺	(19.6)	-	-	1	直径5mm以下の長石・ 石英・チャートを多く 含む。	普通	2.5Y7/3 浅黄	7.5Y7.6/6 褐色	縦方向ハケメ。	横方向ハケメ。	外面に焼付着。	-	
49	埋土	S103	土師器 壺	-	-	-	1	直径2mm以下の長石・ 石英・チャートを多く 含む。	普通	10Y8/2 灰白	10Y8.1/1 灰白	縦方向ハケメ。口 縁部ユビオササ。	縦方向ハケメ。 口縁部ユビオササ。	-	-	
50	埋土	S103	土師器 壺	-	-	-	1	直径1mm以下の長石・ 石英・チャートをわず かに含む。	普通	10Y8.6/3 浅黄褐	7.5Y8.6/6 浅黄褐	口縁周縁横ナズ。 縦方向ハケメ。	口縁周縁横ナズ。 縦方向ハケメ。	-	23	
51	埋土	S103	土師器 壺	-	-	-	2	普通	普通	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	ハケメ(1.1cmに5 本)。脚部圧痕。ユ ビオササ。	横ナズ。脚部圧 痕。ユビオササ。	-	23	
52	埋土	S103	土師器 壺	-	-	-	1	普通	普通	10Y8.6/3 灰白	2.5Y7/2 灰黄	縦方向ハケメ。1 cmに10本単位。 ユビオササ。	横ナズ。ユビオ ササ。	-	23	
53	埋土	S103	土師器 壺	-	4.5	-	1	長石・チャートをわず かに含む。	普通	10Y8.6/1 灰白	10Y8/2 灰白	ハケメ横ナズ。底 面にユビオササ。	底面。底面にユ ビオササ。	内面に焼付着。	23	
54	埋土	S103	土師器 壺	-	(5.0)	-	5	直径2mm以下の長石・ チャートを多く含む。	普通	7.5Y8/3 灰黄	7.5Y8.6/4 浅黄	縦・横方向ハケメ 後にナズ。	ハケメ後にナズ。 ユビオササ。	内面に焼付着。	-	
55	埋土	S103	金属製品 不明	残長 6.4	残幅 3.5	厚さ 2.1	6	錆付着。重さ52.7g。							-	-
56	埋土	S112	灰志器 杯G	-	(6.0)	-	1	普通	普通	2.5Y8/3 浅黄	2.5Y8/3 浅黄	回転ナズ。底部へ ラ切り $\alpha$ 後ナズ。	回転ナズ。	-	-	
57	埋土	S112	灰志器 杯A	11.6	9.8	3.4	4	普通	普通	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/3 浅黄	回転ナズ。底部回 転ヘラクスリ後に 周辺ナズ。	回転ナズ。	-	24	
58	埋土	S112	灰志器 杯A	(13.4)	(11.6)	3.6	1	泥、直径1mm以下の長石 をわずかに含む。	良好	10Y8.6/1 褐色	10Y8/2 灰白	回転ナズ。底部回 転ヘラクスリ後に 周辺ナズ。	回転ナズ。	-	24	
59	埋土	S112	灰志器 杯A	11.5	9.5	4.0	2	普通	不貞	10Y8.6/1 灰白	10Y8/2 灰白	回転ナズ。底部回 転ヘラクスリ後に 周辺ヘラクスリ。	回転ナズ。	内面に錆付着。	24	
60	埋土	S112	灰志器 杯B	-	(8.0)	-	1	泥。	良好	8.0 灰白	8.0 灰白	回転ナズ。底部回 転ヘラクスリ。高 台貼付後に周辺ナ ズ。	回転ナズ。	-	24	
61	埋土	S112	灰志器 杯B	-	(16.0)	-	1	普通	普通	2.5Y7/1 灰白	8.0/1 オレンジ灰	回転ナズ。底部へ ラ切り。高台貼付 後に周辺ナズ。	回転ナズ。	-	24	
62	埋土	S112	灰志器 碗A	-	(6.6)	-	1	泥、直径2mm以下の長石 を多く含む。	良好	7.5Y7/1 灰白	7.5Y7/1 灰白	回転ナズ。回転糸 切り。	回転ナズ。	底部外面に黒着	24	
63	埋土	S112	灰志器 碗A	-	(5.8)	-	1	普通	普通	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	回転ナズ。底部回 転糸切り。	回転ナズ。	-	24	
64	埋土	S112	灰志器 碗A	-	7.0	-	1	普通	普通	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	回転ナズ。平持ち ヘラクスリ。中心 部に糸切り痕。	回転ナズ。	-	24	
65	埋土	S112	灰志器 碗A	-	(6.0)	-	1	普通	普通	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	回転ナズ。回転糸 切り。	回転ナズ。	-	24	

第17表 第50次調査遺物観察表(3)

遺物番号	部位	出土遺構	種別	法量 (cm)			破片数	胎土	焼成	色調		成形・調整等		備考	図面番号
				口径	底径	器高				外面	内面	外面	内面		
66	埋土	S112	瓦器器 瓶	-	-	-	1	普通。	普通	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	回転ナデ。	回転ナデ。	-	-
67	埋土	S112	瓦器器 瓶	-	-	-	1	普通。	普通	5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白	回転ナデ。	回転ナデ。	-	-
68	埋土	S112	土師器 壺	(17.5)	-	-	38	直径 2cm 以下の長石・石英・チャートを含む。	普通	10YR7/3 に5Y黄	10YR7/4 に5Y黄	縦方向ハケム。ユビオサス。口部から断面横ナデ。	太細の横方向ハケム。ユビオサス。口部から断面横ナデ。	24	-
69	埋土	S112	土師器 壺	(14.0)	-	-	5	長石・石英・雲母・赤色酸化土をわずかに含む。	普通	7.5YR7/4 に5Y黄	7.5YR7/3 に5Y黄	縦方向ハケム。口部下ユビオサス。下部裏が1/4の下に横方向ハケム。	横方向ハケム。頸部ユビオサス。	24	-
70	埋土	S112	土師器 壺	-	-	-	1	直径 2cm 以下のチャートをわずかに含む。	普通	7.5YR7/4 に5Y黄	10YR7/4 に5Y黄	縦方向ハケム。断面横ナデ。	斜位・横方向ハケム後にナデ。ユビオサス。	24	-
71	埋土	S112	石製品 釣鐘	最大径 4.1	-	-	1	孔径 0.7 cm、重さ 29.4g。磁気質。使用痕・磨痕あり。						24	-
72	埋土	S1101	瓦器器 瓶	-	-	-	1	直径 1cm 以下の長石をわずかに含む。	普通	N5/0 灰	N5/0 灰	ヘラナデ。天井部手許ハケラズ。	ヘラナデ。	25	-
73	埋土	S1101	瓦器器 瓶	-	-	-	1	普通。	普通	5Y7/2 灰白	5Y7/2 灰白	回転ナデ。天井部ヘラナデ。	回転ナデ。	26	-
74	埋土	S1101	瓦器器 杯C	(6.0)	-	-	1	普通。	普通	7.5Y7/1 灰白	7.5Y7/1 灰白	回転ナデ。底部ヘラ切り。	回転ナデ。	25	-
75	埋土	S1101	瓦器器 蓋	(15.0)	-	2.5	3	普通。	普通	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y5/1 黄灰	回転ナデ。天井部回転ヘラナデ。	回転ナデ。	25	胴径 1.9 cm。
76	埋土	S1101	瓦器器 蓋	13.8	-	-	1	普通。	普通	2.5Y5/1 黄灰	2.5Y5/1 黄灰	回転ナデ。天井部回転ヘラナデ。	回転ナデ。	25	内面に墨付着。
77	埋土	S1101	瓦器器 蓋	(15.4)	-	-	5	底。直径 1cm 以下の長石を多く含む。	良好	N7/0 灰白	5Y7/1 灰白	回転ナデ。天井部回転ヘラナデ。	回転ナデ。天井部ナデ。	25	内面に付着物。
78	埋土	S1101	瓦器器 蓋	(16.0)	-	-	1	普通。	普通	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	回転ナデ。天井部回転ヘラナデ。	回転ナデ。	25	-
79	埋土	S1101	瓦器器 蓋	-	-	-	1	普通。	普通	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	回転ナデ。	回転ナデ。	26	-
80	埋土	S1101	瓦器器 蓋	(19.0)	-	-	1	普通。	普通	7.5Y6/1 灰	7.5Y7/1 灰白	回転ナデ。天井部回転ヘラナデ。	回転ナデ。	-	-
81	埋土	S1101	瓦器器 杯B	16.5	11.0	5.4	3	普通。	普通	10YR4/1 褐灰	10YR6/1 褐灰	回転ナデ。高台右脇付後に周辺ナデ。	回転ナデ。	25	-
82	埋土	S1101	瓦器器 杯B	(7.0)	-	-	1	普通。	普通	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	回転ナデ。高台右脇付後に周辺ナデ。	回転ナデ。	26	-
83	埋土	S1101	瓦器器 杯B	(7.4)	-	-	1	普通。	普通	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	回転ナデ。底部回転ヘラナデ。	回転ナデ。	25	内面に墨付着。
84	埋土	S1101	瓦器器 杯B	(7.6)	-	-	2	普通。	普通	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	回転ナデ。高台右脇付後に周辺ナデ。	回転ナデ。	25	-
85	表土	S1101	瓦器器 杯B	(14.0)	9.8	3.8	3	普通。	普通	10YR6/2 灰黄褐	10YR6/2 灰黄褐	回転ナデ。高台右脇付後に周辺ナデ。	回転ナデ。	25	-
86	埋土	S1101	瓦器器 杯	(11.0)	-	-	1	普通。	普通	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	回転ナデ。	回転ナデ。	25	-
87	埋土	S1101	瓦器器 杯	-	-	-	1	直径 1cm 以下の長石を多く含む。	良好	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	回転ナデ。	回転ナデ。	1	-
88	埋土	S1101	瓦器器 椀A	(9.6)	(5.0)	3.8	2	普通。	普通	7.5Y6/1 灰	7.5Y7/1 灰白	回転ナデ。底部回転糸切り。	回転ナデ。	25	-
89	埋土	S1101	瓦器器 椀A	12.8	6.6	4.4	3	普通。	普通	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	回転ナデ。底部回転糸切り。	回転ナデ。	25	-
90	埋土	S1101	瓦器器 椀A	(6.0)	-	-	1	普通。	不良	10YR6/3 灰黄褐	10YR8/2 灰白	回転ナデ。底部回転糸切り。	回転ナデ。	25	底部外面に墨付着。
91	埋土	S1101	瓦器器 椀	(14.5)	-	-	1	普通。	普通	2.5Y5/1 黄灰	96/0 灰	回転ナデ。	回転ナデ。	25	-
92	埋土	S1101	瓦器器 小型椀	-	-	-	1	普通。	普通	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	回転ナデ。	回転ナデ。	25	底部外面に墨着。
93	埋土	S1101	瓦器器 附付蓋	(18.4)	-	-	1	普通。	普通	10YR4/1 褐灰	10YR6/1 褐灰	口縁部・脚部回転ナデ。底部回転ヘラナデ。	回転ナデ。	25	-
94	埋土	S1101	瓦器器 蓋	-	-	-	1	普通。	普通	N5/0 灰	N5/0 灰	回転ナデ。底部回転ヘラナデ。	回転ナデ。	25	-
95	埋土	S1101	瓦器器 短脚蓋	(10.2)	-	-	2	底。直径 1cm 以下の長石を多く含む。	良好	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	回転ナデ。	回転ナデ。	25	-
96	埋土	S1101	瓦器器 長脚蓋	(7.8)	-	-	1	普通。	普通	5Y6/1 灰白	5Y4/1 灰	回転ナデ。	回転ナデ。	25	内外面に自然釉。

第18表 第50次調査遺物観察表(4)

遺物番号	単位	出土遺物種別	法量 (cm)			破片数	胎土	構成	色調		成形・調整等		備考	図面番号	
			口徑	高さ	器高				外面	内面	外面	内面			
97-1	埴土	SI101	原形器	-	-	2	底、直径2cm以下の長石を多く含む。	良好	5/77/1 灰白	10/106/1 褐色	平行タタキ、	当具柄、ユビオサエ。	外面に自然焼、内面に付着物。	-	
97-2	埴土	SI101	原形器	-	-	6	底、直径1cm以下の長石・石英をわずかに含む。	良好	7, 5/16/1 灰	18/9 灰白	平行タタキ、凹削。	当具柄、ユビオサエ、凹削。	内面に付着物。	-	
97-3	埴土	SI101	原形器	-	-	2	底、直径1cm以下の長石・石英を多く含む。	良好	5/16/1 灰	2, 5/77/1 灰白	平行タタキ、	当て具柄、凹削。	内面に付着物。	-	
98	埴土	SI101	灰釉陶器	-	-	1	普通。	普通	5/77/1 灰白	5/77/1 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	網を盛り、体部下は無焼。	26	
99	埴土	SI101	土師器	(15.0)	-	5	直径1cm以下の長石・チャートを多く含む。	普通	2, 5/77/2 灰黄	10/107/2 こぶし黄緑	口縁部横ナズ。縦方向ハケメ、ユビオサエ。板ナズ。	口縁部横ナズ。板ナズ。		26	
100	埴土	SI101	土師器	(21.0)	-	1	直径1cm以下の長石・石英を多く含む。	普通	10/107/3 こぶし黄緑	5/77/1 灰白	縦方向ハケメ。12cmに5本単位、口縁部下横ナズ(僅)。	縦方向ハケメ。12cmに5本単位、ユビオサエ。		26	
101	埴土	SI101	土師器	(19.0)	-	5	直径2cm以下の長石・チャートを含む。	普通	7, 5/107/6 黒	10/108/2 灰白	口縁部横ナズ。縦方向ハケメ、ユビオサエ。板ナズ。輪削のみ。	縦方向ハケメ。ユビオサエ。板ナズ。		26	
102	埴土	SI101	土師器	(13.0)	-	4	直径1cm以下の長石・石英をわずかに含む。	普通	10/105/2 灰黄緑	10/106/2 灰黄緑	口縁部横ナズ。縦方向ハケメ、ユビオサエ。	縦方向ハケメ。ユビオサエ。		26	
103	埴土	SI101	土師器	(16.0)	-	4	普通。	普通	10/108/3 浅黄緑	10/107/3 こぶし黄緑	口縁部下横ナズ。縦方向ハケメ。			-	
104	埴土	SI101	土師器	(17.0)	-	2	直径2cm以下の長石・チャート・赤色酸化土を多く含む。	普通	7, 5/107/4 こぶし黄	7, 5/107/4 こぶし黄	口縁部横ナズ。縦方向ハケメ、ユビオサエ。	口縁部横ナズ。縦方向ハケメ。ユビオサエ。		26	
105	埴土	SI101	土師器	-	-	3	直径1cm以下の長石・チャート・赤色酸化土を多く含む。	普通	10/108/1 灰白	10/108/2 灰白	縦方向ハケメ。ユビオサエ。	縦方向ハケメ。ユビオサエ。		26	
106	埴土	SI101	土師器	-	-	7	直径1cm以下の長石・石英・雲母をわずかに含む。	普通	2, 5/107/2 灰白	2, 5/107/2 灰白	縦方向ハケメ。ユビオサエ。	縦方向ハケメ。10cmに6本単位、ユビオサエ。		26	
107	埴土	SI101	土師器	(8.0)	-	1	普通。	普通	2, 5/107/2 灰白	2, 5/107/2 灰白	横ナズ。			26	
108	埴土	SI101	中灰陶器	-	-	1	靴、直径1cm以下の石英をわずかに含む。	普通	5/16/1 灰	5/16/2 灰オリーブ	回転ナズ。	回転ナズ。	内外面に自然焼。	26	
109	埴土	SI101	石製品 磨石	残長 9.0	残幅 7.1	残厚 5.6	輝石安山岩。重さ513.4g。片側面に縁やかならフを広くよくに磨きされている。石粉の転写。縦行板。	普通	5/5/0 灰	10/6/0 灰	回転ナズ。天井部回転ヘラケズリ。	回転ナズ。	焼熟・縦行板。	26	
110	埴土	SI137	原形器	-	-	1	普通。	普通	5/5/0 灰	10/6/0 灰	回転ナズ。天井部回転ヘラケズリ。	回転ナズ。		27	
111	埴土	SI137	原形器	(16.0)	-	1	普通。	普通	7, 5/106/3 こぶし黄	7, 5/106/3 こぶし黄	回転ナズ。天井部回転ヘラケズリ。	回転ナズ。		27	
112	埴土	SI137	原形器	-	-	1	普通。	普通	5/77/1 灰白	5/77/1 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。		-	
113	埴土	SI137	原形器	残長 A	(5.6)	-	1	普通。	普通	2, 5/106/1 灰白	2, 5/106/1 灰白	回転ナズ。底部一部へたによる調整、回転糸切り。	回転ナズ。		27
114	埴土	SI137	原形器	残長 A	(6.0)	-	1	普通。	普通	7, 5/77/1 灰白	7, 5/77/1 灰白	回転ナズ。底部回転糸切り。	回転ナズ。		27
115	埴土	SI137	原形器	原形器	(12.0)	-	1	普通。	普通	10/107/2 こぶし黄	2, 5/77/1 灰白	回転ナズ。回転ヘラケズリ。	回転ナズ。		27
116	埴土	SI137	土師器	-	-	4	直径1cm以下の長石・石英・チャートをわずかに含む。	普通	2, 5/77/1 灰白	2, 5/106/2 灰白	縦方向ハケメ。	凹削正直。		-	
117	埴土	SI137	土師器	-	-	1	直径2cm以下の長石・石英を多く含む。	普通	10/105/2 灰黄緑	7, 5/104/2 灰黄緑	ハケメ。	ユビオサエ。		27	
118	埴土	SI137	青磁	-	-	1	普通。	普通	7, 5/106/2 灰オリーブ	7, 5/106/2 灰オリーブ		青磁面花文。	内外面施釉。	27	
119	埴土	SI137	金属製品 刀子	残長 3.1	残幅 1.0	残厚 0.4	長さ2.5g。全体に錆付着。	普通							27
120	埴土	SI142	原形器	残長 G	(6.4)	-	1	普通。	普通	10/16/1 灰	10/16/1 灰	回転ナズ。底部へラ切り。	回転ナズ。		27
121	埴土	SI142	原形器	原形器	(9.8)	-	1	普通。	普通	7, 5/107/1 明褐色	2, 5/77/1 灰白	回転ナズ。底部回転糸切り。	回転ナズ。		27
122	埴土	SI147	土師器	原形器	(6.0)	-	1	普通。	普通	5/16/1 灰	5/16/1 灰	回転ナズ。底部回転糸切り。	回転ナズ。		27
123	埴土	SI147	原形器	原形器	(11.2)	-	1	普通。	普通	7, 5/77/1 灰白	7, 5/77/1 灰白	回転ナズ。底部へラ切り。高台部付着に凹削ナズ。	回転ナズ。	内面に刻線。	27
124	埴土	SI149	青磁	-	-	1	漆。	良好	7, 5/106/1 灰	7, 5/106/1 灰	縁直書花文。		内外面施釉。	27	
125	埴土	SI151	原形器	原形器	-	-	1	普通。	普通	5/106/3 こぶし黄	5/107/3 こぶし黄	回転ナズ。天井部回転ヘラケズリ。	回転ナズ。		27
126	埴土	SI151	原形器	原形器	(9.0)	-	1	普通。	普通	5/16/1 灰	5/16/1 灰	回転ナズ。底部回転糸切り。高台部付着に全面ナズ。	回転ナズ。	内面に重なり粘土残る。	27

第19表 第50次調査遺物観察表(5)

遺物番号	単位	出土遺物	種別	法量 (cm)			破片数	胎土	焼成	色調		成形・調整等		備考	図面番号
				口径	底径	器高				外面	内面	外面	内面		
127	埋土	SI151	土師器 蓋	-	(4.0)	-	1	普通。	普通	2.5YR/3 赤黄	2.5YR/3 赤黄	回転ナブ。底部同 転車切り。	回転ナブ。	内面に厚付意。	27
128	埋土	SI190	灰志器 蓋	-	-	-	1	普通。	普通	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	回転ナブ。回転ヘ ラケズリ。	回転ナブ。	-	-
129	P 7	SB49	灰志器 杯A	(12.0)	(6.0)	4.0	1	普通。	普通	5Y6/2 灰白	5Y6/2 灰白	回転ナブ。底部同 転車切り。	回転ナブ。	-	27
130	P 7	SB49	組戸染織 遺	-	-	-	1	染。直径2mm以下の長石をわずかに含む。	良好	5Y6/1 灰白	5Y6/0 灰白	ナブ。	ナブ。	外面沈陥・輪巻意。	27
131	P 7	SB49	金銅製品 釘	残長 6.0	残幅 1.2	残厚 0.7	1	重さ10.9g。						錆付意。	27
132	埋土	SS01	灰志器 蓋	-	-	-	1	染。	良好	10Y66/1 褐灰	10Y66/1 褐灰	回転ナブ。回転ヘ ラケズリ。	回転ナブ。	-	28
133	埋土	SS01	灰志器 杯	-	-	-	1	普通。	普通	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/1 灰白	回転ナブ。	回転ナブ。	-	28
134	埋土	SS14	灰志器 蓋	13.8	-	3.35	3	直径2mm以下の長石・石屑を多く含む。	普通	2.5Y6/1 灰	2.5Y6/1 灰	回転ナブ。天井部 回転ヘラケズリ。	回転ナブ。	-	28
135	埋土	SS14	灰志器 蓋	(16.0)	-	-	1	染。直径2mm以下の長石を多く含む。	良好	2.5Y6/1 灰黄	10Y66/1 褐灰	回転ナブ。天井部 回転ヘラケズリ。	回転ナブ。	-	28
136	埋土	SS14 SK138	土師器 壺	(18.6)	-	-	19	直径2mm以下の長石・石屑・チャート・赤色酸化土を多く含む。	普通	7.5Y6/4 に5Y-MB	7.5Y6/4 に5Y-MB	口縁周縁ナブ。 縦方向ハケメ。ユビオサエ。ナブ。	横方向ハケメ。	-	28
137	埋土	SS14	土師器 壺	(20.0)	-	-	6	普通。	普通	10Y67/3 に5Y-MB	2.5Y7/2 灰黄	口縁部横ナブ。胴 縦方向ハケメ。	口縁部横ナブ。 胴縦方向ハケメ。ユビオサエ。ナブ。	口縁部横ナブ。 胴縦方向ハケメ。ユビオサエ。	28
138	埋土	SS14	土師器 壺	-	-	-	2	直径1mm以下の赤色酸化土をわずかに含む。	普通	7.5Y6/4 に5Y-MB	7.5Y6/4 に5Y-MB	口縁部横ナブ。胴 縦方向ハケメ。ユビオサエ。ナブ。	胴部縦方向ハケメ。ユビオサエ。板ナブ。	-	28
139	埋土	SS14	土師器 壺	-	-	-	10	直径2mm以下の赤色酸化土をわずかに含む。	普通	7.5Y6/4 に5Y-MB	7.5Y6/4 に5Y-MB	ナブ・ユビオサエ 後に縦方向ハケメ。	ユビオサエ直に 縦方向ハケメ。	-	28
140	埋土	SS67	珠網 すり鉢	-	-	-	1	普通。	普通	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	回転ナブ。	回転ナブ。すり 目。	-	28
141	埋土	SS222	青磁 椀	-	-	-	1	普通。	普通	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	磨盤きによる施文。	片取りと磨盤き による磨花文。	内外面施釉。	28
142	埋土	SD15	白磁 椀	-	-	-	1	普通。	普通	7.5Y7/1 灰白	7.5Y7/1 灰白	体部下に圧痕。	-	体部内外面施釉。	27
143	埋土	SD194	灰志器 蓋	(20.4)	-	-	1	普通。	普通	2.5Y7/1 灰白	10Y68/1 灰白	回転ヘラケズリ。	回転ナブ。	-	27
144	埋土	SD194	灰志器 蓋	-	-	-	1	直径1mm以下の長石をわずかに含む。	普通	5Y6/0 灰	5Y6/0 灰	回転ナブ。天井部 回転ヘラケズリ。	回転ナブ。	-	-
145	埋土	SD194	灰志器 蓋	-	-	-	1	普通。	不良	5Y7/1 灰白	5Y6/1 灰	回転ナブ。	回転ナブ。	-	-
146	埋土	SD194	灰志器 杯A	12.0	9.2	4.6	10	普通。	不良	2.5Y6/6 灰	10Y68/2 灰白	回転ナブ。底部同 転ヘラ切り後に周 辺回転ヘラケズリ。	回転ナブ。	-	27
147	埋土	SD194	灰志器 杯A	-	(7.0)	-	1	普通。	普通	2.5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	回転ナブ。底部同 転ヘラケズリ。	回転ナブ。	-	-
148	埋土	SD194	灰志器 杯A	-	(9.0)	-	1	普通。	普通	7.5Y7/1 灰白	7.5Y7/1 灰白	回転ナブ。底部同 転ヘラケズリ。	回転ナブ。	-	-
149	埋土	SD194	灰志器 杯B	-	(7.8)	-	1	普通。	普通	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	回転ナブ。底部同 転ヘラケズリ。	回転ナブ。	内面に自然熱。	-
150	埋土	SD194	灰志器 杯B	-	(7.5)	-	1	染。直径1mm以下の長石を多く含む。	良好	5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	回転ナブ。高台貼 付後ナブ。	回転ナブ。	内面に錆付意。	27
151	埋土	SD194	灰志器 椀	-	-	-	1	普通。	普通	10Y66/2 灰黄地	10Y66/2 灰黄地	回転ナブ。	回転ナブ。	-	-
152	埋土	SD194	灰志器 蓋	-	-	-	1	染。直径1mm以下の長石をわずかに含む。	良好	2.5Y5/1 黄灰	7.5Y6A/1 褐灰	回転ナブ。	回転ナブ。	-	-
153	埋土	SD194	灰志器 横盤	-	-	-	1	普通。	普通	2.5Y5/1 黄灰	10Y64/1 褐灰	カキメ。	回転ナブ。	外面に自然熱。	27
154	埋土	SD194	灰志器 盤	(11.0)	-	-	1	普通。	普通	2.5Y5/1 黄灰	5Y6/0 灰	回転ナブ。	回転ナブ。	内面に自然熱。	27
155	埋土	SD194	灰志器 双耳壺	-	-	-	1	普通。	普通	5Y7/1 褐灰	5Y7/1 褐灰	ユビオサエ。	回転ナブ。	内外面に鉄粒。	27
156	埋土	SK10	灰志器 杯G	-	(7.4)	-	1	普通。	普通	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	回転ナブ。底部ヘ ラ切り。	回転ナブ。	-	-
157	埋土	SK10	土師器 蓋	-	-	-	1	直径1mm以下の石屑をわずかに含む。	普通	10Y68/2 灰白	10Y68/2 灰白	横ナブ。	横ナブ。	-	-
158	埋土	SK30	灰志器 杯B	(13.0)	-	-	1	普通。	普通	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	回転ナブ。	回転ナブ。	-	29
159	埋土	SK30	灰志器 杯	(16.0)	-	-	2	普通。	普通	5Y6/1 灰白	5Y6/1 灰白	回転ナブ。	回転ナブ。	-	-
160	埋土	SK30	青磁 蓋	(8.8)	(3.8)	2.9	1	普通。	普通	7.5Y7/1 明緑灰	7.5Y7/1 明緑灰	底部ヘラケズリ。	磨盤きによる磨 花文。	内外面施釉。	29

第20表 第50次調査遺物観察表(6)

遺物番号	遺物種別	出土遺物種別	法量 (cm)			破片数	胎土	構成	色調		成形・調整等		備考	図録番号
			口徑	高さ	器高				外面	内面	外面	内面		
161	埴土	SK90	原形器類A	-	(6.0)	-	1	普通	5/7/1 灰白	5/7/1 灰白	回転ナデ。底部回転糸切り後に周辺ナデ。	回転ナデ。	-	29
162	埴土	SK90	原形器類A	-	(5.0)	-	1	高径1cm以下の長石を多く含む。	7.5/8/2 灰黄	7.5/8/4 に2.5-黄	底部回転糸切り後に周辺ナデ。	回転ナデ。	-	29
163	埴土	SK90	原形器類	-	-	-	1	普通。	8/9 灰白	2.5/3/1 オリーブ	平行タタキ。	当て具痕後にナデ。	-	29
164	埴土	SK138	原形器類B	13.4	10.2	3.8	2	普通。	7.5/8/2 灰黄	10/8/1 褐色	回転ナデ。底部回転ヘラタタキ。	回転ナデ。	-	29
165	埴土	SK138	土師器類	(11.0)	-	-	7	高径1cm以下の長石・赤色酸化土をわずかに含む。	10/8/1 褐色	10/8/1 褐色	口縁下横ナデ。縦方向ハケメ。下部ヘラナデ。ユビオサエ。ナデ。	横ナデ。	内外面に僅行着。	-
166	埴土	SK138	土師器類	-	-	-	1	高径2cm以下の長石・石灰を多く含む。	10/8/1 灰白	10/8/1 灰白	口縁下横ナデ。縦方向ハケメ。ユビオサエ。	横方向ハケメ。	-	-
167	埴土	SK166	瀬戸島焼人子	5.1	3.0	1.6	1	普通。	2.5/8/2 灰白	2.5/8/2 灰白	回転ナデ。底部回転糸切り。	回転ナデ。	8甲位の輪花文。自然結付着。	29
168	埴土	SK180	原形器類	-	-	-	1	普通。	5/8/1 灰白	5/8/1 灰白	回転ヘラタタキ。	回転ナデ。	-	-
169	埴土	SK180	原形器類杯 or 椀	-	-	-	1	普通。	5/8/1 灰	5/7/1 灰白	回転ナデ。	回転ナデ。	-	-
170	埴土	SK180	原形器類鉢	-	-	-	1	高径2cm以下の長石を多く含む。	2.5/6/1 黄灰	5/6/1 灰	回転ナデ。工具痕。	回転ナデ。	-	29
171	埴土	SK181	原形器類	-	-	-	1	高径1cm以下の長石をわずかに含む。	7.5/7/1 灰白	5/7/1 灰白	回転ナデ。	回転ナデ。	-	-
172	埴土	SK205	珠洲十目鉢	-	-	-	2	普通。	7.5/8/1 灰	7.5/8/1 灰	回転ナデ。	回転ナデ。	10本の十目目。	29
173	埴土	SK187	中定世類	-	-	-	1	高径1cm以下の長石をわずかに含む。	7.5/8/1 灰	2.5/3/1 オリーブ	ユビオサエ。	ユビオサエ。	内外面に鉄粒。	-
174	埴土	SK205	原形器類	-	-	-	1	普通。	2.5/7/1 灰白	2.5/7/1 灰白	板ナデ。	回転ナデ。底部ナデ。	-	-
175	埴土	SK205	山形焼小皿	8.0	(5.0)	1.7	1	普通。	2.5/7/1 灰白	7.5/8/1 灰	回転ナデ。底部ナデ。	回転ナデ。	外面に自然結。	29
176	埴土	SK205	中定世類	-	-	-	1	普通。	2.5/8/1 黄灰	2.5/8/2 灰黄	回転ナデ。口縁下横ナデ。	回転ナデ。口縁下横ナデ。	内面に自然結。	-
177	埴土	SK239	青磁類	-	-	-	1	漆。	5/7/1 新オリーブ	5/7/1 新オリーブ	輪肉跡。	回転ナデ。	内外面塗着。	-
178	埴土	SK239	瀬戸島焼小皿	-	-	-	1	普通。	7.5/7/1 灰白	7.5/7/1 灰白	輪肉跡。	回転ナデ。	-	29
179	埴土	SK240	瀬戸島焼煎皿	-	-	-	1	高径1cm以下の長石をわずかに含む。	5/7/3 浅黄	2.5/8/1 灰白	回転ナデ。貫入。	回転ナデ。輪肉跡。	内外面に灰粒。	-
180	埴土	SP29	原形器類杯A	-	(6.0)	-	1	板。	2.5/8/2 灰白	2.5/8/2 灰白	回転ナデ。底部ヘラ調整。	回転ナデ。	-	-
181	埴土	SP29 SP199	原形器類	-	-	-	2	普通。	2.5/8/2 灰白	2.5/8/2 灰白	ナデ。	ナデ。	-	-
182	埴土	SP53	原形器類杯	-	-	-	1	普通。	10/8/3 浅黄橙	10/8/2 灰白	回転ナデ。	回転ナデ。	-	-
183	埴土	SP98	原形器類杯A	(10.4)	(9.6)	3.1	1	普通。	2.5/7/1 灰白	7.5/7/1 灰白	回転ナデ。底部回転ヘラタタキ後にナデ。	回転ナデ。	-	-
184	埴土	SP59	原形器類	-	-	-	1	普通。	10/8/1 灰白	10/8/2 に2.5-黄	回転ナデ。	回転ナデ。	-	-
185	埴土	SP74	原形器類	-	-	-	1	普通。	7.5/7/1 灰白	7.5/7/1 灰白	回転ナデ。	回転ナデ。	内外面に自然結。	-
186	埴土	SP93	土師器類	(9.2)	-	-	2	普通。	2.5/8/2 灰白	2.5/8/3 浅黄	口縁下横ナデ。	横ナデ。	-	-
187	埴土	SP93	土師器類	(8.0)	-	1.5	1	普通。	10/8/2 灰白	10/8/2 灰白	未調整。	横ナデ。	-	-
188	埴土	SP96	山形焼椀	-	-	-	1	普通。	7.5/7/1 灰白	7.5/7/1 灰白	回転ナデ。	回転ナデ。	内面に自然結。	-
189	埴土	SP98	原形器類杯A	(12.2)	(10.4)	3.8	1	普通。	2.5/8/2 灰白	2.5/8/2 灰白	回転ナデ。底部回転ヘラタタキ。	回転ナデ。	-	-
190	埴土	SP99	白磁石皿	-	-	-	1	普通。	7.5/8/1 灰白	7.5/8/1 灰白			内外面塗着。	-
191	埴土	SP102	土師器類	-	-	-	1	普通。	2.5/8/2 灰白	2.5/8/3 浅黄	口縁下横ナデ。縦方向ハケメ。	ナデ。	-	-
192	埴土	SP107	原形器類	-	-	-	1	普通。	2.5/7/1 灰白	2.5/7/1 灰白	回転ナデ。	回転ナデ。	-	-
193	埴土	SP110	原形器類	(30.0)	-	-	2	普通。	5/7/1 灰白	7.5/7/1 灰白	ナデ。底部下から平行タタキ。	ナデ。	内外面に自然結。	29
194	埴土	SP123	原形器類	-	-	-	1	普通。	10/8/1 褐色	10/8/1 褐色	回転ナデ。天井部回転ヘラタタキ。	回転ナデ。	-	-
195	埴土	SP144	土師器類	(14.0)	-	-	1	普通。	7.5/8/3 浅黄橙	7.5/8/4 浅黄橙	横ナデ。	横ナデ。	内外面に僅行着。	-

第21表 第50次調査遺物観察表(7)

遺物番号	階位	出土遺構	種別	法量 (cm)			破片数	胎土	焼成	色調		成形・調整等		備考	図面番号	
				口徑	底径	器高				外面	内面	外面	内面			
196	埋土	SP148	灰釉陶器	-	-	-	1	普通。	普通	2.577/1 灰白	2.577/1 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	-	-	
197	埋土	SP148	灰釉器 小片	-	(8.8)	-	1	普通。	普通	86.0 灰	1076/1 灰	回転ナズ。底縁へ タテリ後ナズ。	回転ナズ。タテ リ後ナズ。	30	-	
198	埋土	SP154	山形陶器	-	-	-	1	普通。	普通	7.577/1 灰白	7.577/1 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	-	内面に自然釉。	
199	埋土	SP170	灰釉器	-	-	-	1	普通。	不具	7.577/1 灰白	577/1 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	-	-	
200	埋土	SP174	珠洲 ナリ鉢	-	-	-	1	普通。	普通	577/1 灰白	577/1 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。ナリ 目。	30	-	
201	埋土	SP192	青磁 椀	-	-	-	1	密。	良好	575/3 灰	575/3 灰	片断りによる施 文。	内外面施釉。貫入 あり。	-	-	
202	埋土	SP192	瀬戸美濃 壺	-	-	-	1	密。	良好	2.577/2 灰黄	578/1 灰白	ナズ。灰釉。	ナズ。上部に灰 釉。	30	-	
203	埋土	SP201	土師器	(8.0)	(5.0)	2.1	1	密。直径2cm以下の チャートを含む。	普通	7.578/1 灰白	107K8/1 灰白	口縁・体部横ナズ。 底面未調整。	横ナズ。	30	-	
204	埋土	SP201	土師器	9.2	4.4	2.2	5	普通。	普通	7.578/3 灰黄緑	7.578/3 灰黄緑	未調整。	横ナズ。	30	-	
205	埋土	SP201	奈良製品 木皿	残長 4.5	残幅 4.05	残厚 0.9	1	重さ13.3g。全体に磨行着。	-	-	-	-	-	-	-	-
206	埋土	SP217	珠洲 片口鉢	-	-	-	-	直径1cm以下の長石を 多く含む。	普通	577/1 灰白	2.576/1 灰黄	ナズ。口縁下横ナ ズ。	ナズ。	30	-	
207	埋土	SP218	土師器	-	-	-	1	雲母を含む。	普通	107K7/4 灰	107K7/4 灰	横ナズ。下部未調 整。	ナズ。	30	-	
208	埋土	SP224	瀬戸美濃 四足壺	-	-	-	1	密。赤色酸化土をわず か含む。	良好	7.578/2 灰	578/1 灰白	ナズ。縁状把手付。 全面施釉。	ナズ。ユビオサキ。 断面に輪巻れあり。	30	-	
209	埋土	SP224	灰釉器 杯B	-	(9.4)	-	1	普通。	普通	2.576/1 灰黄	576/1 灰	回転ナズ。底面回 転ヘラクスリ。高 台貼付後に焼成ナズ。	回転ナズ。	-	-	
210	埋土	SP246	打製石片	残長 9.6	残幅 4.6	残厚 1.3	1	短冊形。基部欠損。磁化弱。重さ49.5g。自然面あり。使用痕あり。	-	-	-	-	-	30	-	
211	埋土	SP257	灰釉器 杯B	-	(6.7)	-	1	密。直径1cm以下の長石 をわずかに含む。	良好	2.578/3/4 灰	578/3/4 灰	回転ナズ。高台貼 付後に焼成ナズ。	回転ナズ。	-	-	
212	埋土	SP263	石製品 磁石	(14.0)	-	-	1	密。直径1cm以下の長石 をわずかに含む。	良好	85.0 灰	107K6/2 灰黄緑	回転ナズ。	回転ナズ。	30	内面磁化。	
213	埋土	SP273	石製品 砥石	長 13.3	幅 7.5	厚さ 4.6	1	重さ546.5g。細磁化。厚石を 磨打して使用。砥面に4面(研磨方向があらゆる方向に直 線がある)。	-	-	-	-	-	29	-	
214	確認法	遺構 確認法	灰釉器 杯A	(16.0)	-	-	1	普通。	普通	578/1 灰白	578/1 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	-	-	
215	確認法	遺構 確認法	灰釉器 壺	-	-	-	1	密。直径1cm以下の長石 をわずかに含む。	不具	7.578/4 灰黄緑	7.578/4 灰黄緑	回転ナズ。	回転ナズ。	-	-	
216	確認法	遺構 確認法	灰釉器 壺	-	-	-	1	密。直径1cm以下の長石・ 石英をわずかに含む。	良好	107K6/1 灰	107K5/1 灰	回転ナズ。天井部 回転ヘラクスリ。	回転ナズ。	-	-	
217	確認法	遺構 確認法	灰釉器 杯A	-	(7.6)	-	1	普通。	普通	577/1 灰白	577/1 灰白	回転ナズ。回転ヘ ラクスリ後ナズ。	回転ナズ。	-	-	
218	確認法	遺構 確認法	灰釉器 杯A	-	(8.0)	-	1	普通。	普通	7.576/1 灰	577/1 灰白	底面回転ヘラクス リ後ナズ。	回転ナズ。	-	-	
219	確認法	遺構 確認法	灰釉器 杯B	(12.0)	8.5	3.1	1	密。直径1cm以下の長石 をわずかに含む。	良好	88.0 灰白	577/1 灰白	回転ナズ。底付高 直。	回転ナズ。中央 にユビオサキ。全 面にナズ後に 焼成を伴うよう にナズ。	30	-	
220	確認法	遺構 確認法	灰釉器 杯B	-	(9.0)	-	1	普通。	普通	577/1 灰白	577/1 灰白	回転ナズ。底付高 直。	回転ナズ。	-	-	
221	確認法	遺構 確認法	灰釉器 杯B	-	(8.4)	-	1	普通。	普通	107K5/1 灰	107K5/1 灰	回転ナズ。底部回 転ナズ。高台貼 付後に焼成ナズ。	回転ナズ。	-	-	
222	確認法	遺構 確認法	灰釉器 杯B	-	(11.0)	-	1	普通。	普通	578/2 灰白	578/2 灰白	底面回転ナズ。底 付高直。	回転ナズ。	-	-	
223	確認法	遺構 確認法	灰釉器 杯A	-	(6.0)	-	1	普通。	普通	577/1 灰白	2.578/1 灰白	回転ナズ。底面回 転ナズ。	回転ナズ。	-	-	
224	確認法	遺構 確認法	灰釉器 杯A	-	(6.8)	-	1	普通。	普通	2.576/1 灰黄	576/1 灰	回転ナズ。回転未 成り。	回転ナズ。	-	-	
225	確認法	遺構 確認法	灰釉器 杯A	-	5.8	-	1	普通。	普通	2.576/1 灰黄	2.576/1 灰黄	回転ナズ。底面回 転ナズ。	回転ナズ。	30	-	
226	確認法	遺構 確認法	灰釉器 杯B	-	(9.0)	-	1	直径1cm以下の長石を 多く含む。	普通	7.578/3 灰	7.578/3 灰	未切り後高台貼 付後に焼成ナズ。	回転ナズ。	-	-	
227	確認法	遺構 確認法	灰釉器 椀	(12.8)	-	-	1	普通。	普通	86.0 灰	2.5677/1 明オリブ 灰	回転ナズ。	回転ナズ。	-	-	
228	確認法	遺構 確認法	灰釉器 鉢	-	-	-	1	普通。	普通	577/2 灰白	577/2 灰白	ナズ。体部下に割 れへの痕跡。	ナズ。	-	-	
229	確認法	遺構 確認法	灰釉器 短冊壺	-	-	-	1	直径2cm以下の長石を 多く含む。	普通	107K6/1 灰	85.0 灰	ナズ。	ナズ。当て具痕。 口縁下横ナズ。	30	-	

第22表 第50次調査遺物観察表(8)

遺物番号	単位	出土遺物 種別	種別 器種	法量 (cm)			破片 数	胎土	構成	色調		成形・調整等		備考	図面 番号
				口径	高さ	器高				外面	内面	外面	内面		
230	縄文遺跡	須恵器	短須恵器	-	-	-	1	直径100以下の長石を わずかに含む。	普通	S14/1 灰	10YR5/2 灰黄褐色	回転ナズ。	回転ナズ。	自然焼。	-
231	縄文遺跡	須恵器	小須恵器	-	-	-	1	普通。	普通	S17/1 灰白	S16/1 灰	回転ナズ。横紋沈 着。	回転ナズ。スピ オオコ。	-	-
232	縄文遺跡	須恵器	壺	-	-	-	1	普通。	普通	S17/1 灰白	S17/1 灰白	回転ナズ。回転ヘ ラケズリ後ナズ。	回転ナズ。	30	-
233	縄文遺跡	須恵器	小須恵器	-	(5.2)	-	1	普通。	普通	S14/1 灰	2.5Y1/1 黄灰	回転ナズ。高台貼 付後に周辺ナズ。	回転ナズ。	内外面に自然焼。	30
234	縄文遺跡	須恵器	瓶	-	-	-	2	底。直径200以下の長石 をわずかに含む。	良好	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	外面に自然焼。	30
235	縄文遺跡	須恵器	小須恵器	-	(6.8)	-	1	普通。	普通	2.5Y6/1 灰白	10YR5/2 灰黄褐色	回転ナズ。底面回 転未切り。	回転ナズ。	内面に自然焼。	30
236	縄文遺跡	須恵器	壺	-	-	-	1	普通。	普通	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y6/1 黄灰	ナズ。平行タタキ。	ナズ。	内面に磨き。	-
237	縄文遺跡	須恵器	壺	-	-	-	1	普通。	普通	7.5Y6/1 灰白	7.5Y6/1 灰	ナズ。	磨り肌。	裏の転用。	-
238	縄文遺跡	須恵器	双耳壺	-	-	-	1	普通。	普通	S17/1 灰白	S12/1 黒	回転ナズ。	回転ナズ。	底部外面と内面全 体に自然焼。	30
239	縄文遺跡	須恵器	反輪陶器	瓶	-	-	1	普通。	普通	S17/2 灰白	S17/2 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	-	-
240	縄文遺跡	須恵器	反輪陶器	壺	-	-	1	普通。	普通	S17/1 灰白	S17/1 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	-	-
241	縄文遺跡	須恵器	山菜綱 小壺	(9.0)	-	-	1	普通。	良好	2.5Y7/1 灰白	10YR7/1 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	口縁下に段をも つ。内面と口縁部 に自然焼。	-
242	縄文遺跡	須恵器	山菜綱 小壺	-	(4.0)	-	1	直径200以下の長石・ 石莖をわずかに含む。	良好	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	ナズ。ヘラ調整。	ナズ。	内面自然焼。内面に 磨きかけ。	-
243	縄文遺跡	須恵器	山菜綱 壺	(13.2)	-	-	1	普通。	普通	10YR7/2 に少し黄褐色	10YR7/2 に少し黄褐色	回転ナズ。	回転ナズ。	内外面自然焼。	-
244	縄文遺跡	須恵器	山菜綱 無台壺	-	(7.0)	-	2	普通。	普通	2.5Y6/3 黄褐色	2.5Y7/2 灰黄褐色	回転ナズ。底部回 転未切り。	回転ナズ。	外面に磨きかけ焼 の肌。	-
245	縄文遺跡	須恵器	瀬戸美濃 大目基須器	-	-	-	1	普通。	普通	S13/1 オリーブ黒	S12/1 黒	回転ナズ。	回転ナズ。	内外面自然焼。	-
246	縄文遺跡	須恵器	瀬戸美濃 平壺	-	-	-	1	普通。	普通	S17/2 灰白	S17/2 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	内外面自然焼。	-
247	縄文遺跡	須恵器	青磁 瓶	-	-	-	1	普通。	普通	7.5Y6/3 オリーブ黄	7.5Y6/3 オリーブ黄	磨り出し高台。	磨り出し高台。	磨きによる画 花文。	-
248	縄文遺跡	須恵器	青磁 壺	-	6.6	-	1	普通。	普通	2.5Y5/1 オリーブ灰	2.5Y6/1 オリーブ灰	磨り出し高台。	磨り出し高台。	内外面自然焼。	30
249	縄文遺跡	須恵器	白磁 壺	-	-	-	1	普通。	普通	7.5Y7/1 灰白	7.5Y7/1 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	内外面自然焼。	-
250	縄文遺跡	須恵器	白磁 壺	-	-	-	1	普通。	普通	7.5Y8/1 灰白	7.5Y8/1 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	内外面自然焼。	30
251	縄文遺跡	須恵器	反輪陶器	瓶	-	-	1	底。	普通	7.5Y7/2 灰白	7.5Y7/2 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	内外面自然焼。	-
252	表土	表土	須恵器	壺	-	-	1	普通。	普通	N8/0 灰白	2.5Y7/1 灰白	回転ナズ。天井部 回転ヘラケズリ。	回転ナズ。	内面に磨き。	30
253	表土	表土	須恵器	壺	-	-	1	直径100以下の長石を 多く含む。	良好	10YR5/1 灰白	N7/0 灰白	回転ヘラケズリ。	回転ナズ。	-	-
254	表土	表土	須恵器	壺	(10.4)	-	1	普通。	良好	2.5Y6/2 黄灰	2.5Y6/2 黄灰	回転ナズ。	回転ナズ。	天井部外面に自然 焼。	-
255	表土	表土	須恵器	杯A	-	(10.1)	1	普通。	普通	S16/1 灰	S16/1 灰	回転ナズ。底面回 転ヘラケズリ。	回転ナズ。	-	-
256	表土	表土	須恵器	杯B	-	(7.8)	1	普通。	普通	7.5Y6/1 灰	7.5Y6/1 灰	回転ナズ。高台貼 付後に周辺ナズ。	回転ナズ。	-	-
257	表土	表土	須恵器	杯B	-	(11.2)	1	直径100以下の長石を 多く含む。	普通	10YR7/1 灰	10YR7/1 灰	底面回転ヘラケズ リ。高台貼付後に 高台周辺回転ヘ ラケズリ調整。	回転ナズ。	30	-
258	表土	表土	須恵器	杯	(13.2)	-	1	普通。	普通	S17/1 灰白	S17/1 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	-	-
259	表土	表土	土師器	壺	-	-	2	普通。	普通	10YR7/3 に少し黄褐色	10YR8/2 に少し黄褐色	ナズ。	横ナズ。	-	-
260	表土	表土	反輪陶器	三足壺	(18.4)	-	1	直径100以下の赤色陶 化土をわずかに含む。	良好	2.5Y8/1 灰白	2.5Y7/2 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	内面に自然焼。	30
261	表土	表土	丸瓦	石製 3.7	厚さ (1.8-4.3)	-	1	普通。	中々 軟質	10YR7/3 灰白	に少し黄褐色	凸面縁方向に板ナ ズ後に横ナズ。	凹面有目肌。	全体に厚焼。	-
262	表土	表土	瀬戸美濃 平壺	(18.4)	-	-	1	普通。	普通	S17/1 灰白	S17/1 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	内外面自然焼。	30
263	表土	表土	瀬戸美濃 小壺	-	-	-	1	普通。	普通	S12/1 黒	7.5YR7/2 明褐色	回転ナズ。	回転ナズ。	外面に自然焼。	30
264	表土	表土	瀬戸美濃 折縁壺	-	-	-	1	普通。	普通	S18/2 灰白	7.5Y8/1 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	内外面に自然焼。	30
265	表土	表土	白磁 壺	-	-	-	1	底。	良好	2.5Y8/1 灰白	S17/1 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	内外面自然焼。貫入 あり。	-

## 第4章 過去の試掘確認調査等の成果

## 第1節 各調査成果について

## 1 調査概要

上町遺跡では68次に及ぶ調査を実施しており、これまで本調査を中心に報告を行ってきた。ここでは1992～2022年に行った未報告分の試掘確認調査や工事立会で確認した遺構や遺物について詳述する(第63図、第23表)。

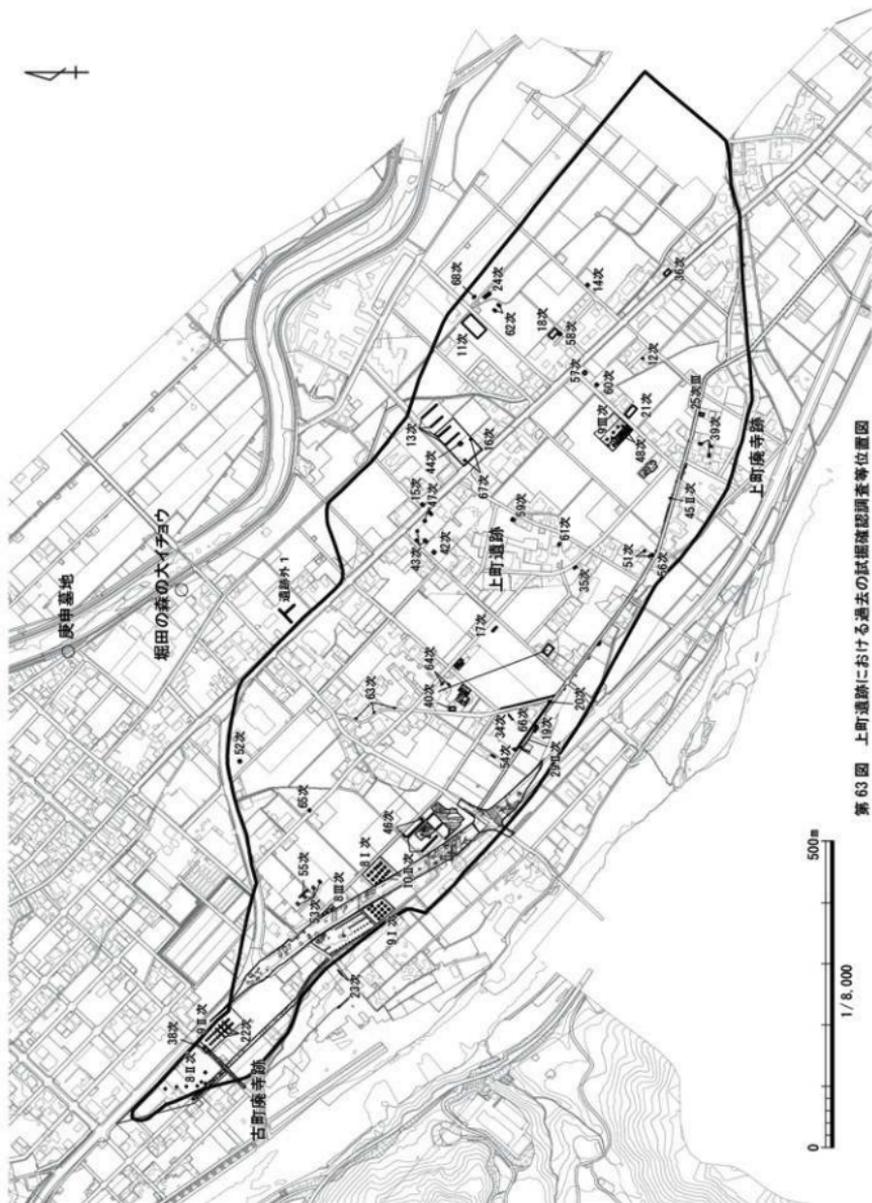
## 2 第8Ⅰ次調査(第64・65図、第24表)

調査日 1993年5月11～15日

開発の目的 ガソリンスタンド建設工事

第23表 試掘確認調査等出土遺物集計表

調査 次数	須恵器																	土器器					灰釉陶器		中世陶器		計							
	KH			KHG			KH		KH		KH		KH		KH		KH		KH		KH													
	器	身	蓋	器	身	蓋	器	身	蓋	器	身	蓋	器	身	蓋	器	身	蓋	器	身	蓋	器	身											
8Ⅰ							2	5					1	4					4	27				1	4	14	8	70						
8Ⅱ								2																				2						
9Ⅰ				1	1		6	2	1	1			2							2	36		1		1	5	15	80						
9Ⅱ	3	2	3		2	4	7	19	14	13	13			1					12	93	11	1	1	21	6	2	33	8	3	5	277			
9Ⅲ	1	1			2		1	2	3	2			2	1					7	16	3		1	16		1	1			60				
10Ⅰ																				19						33					52			
11																															4	4		
13	1						1	8	4	3	1			1					1	5	0	4		2	2	1	2				6	42		
14																									1							1		
22	1		1		8		1	23	18	12	2				1				10	25	6	6		16	1	4	13	6	4	18	176			
24																					2		4									7		
34		1		2	8	1	3	32	5	11	4		1		1				18	59				8	1		6	2	5	168				
39	3	1	2	18	35	22	44	101	119	87	7	2	3	24	10				54	338	1	23	2	204	1	2	130	24	11	69	1337			
40		1	1				1													3												6		
43							1	1												2		1		1								6		
48							2	6	3	1									6	19	1			9	1			3			51			
51		1	1	2			1	1							1	6	1			1	6	1		4		1	1	3			22			
53							3									1								1								1	6	
54				3	6	4	1	23	9	14	1	1	1			2	42						7			11	2	1	4	132				
57																																	1	1
63							1																			4							4	11
64				1	4	1	14	5	1	5	2									31	2	1		6	5		6	2	8		94			
66	2	1	1	2	3	11	19	128	30	30	13		1		2	1	35	174	4				2			63	12	2	5	541				
67																																	2	
遺跡外Ⅰ																					1												3	
総確計	11	8	7	28	71	45	95	360	218	179	44	3	10	32	14	7	147	881	48	42	3	1	297	19	49	275	53	51	153	3151				
割合(%)	0.35	0.25	0.22	0.88	2.25	1.43	3.81	11.42	6.92	5.68	1.40	0.10	0.32	1.02	0.44	0.22	4.67	28.00	1.52	1.33	0.10	0.02	9.43	0.60	1.56	8.72	1.68	1.62	4.96	100%				
種別計								2208															411			328	51	153	3151					
割合(%)								70.10															13.00			10.40	1.62	4.90	100%					



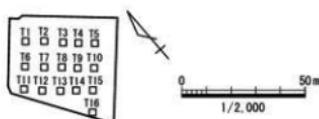
第63図 上町通跡における過去の試掘確認調査等位置図

**保護措置** 調査対象地全体に約2×2mのトレンチを16カ所設定し、試掘確認調査を行った。

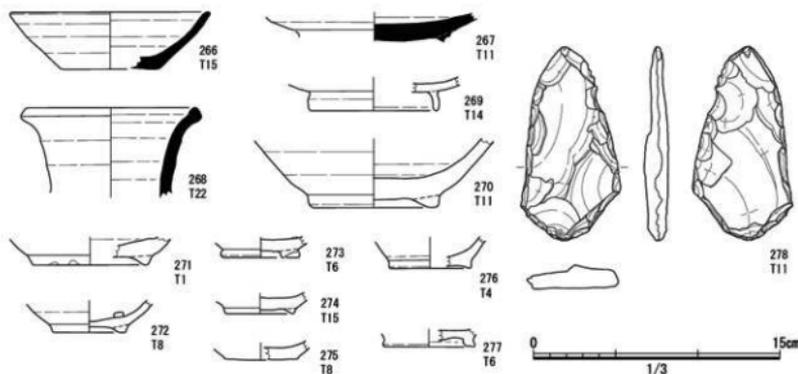
**土層と遺構** 不明。

**遺物** 遺物は須恵器43点、灰釉陶器4点、土師器1点、山茶碗10点、中世陶器3点、珠洲焼1点、陶磁器6点、石器・石製品2点、計70点を確認した。266は底部に回転糸切り痕が残る須恵器碗Aである。体部は直線的に立ち上がる。267は須恵器碗Bである。底部と体部の境に高台貼付痕が残る。268は須恵器長頸瓶である。口縁部は外反し、端部は方形を呈する。269は灰釉陶器の碗か皿である。底部片で、三日月状の高台を貼付し、端部は丸くおさめる。270・271は山茶碗である。270は回転糸切り痕が残り、逆三角形の高台を貼付する。モミガラ圧痕が残る。271は回転糸切り後に逆三角形の高台を貼付する。272～276は山茶碗小碗である。272・273は内面に重ね焼き痕が残る。274は逆三角形の高台を貼付する。275は底部に回転糸切り痕が残る。無高台である。276は底部に回転糸切り痕が残る。逆三角形の高台を貼付する。277は中国製陶器碗である。底部片で、内面には鉄釉を施す。高台は方形で、削り出し高台である。278は打製石斧である。刃部先端に使用痕が残る。

**所見** 古代から中世の遺物を確認していることから、当該期の遺構が残存している状況を推定でき、遺跡の範囲内と考えられる。



第64図 第81次調査遺構図



第65図 第81次調査出土遺物図

第24表 第8Ⅰ次調査遺物観察表

遺物番号	層位	出土遺物種別	法量 (cm)			破片数	胎土	焼成	色調		成形・調整等		備考
			口徑	底径	器高				外面	内面	外面	内面	
266	-	T15 須恵器 碗A	(12.2)	(6.0)	3.5	2	普通。	普通	077/1 灰白	077/1 灰白	回転ナズ。底部回 転未切り。	回転ナズ。	
267	-	T11 須恵器 碗B	-	-	-	1	普通。	普通	1075/1 灰	1075/1 灰	回転ナズ。底部回 転未切り。高台貼 付後に周辺ナズ。	回転ナズ。	
268	-	T22 須恵器 長柄鉢	(10.4)	-	-	1	普通。	普通	2.077/1 灰白	2.077/1 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	
269	-	T14 灰釉陶器 碗or蓋	-	8.9	-	1	普通。	普通	2.078/1 灰白	2.078/1 灰白	回転ナズ。底部高 台貼付後に周辺ナズ。 整熟。	回転ナズ。	
270	-	T11 山菜碗	-	(7.8)	-	1	普通。	普通	2.077/2 灰黄	2.077/2 灰黄	回転ナズ。底部回 転未切り。高台貼 付後に周辺ナズ。	回転ナズ。	高台にそくガワ痕。
271	-	T1 山菜碗	-	(7.8)	-	1	普通。	普通	2.078/1 灰白	2.078/1 灰白	回転ナズ。底部高 台貼付後に周辺ナズ。	回転ナズ。	
272	-	T8 山菜碗 小碗	-	(4.4)	-	1	普通。	普通	2.078/1 灰白	2.078/1 灰白	回転ナズ。底部高 台貼付。	回転ナズ。	内面に重ね焼き痕・ 自然焼。
273	-	T6 山菜碗 小碗	-	(4.6)	-	1	普通。	普通	2.077/1 灰白	2.077/1 灰白	回転ナズ。底部高 台貼付。	回転ナズ。	内面に重ね焼き痕・ 自然焼。
274	-	T15 山菜碗 小碗	-	(4.2)	-	1	普通。	普通	078/2 灰白	078/2 灰白	回転ナズ。高台貼 付後に周辺ナズ。	回転ナズ。	内面に自然焼。
275	-	T8 山菜碗 小碗	-	(4.4)	-	1	普通。	普通	2.077/1 灰白	2.077/1 灰白	回転ナズ。回転未 切り。	回転ナズ。	
276	-	T4 山菜碗 小碗	-	(5.0)	-	1	普通。	普通	2.078/1 灰白	2.078/1 灰白	回転ナズ。底部回 転未切り。	回転ナズ。	
277	-	T6 中国陶器 碗	-	(5.6)	-	1	普通。	普通	2.078/3 灰白	2.078/3 黄	回転ナズ。底部削 り出し高化。	回転ナズ。	内面に軟焼。
278	-	T11 石製品 打製石斧	長 11.9	幅 6.9	厚 1.5	1	彫形。刃部先端にわずかに使用痕あり。自然面あり。硬灰質。重さ103.6g。						

## 3 第8Ⅱ次調査 (第66図)

調査日 不明

開発の目的 不明

保護措置 調査対象地に2m×2mのトレンチを8カ所設定し、試掘確認調査を行った。

土層と遺構 土層は上層より大きく分けて第Ⅰ層表土・耕作土、第ⅢA層と考えられる堆積土、第Ⅳ層地山であった。T1ではカマドを確認した。

遺物 遺物は須恵器碗2点を確認した。

所見 T1でカマドを確認していることから、堅穴建物跡の存在が推測される。また、T4、T8において須恵器碗が1点ずつ出土している。これらより遺跡の範囲内と考えられる。

## 4 第8Ⅲ次調査 (第67図)

調査日 1993年

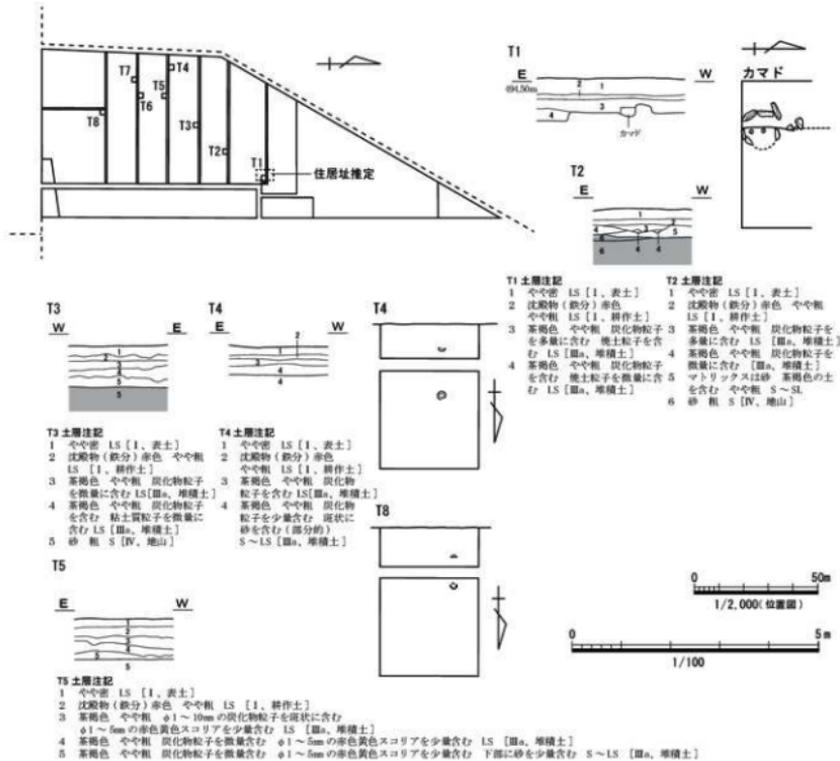
開発の目的 不明

保護措置 調査対象地に1m×1mのトレンチを1カ所、2m×2mのトレンチを3カ所設定し、試掘確認調査を行った。

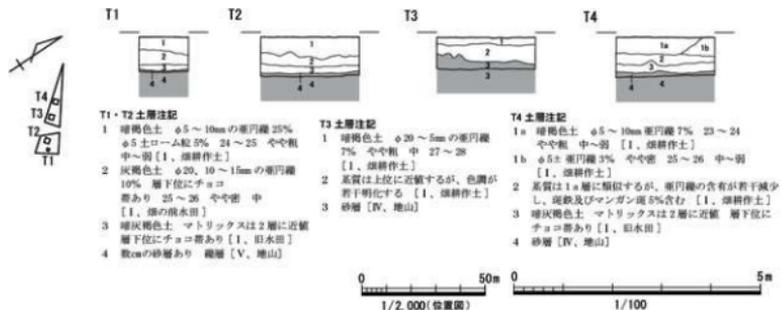
土層と遺構 土層は上層より大きく分けて第Ⅰ層耕作土・旧耕作土、第Ⅳ・Ⅴ層地山であった。遺構の確認はなかった。

遺物 遺物の確認はなかった。

所見 第Ⅳ・Ⅴ層地山まで掘削を行い、遺構・遺物の確認はなかったが、近隣地の第1次調査(C地点)において堅穴建物跡等を確認していることから、遺跡の範囲内と考えられる。



第 66 図 第 8 II 次調査遺構図



第 67 図 第 8 III 次調査遺構図

## 5 第9 I次調査（第68・69図、第25表）

調査日 1993年5月11日～15日

開発の目的 店舗建設

保護措置 調査対象地に2m×2mのトレンチを14カ所設定し、試掘確認調査を行った。

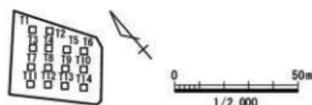
土層と遺構 不明。

遺物 遺物は須恵器52点、灰釉陶器6点、土師器2点、山茶碗1点、陶磁器19点、計80点を確認した。279は底部に回転ヘラケズリを施す須恵器杯Aである。体部は直線的である。口縁部は外反する。280～281は須恵器碗である。いずれも口縁部は外反する。282は須恵器高杯である。脚部はハの字状に開く。端部は垂下し、三角形を呈する。脚部上半の外面に一条の回線を施す。底部上部は透かし窓の痕が残る。283・284は灰釉陶器碗である。283は回転ヘラケズリ後に方形の高台を貼付する。高台には棒状工具による押圧を施す。284は底部に回転糸切り痕が残る。283は回転ヘラケズリであることから284に先行すると推定できる。

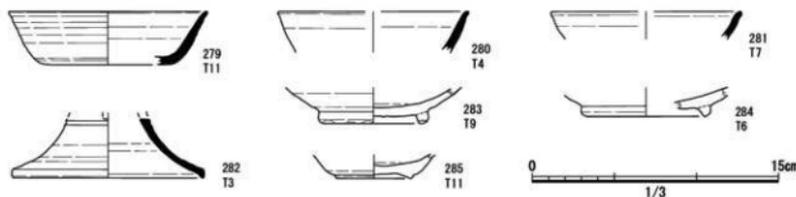
285は山茶碗小碗である。立ち上がりは直線的である。

削り出し高台である。尾張型第9形式に属する。

所見 古代から中世の遺物を確認していることから、当該期の遺構が残存する状況を推定でき、遺跡の範囲内と考えられる。



第68図 第9 I次調査遺構図



第69図 第9 I次調査出土遺物図

第25表 第9 I次調査遺物観察表

遺物番号	標位	出土遺構	種別 器種	法量 (cm)			破片数	胎土	焼成	色調		成形・調整等		備考
				口径	底径	器高				外面	内面	外面	内面	
279	-	T11	須恵器 杯A	(12.0)	(7.8)	3.3	1	直径1cm以下の長石を多く含む。	良好	503A/1 オリーブ 灰	107A/1 灰	回転ナズ。底部回転ヘラケズリ。	回転ナズ。	
280	-	T4	須恵器 碗	(11.5)	-	-	1	直径1cm以下の長石をわずかに含む。	良好	107B4/1 陶灰	2. 5036/4 にふい煙	回転ナズ。	回転ナズ。	
281	-	T7	須恵器 碗	(11.5)	-	-	1	直径1cm以下の長石をわずかに含む。	良好	7. 515/1 灰	515/1 灰	回転ナズ。	回転ナズ。	
282	-	T3	須恵器 高杯	-	(11.5)	-	1	密。	良好	514/1 灰	2. 515/1 陶灰	回転ナズ。脚部上半に1条の回線。	回転ナズ。	外面に自然釉。
283	-	T9	灰釉陶器 碗	-	(6.7)	-	1	密。直径2cm以下の長石・石英を多く含む。	良好	107B7/2 にふい黄 緑	107B8/1 灰白	回転ナズ。底部回転ヘラケズリ。高台貼付後に周辺ナズ。	回転ナズ。	無釉。高台に棒状圧痕。
284	-	T6	灰釉陶器 碗	-	(7.0)	-	1	直径1cm以下の長石をわずかに含む。	普通	508/1 灰白	2. 516/1 灰白	底部回転糸切り。高台貼付後に周辺ナズ。	回転ナズ。	無釉。
285	-	T11	山茶碗 小碗	-	(4.5)	-	1	直径1cm以下の長石をわずかに含む。	良好	107B7/1 灰白	2. 516/1 灰白	回転ナズ。底部削り出し高台。	回転ナズ。	

## 6 第9Ⅱ次調査(第70~72図、第26表)

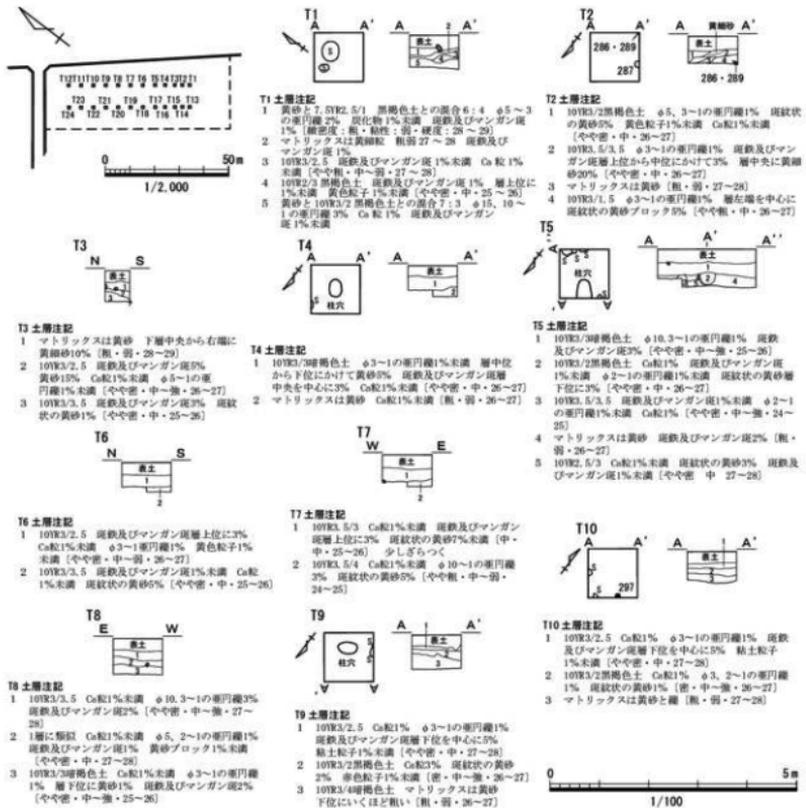
調査日 1994年11月22日~30日

開発の目的 工場建設工事

保護措置 調査対象地に1m×1mのトレンチを24カ所設定し、試掘確認調査を行った。

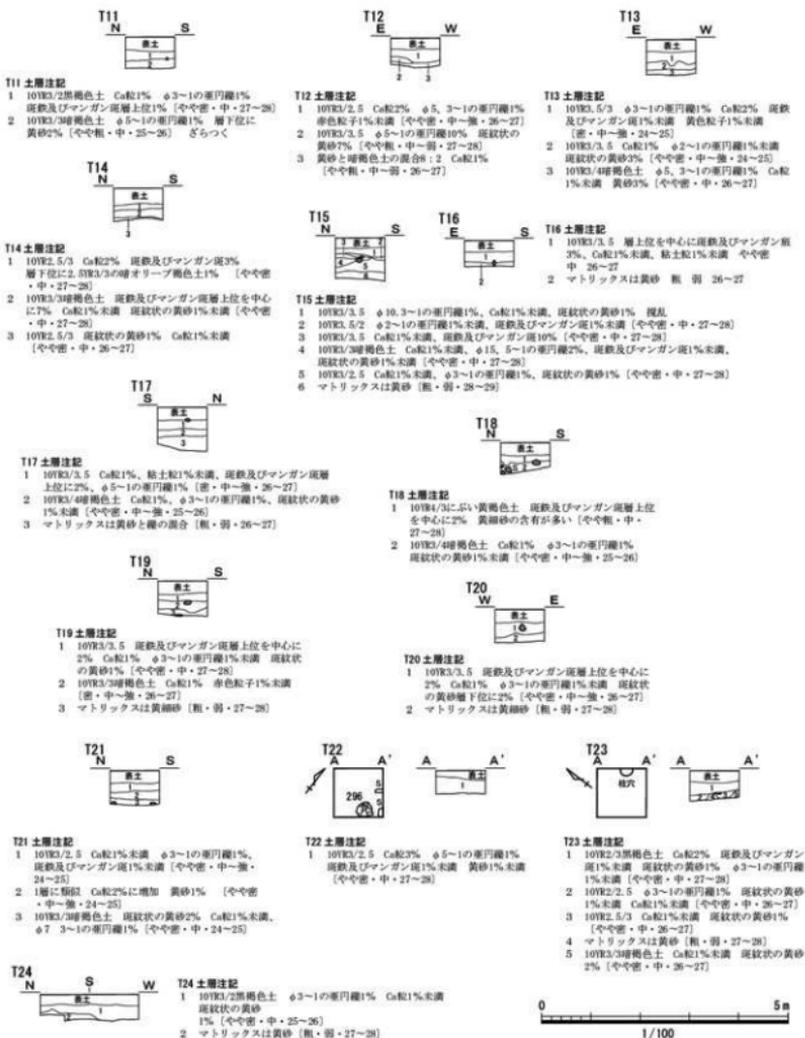
土層と遺構 遺構はT2、T4、T5、T9、T22、T23で柱穴7基を確認した。

遺物 遺物は須恵器197点、灰釉陶器41点、土師器31点、陶磁器7点、金属製品1点、計277点を確認した。286~288は須恵器杯H蓋である。286・287は内外面に回転ナデを施し、天井部は回転ヘラケズリを施す。天井部と口縁部の境に稜と回線を確認できる。口縁端部は丸くおさめる。H-44~H-15号窯式期に位置付けられる。288は天井部に回転ヘラケズリを施す。天井部と口縁部の境に明瞭な回線は確認できない。天井部が丸みを帯びる。口縁部は垂下し、口縁端部は丸くおさ

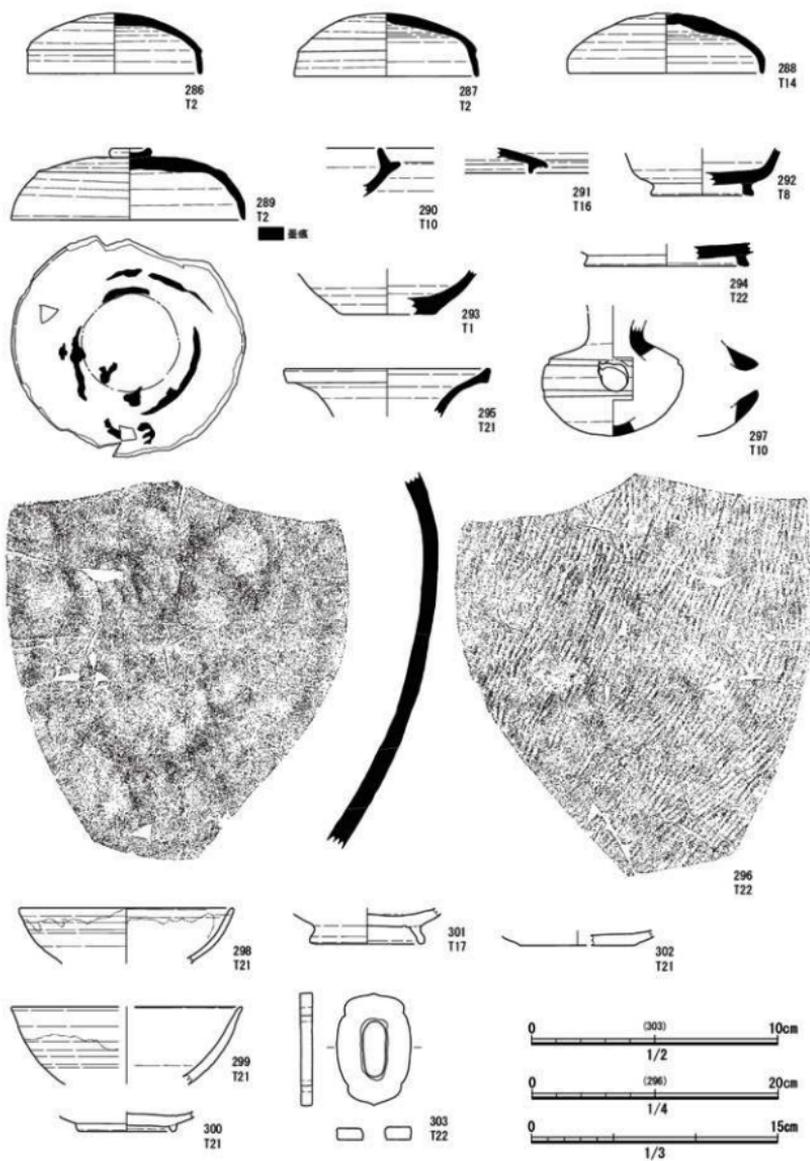


第70図 第9Ⅱ次調査遺構図(1)

める。I-101 号窯式期に位置付けられる。289 は須恵器楕み蓋である。天井部に回転ヘラケズリを施す。天井部と口縁部は明瞭な稜と凹線をもつ。H-10 ～ H-61 号窯式期に位置付けられる。内面に磨面と墨痕が残り、視として転用された可能性がある。290 は須恵器杯 H である。受部はほぼ水平で、立ち上がりは長く内傾する。291 は須恵器杯 G 蓋である。かえりが口縁端部より下方に突出する。292



第71図 第9Ⅱ次調査遺構図(2)



第72図 第9Ⅱ次調査出土遺物図

は底部に回転ヘラケズリを施す須恵器杯Bである。293は底部に回転糸切り痕が残る須恵器碗Aである。体部は直線的に立ち上がる。294は須恵器杯か碗である。回転ヘラケズリ後に方形の高台を貼付する。295は須恵器長頸瓶の口縁部片である。口縁部にかけて外反し、口縁端部は三角形を呈し、縁帯をめぐらす。296は須恵器甕の胴部である。外面に平行タタキ、内面に当て具痕が残る。297は須恵器甕である。頸部は長くのびる。丸底で胴肩部と胴部中央の2本の凹線が巡る。体部に文様はみられず、注口部は突き出ない。内面には棒状工具を押し当てた痕が残る。298～301は灰軸陶器碗である。298の体部は緩やかに内湾し、中央でやや屈曲する。口縁部に釉だれが確認できる。299の体部はゆるやかに内湾する。口縁端部はやや外反する。300は逆三角形の高台を貼付する。301は三日月状の高台を貼付し、外側に開く。302は土師器皿である。底部に回転糸切り痕が残る。内外面に回転ナデを施す。外面に煤が付着する。303は金属製品で、近世の鏝であると考えられる。

**所 見** 古墳時代と考えられる須恵器杯H蓋や身、古代の須恵器を確認した。柱穴も確認しており、一部には古墳時代から古代の遺構が残存する状況を推定できた。遺跡の範囲内と考えられる。

第26表 第9Ⅱ次調査遺物観察表

遺物番号	層位	出土遺物 種別	流量 (cm)			破片数	胎土	焼成	色調		成形・調整等		備考
			口徑	底徑	器高				外面	内面	外面	内面	
286	-	T2 須恵器杯H蓋	10.6	-	3.7	1	普通	普通	96/0 灰	96/0 灰	回転ナデ。天井部 回転ヘラケズリ。	回転ナデ。	
287	-	T2 須恵器杯H蓋	11.2	-	3.9	7	普通	普通	1016/1 灰	1016/1 灰	回転ナデ。天井部 回転ヘラケズリ。	回転ナデ。	
288	-	T14 須恵器杯H蓋	(12.0)	-	3.7	3	普通	普通	1016/1 灰	1016/1 灰	回転ナデ。天井部 回転ヘラケズリ。	回転ナデ。	
289	-	T2 須恵器蓋	14.2	-	4.4	9	良好	良好	95/0 灰	96/0 灰	回転ナデ。天井部 回転ヘラケズリ。	回転ナデ。天井部磨り痕。	天井部内面に墨痕。
290	-	T10 須恵器杯H身	-	-	-	1	普通	普通	1015/1 灰	1015/1 灰	回転ナデ。	回転ナデ。	
291	-	T16 須恵器杯G蓋	-	-	-	1	普通	普通	1016/1 灰	1016/1 灰	回転ナデ。天井部 回転ヘラケズリ。	回転ナデ。	
292	-	T8 須恵器杯B	-	(6.2)	-	1	普通	普通	1016/1 灰	1016/1 灰	回転ナデ。底部回 転ヘラケズリ。高 台貼付後に周辺ナ デ。	回転ナデ。	
293	-	T1 須恵器碗A	-	(6.0)	-	1	普通	普通	10186/1 褐色	2.015/1 黄灰	回転ナデ。底部回 転糸切り。	回転ナデ。	
294	-	T22 須恵器杯or碗	-	(10.0)	-	1	普通	普通	10185/1 褐色	5.086/3 にぶい黄	回転ナデ。底部回 転ヘラケズリ。高 台貼付後に周辺ナ デ。	回転ナデ。	
295	-	T21 須恵器長頸瓶	(12.4)	-	-	1	普通	普通	1017/1 灰白	1017/1 灰白	回転ナデ。	回転ナデ。	内外面に自然釉。
296	-	T22 須恵器甕	-	-	-	20	良好	良好	10186/2 灰白	2.517/1 灰白	平行タタキ。	当具痕。	外面に自然釉。
297	-	T10 須恵器甕	-	-	-	7	良	良	95/0 灰	1.514/1 灰白	回転ナデ。体部中 央に2本の凹線。	回転ナデ。太い 棒状工具による 深い押え痕。	外面上方に自然釉。
298	-	T21 灰軸陶器碗	(13.0)	-	-	3	良好	良好	1018/0 灰白	1018/1 灰白	回転ナデ。	回転ナデ。	内外面に灰釉。口縁部釉色あり。
299	-	T21 灰軸陶器碗	(14.0)	-	-	1	良	良	2.517/1 灰白	1018/2 灰白	回転ナデ。コピオ キエ。	回転ナデ。	内外面に灰釉。
300	-	T21 灰軸陶器碗	-	(3.6)	-	1	普通	普通	2.518/1 灰白	2.518/1 灰白	回転ナデ。	回転ナデ。	内面に灰釉。
301	-	T17 灰軸陶器碗	-	(7.0)	-	1	普通	普通	2.518/2 灰白	2.518/2 灰白	回転ナデ。底部高 台貼付後周辺ナ デ。	回転ナデ。	無釉。
302	-	T21 土師器皿	-	(7.0)	-	1	普通	普通	10187/3 灰白	10188/2 灰白	回転ナデ。底部回 転糸切り。	回転ナデ。	外面に煤付着。
303	-	T22 金属製品鏝	長 4.6	幅 3.0	厚 0.45 ～0.5	1					長さ23.6cm。孔径2.3×1.9cm。		錆付着。

## 7 第9Ⅲ次調査（第73・74図、第27表）

調査日 1998年7月7～9日

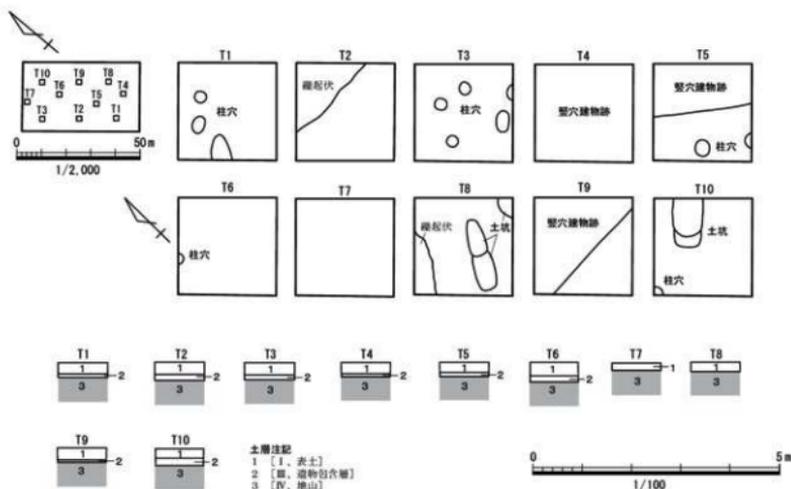
開発の目的 店舗建設工事

保護措置 調査対象地に2m×2mのトレンチを10カ所設定し、試掘確認調査を行った。

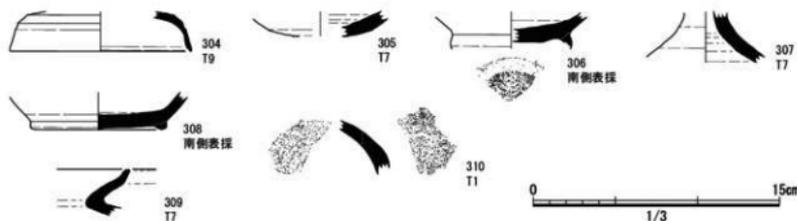
土層と遺構 土層は上層より大きく分けて第Ⅰ層表土、第Ⅲ層遺物包含層、第Ⅳ層地山であった。遺構はT4・5・9で竪穴建物跡3軒、T8・10で土坑5基、T1・3・5・6・10で柱穴12基を確認した。このうち、T1の西側柱穴1基、T3の南側柱穴2基、T8・10の土坑5基は掘立柱建物跡を構成する柱穴の可能性が考えられた。

遺物 遺物は須恵器41点、灰釉陶器1点、土師器17点、陶器1点、計60点を確認した。304は須恵器杯H蓋である。天井部と口縁部の境に稜と凹線を確認できる。口縁端部は尖る。305は丸底で、底部に回転ヘラケズリを施す須恵器杯Hである。306は底部に回転糸切り痕が残る須恵器碗Bである。底部と体部の境に高台を貼付する。307は須恵器高杯である。脚部片であり、ハの字状に開く。308は須恵器壺瓶類である。底部片であり、回転ヘラケズリ後に方形の高台を貼付する。309は須恵器甕である。口縁部片であり、頸部はくの字状を呈し、端部を上方につまみ上げる。310は須恵器甕である。体部片であり、外面は回転ナデ後に波状文を施す。

所見 須恵器杯H蓋や身、碗Bを確認していることから、古墳時代から古代の竪穴建物跡と推定でき、遺跡の範囲内と考えられる。



第73図 第9Ⅲ次調査遺構図



第74図 第9Ⅲ次調査出土遺物図

第27表 第9Ⅲ次調査遺物観察表

遺物番号	層位	出土遺構	種別	法量 (cm)			破片数	胎土	焼成	色調		成形・調整等		備考
				口径	底径	器高				外面	内面	外面	内面	
304	-	T9	須恵器 杯目蓋	(11.0)	-	-	1	赤。	普通	10YR5/1 褐色	2.5Y6/1 黄灰	回転ナズ。天井部 回転ヘラケズリ。	回転ナズ。	
305	-	T7	須恵器 杯目	-	(6.5)	-	1	黄径 1mm 以下の長石を わずかに含む。	普通	2.5Y6/1 黄灰	N7/0 灰白	底部回転ヘラケズリ。	回転ナズ。	
306	-	南側 表	須恵器 碗 B	-	(7.0)	-	1	普通。	良好	10YR5/1 褐色	2.5Y6/1 黄灰	底部回転未切り。 高台貼付後に回転 ナズ。	回転ナズ。	
307	-	T7	須恵器 高杯	-	-	-	1	黄径 1mm 以下の長石を わずかに含む。	普通	2.5Y6/1 黄灰	7.5YR7/1 明褐色	回転ナズ。	回転ナズ。	
308	-	南側 表	須恵器 油瓶類	-	8.3	-	1	黄径 1mm 以下の長石を わずかに含む。	良好	2.5Y4/1 黄灰	N7/0 灰白	底部回転ヘラケズリ。 高台貼付後に回転 ナズ。	回転ナズ。	外面に自然釉。
309	-	T7	須恵器 壺	-	-	-	1	黄径 1mm 以下の長石を わずかに含む。	良好	5Y5/1 灰	10YR6/1 褐色	平行タタキ。口縁 へ頭部回転ナズ。	当て具痕。口縁 へ頭部回転ナズ。	
310	-	T1	須恵器 壺	-	-	-	1	赤。黄径 1mm 以下の長 石をわずかに含む。	不良	N7/0 灰白	N8/0 灰白	ナズ。回転ナズ後 に液状火。	ナズ。	

## 8 第10Ⅱ次調査 (第75図)

調査日 1997年8月28日～9月6日

開発の目的 建物建築工事

保護措置 調査対象地に 37 × 2 m と 35 × 2 m のトレンチを東西方向に 2 カ所設定し、試掘確認調査を行った。

土層と遺構 土層は上層より大きく分けて第Ⅰ層表土、第Ⅲ層遺物包含層、第Ⅳ層地山であった。第Ⅳ層地山上面において堅穴建物跡4軒、土坑1基、溝状遺構4条、柱穴14基を確認した。なお、土坑については掘立柱建物跡を構成する柱穴の可能性が考えられた。1号溝状遺構は7SD2(金子地点2号溝状遺構)、4号溝状遺構は3SD3(上町D地点3号溝状遺構)に接続すると推定された。

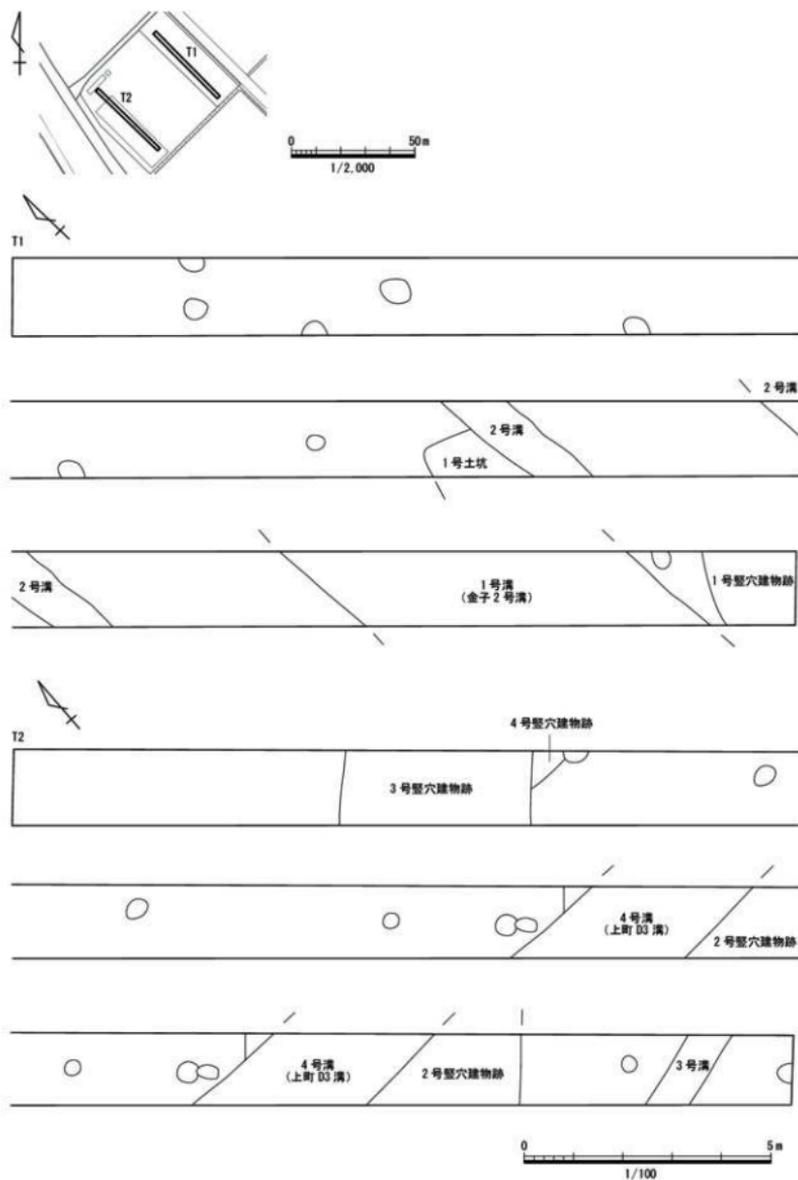
遺物 遺物は須恵器19点、土師器33点、計52点を確認した。

所見 遺構・遺物を確認しており、遺跡の範囲内と考えられる。また、溝状遺構は隣接地の調査で確認した溝状遺構と接続する可能性が高く、北側に遺跡が広がるのが想定された。この結果により、建物建築工事に伴う本発掘調査として、第10次調査(水見地点)を実施している。

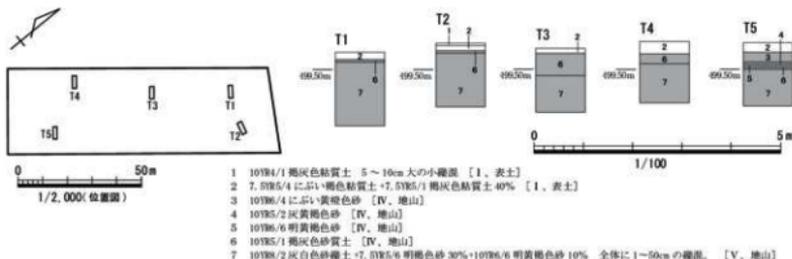
## 9 第11次調査(第76・77図、第28表)

調査日 2004年9月1日

開発の目的 工場建設工事



第75図 第10Ⅱ次調査遺構図



第76図 第11次調査遺構図



第77図 第11次調査出土遺物図

第28表 第11次調査遺物観察表

遺物番号	層位	出土遺構	種別器種	法量 (cm)			破片数	胎土	色調		成形・調整等		備考	
				口徑	高さ	器高			外面	内面	外面	内面		
311	地山	T1	近世陶器 天目茶碗	-	-	-	1	普通	普通	5YR5/3 に近い赤褐色	5YR5/3 に近い赤褐色	回転ナデ	回転ナデ	内外面に磨蝕

**保護措置** 調査対象地に 1.5m × 5m のトレンチを北西 - 南東方向に 5カ所を設定し、試掘確認調査を行った。

**土層と遺構** 土層は上層より大きく分けて第Ⅰ層表土、第Ⅳ・Ⅴ層地山であった。第Ⅳ・Ⅴ層上面及び断面で検出作業を行ったが、遺構の確認はなかった。

**遺物** 遺物は陶磁器 4点であった。311 は近世陶器の天目茶碗である。体部は内湾する。

**所見** 最下層の地山で近世遺物が出土していることから、近世まで荒城川の氾濫原であり、遺跡の範囲外と考えられる。

## 10 第12次調査 (第78図)

**調査日** 2005年10月24日

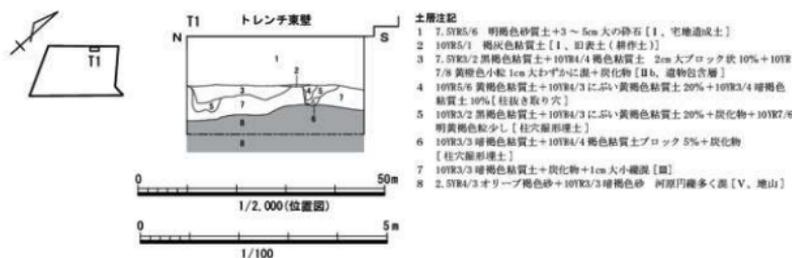
**開発の目的** 浄化槽埋設工事

**保護措置** 工事掘削に伴い、立会を実施した。

**土層と遺構** 現地地下 2m まで掘削された。土層は上層より大きく分けて第Ⅰ層地造成土・耕作土、第Ⅱb層遺物包含層、第Ⅲ層遺物包含層、第Ⅴ層地山であった。遺構は第Ⅲ層上面から掘り込む柱穴 2基を確認した。

**遺物** 遺物の確認はなかった。

**所見** 柱穴 2基の上層に第Ⅱb層が堆積していることから、柱穴の時期は平安時代以前と考えられた。一帯には、奈良時代以前の遺構が残存する状況を想定することができる。



第78図 第12次調査遺構図

## 11 第13次調査（第79~81図、第29表）

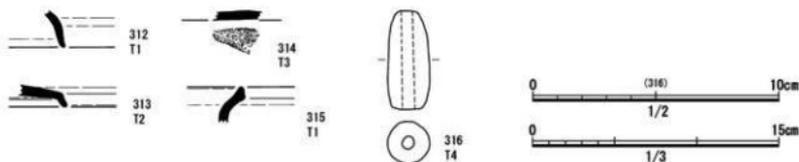
調査日 2006年12月7~9日

開発の目的 店舗建設工事

保護措置 調査対象地に幅1.2m、長さ25m~33mのトレンチを南北方向に4カ所設定し、試掘確認調査を行った。

土層と遺構 土層は上層より大きく分けて第I層耕作土・耕地道成土、遺構埋土、第IV層地山であった。遺構はT2で柱穴5基、T1で溝状遺構2基、T1で畝状遺構1条を確認した。

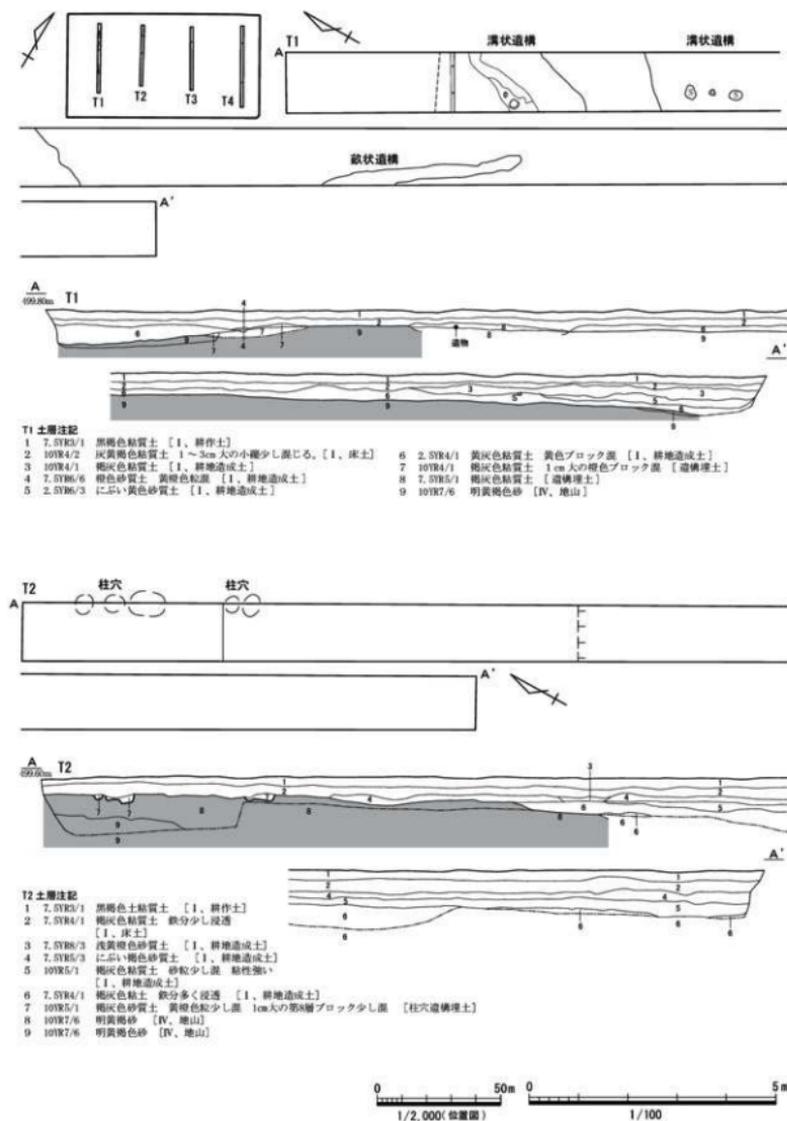
遺物 遺物は須恵器25点、灰釉陶器2点、土師器9点、土製品1点、陶磁器4点、金属製品1点、計42点を確認した。312は須恵器杯H蓋である。口縁部片であり、端部はゆるく外反し、丸くおさめる。313は須恵器摘み蓋である。口縁部片であり、口縁部で垂下し、端部は外反し、丸くおさめる。314は須恵器杯である。底部片であり、外面に刻書が残る。315は須恵器長頸瓶である。口縁部にかけて外反し、端部は上方につまみ上げる。316は土鍾である。細形の管状である。



第79図 第13次調査出土遺物図

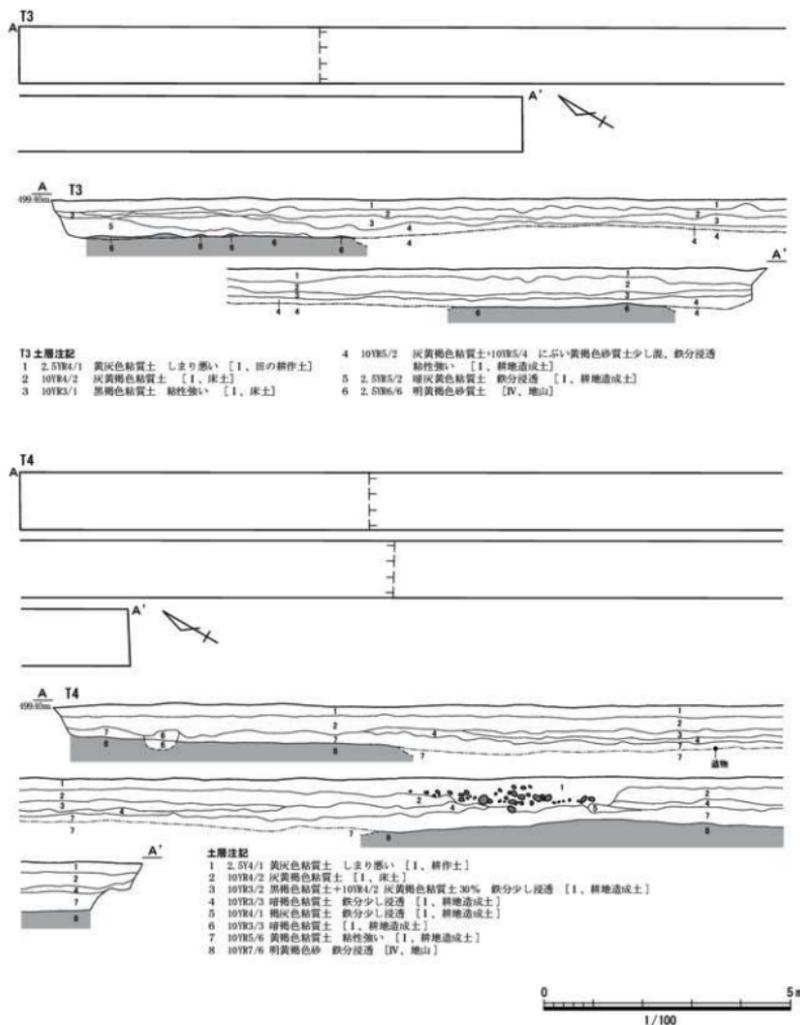
第29表 第13次調査遺物観察表

遺物番号	部位	出土遺構	種別	法量 (cm)			破片数	胎土	色調		成形・調整等		備考	
				口徑	底径	器高			外面	内面	外面	内面		
312	-	T1	須恵器杯H蓋	-	-	-	1	普通。	普通	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y6/1 黄灰	回転ナデ。	回転ナデ。	
313	-	T2	須恵器蓋	-	-	-	1	普通。	普通	2.5Y7/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	回転ナデ。	回転ナデ。	
314	-	T3	須恵器杯	-	-	-	1	普通。	普通	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y7/1 灰白	回転ナデ。	回転ナデ。	外面に刻書。
315	-	T1	須恵器長頸瓶	-	-	-	1	普通。	普通	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	回転ナデ。	回転ナデ。	
316	-	T4	土製品土鍾	長 4.0	幅 1.7	-	1	普通。	普通	7.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	ナデ。	ナデ。	



第80図 第13次調査遺構図(1)

所 見 遺構は敷地北西部にあたる T1・T2 で柱穴等を確認したが、地山上面からの掘り込みが浅かったため、第 I 層耕地造成土の影響を受けたもので、近現代の耕作に伴う掘り込みと考えられた。そのため、遺物の出土はあったが遺跡の範囲外と考えられた。



第 81 図 第 13 次調査遺構図 (2)

## 12 第14次調査（第82図）

調査日 2007年3月16日

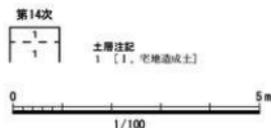
開発の目的 個人住宅新築工事

保護措置 工事掘削に伴い、立会を行った。

土層と遺構 掘削は現地表下約0.3mまでで、第I層宅地造成土でとどまった。遺構の確認はなかった。

遺物 遺物は土師器1点を確認した。

所見 遺構の確認はなく、近隣地の第18次調査でも遺構・遺物の確認がないことから、遺跡の範囲外と考えられる。



第82図 第14次調査遺構図

## 13 第15次調査（第83図）

調査日 2007年5月18日

開発の目的 下水道管理設工事

保護措置 工事掘削に伴い、立会を行った。

土層と遺構 現地表下約1mまで掘削された。土層は上層より大きく分けて第I層造成土、第IV・V層地山であった。第IV・V層上面で遺構の確認はなかった。

遺物 遺物の確認はなかった。

所見 遺構・遺物の確認はなく、近隣地の第47次調査でも遺構・遺物の確認がないことから遺跡の範囲外と考えられる。



第83図 第15次調査遺構図

## 14 第16次調査

調査日 2007年6月4日

開発の目的 店舗建設工事

保護措置 工事掘削に伴い、立会を行った。

土層と遺構 柱状改良に伴う立会で断面観察はできなかった。

遺物 遺物の確認はなかった。

所見 遺構・遺物の確認はなかった。断面観察はできなかったが、同地点を対象とした第13次調査で遺跡存続年代に位置付けられる遺構の確認がなかったことから遺跡の範囲外と考えられる。

## 15 第17次調査（第84図）

調査日 2008年5月30日

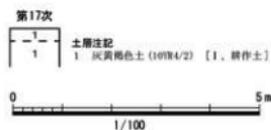
開発の目的 個人住宅宅地造成工事

保護措置 工事掘削に伴い、立会を行った。

土層と遺構 掘削は現地表下約0.3mまでで、第I層耕作土でとどまった。遺構の確認はなかった。

遺物 遺物の確認はなかった。

所見 遺構・遺物の確認はなかった。しかし、近隣



第84図 第17次調査遺構図

地の第32・33次調査で遺構・遺物を確認している。今回の調査は耕作土にとどまったが、特に第33次調査では標高約496.7mで遺物包含層を確認しているため、本調査地も遺跡の範囲内と考えられる。

#### 16 第18次調査（第85図）

調査日 2008年8月29日

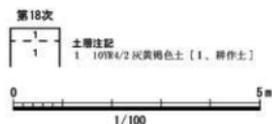
開発の目的 個人住宅新築工事

保護措置 工事掘削に伴い、立会を行った。

土層と遺構 掘削は現地表下約0.3mまでで、第Ⅰ層耕作土でとどまった。遺構の確認はなかった。

遺物 遺物の確認はなかった。

所見 遺構・遺物の確認はなく、近隣地の第58次調査でも遺構・遺物の確認がないことから遺跡の範囲外と考えられる。



第85図 第18次調査遺構図

#### 17 第19次調査（第86図）

調査日 2008年9月8日

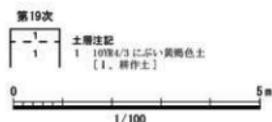
開発の目的 個人住宅新築工事

保護措置 工事掘削に伴い、立会を行った。

土層と遺構 掘削は現地表下約0.3mまでで、第Ⅰ層耕作土でとどまった。遺構の確認はなかった。

遺物 遺物の確認はなかった。

所見 遺構・遺物の確認はなかった。しかし、近隣地の第28～30次調査では遺構・遺物を確認している。今回の調査は耕作土にとどまったが、とくに第30次調査では標高約496.3mで遺物包含層を確認しているため、本調査地も遺跡の範囲内と考えられる。



第86図 第19次調査遺構図

#### 18 第20次調査（第87図）

調査日 2008年12月9日

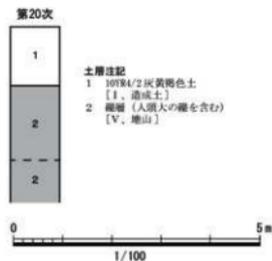
開発の目的 防災行政無線屋外拡声器増設工事

保護措置 工事掘削に伴い、立会を行った。

土層と遺構 現地表下約2.6mまで掘削された。土層は上層より大きく分けて第Ⅰ層造成土、第Ⅴ層地山であった。第Ⅴ層上面で、遺構の確認は無かった。

遺物 遺物の確認はなかった。

所見 遺構・遺物の確認はなかった。しかし、近隣地の第27次調査では堅穴建物跡等を確認しているため、遺跡の範囲内と考えられる。



第87図 第20次調査遺構図

## 19 第21次調査(第88図)

調査日 2010年2月18日

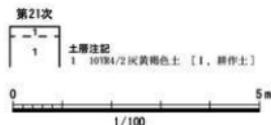
開発の目的 宅地造成工事

保護措置 工事掘削に伴い、立会を行った。

土層と遺構 掘削は、現地表下約0.2mまでで、第I層耕作土ととどまった。遺構の確認はなかった。

遺物 遺物の確認はなかった。

所見 遺構・遺物の確認はなかった。しかし、近隣の第50次調査等では堅穴建物跡等を確認している。今回の調査は第I層耕作土にとどまったが、第50次調査では標高約500.6mで遺構を確認しているため、本調査地も遺跡の範囲内と考えられる。



第88図 第21次調査遺構図

## 20 第22次調査(第89・90図、第30表)

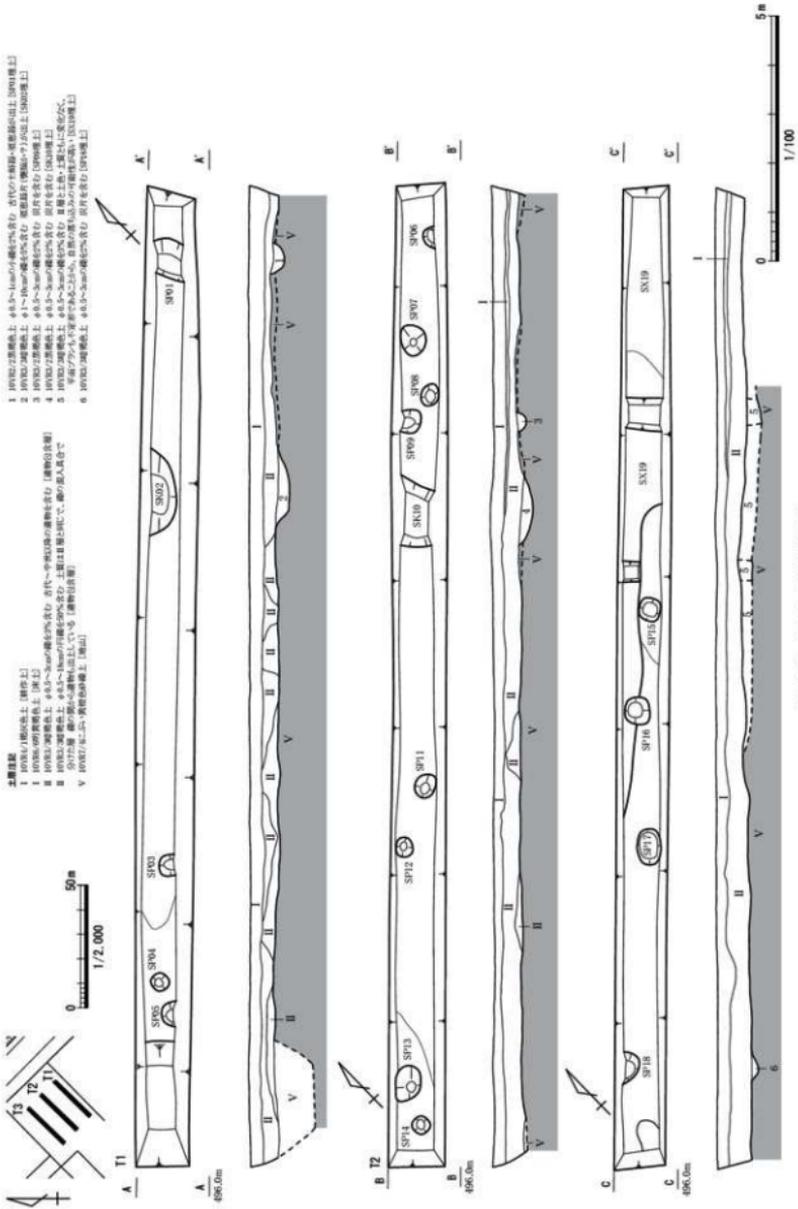
調査日 2010年5月17日～21日

開発の目的 店舗建設工事

保護措置 調査対象地に1m×20mのトレンチを北東-南西方向に3カ所設定し、試掘確認調査を行った。

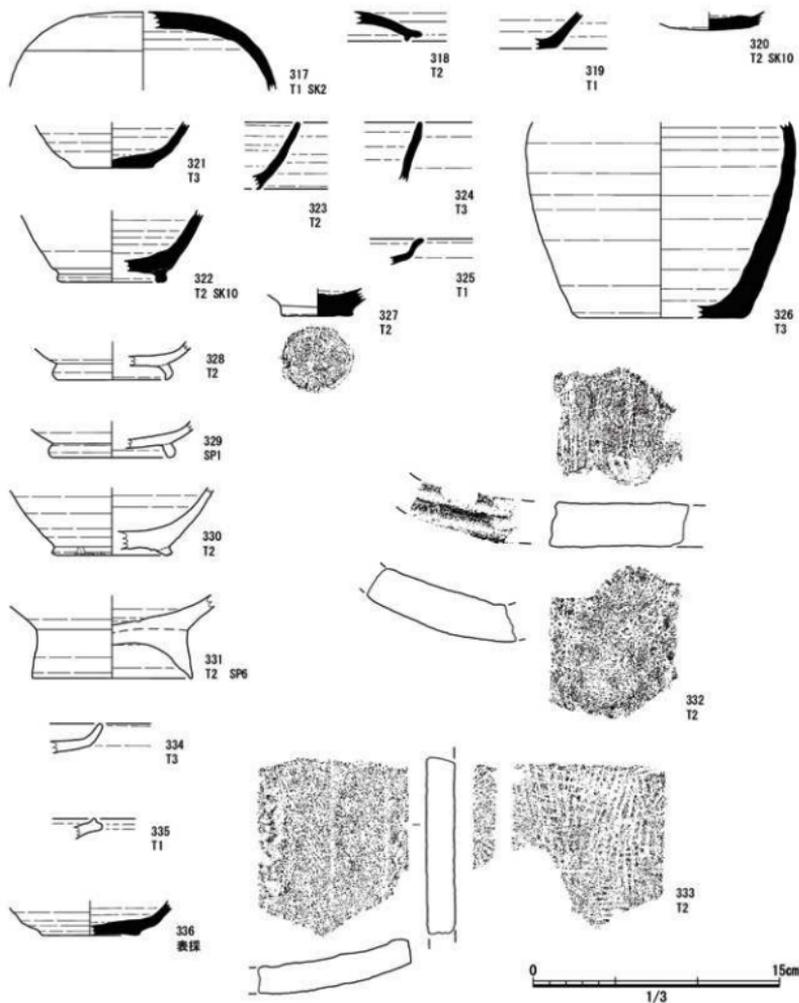
土層と遺構 土層は上層より大きく分けて第I層耕作土、第II層遺物包含層、第V層地山であった。地山上面で検出を行い、T1～3で第V層地山上面においてT1で土坑1基、柱穴4基、T2で土坑1基、柱穴8基、T3で不明遺構1基、柱穴4基を確認した。

遺物 遺物は須恵器108点、灰軸陶器19点、土師器27点、山茶碗1点、瓦9点、陶磁器5点、炭化物7点、計176点を確認した。317は天井部に回転ヘラケズリを施す須恵器杯H蓋である。318は須恵器杯G蓋である。かえりは方形状を呈し、端部は丸く水平に丸くおさめる。319・320は須恵器杯Aである。319は直線的に立ち上がる。320は底部片で、底部に回転ヘラケズリを施す。321は底部に回転糸切り痕が残る須恵器碗Aである。腰部がやや張る。322は須恵器碗Bである。体部が直線的に立ち上がる。方形の高台を貼付する。323は須恵器碗である。体部は直線的で、口縁端部は丸くおさめる。324は須恵器杯か碗である。体部は口縁にかけて緩やかに外反する。端部は上方につまみ上げ、そのまま伸びる。325は須恵器皿である。口縁部がS字状に屈曲し、端部は丸くおさめる。326・327は須恵器壺瓶類である。326は底部外面に粘土塊が付着する。327は底部片であり、回転糸切り痕が残る。328・329は灰軸陶器碗である。328は三日月高台を貼付する。K-90号窯式期と考えられる。330は山茶碗である。体部が直線的に立ち上がる。底部と体部の境に方形の高台を貼付する。高台にモミガラ圧痕が残る。331は土師器足高高台付杯である。高台は端部にかけて垂下する。端部は尖り、逆三角形を呈する。332・333は瓦である。332は三重弧文軒平瓦である。凹面にヘラケズリ、凸面にヘラケズリを施す。凹面に指頭圧痕が残る。333は平瓦である。凹面に布目痕、側板連結模骨痕が残る。凸面に平行タタキを施す。334は土師器皿である。体部は短く立ち上がり、口縁端部を丸くおさめる。内外面にナデを施し、I類に属する。335は瀬戸美濃焼折縁皿である。やや外反する口縁を折り返して上方へ小突起を設ける。336は底部に回転糸切り痕が残る須恵器碗Aである。体部は



腰部が張る。

所見 古墳時代後期から古代、中世の遺物を確認していることから、検出した土坑等も幅広い年代の可能性がある。また、瓦類 332・333 の出土からは、隣接する古町廃寺跡との関連が想定される。遺跡の範囲内と考えられる。



第90図 第22次調査出土遺物図

第30表 第22次調査遺物観察表

遺物番号	層位	出土遺構	種別	法量 (cm)			破片数	胎土	焼成	色調		成形・調整等		備考
				口径	底径	器高				外面	内面	外面	内面	
317	埋土	T1 SK2	甕形器 杯A	-	-	-	1	密。直径3mm以下の長石・石莢をわずかに含む。	普通	7.03R5/3 にぶい焼	10YR5/1 焼灰	回転ナズ。天井部 回転ヘラケズリ。	回転ナズ。	
318	-	T2	甕形器 杯A	-	-	-	1	密。直径1mm以下の長石を多く含む。	良好	2.03R5/3 にぶい焼	10YR5/2 焼灰	回転ナズ。天井部 回転ヘラケズリ。 指頭圧痕。	回転ナズ。	
319	-	T2	甕形器 杯A	-	-	-	1	普通。	普通	10YR7/2 にぶい・黄緑	2.0Y7/2 灰黄	回転ナズ。底部回 転ナズ。	回転ナズ。	
320	埋土	T2 SK10	甕形器 杯A	-	-	-	1	密。直径1mm以下の長石をわずかに含む。	普通	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	底部回転ヘラケズリ。	回転ナズ。	
321	-	T3	甕形器 杯A	-	(5.0)	-	1	普通。	普通	2.5Y6/2 灰黄	2.5Y6/2 灰黄	回転ナズ。底縁回 転糸切り。	回転ナズ。	
322	埋土	T2 SK10	甕形器 杯B	-	(6.5)	-	1	直径1mm以下の長石・石莢を多く含む。	普通	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	回転ナズ。底部高 台付後に周辺ナズ。	回転ナズ。	
323	-	T2	甕形器 杯A	-	-	-	1	直径1mm以下の長石を多く含む。	良好	5Y4/1 灰	5Y4/1 灰	回転ナズ。底部ナズ。	回転ナズ。	
324	-	T3	甕形器 杯A	-	-	-	1	普通。	普通	7.03R6/2 焼灰	10YR6/2 灰黄焼	回転ナズ。	回転ナズ。	
325	-	T1	甕形器 蓋	-	-	-	1	直径1mm以下の長石をわずかに含む。	良好	N5/0 灰	N5/0 灰	回転ナズ。	回転ナズ。	
326	-	T3	甕形器 蓋	-	(10.0)	-	1	密。直径1mm以下の長石をわずかに含む。	良好	2.5Y7/1 灰白	10YR6/1 焼灰	回転ナズ。底部ナズ。	回転ナズ。	内外面に自然焼。外面に胎土塊・重ね焼き痕
327	-	T2	甕形器 蓋	-	4.2	-	1	直径4mm以下の長石をわずかに含む。	良好	10YR6/1 焼灰	10YR6/1 焼灰	回転ナズ。底部回 転糸切り。	回転ナズ。	
328	-	T2	灰釉陶器 杯	-	(6.6)	-	1	密。直径2mm以下の長石をわずかに含む。	良好	10YR7/1 灰白	10YR7/1 灰白	回転ナズ。底部回 転ナズ。高台部付 後に周辺ナズ。	回転ナズ。	
329	-	T1 SP1	灰釉陶器 杯	-	(7.1)	-	1	密。直径1mm以下の長石をわずかに含む。	普通	10YR6/1 焼灰	7.5Y6/1 灰	回転ナズ。底部高 台付後に周辺ナズ。	回転ナズ。	
330	-	T2	山車陶 器	-	(7.3)	-	1	直径5mm以下の長石をわずかに含む。	良好	7.5Y5/1 灰	2.5Y6/1 黄灰	回転ナズ。底部回 転ヘラケズリ後に 高台部付。	回転ナズ。	高台にモミガラ圧痕。
331	埋土	T2 SP6	土師器 足高台付 杯	-	(9.7)	-	5	密。直径2mm以下の長石・石莢・赤色酸化土をわずかに含む。	不良	10YR7/4 にぶい・黄 緑	7.5YR7/4 にぶい・焼	回転ナズ。底部高 台付後に周辺ナズ。	回転ナズ。	
332	-	T2	三重瓦 軒平瓦	広幅面 瓦 6.5	厚 2.6 ~ 2.5	-	1	直径2mm以下の長石・石莢を多く含む。	やや軟質	2.5YR/1 灰白	-	凸面ナズ。	凹面横ナズ。指 頭圧痕。	
333	-	T2	瓦 軒平瓦	右側面 瓦 6.2	厚 1.85 3.3 ~ 1.4, 3.1	側板幅	1	直径2mm以下の長石・石莢を多く含む。	やや軟質	5YR7/6 焼	-	凸面平行タタキ。	凹面有目・側板 傾。	有密度タテ目×ヨコ 14/2 cm
334	-	T3	土師器 蓋	-	-	-	1	普通。	普通	2.5YR/3 黄灰	2.5YR/3 黄灰	ナズ。底部ヘラ ケズリ。	ナズ。	
335	-	T1	瀬戸系遺 物緑釉	-	-	-	1	普通。	良好	10YR6/2 灰黄焼	2.5Y6/3 にぶい・黄 緑	回転ナズ。	回転ナズ。	口唇部・内面に灰釉。
336	-	表層	甕形器 杯A	-	(6.0)	-	1	普通。	普通	5Y5/1 灰	5Y6/1 灰	回転ナズ。底部回 転糸切り。	回転ナズ。	

## 21 第23次調査 (第91図)

調査日 2010年7月26～27日

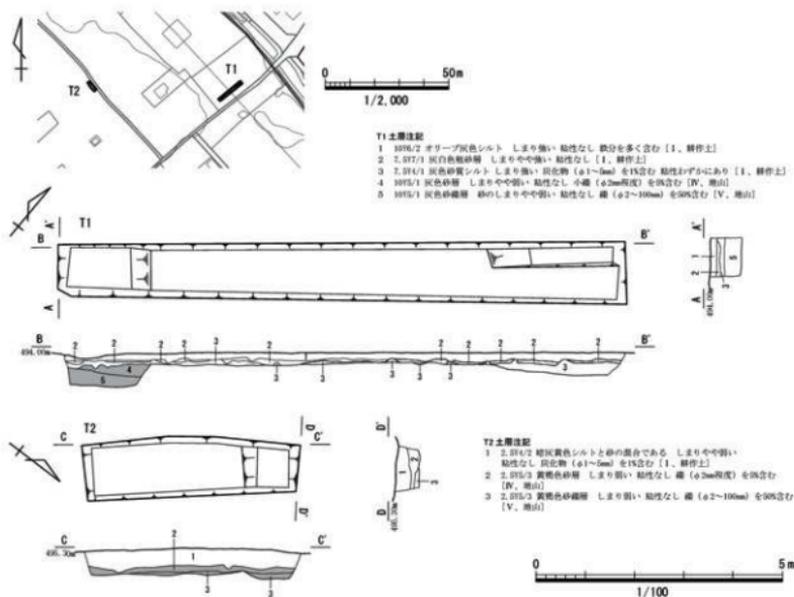
開発の目的 農道整備工事

保護措置 調査対象地に10m×1mのトレンチを北東-南西方向に、5m×1mのトレンチを北西-南東方向に2カ所設定し、試掘確認調査を行った。

土層と遺構 現地表下約0.6mまで掘削した。土層は上層より大きく分けて第I層表土、第IV・V層地山であった。第IV・V層上面で遺構の確認はなかった。

遺物 遺物の確認はなかった。

所見 地山上面で遺構の確認はなく、遺跡の範囲外と考えられる。



第91図 第23次調査遺構図

## 22 第24次調査 (第92図)

調査日 2011年4月14日~15日

開発の目的 携帯アンテナ塔建設工事

保護措置 調査対象地に10m×4mのトレンチを北西-南東方向に1カ所設定し、試掘確認調査を行った。

土層と遺構 土層は上層より大きく分けて第I層耕作土、第I層造成土、第Ic層旧耕作土、第II・III層堆積土、第IV層地山であった。第IV層上面で遺構の確認はなかった。

遺物 遺物は須恵器3点、土師器4点、計7点を確認した。

所見 第IV層地山上面で遺構の確認はなく、遺物を確認したものの、遺跡の範囲外と考えられる。

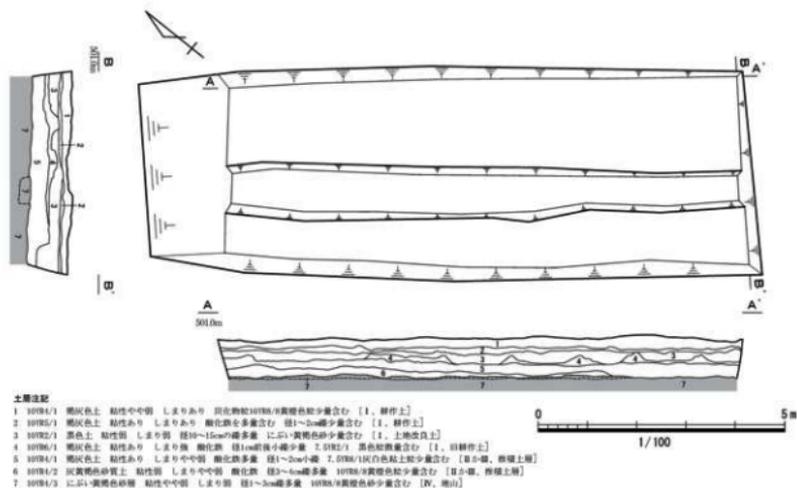
## 23 第25Ⅲ次調査 (第93図)

調査日 2012年6月12・22日

開発の目的 倉庫新築工事

保護措置 工事掘削に伴い、立会を行った。

土層と遺構 立会はフェンス側と倉庫側で行い、どちらも現地地表約0.5mまで掘削した。フェンス側では第I層過去の道路工事の際の埋戻土でとどまった。倉庫側では第I層旧倉庫建築の造成土でと

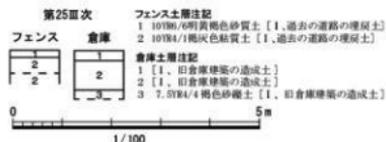


第92図 第24次調査遺構図

どまった。遺構の確認はなかった。

**遺物** 遺物の確認はなかった。

**所見** 今回の調査では埋戻土でどまったが、近隣地の第39次調査では竪穴建物跡等を確認しており、遺跡の範囲内と考えられる。



第93図 第25Ⅲ次調査遺構図

## 24 第29Ⅱ次調査（第94図）

**調査日** 2013年3月5日

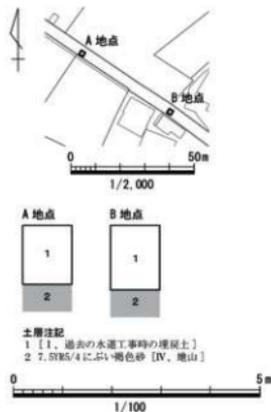
**開発の目的** 下水道敷設工事

**保護措置** 工事掘削に伴い、立会を行った。

**土層と遺構** 現地地表下約1.2~1.3mまで掘削した。土層は上層より第I層過去の下水道工事に伴う埋戻土、第IV層地山であった。第IV層上面で遺構の確認はなかった。

**遺物** 遺物の確認はなかった。

**所見** 今回は過去の工事の影響により、遺構・遺物の確認はなかったが、近隣地の第28~30次調査では竪穴建物跡等を確認しており、遺跡の範囲内と考えられた。



第94図 第29Ⅱ次調査遺構図

## 25 第34次調査（第95・96図、第31表）

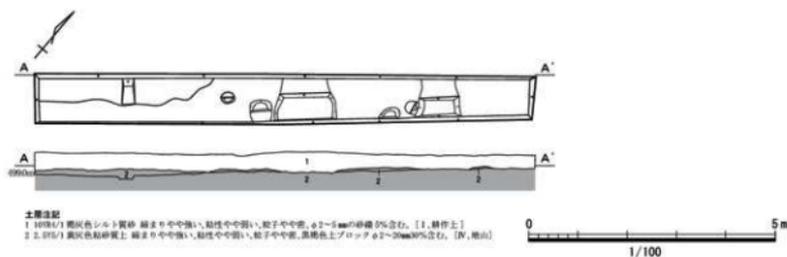
調査日 2013年7月30日～31日

開発の目的 個人住宅新築工事

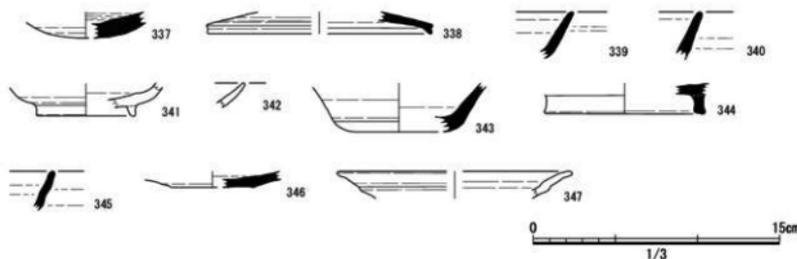
保護措置 調査対象地に10m×1mのトレンチを北東-南西方向に1カ所設定し、試掘確認調査を行った。

土層と遺構 現地表下約0.6mまで掘削した。土層は上層より大きく分けて第Ⅰ層耕作土、第Ⅳ層地山であった。第Ⅳ層上面で現代の掘り込みはあったが、遺構の確認はなかった。

遺物 遺物は須恵器146点、灰釉陶器6点、土師器9点、陶磁器7点、計168点を確認した。337は丸底で回転ヘラケズリを施す須恵器杯Hである。底部片である。338は須恵器摘み蓋である。口縁部片で先端が短く折れる。端部はゆるやかに外反し、丸くおさめる。339・340は須恵器杯である。いずれも口縁部から体部の破片である。体部は直線的である。341は灰釉陶器碗である。底部の調整は不明である。高台を垂直に貼付し、端部は丸くおさめる。342は土師器皿である。内外面に横ナデを施す。4類に属する。343は底部に回転ヘラケズリを施す須恵器杯Aである。体部の傾きは大きい。344は須恵器杯Bか碗Bである。底部の調整は確認できない。345は須恵器杯か高杯である。口縁下に明瞭な稜をもつ。346は須恵器皿である。体部から底部の破片であり、回転ヘラケズリを施す。347は灰釉陶器段皿である。体部はS字状に屈曲し、口縁部は外反する。内外面に灰釉を施す。K-90号窯式期に位置付けられる。



第95図 第34次調査遺構図



第96図 第34次調査出土遺物図

第31表 第34次調査遺物観察表

遺物番号	層位	出土遺構	種別 器種	法量 (cm)			破片数	胎土	焼成	色調		成形・調整等		備考
				口径	底径	器高				外面	内面	外面	内面	
337	表土	-	須恵器 杯B	-	(5.0)	-	1	黄緑 1mm以下の長石を多く含む。	良好	10Y5/1 灰	10Y5/1 灰	回転ナデ。底部回転ヘラケズリ。	回転ナデ。	
338	表土	-	須恵器 壺 (13.5)	-	-	-	1	黄。底径1mm以下の長石をわずかに含む。	良好	2.5Y7/2 灰黄	10Y7/2 にじみ黄緑	回転ナデ。	回転ナデ。	外面に自然釉。
339	表土	-	須恵器 杯	-	-	-	1	普通。	良好	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y6/1 黄灰	回転ナデ。	回転ナデ。	
340	表土	-	須恵器 杯	-	-	-	1	黄緑 1mm以下の長石を多く含む。	普通	5Y5/1 灰	10Y6/1 黄灰	回転ナデ。	回転ナデ。	
341	表土	-	灰輪陶器 杯	-	(6.0)	-	1	黄。底径1mm以下の長石をわずかに含む。	良好	2.5Y7/1 灰白	10Y6/1 黄灰	回転ナデ。底部高外貼付後周辺ナデ。	回転ナデ。	内外面に灰釉。
342	表土	-	土師器 壺	-	-	-	1	黄。底径1mm以下の長石をわずかに含む。	普通	5Y8/4 にじみ黄	10Y8/3 黄黄緑	横ナデ。	横ナデ。	
343	表探	-	須恵器 杯A	-	(8.0)	-	1	黄緑 1mm以下の長石を多く含む。	普通	10Y5/2 灰黄緑	2.5Y6/1 黄灰	回転ナデ。底部回転ヘラケズリ。	回転ナデ。	
344	表探	-	須恵器 杯+陶 器	-	(9.6)	-	1	黄緑 2mm以下の長石を含む。	普通	5Y5/1 灰	5Y5/0 灰	回転ナデ。底部高外貼付後周辺ナデ。	回転ナデ。	
345	表探	-	須恵器 杯+高杯	-	-	-	1	黄緑 1mm以下の長石をわずかに含む。	普通	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y6/1 黄灰	回転ナデ。	回転ナデ。	
346	表探	-	須恵器 壺	-	(5.0)	-	1	黄緑 1mm以下の長石をわずかに含む。	良好	2.5Y5/1 黄灰	2.5Y5/1 黄灰	回転ナデ。底部回転ヘラケズリ。	回転ナデ。	
347	表探	-	灰輪陶器 段皿	(14.0)	-	-	1	黄。底径1mm以下の長石をわずかに含む。	良好	2.5Y8/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	回転ナデ。	回転ナデ。	内外面に灰釉。

所見 遺構の確認はなかった。しかし、須恵器等を採集し、近隣地の第27次調査で竪穴建物跡等を確認していることから、遺跡の範囲内と考えられる。

## 26 第35次調査 (第97図)

調査日 2013年7月30日～31日

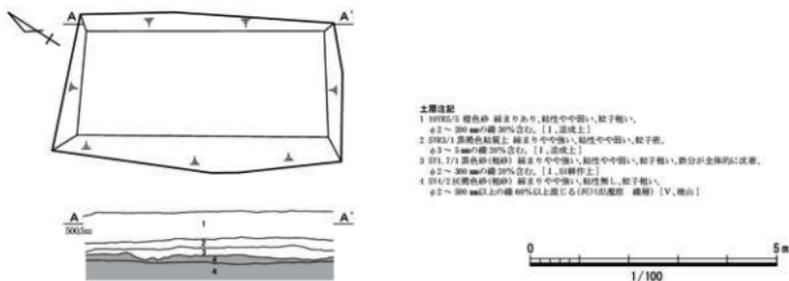
開発の目的 個人住宅新築工事

保護措置 調査対象地に5m×3mのトレンチを北西-南東方向に1カ所設定し、試掘確認調査を行った。

土層と遺構 現地表下約1mまで掘削した。土層は上層より大きく分けて第I層造成土・旧耕作土、第V層地山であった。第V層上面で遺構の確認はなかった。

遺物 遺物の確認はなかった。

所見 今回は遺構・遺物の確認はなかったが、近隣地の調査事例が少ないため、範囲について今後、周辺の調査の蓄積を待って検討する必要がある。



第97図 第35次調査遺構図

## 27 第36次調査(第98図)

調査日 2013年8月9日

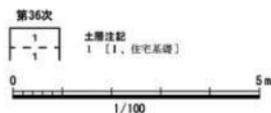
開発の目的 個人住宅解体工事

保護措置 工事掘削に伴い、立会を行った。

土層と遺構 掘削は現地地表下0.4mまでで、第I層旧住宅の基礎にとどまった。遺構の確認はなかった。

遺物 遺物の確認はなかった。

所見 遺構・遺物の確認はなく、詳細分布調査でも本調査区近隣で遺物の確認がなかったことから、遺跡の範囲外と考えられる。



第98図 第36次調査遺構図

## 28 第38次調査(第99図)

調査日 2014年2月21日

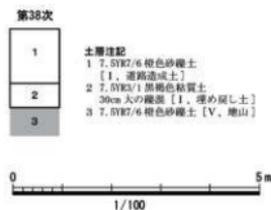
開発の目的 下水道管理設工事

保護措置 工事掘削に伴い、立会を行った。

土層と遺構 現地地表下1.6mまで掘削された。土層は上層より大きく分けて第I層道路造成土・埋戻土、第V層地山であった。第V層上面で遺構の確認はなかった。

遺物 遺物の確認はなかった。

所見 遺構・遺物の確認はなかった。近隣地の第9II次調査等にて柱穴等の遺構を確認しているため、今回の調査地は道路工事の際に第V層地山まで削平を受けていると考えられる。



第99図 第38次調査遺構図

## 29 第39次調査(第100～108図、第32～36表)

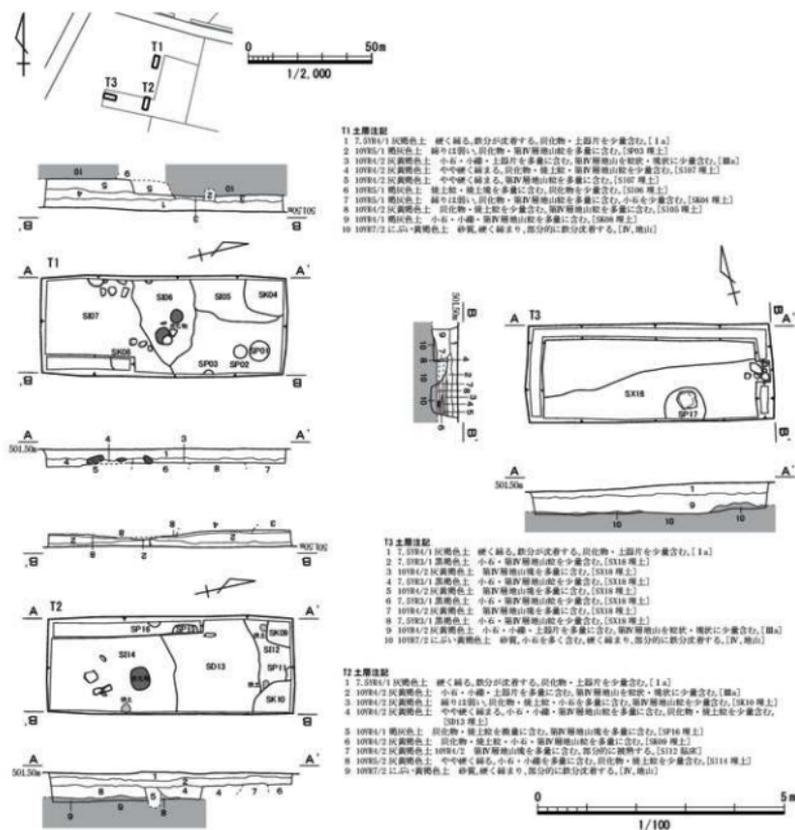
調査日 2014年4月11日(立会)、15～16日(試掘確認調査)

開発の目的 宅地造成工事

保護措置 立会では耕作土除去後、床土を検出し、その上面で遺物が散見できる状況を確認した。今後の工事で床土より下層に掘削が及ぶ可能性があったため、事業者と協議し、続けて試掘確認調査を行うこととなった。試掘確認調査では調査対象地に5m×2mのトレンチを南北方向に2カ所、東西方向に1カ所、計3カ所設定した。

土層と遺構 土層は上層より大きく分けて、第I a層耕作土、第III a層遺物包含層、第IV層地山であった。遺構は竪穴建物跡5軒と溝状遺構1条、土坑4基、柱穴7基、掘り込み地業の可能性のある遺構SX18を確認した。第III a層遺物包含層から掘り込む遺構はT1で竪穴建物跡SI07の1軒、柱穴SP03の1基、T3で掘り込み地業の可能性のあるSX18であった。第IV層地山上面から掘り込む遺構はT1で竪穴建物跡SI05・SI06の2軒、土坑SK04・08の2基、T2で竪穴建物跡SI12・14の2軒、溝状遺構SD13の1基、土坑SK09・10の2基、柱穴SP16の1基であった。

遺物 遺物は須恵器871点、灰釉陶器150点、土師器232点、瓦34点、土製品1点、陶器17点、

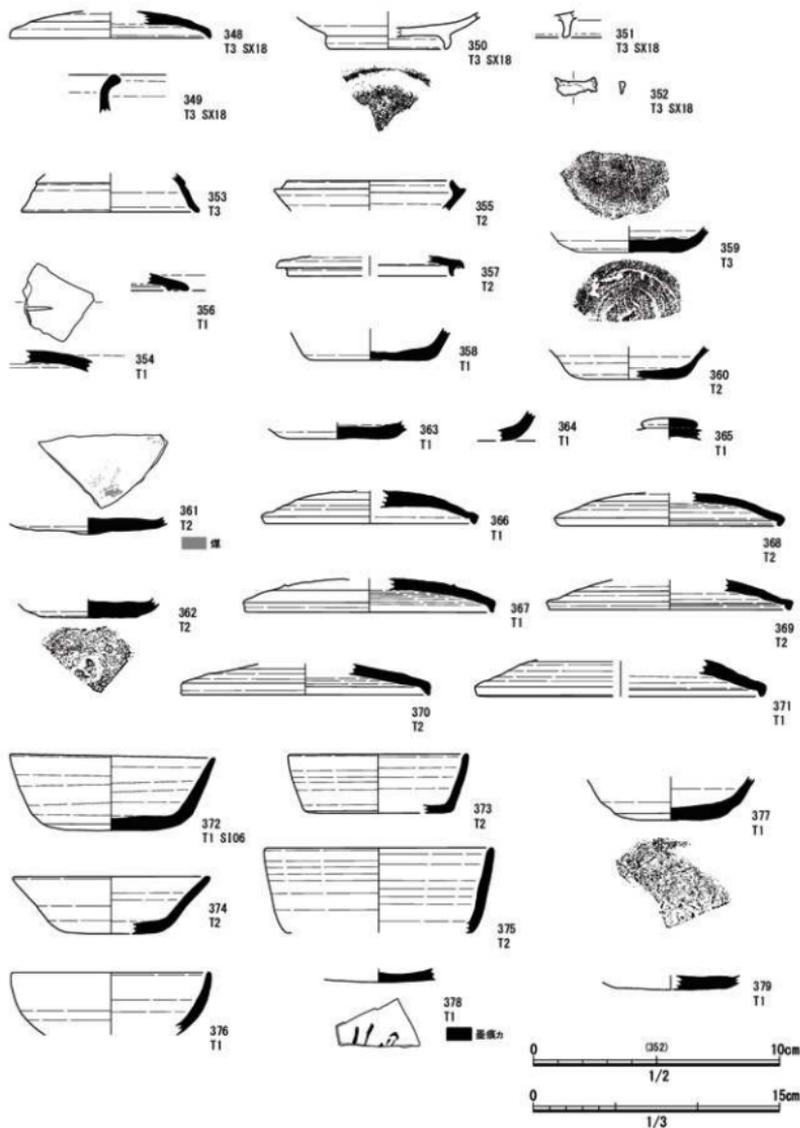


第100図 第39次調査遺構図

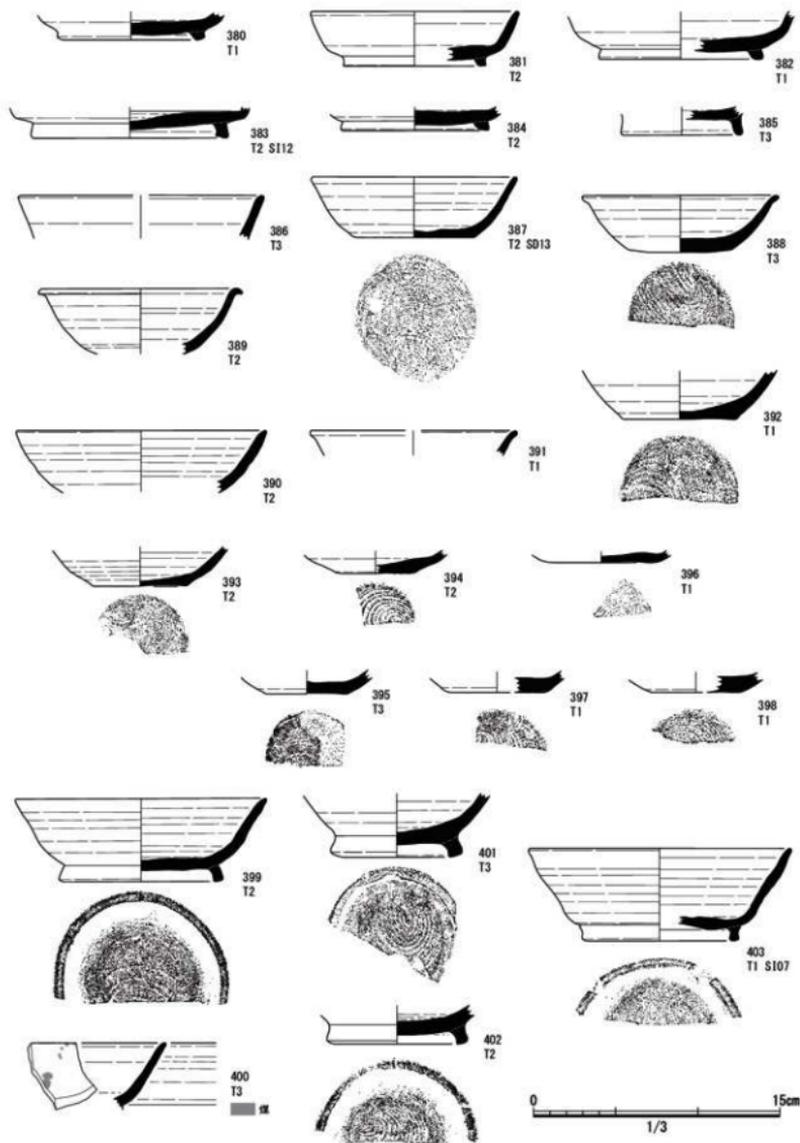
青白磁1点、石器・石製品15点、金属製品2点、木片1点、自然石9点、計1,337点を確認した。

そのうちSX18では、須恵器15点、灰釉陶器6点、土師器2点、瓦3点、金属製品1点、計27点を確認した。348は須恵器横み蓋である。口縁端部はやや尖る。349は須恵器壺である。口縁部片で、端部は方形を呈する。350・351は灰釉陶器碗である。350は底部に回転糸切り痕が残り、三日月高台を貼付する。K-90号窯式期に位置付けられる。351は高台のみで、三日月高台である。352は金属製品である。器種や用途は不明である。

包含層では須恵器701点、灰釉陶器123点、土師器196点、製塩土器1点、瓦28点、土製品1点、中世陶器7点、青白磁1点、石器・石製品13点、金属製品1点、自然石3点、計1,075点を確認した。353・354は杯H蓋である。353は天井部と口縁部の境に稜を確認できる。口縁部はハの字状に

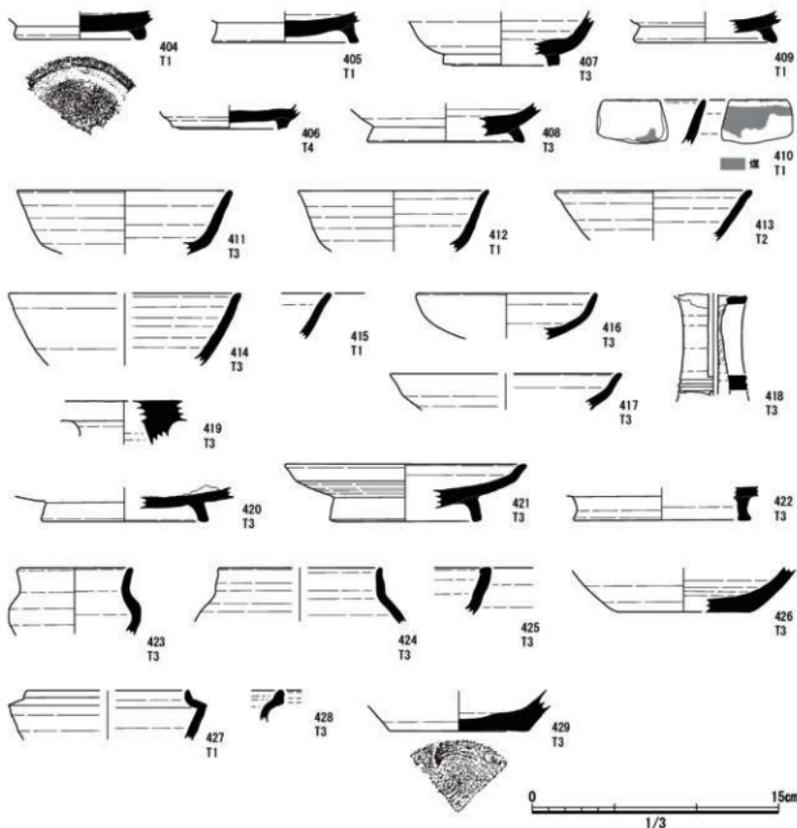


第101図 第39次調査出土遺物図(1)

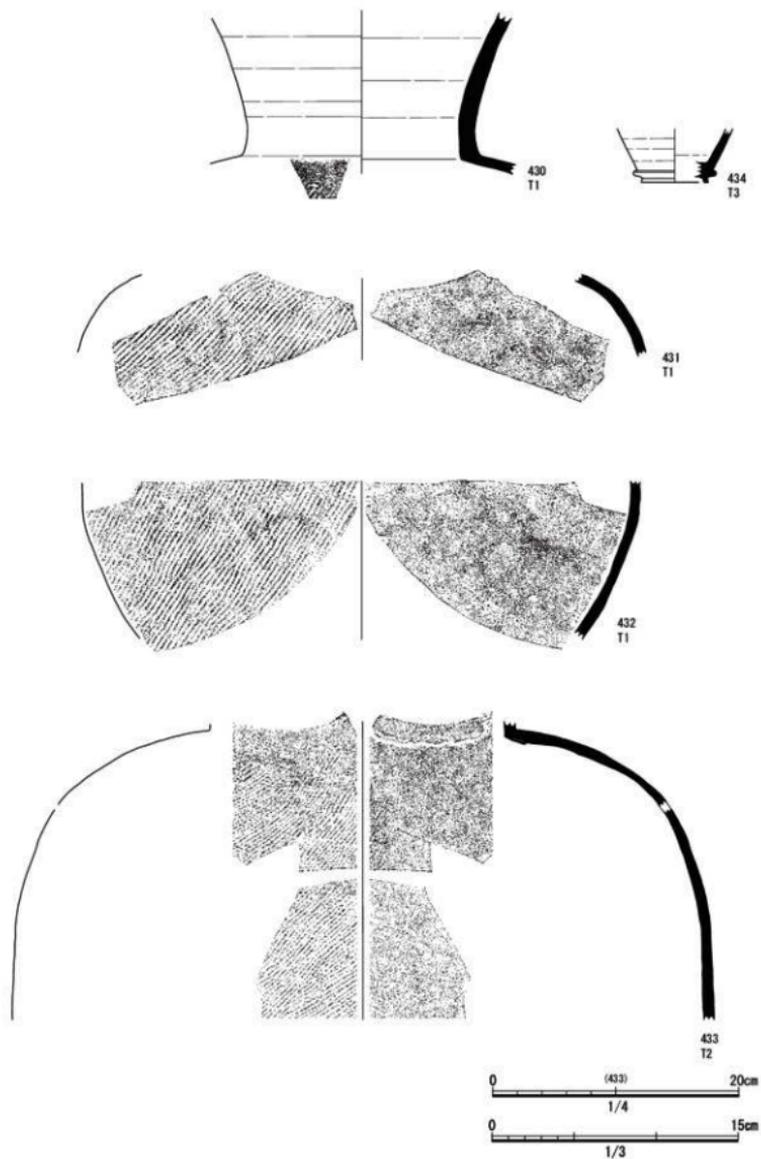


第102図 第39次調査出土遺物図(2)

開く。354は天井部片で外面にヘラ記号を施す。355は底部に回転ヘラケズリを施す須恵器杯Hである。口縁部片で、口縁端部は短く立ち上がり、受け部は内傾する。356・357は須恵器杯G蓋である。356は口縁部片で、短いかえりをもつ。357は口縁部片で、かえりが下方へ口縁部より突出する。358～364は平底で、回転ヘラ切り痕が残る須恵器杯Gである。358は直線的に立ち上がる。359は底部内外面に刻みが入る。360は体部の器壁が薄い。361は内面に煤が付着する。362は内面にユビオサエ痕が残る。363は内面に横ナデを施す。364は底部片である。365～371は須恵器杯蓋である。365はつまみのみで偏平である。366は口縁部で内傾し、三角形を呈する。外面に重ね焼き痕が残る。367は口縁部が垂下し、端部は三角形を呈する。天井部端に重ね焼き痕が残る。368は口縁部で内傾し、方形の端部をもつ。369は口縁部で内傾し、三角形を呈する。370は口縁部で垂下し、端部は三角形を呈する。371は端部がやや内傾し、三角形を呈する。372～379は須恵器杯Aである。372は平底

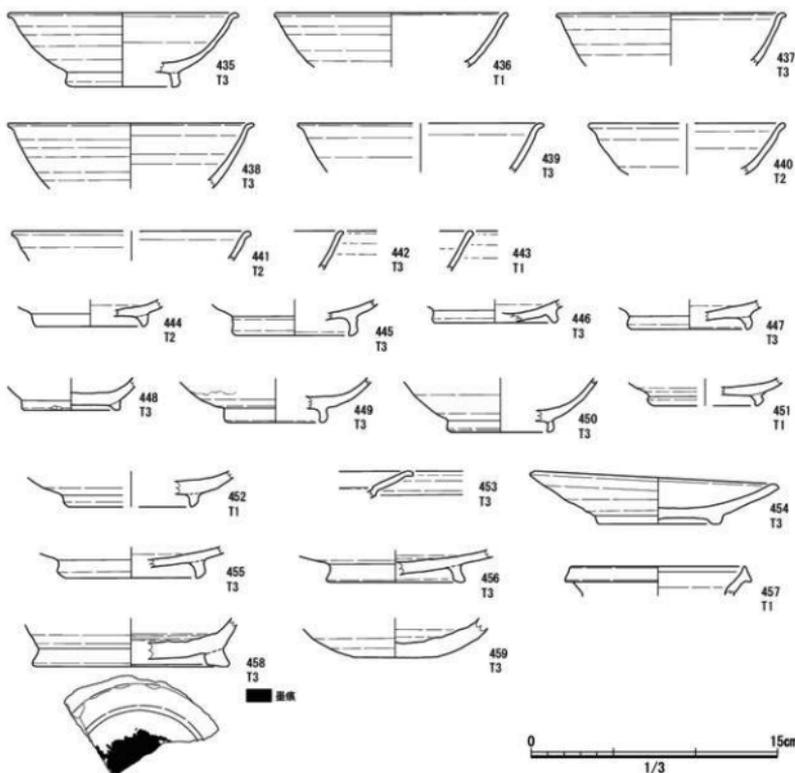


第103図 第39次調査出土遺物図(3)



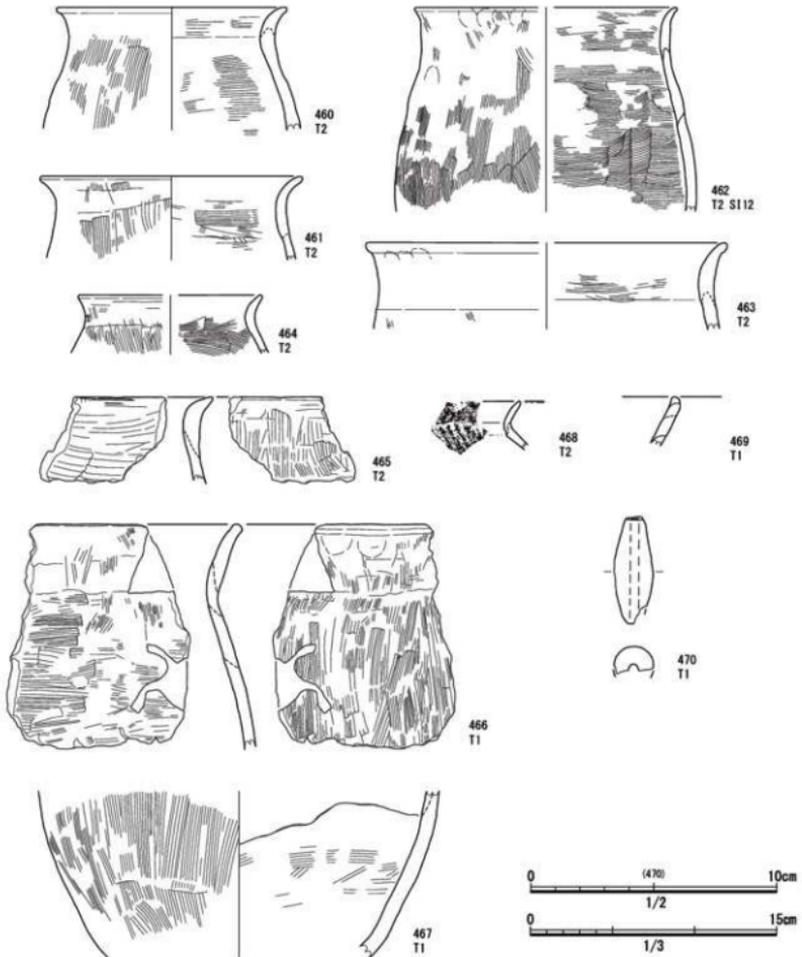
第104図 第39次調査出土遺物図(4)

で、不明瞭なヘラ調整による切り離し痕が残る。体部は直線的で、傾きはやや大きい。373は体部が直線的で、傾きが小さい。374は体部上部が逆ハの字状に開く。375は体部が直線的で、傾きは小さい。器高が高めである。376は体部片で、体部が内湾し、端部は丸くおさめる。377は平底で、底部外面に多方向の手持ちヘラケズリを施す。376と同一個体と考えられる。378は底部片で、外面に墨書カが残る。379は底部片である。380～385は須恵器杯Bである。380は方形の高台を貼付する。381は回転ヘラケズリ後に方形の高台を貼付する。体部は直線的で、傾きが大きい。382～384は回転ヘラケズリ後に方形の高台を貼付する。384は高台に朱が付着する。385は底部片である。386は須恵器杯の口縁部片で、端部を丸くおさめる。387～398は須恵器碗Aである。387は底部に回転系切り痕が残る。体部は腰部がやや張る。口縁端部は丸くおさめる。388は底部に回転系切り痕が残る。口縁部は外反し、丸くおさめる。内面に重ね焼き痕が残る。389はやや内湾し、口縁部は外反する。同一個体を別に1点確認している。390は体部が内湾し、口縁端部は尖る。391は口縁部片であり、短く

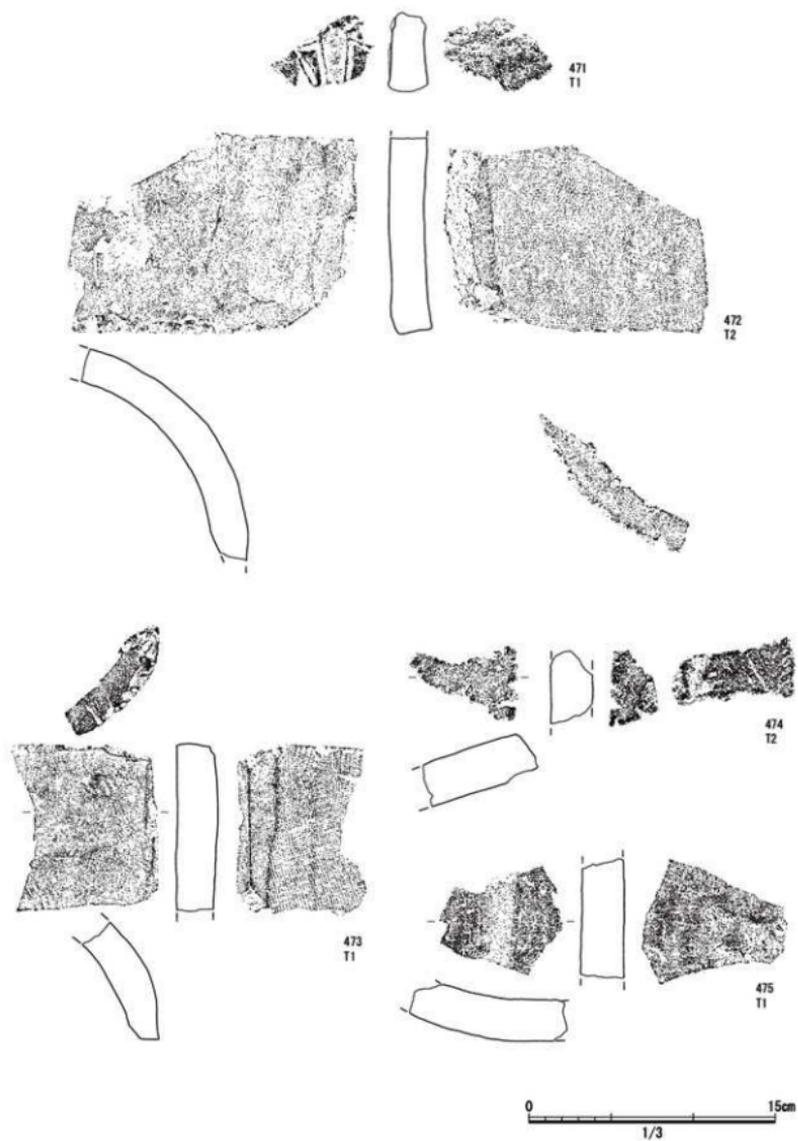


第105図 第39次調査出土遺物図(5)

外反する。392は底部に回転糸切り痕が残る。体部は直線的である。393・394は底部に回転糸切り痕が残る。体部は直線的である。焼成はあまい。395は回転糸切り後にナデを施す。396・397は底部に回転糸切り痕が残る。398は底部に回転糸切り痕が残る。内面に墨痕がある。399～409は須恵器碗Bである。399は回転糸切り後に方形の高台を貼付する。400は体部が直線的である。内面に煤が付着する。401・402は回転糸切り後に方形の高台を貼付する。403は体部の傾きが大きい。399・401～403は回転糸切り後に高台を貼付し、上町遺跡第29・30次調査ではV期に属する杯B身b類に位

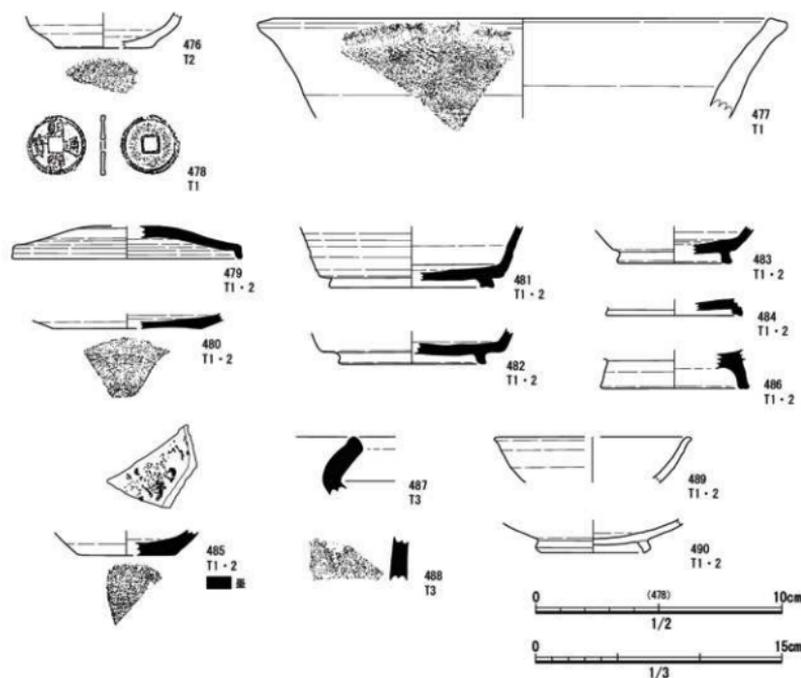


第106図 第39次調査出土遺物図(6)



第107図 第39次調査出土遺物図(7)

置付けられている(飛騨市教育委員会 2016)。404は静止糸切り後に方形の高台を貼付する。405は回転糸切り後に回転ヘラケズリを施し、方形の高台を貼付する。406は回転ヘラケズリ後に方形の高台を貼付する。407～408は方形の高台を貼付する。409は高台端面が外傾し、接地面は外端である。410～415は須恵器碗である。410は口縁部片であり、体部は直線的である。内外面に煤が付着する。411は体部が直線的である。412は体部が直線的で、口縁部はゆるやかに外反する。端部はやや尖る。413は体部が直線的で、口縁部は外反する。414は体部が直線的である。415は体部が直線的である。416～418は須恵器高杯である。416は杯部で口縁部は短く立ち上がる。417は口縁部が外反する。418は脚柱部の破片である。2段で2方向に長条形の透かしを持つ。内面に棒状工具によるナデを施す。419は須恵器脚付盤である。底部と脚部の境の破片である。420は方形の高台を貼付し、須恵器盤とした。421・422は須恵器台付皿である。421は口縁部を上方に折り曲げ、端部は外反する。方形の高台を貼付する。422は高台の破片である。423は須恵器小型鉢である。口縁部はやや外反し、端部は丸くおさめる。体部から口縁にかけてゆるやかにS字状を呈する。424～426は須恵器鉢である。424は口縁部の立ち上がりはやや内傾し、明瞭な稜をもつ。425は口縁部片で、口縁端部はゆるやかに内湾し、方形を呈する。426は体部から底部の破片で、平底である。底部に回転ヘラケズリを施す。立ち上がりは直線的である。427・428は須恵器短頸壺である。427は肩部が張り、屈曲する。口縁部



第108図 第39次調査出土遺物図(8)

は上方につまみ上げ、端部は尖る。428は口縁部片である。口縁端部は上方につまみ上げ、三角形を呈する。429は須恵器壺瓶類である。平底で、回転糸切り痕が残る。430～433は須恵器甕である。434は須恵器托である。受け部が筒型であり、皿部より高い。皿部の口縁は短く、端部は方形である。方形の高台を貼付する。仏器と考えられる。

435～452は灰軸陶器碗である。435は口縁部が大きく外反し、端部は丸くおさめる。436～443は口縁部が外反する。437は断面に接着痕が残る。444は底部片であり、高台は三角形に近い。445は底部片であり、三日月高台を貼付する。446は底部片であり、方形の高台を貼付する。内面に重ね焼き痕が残る。447は回転ナデ後に三日月高台を貼付する。448は回転ナデ後に逆三角形の高台を貼付する。449は三日月高台を貼付する。削り出し高台である。450は腰部が直線的である。451は底部片であり、高台の外側の貼付は粗い。452は立ち上がりが直線的である。453は灰軸陶器段皿である。体部はS字状に屈曲し、口縁部は外反する。内外面に灰釉を施す。454は灰軸陶器皿である。体部は直線的で、口縁端部は方形である。高台は方形で、削り出し高台である。高台に工具痕が残る。455は灰軸陶器皿である。回転ヘラケズリ後に三日月高台を貼付する。456は灰軸陶器皿である。回転ヘラケズリ後に方形の高台を貼付する。457・458は灰軸陶器長頸瓶である。457は口縁部片である。端部は外反し、上方につまみ上げ、縁帯をめぐらせる。458は方形の高台を貼付する。底部外面に墨が付着する。459は灰軸陶器壺瓶類である。平底で、底部に回転ヘラケズリを施す。立ち上がりは丸みを帯びる。

460～468は土師器甕である。460は口縁部が短く外反する。461は口縁部が外反する。462は口縁部を外反させ、端部を丸くおさめる。また、口縁部にユビオサエ痕が残る。463は口縁部が外反し、ユビオサエ痕が残る。外面に煤が付着する。464は端部が方形に近い。465は口縁部が短く外反し、やや尖る。466は頭部のくびれが強く、口縁部はやや肥厚し、端部は方形を呈する。468は土師器小型甕である。くの字状を呈する。頭部下部に斜位方向に粗いハケメを施すことから東海系であると考えられる。469は土師器製塩土器である。体部は直線的である。口縁端部は内傾し、丸くおさめる。470は土鏝である。細形の管状である。鉄分が付着する。

471～475は瓦である。471は有段素文縁単弁九弁蓮華文軒丸瓦である。瓦当面片であり、外縁が欠損する。圏線で表される平坦な蓮弁と、鋸歯文が先端に付く三角形の膨らみで表現される間弁からなる。瓦当裏面はヘラケズリを施す。これまで確認している上町庵寺跡の軒丸瓦と同范である（飛騨市教育委員会2019）。472は丸瓦広端部の破片である。凹面に布目痕が残る。凸面はヘラケズリ調整を施す。473は丸瓦狭端部の破片である。凹面に布目痕、側板痕が残る。凸面はタタキ後にヘラケズリを施す。474は平瓦である。凹面はナデ、凸面は格子タタキ痕が残る。475は平瓦である。凹面に布目痕が残る。凸面にヘラケズリを施す。476は土師器皿である。底部に回転糸切り痕が残る。内外面にナデを施す。477は中世陶器鉢である。口縁部は外反し、端部は方形を呈する。478は銅銭である。1425年発行の朝鮮通宝である。

表土では須恵器155点、灰軸陶器25点、土師器33点、瓦3点、陶器10点、石器2点、木片1点、自然石6点、計235点を確認した。479は須恵器摘み蓋である。口縁部は垂下し、端部はゆるやかに外反する。480は須恵器杯Aである。回転糸切り後に回転ヘラケズリを施す。立ち上がりは直線的である。481～484は底部に回転ヘラケズリを施す須恵器杯Bである。481・482は高台から平坦部を設けて体部が立ち上がる。483は方形の高台を貼付する。傾きはやや大きい。484は底部片で方形の高

台を貼付する。485は底部に回転糸切り痕が残る須恵器碗Aである。立ち上がりは直線的である。内面に煤が付着する。486は須恵器台付皿である。高台の破片で方形を呈する。高台は高く、ハの字状に開く。487は須恵器壺である。口縁部片で、口縁部は外反し、端部は方形を呈する。内面に錆が付着する。488は須恵器甕である。頸部片で、櫛状工具による連続刺突痕が残る。489は灰軸陶器碗である。口縁部は外反する。体部は丸みを帯びる。490は灰軸陶器皿である。回転ヘラケズリ後に方形の高台を貼付する。

**所見** Ⅲa層上面から掘り込むSX18等とⅣ層上面から掘り込むSI05等を検出し、2面で遺構の掘り込みがあることを確認した。T3では地山層質の土や小石を含む土層で7層の互層を確認した。掘り込み地業による版築土層の可能性もある。トレンチ調査によるため、全体形状が明らかでなくSX18とした。また、SX18内には柱穴1基を確認している。調査地は上町庵寺跡の範囲に入る。瓦の出土もあり、古代寺院に関わる遺構の可能性が高い。SX18ではK-90号窯式期の灰軸陶器碗350が出土している。その上層のⅢa層遺物包含層でもK-90号窯式期の灰軸陶器が多く出土している。一方、傾きが小さい須恵器杯A373や傾きが大きく器高が低い須恵器杯A374、腰部がやや張る碗A387等、C-2号窯式期からI-25号窯式期が主体となる遺物である。以上のことから、上町庵寺跡は8世紀前半から9世紀後半まで存続していたと考えられる。

その他、古墳時代と考えられる須恵器杯Hや古代の須恵器、中世の瀬戸美濃焼など古墳時代から中世まで様々な遺物を確認した。そのことから当該期の遺構が残存している状況を推定でき、遺跡の範囲内と考えられる。

第32表 第39次調査遺物観察表(1)

遺物番号	層位	出土遺構	種別	法量 (cm)			破片数	胎土	焼成	色調		成形・調整等		備考
				口径	口径	器高				外面	内面	外面	内面	
348	-	T3 SX18	須恵器 蓋	(12.1)	-	-	1	赤。直径2cm以下の長石をわずかに含む。	良好	5/77/1 灰白	2/577/1 灰白	回転ナデ。天井部 回転ヘラケズリ。	回転ナデ。	
349	-	T3 SX18	須恵器 蓋	-	-	-	1	普通。	普通	503/4/1 黄オリーブ-灰	503/4/1 黄オリーブ-灰	回転ナデ。	回転ナデ。	
350	-	T3 SX18	灰軸陶器 碗	-	(7.0)	-	1	赤。直径1cm以下の長石を多く含む。	良好	2/577/1 灰白	10/177/1 灰白	回転ナデ。底部回 転糸切り後ナデ。	回転ナデ。	無軸。
351	-	T3 SX18	灰軸陶器 碗	-	-	-	1	赤。直径1cm以下の長石を含む。	良好	5/77/1 灰白	5/77/1 灰白	回転ナデ。	回転ナデ。	無軸。
352	-	T3 SX18	金属製品 不明	径長 1.75	塊厚 0.6	厚厚 0.25	1	重さ0.7g。						
353	包含層	T3	須恵器 杯H蓋	(10.8)	-	-	1	普通。	普通	5/16/1 灰	5/15/1 灰	回転ナデ。	回転ナデ。	
354	包含層	T1	須恵器 杯H蓋	-	-	-	1	普通。	普通	7/5/16/1 灰	5/16/1 灰	天井部回転ヘラケ ズリ。	回転ナデ。	外面に捺印。
355	包含層	T2	須恵器 杯B	(10.0)	-	-	1	赤。直径1cm以下の長石をわずかに含む。	良好	10/177/1 灰白	10/177/1 灰白	回転ナデ。	回転ナデ。	
356	包含層	T1	須恵器 杯G蓋	-	-	-	1	長石をわずかに含む。	普通	N5/0 灰	N6/0 灰	回転ナデ。	回転ナデ。	
357	包含層	T2	須恵器 杯G蓋	(10.0)	-	-	1	赤。直径1cm以下の長石をわずかに含む。	良好	N5/0 灰	N5/0 灰	回転ナデ。	回転ナデ。	外面に捺印。
358	包含層	T1	須恵器 杯G	-	7.0	-	1	直径2cm以下の長石をわずかに含む。	普通	10/177/1 灰白	10/177/1 灰白	回転ナデ。底部回 転ヘラ切り。	回転ナデ。	
359	包含層	T3	須恵器 杯G	-	(6.4)	-	1	普通。	普通	5/77/1 灰白	5/77/1 灰白	回転ナデ。底部回 転ヘラ切り後にナ デ。	回転ナデ。	内面に刻書。
360	包含層	T2	須恵器 杯G	-	(7.2)	-	1	普通。	普通	2/577/1 灰白	5/18/1 灰白	回転ナデ。底部回 転ヘラ切り後にヘ ラナデ。	回転ナデ。	
361	包含層	T2	須恵器 杯G	-	-	-	1	普通。	普通	2/577/1 灰白	2/577/1 灰白	底部回転ヘラ切り。	回転ナデ。	内面に煤付着。
362	包含層	T2	須恵器 杯G	-	(6.0)	-	1	赤。直径3cm以下の長石を多く含む。	普通	2/5/16/1 黄灰	2/5/16/1 黄灰	回転ヘラ切り後に 刷りナデ。	回転ナデ。スピ オオキス。	
363	包含層	T1	須恵器 杯G	-	6.8	-	1	直径1cm以下の長石をわずかに含む。	不良	5/77/1 灰白	5/77/1 灰白	底部ヘラ切り後に 刷りナデ。	回転ナデ。横ナ デ。	

第33表 第39次調査遺物観察表(2)

遺物番号	層位	出土遺構	種別	法量 (cm)			破片数	胎土	構成	色調		成形・調整等		備考
				口徑	底径	器高				外面	内面	外面	内面	
364	包含層	T1	須恵器 杯C	-	-	-	1	直径 1cm 以下の長石を わずかに含む。	普通	2.53X/1 灰白	2.537/1 灰白	回転ナズ。底部回 転ヘラケズリ。	回転ナズ。	
365	包含層	T1	須恵器 蓋	-	-	-	1	直径 1cm 以下の長石を 多く含む。	良好	10197/1 灰白	10197/1 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	
366	包含層	T1	須恵器 蓋	(12.0)	-	-	1	底、直径 1cm 以下の長 石をわずかに含む。	良好	5196/4 にじみ地	7.0196/2 灰地	回転ナズ。天井部 回転ヘラケズリ。	回転ナズ。	外面に重ね焼き痕。
367	包含層	T1	須恵器 蓋	(15.0)	-	-	1	底、直径 3cm 以下の長 石を多く含む。	良好	10195/2 灰黄地	7.0195/2 灰地	回転ナズ。天井部 回転ヘラケズリ。	回転ナズ。	外面に重ね焼き痕・ 腐尻。
368	包含層	T2	須恵器 蓋	(14.0)	-	-	2	普通。	普通	517/1 灰白	517/1 灰白	回転ナズ。天井部 回転ヘラケズリ。	回転ナズ。	
369	包含層	T2	須恵器 蓋	(15.0)	-	-	1	普通。	普通	2.53X/2 灰白	518/2 灰白	回転ナズ。天井部 回転ヘラケズリ。	回転ナズ。	
370	包含層	T2	須恵器 蓋	(15.2)	-	-	1	普通。	普通	10194/1 地灰	10195/1 地灰	回転ナズ。天井部 回転ヘラケズリ。	回転ナズ。	
371	包含層	T1	須恵器 蓋	(17.0)	-	-	1	普通。	普通	2.537/1 灰白	2.537/1 灰白	回転ナズ。天井部 回転ヘラケズリ。	回転ナズ。	
372	埋土	T1 S106	須恵器 杯A	12.5	8.2	4.7	1	普通。	良好	2.536/1 黄灰	2.537/1 灰白	回転ナズ。底部 ヘラケ輪による切り 跡し不明瞭。	回転ナズ。	
373	包含層	T2	須恵器 杯A	(11.0)	(9.0)	3.6	1	普通。	普通	517/1 灰白	517/1 灰白	回転ナズ。底部回 転ヘラケズリ。	回転ナズ。	
374	包含層	T2	須恵器 杯A	(12.0)	(10)	3.5	1	普通。	普通	10197/1 灰白	2.537/1 灰白	回転ナズ。底部回 転ヘラケズリ。	回転ナズ。	外面に自然釉。
375	包含層	T2	須恵器 杯A	(14.0)	-	-	1	普通。	普通	1014/1 灰	10196/1 灰	回転ナズ。底部回 転ヘラケズリ。	回転ナズ。	
376	包含層	T1	須恵器 杯A	(12.0)	-	-	1	直径 1cm 以下の長石を わずかに含む。	良好	7.534/1 灰	1015/1 灰	回転ナズ。	回転ナズ。	
377	包含層	T1	須恵器 杯A	-	(7.0)	-	3	直径 2cm 以下の長石・ 石灰を多く含む。	普通	7.534/1 灰	7.535/1 灰	回転ナズ。底部手 持ルヘラケズリ。	回転ナズ。	
378	包含層	T1	須恵器 杯A	-	-	-	1	普通。	普通	2.537/1 灰白	2.537/1 灰白	底部回転ヘラケズ リ。	外面に黒書。	
379	包含層	T1	須恵器 杯A	-	-	-	1	直径 1cm 以下の長石を わずかに含む。	不良	517/1 灰白	517/1 灰白	底部回転ヘラケズ リ。		
380	包含層	T1	須恵器 碗B	-	(9.0)	-	1	普通。	普通	10197/1 灰白	10197/1 灰白	回転ナズ。底部回 転ナズ。高台付後 に周辺ナズ。	回転ナズ。	
381	包含層	T2	須恵器 杯B	(12.5)	(8.7)	3.3	1	直径 2cm 以下の長石を 多く含む。	良好	515/1 灰	516/1 灰	回転ナズ。底部回 ラケズリ後高台 付。	回転ナズ。	
382	包含層	T1	須恵器 杯B	-	(10.0)	-	1	直径 1cm 以下の長石を 多く含む。	良好	7.536/1 灰	517/1 灰白	回転ナズ。底部回 転ヘラケズリ。高 台付付後に周辺ナ ズ。	回転ナズ。	
383	7層	T2 S112	須恵器 杯B	-	(12.0)	-	1	直径 1cm 以下の長石を わずかに含む。	普通	2.536/2 灰黄	2.537/2 灰黄	回転ナズ。底部回 転ヘラケズリ。高 台付付後に周辺ナ ズ。	回転ナズ。	外面に自然釉。
384	包含層	T2	須恵器 杯B	-	(9.0)	-	1	普通。	普通	10198/3 改良黄	10198/3 改良黄	回転ナズ。底部回 転ヘラケズリ。高 台付付後に周辺ナ ズ。	回転ナズ。	高台底部に灰付着。
385	包含層	T3	須恵器 杯B	-	(7.0)	-	1	直径 3cm 以下の長石・ 石灰を多く含む。	普通	5197/4 にじみ地	5197.6 地	回転ナズ。底部回 転ヘラケズリ。高 台付後に周辺ナズ。	回転ナズ。	
386	包含層	T3	須恵器 杯	(15.0)	-	-	1	普通。	普通	519/1 灰	515/1 灰	回転ナズ。	回転ナズ。	
387	埋土	T2 S113	須恵器 碗A	12.6	7.4	3.7	1	普通。	不良	10198/4 改良黄	10198/4 改良黄	回転ナズ。底部回 転未切り。	回転ナズ。	
388	包含層	T3	須恵器 碗A	(12.0)	(6.4)	3.5	2	普通。	普通	516/1 灰	2.5196/1 黄灰	回転ナズ。回転未 切り。	回転ナズ。	内面に重ね焼き痕。
389	包含層	T2	須恵器 碗A	(12.4)	-	-	1	普通。	普通	10196/1 灰白	517/1 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	
390	包含層	T2	須恵器 碗A	(15.2)	-	-	3	普通。	普通	515/1 灰	515/1 灰	回転ナズ。	回転ナズ。	
391	包含層	T1	須恵器 碗A	(12.5)	-	-	1	底、直径 1cm 以下の長 石をわずかに含む。	良好	7.5334/1 地灰	7.5195/1 地灰	回転ナズ。	回転ナズ。	
392	包含層	T1	須恵器 碗A	-	7.0	-	1	普通。	普通	2.537/2 灰黄	2.537/2 灰黄	回転ナズ。底部回 転未切り。	回転ナズ。	
393	包含層	T2	須恵器 碗A	-	(5.8)	-	1	普通。	不良	7.5337.6 地	7.5337/4 にじみ地	回転ナズ。底部回 転未切り。	回転ナズ。	
394	包含層	T2	須恵器 碗A	-	(5.0)	-	1	直径 1cm 以下の長石を わずかに含む。	不良	2.5338/1 灰白	2.5338/1 灰白	底部回転未切り。	回転ナズ。	
395	包含層	T3	須恵器 碗A	-	5.5	-	1	直径 1cm 以下の長石を 多く含む。	良好	2.536/2 にじみ・ 黄灰	2.5196/1 黄灰	回転ナズ。底部回 転未切り後ナズ。	回転ナズ。	
396	包含層	T1	須恵器 碗A	-	(6.0)	-	1	直径 1cm 以下の長石を 多く含む。	良好	10196/1 灰	1015/1 灰	回転ナズ。底部回 転未切り後周辺 ナズ。	回転ナズ。	

第34表 第39次調査遺物観察表(3)

遺物番号	部位	出土遺構	種別	法量 (cm)			破片数	胎土	焼成	色調		成形・調整等		備考
				口径	底径	器高				外面	内面	外面	内面	
397	包含層	T1	須恵器 椀A	-	(6.0)	-	1	底径 1mm 以下の長石を多く含む。	良好	N5/0 灰	7.0Y5/1 灰	回転ナズ。回転糸切り後に周辺ナズ。	回転ナズ。	
398	包含層	T1	須恵器 椀A	-	(5.5)	-	1	底径 2mm 以下の長石を多く含む。	普通	2.0Y6/1 黄灰	0Y7/1 灰白	底部回転糸切り。	摩耗著しい。	内面に黒痕。
399	包含層	T2	須恵器 椀B	(15.2)	(10.0)	5.1	3	普通。	普通	0Y5/1 灰	0Y5/1 灰	回転ナズ。回転糸切り後に周辺ナズ。		
400	包含層	T3	須恵器 椀B	-	-	-	1	底径 1mm 以下の長石を多く含む。	普通	7.0Y6/1 灰	2.0Y6/1 黄灰	回転ナズ。高台貼付後周辺ナズ。	回転ナズ。	内面に黒付着。
401	包含層	T3	須恵器 椀B	-	(8.0)	-	1	普通。	普通	2.0Y5/1 黄灰	2.0Y7/1 灰白	回転ナズ。底部回転糸切り。高台貼付後に周辺ナズ。	回転ナズ。	
402	包含層	T2	須恵器 椀B	-	(8.6)	-	1	底径 1mm 以下の長石を多く含む。	良好	7.0Y65/1 黄灰	7.0Y65/2 黄灰	底部回転糸切り。高台貼付後に周辺ナズ。		
403	5層	T1 S107	須恵器 椀B	16.0	9.4	5.7	1	普通。	普通	10Y8/1 黄灰	0Y4/1 灰	回転ナズ。底部回転糸切り。高台貼付後に周辺ナズ。	回転ナズ。	
404	包含層	T1	須恵器 椀B	-	(8.0)	-	1	普通。	普通	N6/0 灰	N6/0 灰	回転ナズ。底部静止糸切り。高台貼付後に周辺ナズ。	回転ナズ。	
405	包含層	T1	須恵器 椀B	-	(8.8)	-	1	普通。	普通	N5/0 灰	N5/0 灰	回転ナズ。底部回転糸切り後に回転ヘラケズリ。高台貼付後に周辺ナズ。	回転ナズ。	
406	包含層	T4	須恵器 椀B	-	(6.0)	-	1	底径 1mm 以下の長石をわずかに含む。	良好	2.0Y7/1 灰白	2.0Y7/1 灰白	回転ナズ。底部回転ヘラケズリ。高台貼付後に周辺ナズ。	回転ナズ。	
407	包含層	T3	須恵器 椀B	-	(10.0)	-	1	底径 1mm 以下の長石を多く含む。	良好	7.0Y6/1 灰	7.0Y7/1 灰白	回転ナズ。高台貼付後に周辺ナズ。	回転ナズ。	
408	包含層	T3	須恵器 椀B	-	(9.6)	-	1	普通。	普通	0Y6/1 灰	0Y6/1 灰	回転ナズ。底部高台貼付後に周辺ナズ。	回転ナズ。	
409	包含層	T1	須恵器 椀B	-	(8.4)	-	1	底径 1mm 以下の長石を多く含む。	良好	2.0Y6/1 黄灰	2.0Y7/1 灰白	回転ナズ。底部高台貼付後に周辺ナズ。	回転ナズ。	
410	包含層	T1	須恵器 椀	-	-	-	1	底径 1mm 以下の長石をわずかに含む。	普通	2.0Y7/1 灰白	2.0Y7/1 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	内外面に黒付着。
411	包含層	T3	須恵器 椀	(13.0)	-	-	1	底径 2mm 以下の長石を多く含む。	普通	0Y7/2 灰白	0Y6/1 灰	回転ナズ。	回転ナズ。	
412	包含層	T1	須恵器 椀	(11.5)	-	-	1	底径 1mm 以下の長石をわずかに含む。	普通	N5/0 灰	N5/0 灰	回転ナズ。	回転ナズ。	
413	包含層	T2	須恵器 椀	(12.0)	-	-	1	普通。	普通	7.0Y67/4 にぶい黄	7.0Y67/4 にぶい黄	回転ナズ。	回転ナズ。	
414	包含層	T3	須恵器 椀	(14.0)	-	-	1	底径 2mm 以下の長石を多く含む。	良好	7.0Y5/1 灰	N5/0 灰	回転ナズ。	回転ナズ。	
415	包含層	T1	須恵器 椀	-	-	-	1	普通。	普通	2.0Y7/1 灰白	2.0Y7/1 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	
416	包含層	T3	須恵器 高杯	(11.0)	-	-	1	普通。	普通	2.0Y8/2 灰白	2.0Y8/2 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	
417	包含層	T3	須恵器 高杯	(14.0)	-	-	1	底径 1mm 以下の長石を多く含む。	良好	0Y5/2 灰黄	0Y4/2 灰黄	回転ナズ。	回転ナズ。	
418	包含層	T3	須恵器 高杯	-	-	-	1	普通。	普通	0Y4/1 灰	0Y4/1 灰	磨面回転ナズ。2本の印線。透かし。2段2単位。	修状工具ナズ。下部回転ナズ。	
419	包含層	T3	須恵器 御行盤	-	-	-	1	底径 1mm 以下の長石をわずかに含む。	普通	2.0Y5/1 黄灰	2.0Y7/1 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	
420	包含層	T3	須恵器 御行盤	-	(10.0)	-	1	底径 1mm 以下の長石を多く含む。	良好	7.0Y7/1 灰白	7.0Y6/2 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	内面に自然釉・付着痕。
421	包含層	T3	須恵器 付行盤	(14.6)	(9.0)	3.5	1	底径 1mm 以下の長石を多く含む。	良好	0Y6/1 灰	0Y6/1 黄灰	回転ナズ。底部ヘラケズリ。高台貼付後に周辺ナズ。	回転ナズ。	
422	包含層	T3	須恵器 付行盤	-	(10.0)	-	1	普通。	普通	2.0Y7/2 灰黄	7.0Y67/3 にぶい黄	回転ナズ。底部高台貼付後周辺ナズ。	回転ナズ。	
423	包含層	T3	須恵器 小型鉢	(7.0)	-	-	1	普通。	普通	7.0Y6/1 灰	0Y7/1 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	
424	包含層	T3	須恵器 鉢	(10.0)	-	-	1	普通。	普通	0Y7/1 灰白	0Y6/1 灰	回転ナズ。	回転ナズ。	
425	包含層	T3	須恵器 鉢	-	-	-	1	普通。	普通	2.0Y6/1 黄灰	7.0Y5/1 灰	回転ナズ。	回転ナズ。	
426	包含層	T3	須恵器 鉢	-	(8.0)	-	1	普通。	普通	2.0Y8/1 灰白	2.0Y8/1 灰白	回転ナズ。底部回転ヘラケズリ。	回転ナズ。	
427	包含層	T1	須恵器 短脚盤	(8.8)	-	-	1	普通。	普通	2.0Y4/1 黄灰	2.0Y6/2 灰黄	回転ナズ。	回転ナズ。	外面に自然釉。
428	包含層	T3	須恵器 短脚盤	-	-	-	1	底径 1mm 以下の長石をわずかに含む。	良好	2.0Y5/1 黄灰	2.0Y5/1 黄灰	回転ナズ。	回転ナズ。	

第35表 第39次調査遺物観察表(4)

遺物番号	部位	出土遺物種別	種別	法量 (cm)			破片数	胎土	構成	色調		成形・調整等		備考
				口径	高さ	器高				外面	内面	外面	内面	
429	包古類	T3	須恵器 直脚器	-	(6.5)	-	1	直径1m以下の長石・赤色酸化土を多く含む。	良好	10YR7/1 焼灰	5Y6/2 灰	回転ナズ。底面回転ヘラケズリ。	回転ナズ。	内面に自然釉。
430	包古類	T1	須恵器 直脚器	-	-	-	1	普通。	普通	2.5YR5/2 にぶい焼灰	7.0YR5/1 焼灰	回転ナズ。平行タタキ。	回転ナズ。	内外面に自然釉。
431	包古類	T1	須恵器 直脚器	-	-	-	1	普通。	普通	7.0YR4/1 焼灰	7.0YR5/1 焼灰	平行タタキ。	ナズ。	
432	包古類	T1	須恵器 直脚器	-	-	-	3	普通。	普通	2.5YR5/2 にぶい焼灰	7.0YR5/1 焼灰	平行タタキ。	当具柄。	
433	包古類	T2	須恵器 直脚器	-	-	-	1	普通。	普通	2.5YR6/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	平行タタキ。	上縁同心円文当具柄。下縁ナズ。	
434	包古類	T3	須恵器 直脚器	-	(4.0)	-	1	直径1m以下の長石を多く含む。	良好	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y6/2 黄灰	回転ナズ。	回転ナズ。	内外面に自然釉。
435	包古類	T3	灰輪陶器 瓶	(14.0)	(7.0)	4.5	8	普通。	普通	7.5Y6/1 灰	5Y7/1 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	無釉。
436	包古類	T1	灰輪陶器 瓶	(14.0)	-	-	2	直径2m以下の長石を多く含む。	良好	7.5YR6/2 灰黄	7.0YR6/1 焼灰	回転ナズ。	回転ナズ。	無釉。
437	包古類	T3	灰輪陶器 瓶	(14.0)	-	-	2	普通。	普通	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	内外面に自然釉。断面に緑色の敷粉。
438	包古類	T3	灰輪陶器 瓶	(15.0)	-	-	2	普通。	普通	5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	無釉。
439	包古類	T3	灰輪陶器 瓶	(15.0)	-	-	1	普通。	普通	5Y8/2 灰白	7.0Y7/2 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	内外面に自然釉。
440	包古類	T2	灰輪陶器 瓶	(11.7)	-	-	1	径。直径1m以下の長石をわずかに含む。	良好	5Y8/1 灰白	5Y7/1 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	無釉。
441	包古類	T2	灰輪陶器 瓶	(14.4)	-	-	1	径。直径1m以下の長石をわずかに含む。	良好	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	無釉。
442	包古類	T3	灰輪陶器 瓶	-	-	-	1	径。	良好	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	無釉。
443	包古類	T1	灰輪陶器 瓶	-	-	-	1	径。直径1m以下の長石をわずかに含む。	良好	7.5YR6/1 灰白	10YR7/1 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	無釉。
444	包古類	T2	灰輪陶器 瓶	-	(7.0)	-	1	普通。	普通	5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	無釉。
445	包古類	T3	灰輪陶器 瓶	-	(7.0)	-	1	径。直径1m以下の長石をわずかに含む。	良好	5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	無釉。
446	包古類	T3	灰輪陶器 瓶	-	(7.5)	-	1	径。直径1m以下の長石をわずかに含む。	普通	5Y7/1 灰白	5Y6/1 灰	回転ナズ。底面回転ヘラケズリ。	回転ナズ。	内面に重むき肌。無釉。
447	包古類	T3	灰輪陶器 瓶	-	(7.6)	-	1	普通。	普通	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	回転ナズ。底面回転ナズ。高台貼付後に周辺ナズ。	回転ナズ。	無釉。
448	包古類	T3	灰輪陶器 瓶	-	6.0	-	1	普通。	普通	2.5YR8/1 灰白	7.0Y7/2 灰白	回転ナズ。底面ナズ。高台貼付後に周辺ナズ。	回転ナズ。	内面に灰輪・付着物。
449	包古類	T3	灰輪陶器 瓶	-	(6.0)	-	1	径。直径1m以下の長石をわずかに含む。	良好	2.5Y7/2 灰黄	10YR7/2 にぶい焼灰	回転ナズ。底面ケズリ高台後に周辺ナズ。	回転ナズ。	内外面に自然釉。
450	包古類	T3	灰輪陶器 瓶	-	6.5	-	2	径。直径1m以下の長石をわずかに含む。	良好	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	回転ナズ。底面高台貼付後に周辺ナズ。	回転ナズ。	無釉。
451	包古類	T1	灰輪陶器 瓶	-	(6.2)	-	1	直径1.5m以下の長石をわずかに含む。	普通	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	底面高台貼付後に周辺ナズ。	回転ナズ。	無釉。
452	包古類	T1	灰輪陶器 瓶	-	(7.5)	-	1	直径1m以下の長石をわずかに含む。	不良	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/1 灰白	回転ナズ。底面高台貼付後に周辺ナズ。	回転ナズ。	内面に自然釉。
453	包古類	T3	灰輪陶器 直脚器	-	-	-	1	普通。	普通	5Y8/2 灰白	5Y8/2 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	内外面に自然釉。
454	包古類	T3	灰輪陶器 直脚器	14.5	7.5	2.35	2	径。直径1m以下の長石をわずかに含む。	良好	7.5YR7/3 にぶい焼灰	2.5Y6/2 灰黄	回転ナズ。底面回転ヘラケズリ。ケズリ高台。高台に工具痕。	回転ナズ。	内外面に自然釉。
455	包古類	T3	灰輪陶器 直脚器	-	(9.0)	-	1	普通。	普通	5Y8/2 灰白	2.5Y7/2 灰黄	回転ナズ。底面回転ヘラケズリ後に高台貼付。	回転ナズ。	内外面に自然釉。
456	包古類	T3	灰輪陶器 直脚器	-	(8.4)	-	1	普通。	普通	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/1 灰白	回転ナズ。底面回転ヘラケズリ後に高台貼付。	回転ナズ。	
457	包古類	T1	灰輪陶器 直脚器	(10.5)	-	-	1	径。直径2m以下の長石をわずかに含む。	良好	5Y6/3 オリーブ黄	2.5Y7/2 灰黄	回転ナズ。	回転ナズ。	内外面に自然釉。
458	包古類	T3	灰輪陶器 直脚器	-	(12.0)	-	1	普通。	普通	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	外面底部中心に墨付着。
459	包古類	T3	灰輪陶器 直脚器	-	(5.0)	-	2	径。直径1m以下の長石をわずかに含む。	良好	5Y8/1 灰白	5Y6/2 オリーブ黄	回転ナズ後にケズリ。底面回転ヘラケズリ。	回転ナズ。	内面に自然釉。
460	包古類	T2	土師器 直脚器	(14.0)	-	-	2	普通。	普通	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	口縁-頸部横ナズ。胴部縦方向ハケメ。	口縁部横ナズ。胴部縦方向ハケメ。	
461	包古類	T2	土師器 直脚器	(16.0)	-	-	1	普通。	普通	10YR7/3 にぶい焼灰	5Y8/2 灰白	縦方向ハケメ。口縁下横ナズ。	縦方向ハケメ。口縁下横ナズ。	

第36表 第39次調査遺物観察表(5)

遺物番号	部位	出土遺構	種別	法量 (cm)			破片数	胎土	色調		成形・調整等		備考	
				口徑	底径	器高			外蓋	内蓋	外蓋	内蓋		
462	7層	T2	土師器 甕	(16.0)	-	-	3	普通。	普通	2.577/2 灰黄	7.577/6 橙	縦方向ハケメ。ユビオサエ。	横方向ハケメ。ユビオサエ。口縁～胴部横ナズ。	
463	包含層	T2	土師器 甕	(22.0)	-	-	4	普通。	普通	10X77/3 に5い黄緑	10X77/3 灰白	縦方向ハケメ。ユビオサエ。胴部横ナズ。	横方向ハケメ。胴部横ナズ。	外面に横付着。
464	包含層	T2	土師器 甕	(11.0)	-	-	1	普通。	普通	10Y96/1 褐色	10Y96/2 灰黄緑	口縁～胴部横ナズ。	口縁～胴部横ナズ。胴部横方向ハケメ。	
465	包含層	T2	土師器 甕	-	-	-	1	直径 3cm 以下の長石・赤色酸化土を多く含む。	普通	7.577/3 に5い黄	7.577/2 明褐色	縦方向ハケメ。	横方向ハケメ。	
466	包含層	T1	土師器 甕	-	-	-	10	直径 3cm 以下の長石・赤色酸化土を多く含む。	普通	7.577/6 に5い黄	7.577/4 灰黄	縦方向ハケメ。口縁トユビオサエ。横ナズ。胴部横ナズ。	横方向ハケメ。ユビオサエ。	輪積み痕。
467	包含層	T1	土師器 甕	-	-	-	3	普通。	普通	7Y77/1 灰白	2.578/3 灰黄	縦方向ハケメ。	横方向ハケメ。	内面に輪積み痕。
468	包含層	T2	土師器 小型甕	-	-	-	1	濃。直径 1cm 以下の長石をわずかに含む。	普通	7.573/1 小オーゾシ	10X77/2 に5い黄	斜位ナズ・ヘラ調整。		
469	包含層	T1	製瓦土器	-	-	-	1	普通。	普通	7.5786/3 に5い黄	10Y98/3 灰黄緑	ナズ。	ナズ。	外面に輪積み痕。
470	包含層	T1	土製品 土埴	残長 4.35	残幅 1.6	孔径 0.4	1	普通。	普通	10Y96/2 灰黄緑	7.577/2 明褐色			外面に数付着。
471	包含層	T1	瓦 軒丸瓦	西谷西馬 111.61	厚さ 2.4～1.95	-	1	直径 1cm 以下の長石を多く含む。	良好	S5/0 灰		有段支継準弁九弁蓮華文。	瓦当部裏面ヘラケズリ。	
472	包含層	T2	瓦 丸瓦	右側面 残 12.0	広端面 残 12.0	厚さ 2.3～2.0	1	普通。	良好	D96/1 灰		凸面：ヘラケズリ調整。	凹面：布目痕。	有密度タテ 15×ヨコ 15/2 cm。
473	包含層	T1	瓦 丸瓦	右側面 残 8.0	側縁幅 3.0～2.0	厚さ 2.4～1.8	1	濃。	良好	10G74/1 緑オリーブ		凸面：タタキ後にヘラケズリ。	凹面：布目痕・側縁痕。	有密度タテ 13×ヨコ 13/2 cm。
474	包含層	T2	瓦 平瓦	厚さ 2.5	-	-	1	直径 3cm 以下の長石を含む。	不良	2.578/2 灰白		凸面：格子タタキ。	凹面：ナズ。	
475	包含層	T1	瓦 平瓦	厚さ 2.6～2.5	-	-	1	直径 2cm 以下の長石を含む。	良好	2.578/1 灰白		凸面：ヘラケズリ。	凹面：布目痕。縦方向ナズ。	有密度タテ 14×ヨコ 18/2 cm。
476	包含層	T2	土師器 甕	(6.0)	-	-	1	普通。	普通	10Y98/3 灰黄緑	10Y98/3 灰黄緑	回転ナズ。底部回転軸未切り。	回転ナズ。	
477	包含層	T1	中世陶器 鉢	(30.0)	-	-	1	直径 1cm 以下の長石をわずかに含む。	不良	2.575/2 緑灰黄	D76/1 灰白	平行タタキ。口縁部ユビオサエ。	ナズ。	
478	包含層	T1	金属製品 銅銭	幅 2.4	孔径 0.5	-	1	銅銭複製。重さ 3.0g。						
479	表土	Ti+2	灰土器 甕	(7.0)	-	-	1	普通。	普通	10Y96/1 褐色	10Y96/1 褐色	回転ナズ。天井部回転ヘラケズリ。	回転ナズ。	
480	表土	Ti+2	灰土器 杯A	(9.0)	-	-	1	普通。	普通	2.577/2 灰黄	2.577/2 灰黄	回転ナズ。底部回転軸未切り後に回転ヘラケズリ。	回転ナズ。	
481	表土	Ti+2	灰土器 杯B	(16.0)	-	-	1	普通。	普通	2.5785/3 に5い黄	2.5785/3 に5い黄	回転ナズ。底部回転ヘラケズリ。高台基付後に周回ナズ。	回転ナズ。	
482	表土	Ti+2	灰土器 杯B	(8.0)	-	-	1	普通。	普通	D77/1 灰白	2.577/1 灰白	回転ナズ。底部回転ヘラケズリ。高台基付後に周回ナズ。	回転ナズ。	
483	表土	Ti+2	灰土器 杯B	(7.0)	-	-	1	普通。	普通	10Y96/2 灰黄緑	2.577/2 灰黄	回転ナズ。底部回転ヘラケズリ。高台基付後に周回ナズ。	回転ナズ。	内面に自然熱。
484	表土	Ti+2	灰土器 杯B	(8.2)	-	-	1	普通。	不良	10X77/1 灰白	10X77/2 に5い黄	回転ナズ。底部回転ヘラケズリ後に高台基付。	回転ナズ。	
485	表土	Ti+2	灰土器 杯A	(6.0)	-	-	1	普通。	普通	2.577/3 灰黄	2.576/3 に5い黄	回転ナズ。底部回転軸未切り。	回転ナズ。	内面に横付着。
486	表土	Ti+2	灰土器 付行蓋	(9.0)	-	-	1	直径 1cm 以下の長石を多く含む。	良好	7.575/1 灰	7.575/1 灰	回転ナズ。底部高台基付後周回ナズ。	回転ナズ。	
487	表土	T3	灰土器 甕	-	-	-	1	普通。	不良	2.576/1 黄灰	2.577/1 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	内面に横付着。
488	表土	T3	灰土器 甕	-	-	-	1	普通。	普通	2.576/1 黄灰	2.575/1 黄灰	回転ナズ。斜方向横溝状沈積。横状工具による連続的変。	回転ナズ。	
489	表土	Ti+2	灰土器 甕	(12.0)	-	-	2	普通。	普通	2.577/1 灰白	2.577/1 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	無軸。
490	表土	Ti+2	灰土器 甕	-	6.2	-	2	長石をわずかに含む。	普通	2.577/1 灰白	2.577/1 灰白	回転ナズ。底部回転ヘラケズリ後に高台基付・周回ナズ。	回転ナズ。	無軸。

## 30 第40次調査（第109・110図、第37表）

調査日 2014年10月2日

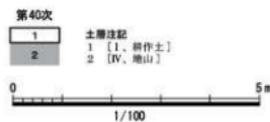
開発の目的 宅地造成工事

保護措置 工事掘削に伴い、立会を行った。

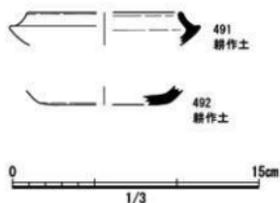
土層と遺構 現地地表下0.3mまで掘削された。土層は上層より大きく分けて第Ⅰ層耕作土、第Ⅳ層地山であった。遺構の確認はなかった。

遺物 遺物は耕作土において確認し、須恵器6点であった。491は須恵器杯Hである。口縁部片で、端部は短く、丸くおさめる。受け部は内傾する。492は平底で、底部に回転ヘラ切りを施す須恵器杯Gの底部片である。

所見 遺構は確認できなかったが、近隣地の第31・37次調査で堅穴建物跡等を確認している。とくに第37次調査では標高約469.3mで遺物包含層を確認しているため、本調査地も遺跡の範囲内と考えられる。



第109図 第40次調査遺構図



第110図 第40次調査出土遺物図

第37表 第40次調査遺物観察表

遺物番号	層位	出土遺構 種別	流量 (cm)			破片数	胎土	焼成	色調		成形・調整等		備考	
			口徑	底径	器高				外面	内面	外面	内面		
491	耕作土	-	須恵器杯H	(9.4)	-	-	1	普通	普通	7.57/1 灰白	7.57/1 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	外面に自然焼。
492	耕作土	-	須恵器杯G	-	(8.0)	-	1	濃性1mm以下の長石を含む。	普通	7.336/1 灰	1096/1 灰	回転ナズ。底部ヘラ切り。	回転ナズ。	

## 31 第42次調査（第111図）

調査日 2015年5月29日

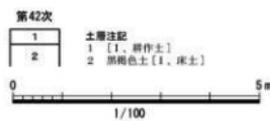
開発の目的 宅地造成工事

保護措置 工事掘削に伴い、立会を行った。

土層と遺構 掘削は現地地表下0.3mまでで、第Ⅰ層耕作土でとどまった。遺構の確認はなかった。

遺物 遺物の確認はなかった。

所見 今回の調査は耕作土にとどまったが、近隣地の第43次調査で第Ⅲa層遺物包含層を確認していることから遺跡の範囲内と考えられる。



第111図 第42次調査遺構図

## 32 第43次調査（第112・113図、第38表）

調査日 2015年7月15・17日

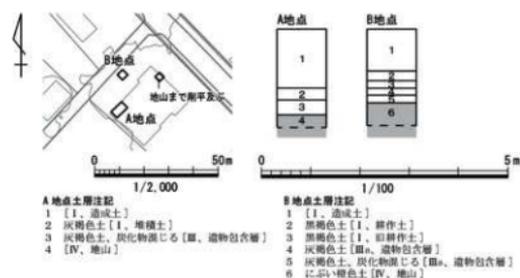
開発の目的 店舗解体工事

保護措置 工事掘削に伴い、立会を行った。

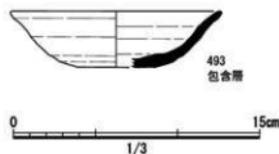
土層と遺構 現地地表下1.5mまで掘削した。土層は上層より大きく分けて第Ⅰ層造成土・耕作土・旧耕作土、第Ⅲa層遺物包含層、第Ⅳ層地山であった。遺構の確認はなかった。

**遺物** 遺物は須恵器4点、土師器2点、計6点を確認した。493は須恵器杯Aである。口縁部は外反し、丸くおさめる。底部外面に手持ちヘラケズリを施す。

**所見** 遺構の確認はなかったが、第Ⅲa層遺物包含層を確認していることから遺跡の範囲内と考えられる。



第112図 第43次調査遺構図



第113図 第43次調査出土遺物図

第38表 第43次調査遺物観察表

遺物番号	層位	出土遺構	種類	法量 (cm)			破片数	胎土	焼成	色調		成形・調整等		備考
				口径	底径	器高				外面	内面	外面	内面	
493	包含層	-	須恵器杯A	(12.8)	(4.7)	3.4	2	灰褐色 3mm以下の炭石をわずかに含む。	不良	2.5W/1 灰白	2.5W/2 灰白	回転ナデ、底部平	手持ちヘラケズリ	回転ナデ。

## 33 第44次調査 (第114図)

**調査日** 2015年8月26日

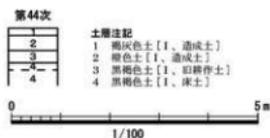
**開発の目的** 倉庫建設工事

**保護措置** 工事掘削に伴い、立会を行った。

**土層と遺構** 現地地下0.8mまで掘削した。土層は上層より大きく分けて第Ⅰ層造成土・旧耕作土・床土であった。遺構の確認はなかった。

**遺物** 遺物の確認はなかった。

**所見** 遺構・遺物は確認できず、同地点を対象とした第16次調査でも遺構・遺物の確認はなかったことから遺跡の範囲外と考えられる。



第114図 第44次調査遺構図

## 34 第45Ⅱ次調査

**調査日** 2016年4月7日

**開発の目的** 道路拡幅に伴う電柱移設工事

**保護措置** 工事掘削に伴い、立会を行った。

**土層と遺構** 径45cmで現地地下最大2.5mまで掘削した。面積狭小であり、遺構の確認はなかった。

**遺物** 遺物の確認はなかった。

**所見** 今回は面積狭小であり、遺構・遺物の確認はなかったが、近隣地の第45次調査では竪穴建物等を確認しており、遺跡の範囲内と考えられる。

### 35 第46次調査（第115図）

**調査日** 2016年5月13日

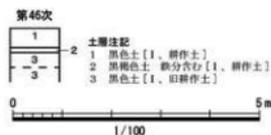
**開発の目的** 集合住宅新築工事

**保護措置** 工事掘削に伴い、立会を行った。

**土層と遺構** 現地地表下0.8mまで掘削した。土層は上層より大きく分けて第Ⅰ層耕作土・旧耕作土であった。遺構の確認はなかった。

**遺物** 遺物の確認はなかった。

**所見** 遺構・遺物の確認はなかった。しかし、近隣地の第10次調査では竪穴建物跡等を確認していることから、遺跡の範囲内と考えられる。



第115図 第46次調査遺構図

### 36 第47次調査（第116図）

**調査日** 2016年6月2日

**開発の目的** 集合住宅新築工事

**保護措置** 工事掘削に伴い、立会を行った。

**土層と遺構** 掘削は現地地表下0.8mまでで、第Ⅰ層造成土でとどまった。遺構の確認はなかった。

**遺物** 遺物の確認はなかった。

**所見** 今回の調査は造成土にとどまったが、近隣地の第43次調査で第Ⅲa層遺物包含層を確認していることから遺跡の範囲内と考えられる。



第116図 第47次調査遺構図

### 37 第48次調査（第117・118図、第39表）

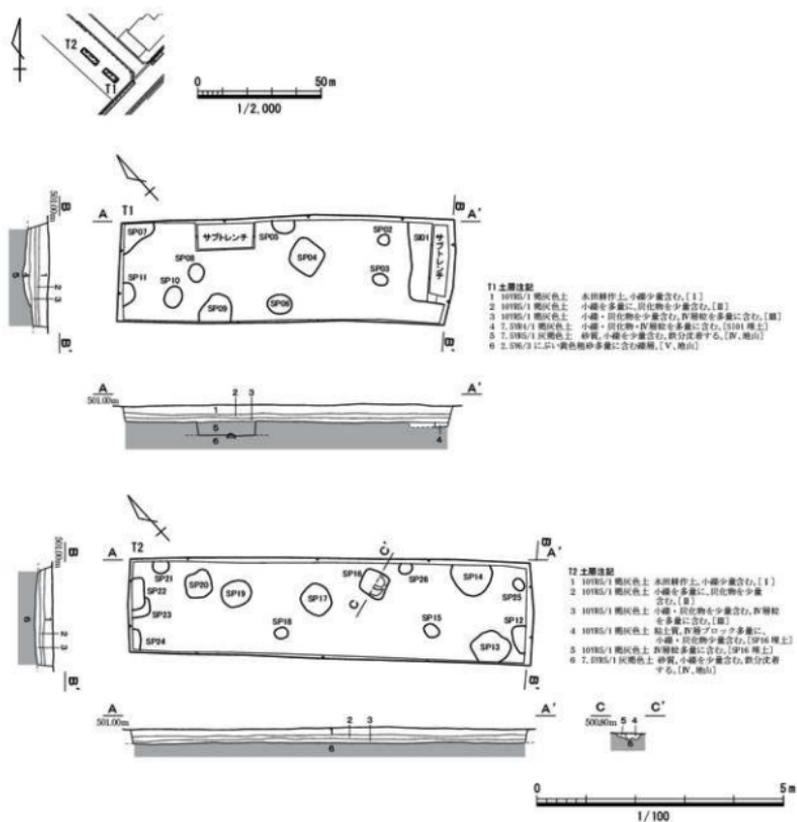
**調査日** 2016年7月13～14日

**開発の目的** 個人住宅新築工事

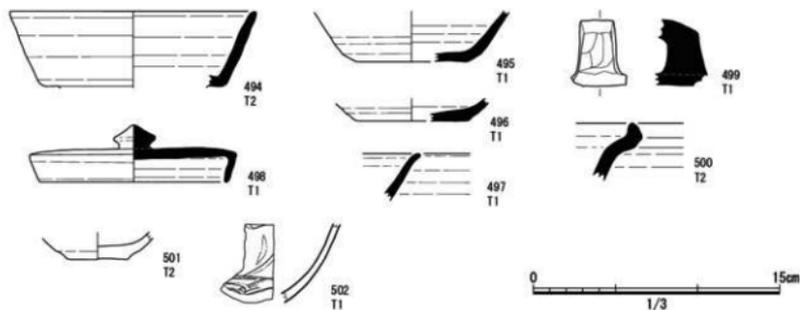
**保護措置** 調査対象地に3.5m×2m、8m×2mのトレンチを北西-南東方向に2カ所設定し、試掘確認調査を行った。

**土層と遺構** 土層は上層より大きく分けて第Ⅰ層耕作土、第Ⅱ・Ⅲ層遺物包含層、第Ⅳ・Ⅴ層地山であった。遺構はT1で竪穴建物跡1軒、T1・2で柱穴25基を確認した。

**遺物** 包含層で須恵器38点、灰釉陶器1点、土師器10点、中世陶磁器3点、計51点を確認した。494は須恵器杯Bである。体部は直線的で、傾きは大きい。495・496は底部に回転糸切りを施す須恵器碗Aである。496は立ち上がり直線的である。497は須恵器碗である。口縁部は外反する。498は須恵器壺である。宝珠形の擴みを有する。口縁部は内傾し、端部は丸くおさめる。0-10号窯式期に位置付けられる。499は須恵器平瓶の把手部である。500は須恵器甕である。口縁部片で、口



第117図 第48次調査遺構図



第118図 第48次調査出土遺物図

第39表 第48次調査遺物観察表

遺物番号	層位	出土遺物種別	法量 (cm)			破片数	胎土	焼成	色調		成形・調整等		備考
			口径	底径	器高				外面	内面	外面	内面	
494	包含層	T2 須恵器杯B	(11.0)	(11.4)	4.6	1	普通。	普通	10YR4/1 緑赤灰	10YR6/2 灰黄緑	回転ナズ。	回転ナズ。	
495	包含層	T1 須恵器杯A	-	(6.8)	-	1	普通。	普通	10YR5/3 浅黄緑	10YR6/2 灰白	回転ナズ。回転糸切り。	回転ナズ。	
496	包含層	T1 須恵器杯A	-	(7.0)	-	1	普通。	普通	2.5Y7/2 灰黄	5Y7/2 灰白	回転ナズ。底部回転糸切り。	回転ナズ。	
497	包含層	T1 須恵器杯	-	-	-	1	普通。	普通	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y6/1 黄灰	回転ナズ。	回転ナズ。	
498	包含層	T1 須恵器小椀	11.4	-	3.5	6	普通。	普通	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	回転ナズ。天井部回転ヘラケズリ。	回転ナズ。	横み径 2.5 cm。
499	包含層	T1 須恵器平飯椀	-	-	-	1	普通。	普通	2.5YR4/2 灰赤	10YR7/2 灰白	ヘラケズリ。	回転ナズ。	外面に自然釉。
500	包含層	T2 須恵器甕	-	-	-	1	普通。	普通	2.5Y5/1 黄灰	2.5Y6/1 黄灰	回転ナズ。	回転ナズ。	
501	包含層	T2 山菜碗小椀	-	3.8	-	1	普通。	普通	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	回転ナズ。底部回転糸切り。	回転ナズ。	内面に自然釉。
502	包含層	T1 青磁碗	-	-	-	1	普通。	普通	2.5Y6/1 灰	7.5Y6/2 灰オリーブ	回転ナズ。	回転ナズ。青花文。	内外面に施釉。

縁部は外反し、端部は内傾するようにつまみ上げる。501は山菜碗小椀である。底部に回転糸切り痕が残る。502は青磁碗である。体部片で、内面に青花文が残る。

**所見** 古代の遺物を確認していることから、堅穴建物跡や柱穴は古代のものとして推定でき、遺跡の範囲内と考えられる。

## 38 第51次調査(第119・120図、第40表)

**調査日** 2017年8月31日～9月1日

**開発の目的** グループホーム建設工事

**保護措置** 調査対象地に2m×2.5mのトレンチを北東-南西方向に2カ所設定し、試掘確認調査を行った。

**土層と遺構** 土層は上層より大きく分けて第I層耕作土、第II層遺物包含層、第III層遺物包含層、第V層地山であった。遺構はT1で堅穴建物跡1軒、T2で土坑2基、T1で柱穴4基を確認した。

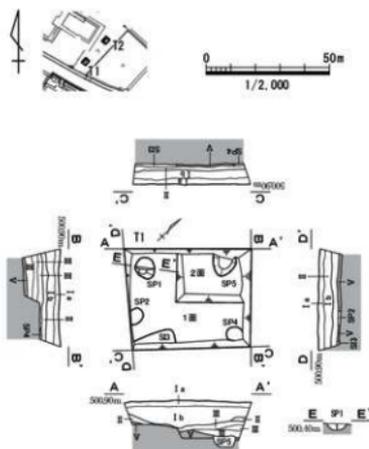
**遺物** 須恵器13点、灰釉陶器1点、土師器5点、陶器3点、計22点を確認した。503は平底で、回転ヘラ切り後にナズを施す須恵器杯Gである。504は底部に回転ヘラケズリを施す須恵器杯Aである。立ち上がりは直線的である。505は須恵器杯である。体部は直線的で、口縁端部は丸くおさめる。506は須恵器長頸瓶である。頸部片である。507は須恵器甕である。口縁部片で、口縁は外反し、上

第40表 第51次調査遺物観察表

遺物番号	層位	出土遺物種別	法量 (cm)			破片数	胎土	焼成	色調		成形・調整等		備考
			口径	底径	器高				外面	内面	外面	内面	
503	耕作土包含層	T2 須恵器杯G	-	8.0	-	1	黄緑4mm以下の長布をおおぐさを含む。	不良	2.5YR/2 灰白	5Y5/1 灰	回転ナズ。底部回転ヘラ切り後ナズ。	回転ナズ。	
504	耕作土包含層	T1 須恵器杯A	-	(8.0)	-	1	普通。	普通	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	回転ナズ。底部回転ヘラケズリ。	回転ナズ。	
505	耕作土包含層	T1 須恵器杯	-	-	-	1	普通。	普通	2.5YR/2 灰白	2.5YR/3 浅黄	回転ナズ。	回転ナズ。	
506	耕作土包含層	T1 須恵器長頸瓶	-	-	-	1	普通。	普通	7.5YR5/2 灰褐	2.5Y5/1 黄灰	回転ナズ。	回転ナズ。	外面に自然釉。
507	耕作土包含層	T1 須恵器甕	-	-	-	1	普通。	普通	5Y5/2 灰オリーブ	5Y7/1 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	
508	耕作土包含層	T1 灰釉陶器碗or盤	-	(8.0)	-	1	普通。	普通	2.5YR/1 灰赤	2.5YR/1 灰白	回転ナズ。底部高台貼付縁周リナズ。	回転ナズ。	

方につまみ上げる。508は灰釉陶器碗か皿である。底部片で、底部の調整は確認できない。

所見 古代の遺物を確認していることから、堅穴建物跡や土坑、柱穴は古代のもので推定でき、遺跡の範囲内と考えられる。



#### T1主要発掘

Ia 10YR1/2 灰黄色粘細砂 (φ3～5mm大の礫を中や多量、ピロール等を含む。) [耕作土]

Ib 10YR3/2 暗褐色シルトと10YR3/2 灰黄色シルトの混在。

(φ1～2mm大の礫を多量、φ2～3mm大の礫を中や多量含む。しまりやや強い。) [床土]

II 10YR3/2 黒褐色砂質シルト (φ3～5cm大の礫を中や多量含む。しまり強い。) [遺物付台層]

III 10YR3/1 黒褐色シルト (φ2～3cm大の礫を少量、褐色ワゴン礫を層状に含む。) [遺物付台層]

IV 10YR2/2 黒褐色砂質シルト (φ2～3cm大の礫を少量、上面に暗褐色ワゴン礫層状に厚く。) [遺物付台層]

V 10YR4/4 褐色粘砂 (φ1～2mm大の礫を多量、φ3～5cm大の礫を多量、φ30～40mmの礫を少量含む。) [地山]

SP1 T1 上層 10YR3/2 黒褐色粘砂シルト (φ2～2mmの同色物も少量、φ1～2mmの礫を中や多量含む。)

SP2 T1 上層 10YR3/2 黒褐色砂質シルト (φ2～3mmの礫を中や多量含む。)

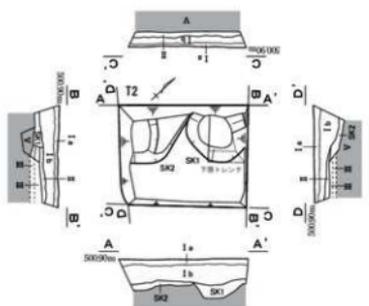
SP3 T1 上層 10YR3/2 黒褐色砂質シルト (同色粘砂を中や多量含む。しまりやや強い。)

SP4 T1 上層 10YR3/2 黒褐色粘砂シルト (φ1～2mmの同色物も少量、φ1～2mmの礫を中や多量含む。)

SP5 T1 下層 10YR2/2 黒褐色粘砂シルト (φ3～5cmの礫を中や多量、しまり強い。)

SK1 T2 上層 10YR3/2 黒褐色粘砂シルト (粗粒砂を多量、φ3～5cm大の礫を中や多量含む。)

SK2 T2 上層 10YR3/2 黒褐色シルト (粗粒砂を少量、φ2～3cm大の礫を中や多量、φ5～10cm大の礫を少量含む。)



#### T2主要発掘

Ia 10YR1/2 灰黄色粘細砂 (φ3～5mm大の礫を中や多量、ピロール等を含む。) [耕作土]

Ib 10YR3/2 暗褐色シルトと10YR3/2 灰黄色シルトの混在。

(φ1～2mm大の礫を多量、φ2～3mm大の礫を中や多量含む。しまりやや強い。) [耕作土]

II 10YR3/2 黒褐色砂質シルト (φ2～5cm大の礫を中や多量含む。しまり強い。) [遺物付台層]

III 10YR3/1 黒褐色シルト (φ2～3cm大の礫を少量、褐色ワゴン礫を層状に含む。) [遺物付台層]

IV 10YR3/2 黒褐色砂質シルト (φ2～3cm大の礫を少量、上面に暗褐色ワゴン礫層状に厚く。) [遺物付台層]

V 10YR4/4 褐色粘砂 (φ1～2mm大の礫を多量、φ3～5cm大の礫を多量、φ30～40mmの礫を少量含む。) [地山]

SP1 T1 上層 10YR3/2 黒褐色粘砂シルト (φ2～2mmの同色物も少量、φ1～2mmの礫を中や多量含む。)

SP2 T1 上層 10YR3/2 黒褐色砂質シルト (φ2～3mmの礫を中や多量含む。)

SP3 T1 上層 10YR3/2 黒褐色砂質シルト (同色粘砂を中や多量含む。しまりやや強い。)

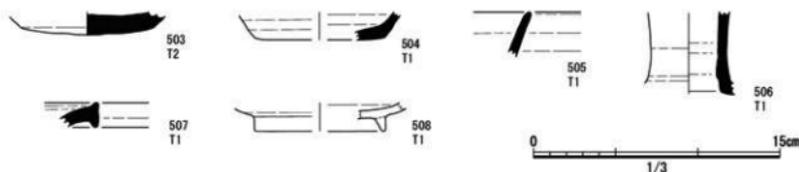
SP4 T1 上層 10YR3/2 黒褐色粘砂シルト (φ1～2mmの同色物も少量、φ1～2mmの礫を中や多量含む。)

SP5 T1 下層 10YR2/2 黒褐色粘砂シルト (φ3～5cmの礫を中や多量、しまり強い。)

SK1 T2 上層 10YR3/2 黒褐色粘砂シルト (粗粒砂を多量、φ3～5cm大の礫を中や多量含む。)

SK2 T2 上層 10YR3/2 黒褐色シルト (粗粒砂を少量、φ2～3cm大の礫を中や多量、φ5～10cm大の礫を少量含む。)

第119図 第51次調査遺構図



第120図 第51次調査出土遺物図

## 39 第52次調査（第121図）

調査日 2017年10月18日

開発の目的 店舗建設工事

保護措置 調査対象地に2.5m×1.7mのトレンチを南北方向に1カ所設定し、試掘確認調査を行った。

土層と遺構 土層は上層より大きく分けて第I層客土、第Ic層旧耕作土、第V層地山であった。遺構の確認はなかった。

遺物 遺物の確認はなかった。

所見 遺構・遺物の確認はなく、詳細分布調査でも本調査区近隣で遺物の確認が少なかったことから、遺跡の範囲外と考えられる。



第121図 第52次調査遺構図

## 40 第53次調査（第122～124図、第41表）

調査日 2017年11月6～8日

開発の目的 工場建設工事

保護措置 調査対象地に5m×3mのトレンチを北東-南西方向に4カ所設定し、試掘確認調査を行った。

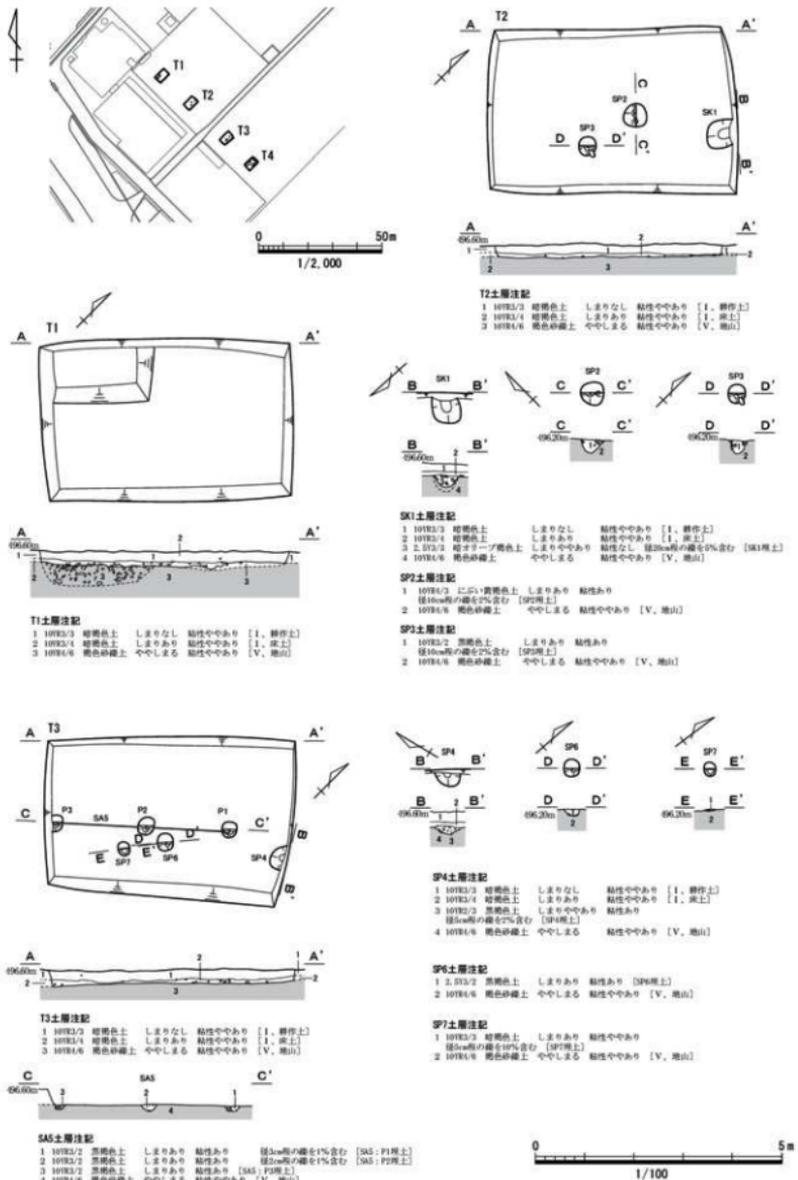
土層と遺構 土層は上層より大きく分けて第I層耕作土、第V層地山であった。遺構はT4で堅穴建物跡1軒、T4で溝状遺構1条、T2で土坑1基、T2～4で柱穴9基を確認した。なお、T3の3基の柱穴は約1.8m間隔で柱穴が並んでいることから、柵列跡か建物跡の可能性が考えられた。これより、東端のT1は遺跡外で、T2より東側に遺跡が広がっていくものと考えられた。

遺物 遺物は須臾器4点、土師器1点、金属製品1点、計6点を確認した。509は土師器皿である。内面にナゲ調整、外面口縁部に一段の横ナゲを施し、体部外面は未調整である。5類に属する。510は釘である。

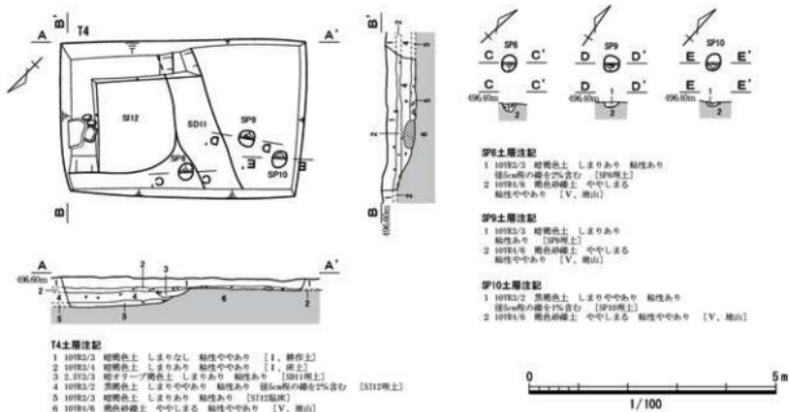
所見 古代から中世の遺物を確認していることから、堅穴建物跡などは古代から中世のものとして推定でき、遺跡の範囲内と考えられる。

第41表 第53次調査遺物観察表

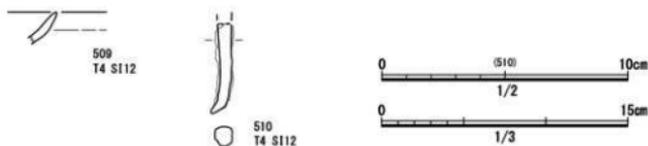
遺物番号	層位	出土遺構	遺物種類	流量 (cm)			破片数	胎土	焼成	色調		成形・調整等		備考
				口径	底径	器高				外面	内面	外面	内面	
509	3	T4 5112	土師器 皿	-	-	-	1	普通	普通	2.5YR/2 灰白	2.0YR/2 灰白	口縁部一段ナゲ、 下半未調整。	ナゲ。	
510	3	T4 5112	金属製品 釘	残長 3.7	残幅 0.7	残厚 0.8	1	重さ3.1g、頭部欠損。跡付着。						



第122図 第53次調査遺構図(1)



第123図 第53次調査遺構図(2)



第124図 第53次調査出土遺物図

## 41 第54次調査(第125・126図、第42表)

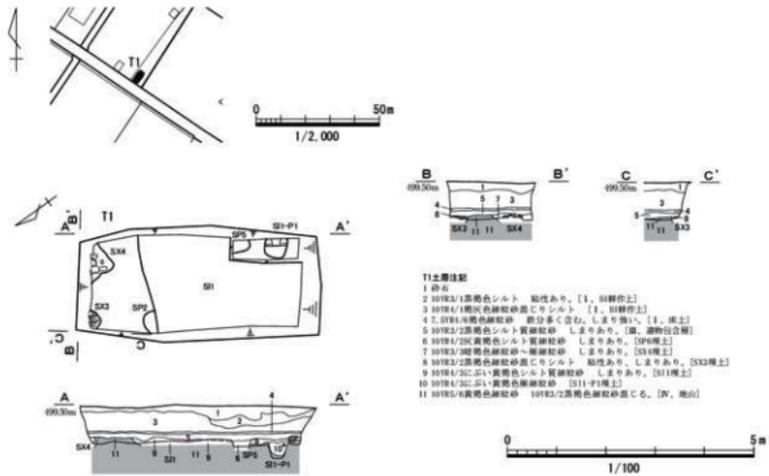
調査日 2018年5月30日

開発の目的 個人住宅新築工事

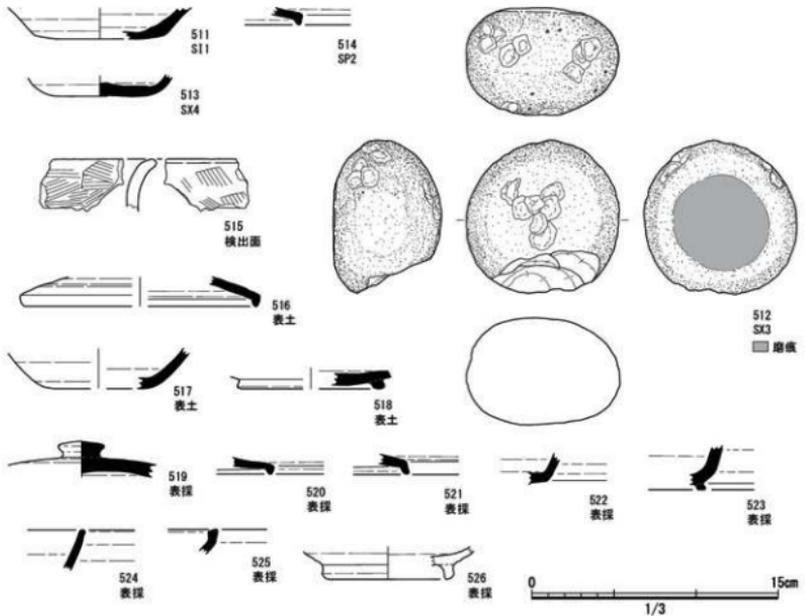
保護措置 調査対象地に2m×5mのトレンチを北東-南西方向に1カ所設定し、試掘確認調査を行った。

土層と遺構 土層は上層より大きく分けて第I層造成土・旧耕作土・床土等の表土、第III a層遺物包含層、第IV層地山であった。第IV層地山上面で遺構を検出した。遺構はT1で堅穴建物跡1軒、集石遺構2基、柱穴3基を確認した。

遺物 遺物は須恵器107点、灰釉陶器13点、土師器7点、陶磁器2点、石器・石製品3点を、計132点を確認した。S11では須恵器3点、土師器2点を確認した。S11は底部に回転ヘラケズリを施す須恵器杯Aである。体部は開き気味である。S11内のSP1では土師器1点を確認した。SX3では磨石1点を確認した。S12は磨石である。片端が欠損している。表面に磨り痕が残る。また、複数の敲打痕も残る。SX4では須恵器1点を確認した。S13は底部に回転糸切り痕が残る須恵器碗Aである。立ち上がりは丸みをおびる。SP2では須恵器1点を確認した。S14は須恵器摘み蓋である。口縁端部は三角形を呈する。



第125図 第54次調査遺構図



第126図 第54次調査出土遺物図

第42表 第54次調査遺物観察表

遺物番号	層位	出土遺物種別	法量 (cm)			破片数	胎土	焼成	色調		成形・調整等		備考
			口徑	底径	器高				外面	内面	外面	内面	
S11	埋土	S11 須恵器杯A	-	(7.8)	-	1	普通。	普通	S17/1 灰白	S17/2 灰白	回転ナズ。底部回転ヘラケズリ。	回転ナズ。	
S12	-	S103 石製品磨石	残長 9.3	幅 9.2	厚 6.5	1	安山岩。重さ 723.5g。下部欠損。磨痕あり。自然面あり。						
S13	埋土	S14 須恵器碗A	-	6.4	-	1	普通。	普通	S15/1 灰	S16/1 灰	回転ナズ。底部回転ヘラケズリ。	回転ナズ。	
S14	埋土	S12 須恵器蓋	-	-	-	1	普通。	普通	S18/2 灰粉	1018/2 灰黄褐色	回転ナズ。	回転ナズ。	
S15	-	検出品 土師器甕	-	-	-	1	普通。	普通	1018/1 灰白	2.519/2 灰白	横ナズ。側部斜方向ハケメ。	横ナズ。側部斜方向ハケメ。	
S16	-	表土 須恵器蓋	(14.2)	-	-	1	普通。	普通	1015/1 灰	1015/1 灰	回転ナズ。	回転ナズ。	
S17	-	表土 須恵器杯A	-	(7.4)	-	1	普通。	普通	1017/2 にふい黄褐色	1017/2 にふい黄褐色	回転ナズ。底部回転ヘラケズリ。	回転ナズ。	
S18	-	表土 須恵器杯B	-	(9.4)	-	1	普通。	普通	1018/2 灰白	1018/2 灰白	回転ナズ。底部高台貼付後周辺ナズ。	回転ナズ。	
S19	-	表探 須恵器蓋	-	-	-	1	普通。	普通	1018/1 褐色	2.517/1 灰白	天井部回転ヘラケズリ。	回転ナズ。	
S20	-	表探 須恵器蓋	-	-	-	1	普通。	普通	1018/1 褐色	2.516/1 黄灰	回転ナズ。	回転ナズ。	
S21	-	表探 須恵器蓋	-	-	-	1	普通。	普通	2.517/1 灰白	2.517/1 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	
S22	-	表探 須恵器杯B	-	-	-	1	普通。	普通	1016/1 灰	1016/1 灰	回転ナズ。底部回転ヘラケズリ。	回転ナズ。	
S23	-	表探 須恵器碗B	-	-	-	1	普通。	普通	2.517/1 灰白	2.517/1 灰白	回転ナズ。底部高台貼付後周辺ナズ。	回転ナズ。	
S24	-	表探 須恵器杯C碗	-	-	-	1	普通。	普通	1018/2 灰黄褐色	1018/1 灰白	回転ナズ。	回転ナズ。	
S25	-	表探 須恵器盤	-	-	-	1	普通。	普通	S4/0 灰	S4/0 灰	回転ナズ。	回転ナズ。	
S26	-	表探 灰釉陶器碗	(8.4)	-	-	2	普通。	普通	2.517/1 灰白	2.518/1 灰白	回転ナズ。底部高台貼付後周辺ナズ。	回転ナズ。	内面に灰釉。

検出面では須恵器4点、土師器2点、石器2点を確認した。515は土師器甕である。口縁部片あり、口縁部は外反し、端部は丸くおさめる。

第1層表土では須恵器17点、土師器1点、陶器1点を確認した。516は須恵器摘み蓋である。口縁部はやや内傾し、三角形を呈する。517は底部に回転ヘラケズリを施す須恵器杯Aである。立ち上がりは直線的である。518は須恵器杯Bである。方形の高台を貼付する。

トレンチ南壁では須恵器1点を確認した。

地表面採集として須恵器80点、灰釉陶器13点、土師器1点、陶器1点を確認した。519～521は須恵器摘み蓋である。519は宝珠形状の摘みを有する。520は口縁部片で、口縁は内傾し、端部は三角形を呈する。521は口縁部片で、口縁は外反し、端部は丸くおさめる。522は底部に回転ヘラケズリを施す須恵器杯Bである。立ち上がりは直線的である。523は須恵器碗Bである。底部の調整は確認できない。方形の高台を貼付する。524は須恵器杯C碗である。体部は直線的である。口縁下に稜を持ち、端部は丸くおさめる。525は須恵器盤である。口縁部片であり、端部は方形を呈する。526は灰釉陶器碗である。方形の高台を貼付する。

所見 古代の遺物を確認していることから、竪穴建物跡などは古代のものと推定でき、遺跡の範囲内と考えられる。

## 42 第55次調査(第127図)

調査日 2018年7月23日

開発の目的 工場建設工事

**保護措置** 工事掘削に伴い、19 m×2 mの範囲で工事立会を行った。

**土層と遺構** 土層は上層より大きく分けて第Ⅰ層耕作土、第Ⅴ層地山であった。遺構は時期不明の柱穴1基を確認した。

**遺物** 遺物の確認はなかった。

**所見** 遺跡存続年代に位置付けられる遺構は確認できなかったため、遺跡の範囲外と考えられる。



第127図 第55次調査遺構図

#### 43 第56次調査（第128図）

**調査日** 2018年9月26日

**開発の目的** 電柱及び支柱の撤去・新設工事

**保護措置** 工事掘削に伴い、立会を行った。

**土層と遺構** 現地表下0.8 mまで掘削した。土層は上層より大きく分けて第Ⅰ層耕作土・床土、第ⅡかⅢ層無遺物層であった。なお、無遺物層は近隣地の第51次調査において遺物包含層とした層と同一であると考えられた。遺構の確認はなかった。

**遺物** 遺物の確認はなかった。

**所見** 遺構・遺物の確認はなかった。しかし、近隣地の第51次調査で竪穴建物跡等を確認しており、遺跡の範囲内と考えられる。



第128図 第56次調査遺構図

#### 44 第57次調査（第129・130図、第43表）

**調査日** 2018年11月22日

**開発の目的** 資材置場造成工事

**保護措置** 工事掘削に伴い、立会を行った。

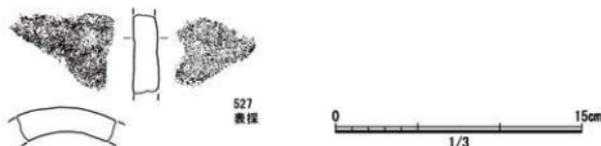
**土層と遺構** 現地表下0.9 mまで掘削した。土層は上層より大きく分けて第Ⅰ層耕作土・床土、第ⅡかⅢ層と考えられる堆積土、第Ⅴ層地山であった。遺構の確認はなかった。

**遺物** 地表面で瓦1点を採集した。527は丸瓦狭端部の破片であり、凸面にはナデを施す。凹面には布目痕が残る。

**所見** 地山上面で遺構の確認はなく、近隣地の第60次調査でも遺構・遺物の確認はなかったことから遺跡の範囲外と考えられる。



第129図 第57次調査遺構図



第130図 第57次調査出土遺物図

第43表 第57次調査遺物観察表

遺物番号	層位	出土遺構	種別	法量 (cm)			破片数	胎土	焼成	色調		成形・調整等		備考
				口径	底径	器高				外面	内面	外面	内面	
527	-	表掘	瓦 瓦瓦	厚さ 1.65 ~1.4	-	-	1	直径25mm以下の長石を含む。	やや軟質	527/1 灰		凸面：ナブ、	凹面：布目肌。	有密度タテ 20 × 横ヨ 23.2 cm.

## 45 第58次調査（第131図）

調査日 2019年2月27日

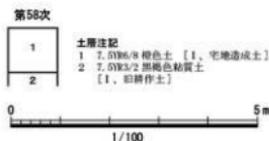
開発の目的 車庫新築工事

保護措置 工事掘削に伴い、立会を行った。

土層と遺構 現地地下1mまで掘削した。土層は上層より大きく分けて第I層宅地造成土・旧耕作土とどまった。遺構の確認はなかった。

遺物 遺物の確認はなかった。

所見 遺構・遺物の確認はなく、近隣地の第18次調査でも遺構・遺物の確認はなかったことから、遺跡の範囲外と考えられる。



第131図 第58次調査遺構図

## 46 第59次調査（第132図）

調査日 2019年3月28日・4月25日

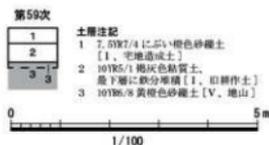
開発の目的 個人住宅新築工事

保護措置 工事掘削に伴い、立会を行った。

土層と遺構 現地地下0.8mまで掘削された。土層は上層より大きく分けて第I層宅地造成土・旧耕作土、第V層地山であった。遺構の確認はなかった。

遺物 遺物の確認はなかった。

所見 今回は遺構・遺物の確認はなかったが、近隣地の調査事例が少ないため、範囲について今後、周辺の調査の蓄積を待って検討する必要がある。



第132図 第59次調査遺構図

## 47 第60次調査（第133図）

調査日 2019年11月5日

開発の目的 個人住宅地造成工事

保護措置 工事掘削に伴い、立会を行った。

土層と遺構 現地表下約2mまで掘削された。土層は上層より大きく分けて第Ⅰ層耕作土・旧耕作土・床土、第ⅡかⅢ層と考えられる堆積土、第Ⅳ層地山であった。遺構の確認はなかった。

遺物 遺物の確認はなかった。

所見 地山上面で遺構の確認はなく、近隣地の第57次調査でも遺構・遺物の確認はなかったことから、遺跡の範囲外と考えられる。



第133図 第60次調査遺構図

## 48 第61次調査（第134図）

調査日 2020年3月31日

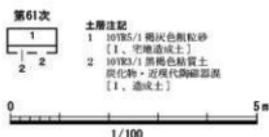
開発の目的 個人住宅建替工事

保護措置 工事掘削に伴い、立会を行った。

土層と遺構 現地表下0.5mまで掘削された。土層は上層より大きく分けて第Ⅰ層宅地造成土でとどまった。遺構の確認はなかった。

遺物 遺物の確認はなかった。

所見 今回は遺構・遺物の確認はなかったが、近隣地の調査事例が少ないため、範囲について今後、周辺の調査の蓄積を待って検討する必要がある。



第134図 第61次調査遺構図

## 49 第62次調査（第135図）

調査日 2020年4月8日

開発の目的 農産物倉庫建設工事

保護措置 工事掘削に伴い、立会を行った。

土層と遺構 現地表下約1.5mまで掘削された。土層は上層より大きく分けて第Ⅰ層耕作土・床土・耕地造成土・旧耕作土、第Ⅳ層地山であった。遺構の確認はなかった。

遺物 遺物の確認はなかった。

所見 第Ⅳ層地山上面で遺構の確認はなく、近隣地の第24次調査でも遺構の確認はなかったことから遺跡の範囲外と考えられる。



第135図 第62次調査遺構図

## 50 第63次調査(第136図)

調査日 2020年4月16～17日

開発の目的 市道拡張工事

保護措置 調査対象地に1m×2.5m、1m×2m、3m×1mのトレンチを南北方向に3カ所設定し、試掘確認調査を行った。

土層と遺構 土層は上層より大きく分けて第Ⅰ層耕作土・宅地造成土、第ⅡかⅢ層と考えられる堆積土、第Ⅳ・Ⅴ層地山であった。時期不明の柱穴1基を確認した。

遺物 遺物は須恵器3点、土師器4点、陶磁器4点、計11点を確認した。

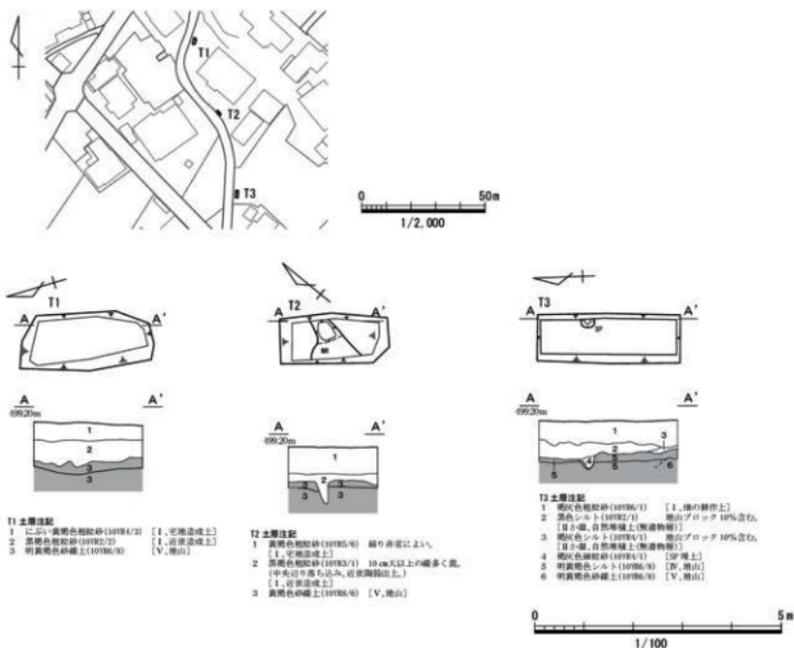
所見 今回は帰属時期が明確に分かる遺構の確認はなかった。このため、遺跡の範囲外と考えられる。

## 51 第64次調査(第137・138図、第44表)

調査日 2020年5月25～26日

開発の目的 個人住宅門設置工事

保護措置 調査対象地に4m×1mのトレンチを北東-南東方向に、4m×1.5mのトレンチを北



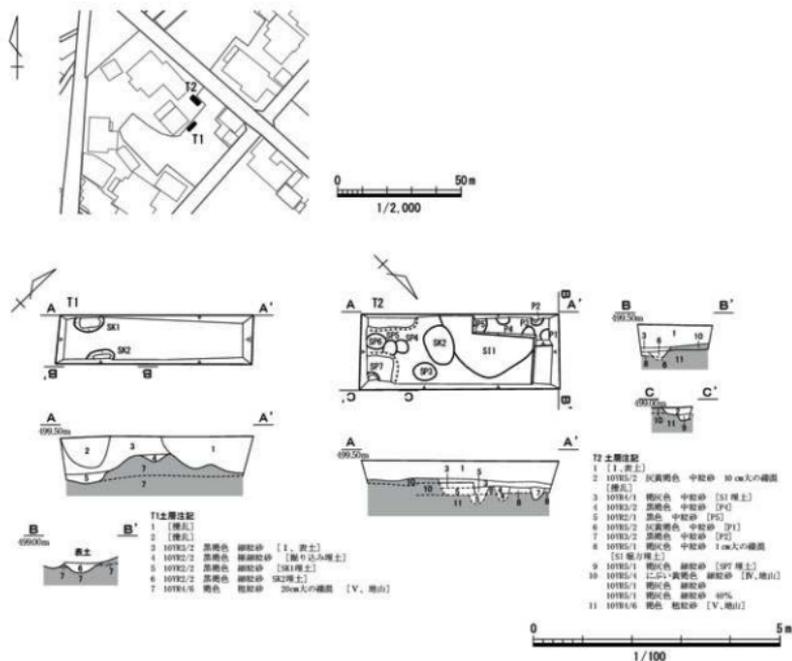
第136図 第63次調査遺構図

西-南東方向に2カ所を設定し、試掘確認調査を行った。

**土層と遺構** 土層は大きく分けて上層より第I層表土、第V層地山であった。遺構は第V層地山上面で検出した。T1で土坑2基、T2で古代の堅穴建物跡1軒、土坑1基、柱穴10基を確認した。

**遺物** 須恵器66点、灰軸陶器6点、土師器12点、陶磁器8点、石器1点、金属製品1点、計94点を確認した。S11では須恵器2点を確認した。人力及び重機の掘削作業中に須恵器13点、灰軸陶器6点、土師器9点、近世陶器2点、楔形石器1点、銅銭1点、計32点を確認した。528は須恵器杯Gである。平底で、回転ヘラ切り後にヘラナデを施す。立ち上がりは直線的である。529・530は須恵器椀である。529は腰部が張る。口縁部は外反し、端部は丸くおさめる。530は口縁部片である。口縁部は外反し、端部は丸くおさめる。531は須恵器甕である。口縁部は大きく外反し、端部は三角形を呈する。532～533は灰軸陶器椀である。532は腰部が張り、口縁部は外反する。回転糸切り後に方形の高台を貼付する。底部外面に墨書が残る。K-14号窯式期に位置付けられる。533は腰部が張る。回転ヘラケズリ後に三日月高台を貼付する。K-90号窯式期に位置付けられる。534～535は土師器皿である。534は底部に回転糸切り痕が残る。内外面にクロコ回転ナデを施す。内面に煤が付着する。535は内外面にナデを施し、4類に属する。

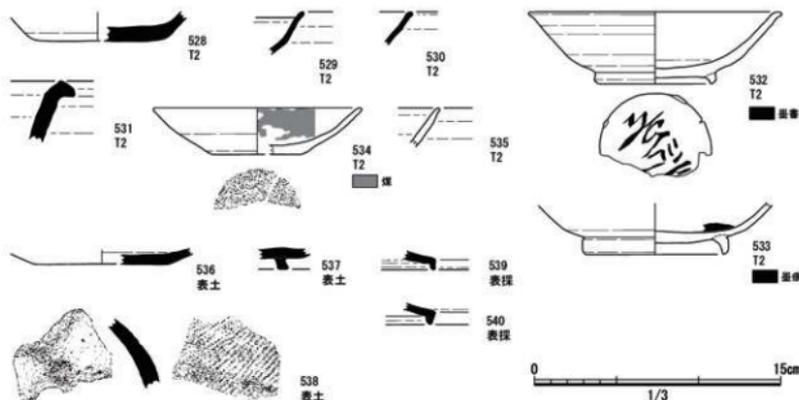
表土・地表面では須恵器51点、土師器3点、中世陶器2点、近世陶磁器4点、計60点を確認した。



第137図 第64次調査遺構図

536は須恵器杯Aである。立ち上がりは直線的である。537は須恵器杯Bである。底部の調整は確認できない。方形の高台を貼付する。538は須恵器甕である。肩部片である。内面は当て具痕が残り、ナデを施す。外面は平行タタキを施す。539・540は須恵器摘み蓋である。539は口縁部片で、口縁部は外反する。540は口縁部片で、口縁部は内傾し、端部は三角形を呈する。

所見 古代の遺物を確認していることから、堅穴建物跡や土坑、柱穴は古代のものと推定でき、遺跡の範囲内と考えられる。



第138図 第64次調査出土遺物図

第44表 第64次調査遺物観察表

遺物番号	層位	出土遺物種別	種別群	法量 (cm)			破片数	胎土	構成	色調		成形・調整等		備考
				口径	底径	器高				外面	内面	外面	内面	
528	層中	T2	須恵器杯C	-	(R.0)	-	1	普通	普通	2.517/2 灰黄	2.517/3 浅黄	回転ナデ。底部へフ切り後にヘタナデ。	回転ナデ。	
529	層中	T2	須恵器碗	-	-	-	1	普通	普通	2.536/2 灰黄	2.536/2 灰黄	回転ナデ。	回転ナデ。	
530	層中	T2	須恵器碗	-	-	-	1	直径1cm以下の長石をわずかに含む。	普通	2.536/2 灰黄	2.536/2 灰黄	回転ナデ。	回転ナデ。	
531	層中	T2	須恵器壺	-	-	-	1	土	普通	5Y4/1 灰	2.517/2 灰	回転ナデ。	回転ナデ。	
532	層中	T2	灰釉陶器碗	15.3	6.8	4.4	3	直径2cm以下の長石を多く含む。	普通	2.517/2 灰黄	2.517/2 灰黄	回転ナデ。底部回転未切り。高台貼付後に周辺ナデ。	回転ナデ。	無釉。外面に黒書。
533	層中	T2	灰釉陶器碗	-	8.3	-	1	土。	良好	10Y85/2 灰黄陶	10Y86/2 灰黄陶	回転ナデ。底部回転ヘラクスズリ。高台貼付後に周辺ナデ。	回転ナデ。	底部内面に黒付着。礎に転写さ。
534	層中	T2	土師器蓋	(12.2)	(5.5)	2.9	1	普通	普通	10Y85/3 改良黄	10Y85/3 改良黄	回転ナデ。底部回転未切り。	回転ナデ。	内面に黒付着。
535	層中	T2	土師器蓋	-	-	-	1	普通	普通	10Y87/3 改良黄	10Y87/3 改良黄	回転ナデ。	回転ナデ。	
536	表土	-	須恵器杯A	-	(R.0)	-	1	普通	普通	2.517/1 灰白	2.517/1 灰白	ナデ。底部回転ヘラクスズリ。	回転ナデ。	
537	表土	-	須恵器杯B	-	-	-	1	普通	普通	5Y4/1 灰	2.515/1 黄灰	回転ナデ。底部高台貼付後に周辺ナデ。	回転ナデ。	
538	表土	-	須恵器甕	-	-	-	1	土。	普通	2.517/2 灰黄	2.517/1 灰白	平行タタキ。	当具痕後ナデ。	
539	-	表探	須恵器蓋	-	-	-	1	普通	普通	10Y85/2 灰黄陶	2.514/1 黄灰	回転ナデ。	回転ナデ。	
540	-	表探	須恵器蓋	-	-	-	1	普通	普通	2.517/1 灰白	2.516/1 黄灰	回転ナデ。	回転ナデ。	

## 52 第65次調査(第139図)

調査日 2020年12月22日

開発の目的 側溝修繕工事

保護措置 工事掘削に伴い、立会を行った。

土層と遺構 現地地下0.8mまで掘削された。土層は上層より第1層側溝設置に伴う埋戻土でとどまった。遺構の確認はなかった。

遺物 遺物の確認はなかった。

所見 遺構・遺物は確認できず、詳細分布調査でも本調査区近隣で遺物の確認はなかったことから、遺跡の範囲外と考えられる。



第139図 第65次調査遺構図

## 53 第66次調査(第140・141図、第45表)

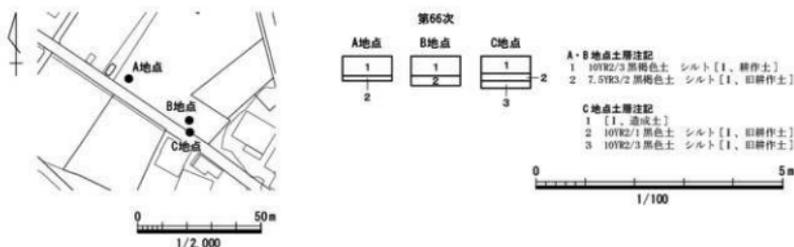
調査日 2021年10月19日

開発の目的 側溝新設工事

保護措置 工事掘削に伴い、立会を行った。

土層と遺構 3地点で断面観察を行った。A・B地点では現地地下0.5m、C地点では現地地下0.65mまで掘削された。A・B地点では上層より第I層耕作土・旧耕作土を確認した。C地点では上層より第I層道路造成土・旧耕作土であった。周囲の土より黒みがかった箇所があり、遺構の可能性を想定したが、礫が混じるため攪乱の可能性も考えられた。

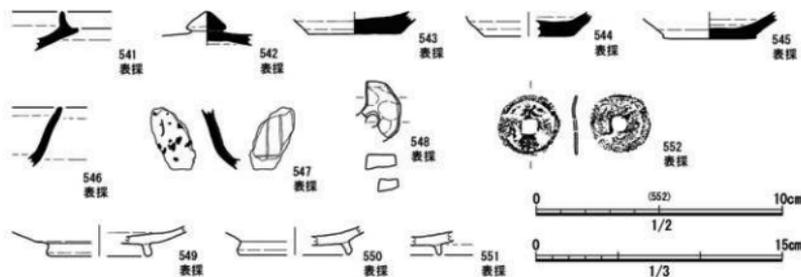
遺物 表採として須恵器457点、灰軸陶器75点、土師器2点、瓦1点、中近世陶器4点、打製石斧1点、金属製品1点、計541点を確認した。541は須恵器杯Hである。口縁端部は短く、丸くおさめる。受け部は内傾する。542は須恵器摘み蓋である。宝珠形の摘みを有する。543～545は須恵器椀Aである。543・544は回転糸切り痕が残る。立ち上がりは直線的である。545は底部に静止回転糸切り痕が残る。立ち上がりは直線的である。546は須恵器椀である。体部は直線的で、端部は丸くおさめる。547は須恵器円面硯の脚部である。縦方向に2条の凹線が入り、下部には横方向の凹線が入る。内面に墨痕が残る。548は器種不明の須恵器である。三日月状の形状で下半部は欠損する。



第140図 第66次調査遺構図

内外面にヘラ調整痕とユビオナエ痕が残る。欠損部に径8mmの円孔を有する。549・550は灰軸陶器皿である。549は回転ナデ後に方形の高台を貼付する。550は回転ナデ後に、三日月高台を貼付する。551は灰軸陶器椀か皿である。底部に回転糸切り痕が残る。高台端部は丸くおさめる。552は銭貨である。永楽通宝と考えられる。

所 見 近隣地の第28～30次調査で堅穴建物跡などを確認しており、周辺の畑等で遺物を採集できることから、遺跡の範囲内と考えられる



第141図 第66次調査出土遺物図

第45表 第66次調査遺物観察表

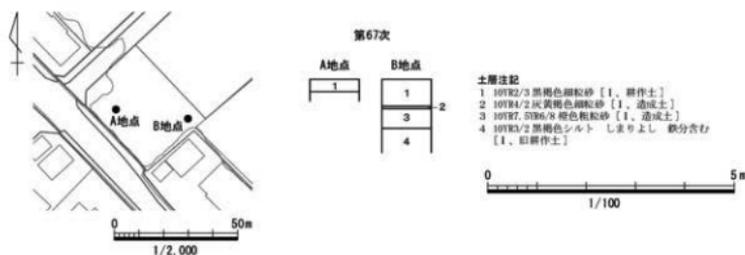
遺物番号	層位	出土遺物	種別	量 (cm)			破片数	胎土	構成	色調		成形・調整等		備考
				口徑	底径	器高				外面	内面	外面	内面	
541	-	表探	灰軸器 杯 B	-	-	-	1	普通	普通	N5/0 灰	7.516/1 灰	回転ナデ。	回転ナデ。	
542	-	表探	灰軸器 盃	-	-	-	1	底、直径1mm以下の長石をわずかに含む。	良好	7.516/1 灰	516/1 灰	回転ナデ。天井部 回転ヘラケズリ。	回転ナデ。	内面に常陸ナ。
543	-	表探	灰軸器 椀 A	(5.5)	-	-	2	直径1mm以下の長石を多く含む。	普通	N5/0 灰	N6/0 灰	回転ナデ。底部回 転糸切り後周辺ナデ。	回転ナデ。	
544	-	表探	灰軸器 椀 A	(5.4)	-	-	1	普通。	普通	2.5165/3 に高い赤紫	2.5165/2 灰赤	回転ナデ。底部回 転糸切り。	回転ナデ。	
545	-	表探	灰軸器 椀 A	(5.4)	-	-	1	普通。	普通	N5/0 灰	516/1 灰	回転ナデ。底部静 ま糸切り。	回転ナデ。	
546	-	表探	灰軸器 椀	-	-	-	1	普通。	普通	10106/1 褐色灰	7.517/1 灰白	回転ナデ。	回転ナデ。	内面に自然釉。
547	-	表探	灰軸器 円面椀	-	-	-	1	底、直径1mm以下の長石をわずかに含む。	良好	2.516/1 黄灰	2.516/1 黄灰	回転ナデ。縦・横 方向に沈積。	回転ナデ。	内面に黒釉。
548	-	表探	灰軸器 水野	-	-	-	1	普通。	普通	517/1 灰白	517/1 灰白	ヘラ調整。ユビオ ナエ。	内外面に自然釉。	
549	-	表探	灰軸陶器 皿	(6.4)	-	-	1	普通。	普通	516/1 灰白	517/1 灰白	回転ナデ。底部高 台貼付後周辺ナデ。	回転ナデ。	外面に灰釉。
550	-	表探	灰軸陶器 皿	(6.5)	-	-	1	底、直径1mm以下の長石を多く含む。	良好	7.517/1 灰白	517/1 灰白	回転ナデ。底部回 転ナデ。高台貼付 後周辺ナデ。	回転ナデ。	内面に灰釉。
551	-	表探	灰軸陶器 椀・皿	-	-	-	1	底、直径1mm以下の長石をわずかに含む。	良好	N8/0 灰白	517/1 灰白	底部回転糸切り。 高台貼付後に周 辺ナデ。	回転ナデ。	内外面に自然釉。
552	-	表探	金属製品 銭貨	長・幅 2.4	厚さ 0.1	孔径 0.6	1	永楽通寶。重さ2.5g。						

#### 54 第67次調査 (第142図)

調査日 2022年4月4～5日

開発の目的 宅地造成・道路設置工事

保護措置 工事掘削に伴い、立会を行った。



第142図 第67次調査遺構図

**土層と遺構** 宅地部分では現地表下0.25mまで掘削し、第I層耕作土ととどまった。道路部分では現地表下1.2mまで掘削した。土層は上層より大きく分けて第I層造成土・旧耕作土であった。遺構の確認はなかった。

**遺物** 遺物は須恵器2点を確認した。

**所見** 遺構の確認はなく、同地点を対象とした第13次調査で遺跡存続年代に位置付けられる遺構の確認はなかったことから遺跡の範囲外と考えられる。

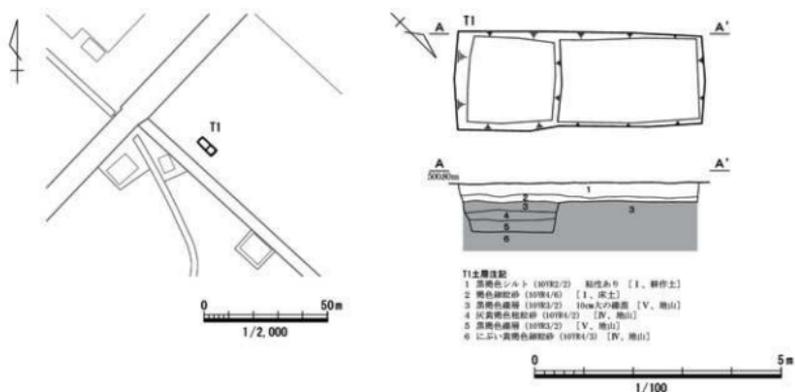
### 55 第68次調査（第143図）

**調査日** 2022年5月18日

**開発の目的** 工場建設工事

**保護措置** 調査対象地に5m×2mのトレンチを東西方向に1カ所設定し、試掘確認調査を行った。

**土層と遺構** 土層は上層より大きく分けて第I層耕作土・床土、第IV・V層の互層となっている地山



第143図 第68次調査遺構図

であった。遺構の確認はなかった。

**遺物** 遺物の確認はなかった。

**所見** 地上上面で遺構の確認はなく、近隣地の第24次調査でも遺構の確認はなかったことから遺跡の範囲外と考えられる。

## 56 遺跡外1調査(第144図)

**調査日** 2008年4月22～24日

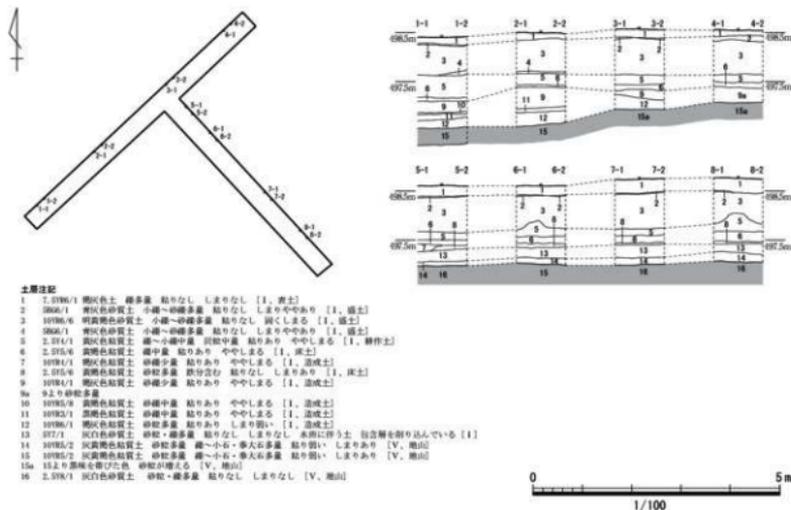
**開発の目的** 店舗新築工事

**保護措置** 調査対象地に6m×3.5mと4.6m×3.5mのトレンチをT字状に1カ所設定し、試掘確認調査を行った。

**土層と遺構** 土層は上層より大きく分けて第Ⅰ層表土・造成土・耕作土・床土、第ⅡかⅢ層と考えられる包含層、第Ⅴ層地山であった。遺構の確認はなかった。

**遺物** 遺物は須恵器片1点、土師器片2点、計3点を確認した。

**所見** 本調査区は遺構を確認している段丘面から一段下がる位置にあたる。また、遺物の確認はあったが、詳細分布調査において本調査区近隣で遺物の確認がなかったことから、遺跡の範囲外と考えられる。



第144図 遺跡外1遺構図

## 第2節 小 結

上町遺跡では令和4年度時点で68次にわたる調査を行ってきた。開発の関係で調査位置に偏りはあるが、これらの調査結果をもとに、現時点における当遺跡の範囲について整理を行う。

調査は遺跡の西や南側で多く行い、竪穴建物跡などの遺構を確認した。第8Ⅱ次調査や第9Ⅱ次調査でカマドや柱穴を確認しており、その北・西側の段丘斜面より下段では遺構を確認していないことから、その周辺が遺跡の最北端と考えられる。遺跡の西側には国道41号が通る。第1次調査(C地点)やその南東側の調査でも多くの遺構・遺物を確認しており、これらの調査区は国道と交差する小規模な段丘上面に位置する。その下位段丘の第23次調査では遺構がみられないため、遺跡の西端はその間の段丘崖になると考えられる。遺跡の南側では主に栗原神社付近で調査が集中し、遺構・遺物を確認した。第12次調査を境に南側では遺構・遺跡の分布が急激に減少することから、第12次調査地周辺が遺跡の最南端と考えられる。遺跡の東側は第43次調査で遺物包含層と土師器を確認したが、県道476号を境に東側で遺構・遺物の確認が極端に少なくなることから、県道より東側に遺跡は広がらないものと推定できる。

これらより、上町遺跡には東西1.5km、南北0.4kmの範囲にわたって遺構が広がるものと考えられる。遺構と遺物の散布状況とを合わせた遺跡範囲の検討については、第6章で詳述する。



7 第63次調査 全景(東から)



8 第53次調査 全景（南東から）



9 第53次調査 T4調査終了状況（南西から）

## 第5章 自然科学分析

### 第1節 上町遺跡第50次調査出土炭化物の樹種同定

#### 1 調査の目的

上町遺跡第50次調査では、SI03及びSP98の埋土より炭化物が出土し、遺構に伴うものと考えられた。このため、古代の木材利用と植生を検討するために、樹種同定を行った。分析は田中義文（パリーノ・サーヴェイ株式会社）が実施した。

#### 2 試料と分析方法

試料は、第50次調査で出土した炭化物3点である。SP98から出土したKM50-924を試料1とし、SI03埋土から出土したKM50-815の2点を、試料2・3とした。いずれの試料も調査後6年を経過した2022年に分析を行い、十分に乾燥している状態であった。

手順として、カミソリ等を用いて木口（横断面）・柀目（放射断面）・板目（接線断面）の各割断面を作成した。その後、実体顕微鏡や走査型電子顕微鏡で検鏡した。木材組織の種類や配列を観察し、木口をa、柀目をb、板目をcとして写真撮影を行った（第145図）。木材組織の種類や配列の特徴を、現生標本や独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類（分類群）を同定した。木材組織の名称や特徴は、『図説木材組織』（島地謙・伊東隆夫1982）、『広葉樹材の識別』（Wheeler E.A. 他1998）、『針葉樹材の識別』（Richter H.G. 他2006）を参考にした。また、組織配列は、『日本産木材顕微鏡写真集』（林昭三1991）や『日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ～Ⅴ』（伊東隆夫1995～1999）を参考にした。

#### 3 結果

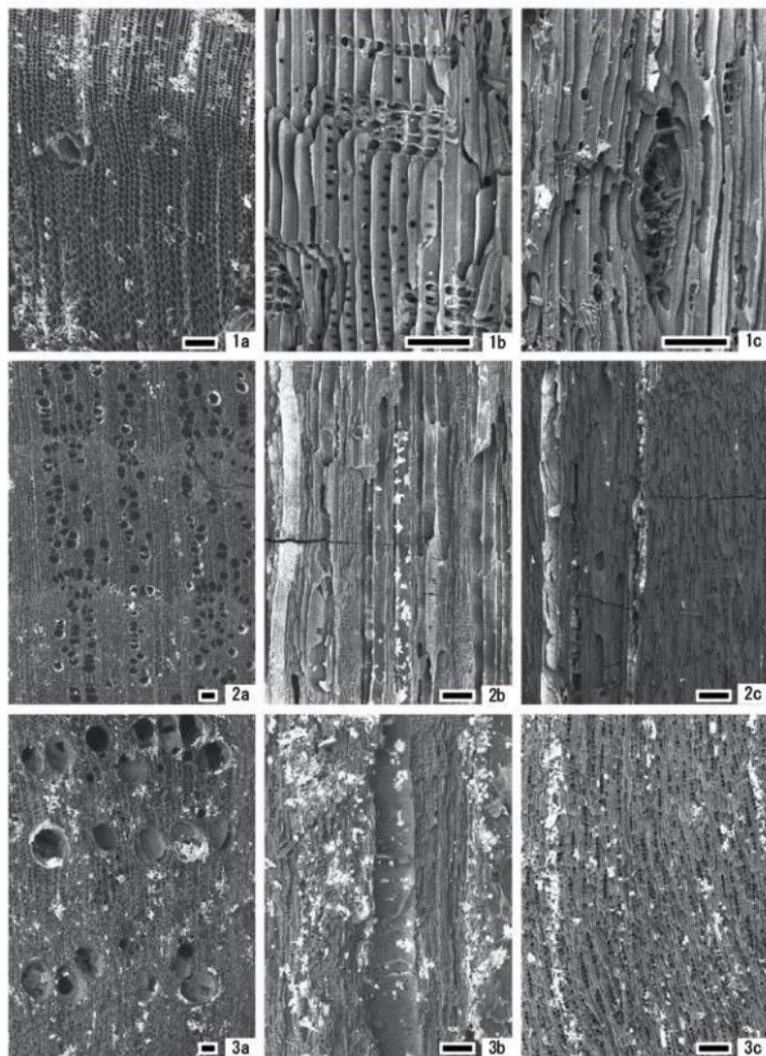
試料1はマツ科マツ属複雑管束亜属（*Pinus* subgen. *Diploxylon*）である。軸方向組織は仮道管と垂直樹脂道で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は急へやや緩やかで、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道は晩材部に認められる。放射組織は、仮道管、柔細胞、水平樹脂道、エビセリウム細胞で構成される。分野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁には鋸歯状の突起が認められる。放射組織は単列、1～15細胞高である。

試料2はカバノキ科クマシデ属（*Carpinus*）である。散孔材で、管孔は放射方向に2～4個が放射方向に複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は対列状～交互状。放射組織は異性で、1～3細胞幅、20～30細胞高である。集合放射組織がみられる。

試料3は、ブナ科クリ属（*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.）である。環孔材で、孔圍部は3～4列、孔圍外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15細胞高である。

#### 4 小結

同定した炭化物は、試料1がマツ属複雑管束亜属、試料2がクマシデ属、試料3がクリであった。



1. マツ属複維管束亜属 (KM50-924 SP98)
2. クマシデ属 (KM50-815 S103)
3. クリ (KM50-815 S103)

a:木口 b:年輪 c:板目  
スケールは100 $\mu$ m

第145図 炭化物の顕微鏡写真

いずれも丘陵や山地に育成する二次林要素である。第50次調査区は、宮川・荒城川に挟まれた沖積地中央に位置するため、近隣の山林を里山のように利用し、材木を居住地に運び込んでいた可能性が想定される。試料1・試料3は建築材、試料2は道具類や薪材などの利用を想定することができる。

## 第2節 上町遺跡第50次調査出土炭化物の放射性炭素年代測定

### 1 調査の目的

上町遺跡第50次調査では、SI03及びSP98の埋土より炭化物が出土し、遺構に伴うものと考えられた。出土遺物から想定される暦年代との整合性を確認するために、加速器質量分析法(AMS法)による放射性炭素年代測定を実施した。分析は田中義文(バリノ・サーヴェイ株式会社)が実施した。

### 2 試料と分析方法

試料は樹種同定と同一試料番号とし、試料1(KM50-924)・試料3(KM50-815)を用いた。

試料は、前処理を行う。まず炭化物の周辺の付着物を削り取って40～50mg程度に調整した。これらに対し、塩酸(HCl)により炭酸塩等酸可溶成分を除去し、水酸化ナトリウム(NaOH)により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去し、塩酸によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去した(酸・アルカリ・酸処理 AAA: Acid Alkali Acid)。濃度は塩酸、水酸化ナトリウム共に1mol/Lである。次の段階の、試料の燃焼、二酸化炭素の精製、グラファイト化は、Elementar社のvario ISOTOPE cubeとIonplus社のAge3を連結した自動化装置を用いた。ここでのグラファイト化とは、鉄を触媒とし水素で還元することである。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料をNEC社製のハンドプレス機を用いて内径1mmの孔にプレスし、測定試料とした。

このような前処理を行った試料1・3を対象に、タンデム加速器をベースとした<sup>14</sup>C-AMS専用装置(NEC社製)を用いて<sup>14</sup>Cの計数、<sup>13</sup>C濃度(<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)、<sup>14</sup>C濃度(<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C)を測定した。AMS測定時に、米国国立標準局(NIST)から提供される標準試料(HOX-II)、国際原子力機関から提供される標準試料(IAEA-C6等)、バックグラウンド試料(IAEA-C1)の測定も行った。 $\delta^{13}\text{C}$ (炭素同位体比)は試料炭素の<sup>13</sup>C濃度(<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表したものである。放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma; 68%)に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う(Stuiver M. & Polach A.H. 1977)。また、暦年較正結果は、将来暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表す。暦年較正に用いるソフトウェアは、OxCal4.4 (Bronk R.C. 2009)、較正曲線はIntCal20 (Reimer P. 他 2020)である。なお、暦年較正とは、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の<sup>14</sup>C濃度の変動、その後訂正された半減期(<sup>14</sup>Cの半減期5730±40年)を較正することによって、暦年代に近づける手法である。

### 3 結果

同位体補正年代値は、試料1・KM50-924が890±20BPであり、試料3・KM50-815が870±20BPであった。暦年較正による2σ暦年代範囲は、試料1がcalAD1047～1220を示し、試料3がcalAD1054～1225を示した。ともに11世紀中葉から13世紀前半の暦年代であった(第146図、第46表)。

## 4 小結

出土遺物の年代観では、SP98は須恵器杯A189の出土から8世紀代と考えられる。また、SI03は8世紀中葉から後葉と考えられる。放射性炭素年代測定で得られた結果は、いずれも遺物より導かれた遺構の暦年代よりも新しい状況である。

これは、SI03については、炭化物を混入として考えたい。それは第50次調査ではSI151など須恵器主体の出土遺物のなかに土師器皿が混じる状況が散見されるためである。SI03でも炭化物だけが新しい年代を示すため、遺構の時期としては8世紀中葉から後葉と考えられる。SP98については、189と試料1の暦年代に開きがあるが、資料の点数が少ない。このため、11世紀中葉から13世紀前半のものとも8世紀代のもののいずれの可能性も想定される。

第46表 放射性炭素年代測定及び暦年較正結果一覧表

試料名	性状	分析方法	測定年代 yrBP	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正 用	暦年較正年代			Code	No.			
						年代値		確率					
試料1 KM50-924 SP98	炭化材 (マツ属雑 種管束重 属)	AAA	890±20	-29.06±0.32	892±20	$\sigma$ cal AD	1054 - cal AD	1059	896 - 891	calBF	4.2	pal- 14475	YU- 17291
						cal AD	1157 - cal AD	1212	793 - 739	calBF	64.0		
						$2\sigma$ cal AD	1047 - cal AD	1083	903 - 867	calBF	21.4		
						cal AD	1130 - cal AD	1138	820 - 812	calBF	1.2		
						cal AD	1150 - cal AD	1220	800 - 731	calBF	72.9		
試料3 KM50-815 SI3	炭化材 (クリ)	AAA	870±20	-27.14±0.35	868±20	$\sigma$ cal AD	1175 - cal AD	1216	775 - 735	calBF	68.3	pal- 14474	YU- 17290
						$2\sigma$ cal AD	1054 - cal AD	1059	896 - 892	calBF	0.7		
						cal AD	1157 - cal AD	1225	794 - 726	calBF	94.7		

1)年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。

2)yrBP年代値は、1950年を基点として何年前であることを示す。

3)付記した誤差は、測定誤差 $\sigma$ (測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。

4)AAAは酸-アルカリ-炭処理を示す。

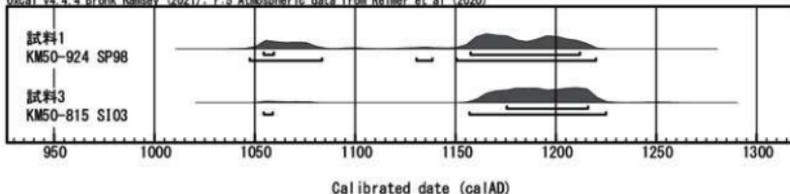
5)暦年の計算には、Oxcal4.4を使用。

6)暦年の計算には表に示した丸める前の値を使用している。

7)1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。

8)統計的に真の値が入る確率は $\sigma$ は68%、 $2\sigma$ は95%である。

OxCal v4.4 Bronk Ransley (2021); r:5 Atmospheric data from Reimer et al (2020)



第146図 年代測定暦年較正図

## 第6章 総括

### 第1節 遺構・遺物の分布からみた遺跡範囲

**現状と課題** 当遺跡が初めて確認されたのは、1982（昭和57）年の国道41号国府古川バイパス工事に先立って行われた岐阜県教育委員会の踏査である。それに伴う国道や隣接地の調査によって、東西1.5km、南北0.5mの範囲が想定された（上町遺跡C地点発掘調査団1991）。また、遺跡の分布に関して、細長い調査区を報告した『上町遺跡7』では、遺構に粗密があると明らかになっている（飛騨市教育委員会2018b）。さらに、遺跡の詳細分布調査では、上町遺跡内外において、1,721点の遺物を採集した（飛騨市教育委員会2019）。しかし、遺構検出位置と遺物分布範囲を重ねて遺跡の範囲を検討することができていない課題があった。一方、本報告書の第4章で周辺域を含めた試掘確認調査・工事立会の結果を報告し、今まで以上に遺構分布の状況が詳しく判明した。このため、調査位置図と詳細分布調査で確認した遺物分布図とを重ね合わせて、上町遺跡の範囲について考えたい。

**境界の検討** 詳細分布調査では、古川町上町・向町・大野一帯で遺物散布を認めている。しかし、第4章第2節では、遺物が散布する範囲全体で遺構が認められない状況を明らかにした。詳細を改めて見ていきたい。

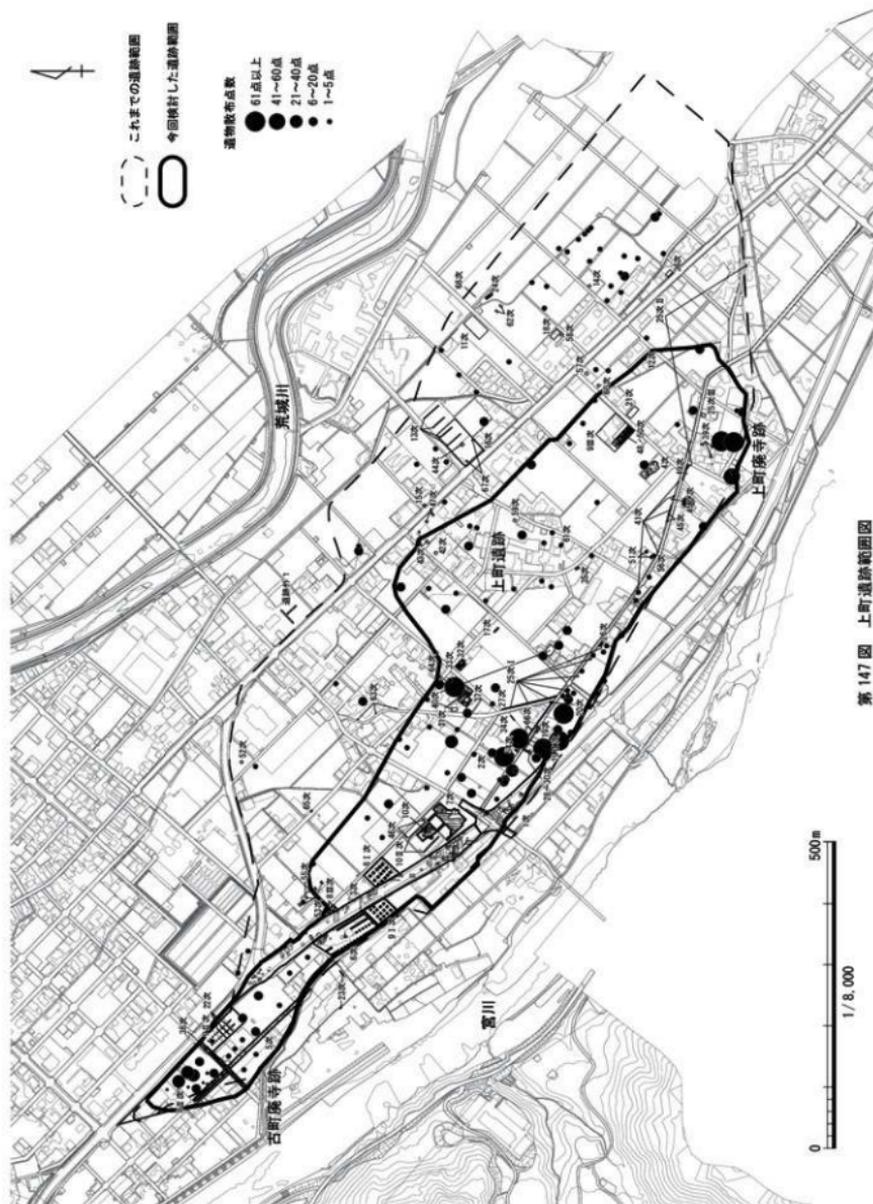
北西側の端は、第5次調査地点（向町地点）や第8Ⅱ次調査地点の付近である。その周辺は、遺物の分布も濃密であり、古町廃寺跡の存在も想定されている。そこから北・西側の段丘崖の下位段丘では、第5次調査に伴う試掘確認調査で遺構を確認していない（飛騨市教育委員会2013）。したがって、宮川に対して張り出す段丘崖が遺跡の境界と考えられる。

その段丘崖は、遺跡の南西側から南側へと続く。南側においては、上位段丘に位置する第6次調査地点（トヨタ地点）や第1次調査地点（C地点）で遺構を確認しているが、下位段丘の第23次調査地点では遺構を確認しなかった。このため、南側から東側にかけては段丘崖が遺跡の境界と考えられる。なお、第1次調査地点の東側は、上町遺跡で最も濃密な遺物の散布が認められる一帯である。

遺跡の南西側にも、濃密な遺物分布が認められる第39次調査地点がある。上町廃寺跡が所在する。それより南西側では、下位段丘の第25Ⅱ次調査地点2トレンチにおいて遺構の確認は無かった（飛騨市教育委員会2018b）。上位段丘で遺構を確認したのは第12次調査地点が最東である。第12次調査地点より東側でも遺物の散布が若干認められるため、上町廃寺跡からはほぼ北へ遺跡の境界がのびると考えられる。それより北東側は、遺物の散布が認められるものの、第11・13・24・62次調査地点では、地山まで掘削した調査で遺構を確認しなかった。北側では第43次調査地点で遺物包含層と遺物を確認しているため、第12次調査地点から第43次調査地点を結ぶラインが境界と考えられる。

北西側は第63次調査地点で遺構の確認がなかった。第64次調査地点では、堅穴建物跡などを確認し、第53・55次調査では第53次調査T3・T4で明確に遺構を確認した。このため、第43次調査地点から第63次調査地点と第64次調査地点との間を通り、第53次調査T3を結び、第8Ⅲ・3次調査地点（D地点）に接する範囲が境界と考えられた。

**小結** 以上のことから、上町遺跡の範囲は東西1.5km、南北0.4kmの不正楕円形を呈するものと考えられる（第147図）。



第147図 上町遺跡範囲図

## 第2節 上町遺跡における遺構の分布と変遷

### 1 上町遺跡の遺構総数

本報告書では、2023年度までに調査を実施してきた全調査を報告した。これにより、68次にわたり延べ21,615㎡を調査してきたことが明らかとなった。調査した遺構の総数は、堅穴建物跡177棟、堅穴状遺構29基、掘立柱建物跡52棟、土坑125基、集石遺構86基、溝45条、配石遺構28基、土壇墓3基、道路3本、火葬墓1基、石敷き遺構1基、盛り土遺構1基である(第47表)。なお、この数には柱穴やピットなどの小遺構を除き、また方形周溝墓の可能性のある遺構2基を溝に含めている。

このように大規模に調査を実施しているものの、第1節で示した遺跡範囲の通り、遺跡の大半が未調査部分である。このことを前提に、本節では本発掘調査で暦年代が明らかとなった堅穴建物跡と掘立柱建物跡を主な対象とし、上町遺跡の変遷を考えたい。また、各時期の遺構からみた集落の構造にも可能な限り触れたい。

対象は、本発掘調査によって遺構の暦年代が検討された第1～7・10・26・27・30・33・37・45・49・50次調査とする。そうすると対象遺構数は、堅穴建物跡159軒、堅穴状遺構29基、掘立柱建物跡52棟、土坑51基、集石遺構68基、溝30条、配石遺構31基、土壇墓3基、道路3本、火葬墓3基、石敷き遺構1基、盛り土遺構1基となる。このうち、暦年代が明らかになっている堅穴建物跡は121軒、掘立柱建物跡は17棟である(第48表)。

### 2 上町遺跡の構造及び遺構と遺物の変遷に関わる研究史

上町遺跡においては、7冊にわたる報告書で遺跡の評価を検討してきた蓄積がある。ここでは、遺構と遺物からその内容を見ていく。

**上町遺跡の古代の集落構造** 上町遺跡の報告書で、集落構成について触れたのは『上町遺跡D地点発掘調査報告書』である(河合英夫1991)。また、『上町遺跡トヨタ地点・0地点・栗原センター地点発掘調査報告書』では、7世紀末から8世紀初頭と推定した掘立柱建物跡群が、礎石を持ち、大型建物であり、建物配置が計画的であることから、「官衙の存在」に初めて言及している(河合英夫1994)。

次の段階として『上町遺跡金子・氷見地点発掘調査報告書』などでは、合計11棟となった掘立柱建物跡群を総体として捉えて特徴を述べ、「荒城評の官衙施設」として成立した可能性にも触れ、荒城郡衙の関連施設と指摘した(河合英夫2001・2015)。また、同時期にはこれらの建物跡群から北西400mの地点で古町廃寺跡が成立していたと考えられた(河合英夫2013・三好清超2019)。さらに、南東750mの地点で上町廃寺跡が成立していたことも述べられた(飛騨市教育委員会2019・三好清超2019)。

**遺物の暦年代** 遺物については、『上町遺跡C地点発掘調査報告書』で堅穴建物跡出土遺物による須恵器・土師器の編年と年代観を示している(河合英夫1989)。陶器編年や猿投編年、美濃須恵編年などの編年観を参照しつつ、8時期に分類し、I期をTK10型式期、II～III期をTK43型式期～TK209型式期、IV期をTK217型式期～TK46型式期、V期をI-17～I-41号窯式期前半・須衛第9号窯式段階、VI期をI-41号窯式期・平城I式期、VII期をC-2号窯式期・老洞1・2号窯式期、VIII期をI-25号窯式期に比定した。また、『上町遺跡向町地点』では、猿投窯跡資料の研究が進んだことを受け、TK43型式は6世紀後半、TK209型式は7世紀前後、杯Gの出現消滅は7世紀後半から末、杯Aやボタン状

第 47 表 上町遺跡調査遺構数一覧表 (令和4年度末現在)

調査 遺構	調査種別	竪穴建物跡	竪穴石造構	竪立石造構	土坑	敷石造構	溝	配石造構	土庫基	溝跡	大溝基	石敷き造構	礎石・土留構	礎石以外の地層
1	本調査	23	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
2	本調査	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	本調査	46	19	27	17	8	9	39	3	2	0	1	0	0
4	本調査	11	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	本調査	27	1	11	4	19	3	8	0	0	0	0	0	0
6	本調査	1	2	0	0	5	0	0	1	0	0	0	0	0
7	本調査	10	0	4	2	0	2	1	0	0	1	0	0	0
8-1	試験調査	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--
8-2	試験調査	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-3	試験調査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-4	試験調査	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--
8-5	試験調査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-6	試験調査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-7	試験調査	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--
8-8	試験調査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-9	試験調査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-10	試験調査	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-11	試験調査	5	1	2	9	1	2	0	0	0	0	0	1	0
8-12	試験調査	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
8-13	試験調査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-14	試験調査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-15	工事立ち会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-16	工事立ち会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-17	工事立ち会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-18	工事立ち会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-19	工事立ち会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-20	工事立ち会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-21	工事立ち会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-22	試験確認調査	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-23	試験確認調査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-24	試験確認調査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-25	試験確認調査	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--
8-26	試験確認調査	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--
8-27	工事立ち会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-28	本調査	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-29	本調査	1	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
8-30	試験確認調査	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--
8-31	工事立ち会	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--
8-32	工事立ち会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-33	本調査	1	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0
8-34	試験確認調査	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--
8-35	試験確認調査	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--
8-36	工事立ち会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-37	本調査	3	0	1	3	0	5	0	0	0	0	0	0	0
8-38	試験確認調査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-39	工事立ち会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-40	工事立ち会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-41	立会・試験確認調査	3	0	0	4	0	1	0	0	0	0	0	0	1
8-42	工事立ち会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-43	試験確認調査	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--
8-44	工事立ち会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-45	工事立ち会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-46	本調査	7	6	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-47	工事立ち会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-48	工事立ち会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-49	工事立ち会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-50	試験確認調査	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--
8-51	本調査	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-52	本調査	3	4	2	21	17	4	0	0	0	0	0	0	0
8-53	試験確認調査	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-54	試験確認調査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-55	試験確認調査	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
8-56	試験確認調査	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
8-57	工事立ち会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-58	工事立ち会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-59	工事立ち会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-60	工事立ち会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-61	工事立ち会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-62	工事立ち会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-63	試験確認調査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-64	試験確認調査	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-65	工事立ち会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-66	工事立ち会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-67	工事立ち会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-68	試験確認調査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-69	試験確認調査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8-70	試験確認調査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		177	29	52	125	96	45	28	3	2	1	1	1	1

第48表 時期別の遺構集計表

時期	1期				2期				3期		4期		5期		6期		7期		合計
	3c後半 ～4c初	6c中 ～後葉	7c前 ～中葉	7c後葉	7c末～ 8c前葉	8c中葉	8c後葉	9c前中	9c後半～ 10c前葉	10c中葉	11c後半 ～12c中葉	15c末 ～17c初							
竪穴建物跡数	2	30	13	3	31	30	6	2	5	4	5	0							121
掘立柱建物跡数	0	1	2	0	11	0	2	0	0	0	1	0							17
周溝跡等	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							3
大規模な溝	0	0	0	0	3	0	0	1	0	0	1	0							5
遺跡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2							2

み蓋の出現するI-41号窯式期は8世紀前後、杯A・杯Bの器種分化が進むI-25号窯式期は8世紀第2四半期、椀Aの盛行するNN-32号窯式期は8世紀後半、灰釉陶器が出現するK-14号窯式期は9世紀前半、K-90号窯式期は9世紀後半から10世紀第I四半期、O-53号窯式期は10世紀中葉、H-72号窯式期は10世紀後半、百大寺式は11世紀前半、山茶碗の出現は11世紀後半～12世紀前半に当たった(河合英夫2013)。

それを踏まえ、弥生時代から古墳時代にかけてのI期から13世紀のXIII期までを片山博道は設定した(片山博道2016)。I期は弥生時代後期から古墳時代、II期は須恵器杯Hを主体とする6世紀中葉から後葉、III期を杯H蓋の天井部と口縁部の境に凹線が入るものと入らないものがある7世紀前葉から中葉、IV期を杯Gが主体となる7世紀中葉から後葉、V期を杯A・杯Bの体部傾きが大きく器高が低い8世紀前半、VI期を杯A・杯Bの傾きが小さくなる8世紀後半、VII期を灰釉陶器が入る9世紀前半、VIII期を灰釉陶器の高台が三日月状を呈する9世紀後半、IX期が灰釉陶器の高台の稜が無くなる10世紀前半、X期を10世紀後葉、XI期を11世紀前葉から中葉、XII期を11世紀後葉から12世紀前半、XIII期を12世紀後半から13世紀後半と設定した。

**上町遺跡の消長** 遺跡の消長については、『上町遺跡向町地点』で述べられ、6回の画期について明らかにされている(河合英夫2013)。これ以降の報告書の遺構の消長は、河合の画期設定に沿って検討している(三好清超2016)。

第1の画期は、弥生時代から古墳時代にかけての転換期である。第2の画期は6世紀中葉から後半にかけてであり、竪穴建物跡群が点在している時期である。7世紀中葉まで継続すると考えられる。第3の画期は7世紀末から8世紀初頭であり、前述したとおり、複数の建物の計画的な配置と古代寺院の建立があった。第4の画期は8世紀後半であり、集落規模の縮小と遺構数の減少を認めることができる。第5の画期は9世紀後半から末、また10世紀前半から中葉にかけて認められる。10世紀後半には途絶えるが、徐々に衰退するのではなく急激に途絶するため、集落構造の転換を示している可能性がある。第6の画期は11世紀後半ごろに認めることができる。拠点的な集落を形成したと考えられるが、短期型で途絶する。

### 3 上町遺跡の変遷

以上のように、これまでの研究では遺物の詳細な検討から各遺構の時期が示され、特に大型掘立柱建物群が郡衙関連施設という重要な指摘がなされてきた。一方、集落遺跡としての各時期の構造やまとまりを示すことができていないという課題が残されている。このため、時期が判明している竪穴建物跡121軒、掘立柱建物跡17棟の分布と変遷について示す。遺跡の時期区分は、同節2の先行研究を踏まえ、暦年代に若干の修正を加えつつ、ここでも6回の画期を主として設定したい。また、15世紀以降の遺物が認められるため、中世にも1時期設定し、大きく7時期に分けて変遷を示す。なお、

「SI01」などのように、各次数の種別と検出番号が重複しているため、調査次数を冒頭に付し、「50SI01」などのように記す。

**上町遺跡1期** 3世紀後半から4世紀初頭までである(第148図)。

第1の画期は弥生時代末から古墳時代初頭にあたる。宮川と荒城川に挟まれた当地が現在の河道に落ち着いて、上町遺跡周辺が離水し、人々の生活痕跡が認められ始めた時期である。

竪穴建物跡は、遺跡の北東辺りで弥生時代末の月影式が出土する05SI09、古墳時代初頭と考えられる03SI06を確認した。05SI09は上町遺跡で現在のところ最も古い遺構である。竪穴建物跡はこの2軒の確認のみであり、集落としての在り方は不明である。また、遺跡の中央において、古墳時代初頭の赤彩土器を伴う方形周溝墓03SZ01、33SD05、古墳時代初頭の土師器甕の埋納遺構を伴い墳墓の可能性のある土盛り遺構10SM01の3基を確認した。

これらより、遺跡地の北西部に集落、中央に墓域が展開されていた可能性を想定することができる。終期は古墳時代初頭であり、ここで一旦断絶するため、短期的な集落であったと考えられる。

**上町遺跡2期** 6世紀中葉から7世紀後葉までである(第149図)。

第2の画期は6世紀中葉から後葉である。竪穴建物跡が30軒・掘立柱建物跡2棟を確認し、遺構・遺物ともに急激に増加する。第33次調査では、1期に属する33SD05を切って竪穴建物跡33SI06が構築される。土地利用の在り方が大きく変わり、集落域を開拓した様子がみとれる。また、7世紀前半では竪穴建物跡13軒と掘立柱建物跡2棟、7世紀中葉から後葉では竪穴建物跡3軒が認められる。徐々に遺構数が減少し、終期は7世紀後葉と考えられる。

西から順に第5・3・1・26・27・4次調査にわたり、8つの地点で2軒以上の竪穴建物跡を近接して確認した。これは集落の単位を示すグループと考えられ、①～⑧とする。最も遺構数が多いのはグループ⑤であり、竪穴建物跡9軒と側柱の掘立柱建物跡1棟を数える。次に多いのは竪穴建物跡7軒と側柱の掘立柱建物跡1棟のグループ③である。最も古い掘立柱建物跡はグループ③に属する6世紀中葉から後葉の06SB02である。最大規模の竪穴建物跡は、グループ⑤に属する01SI06である。このことから、集落の中心的な役割が、当初グループ③であり、7世紀頃にグループ⑤へ移動したものと考えられる。

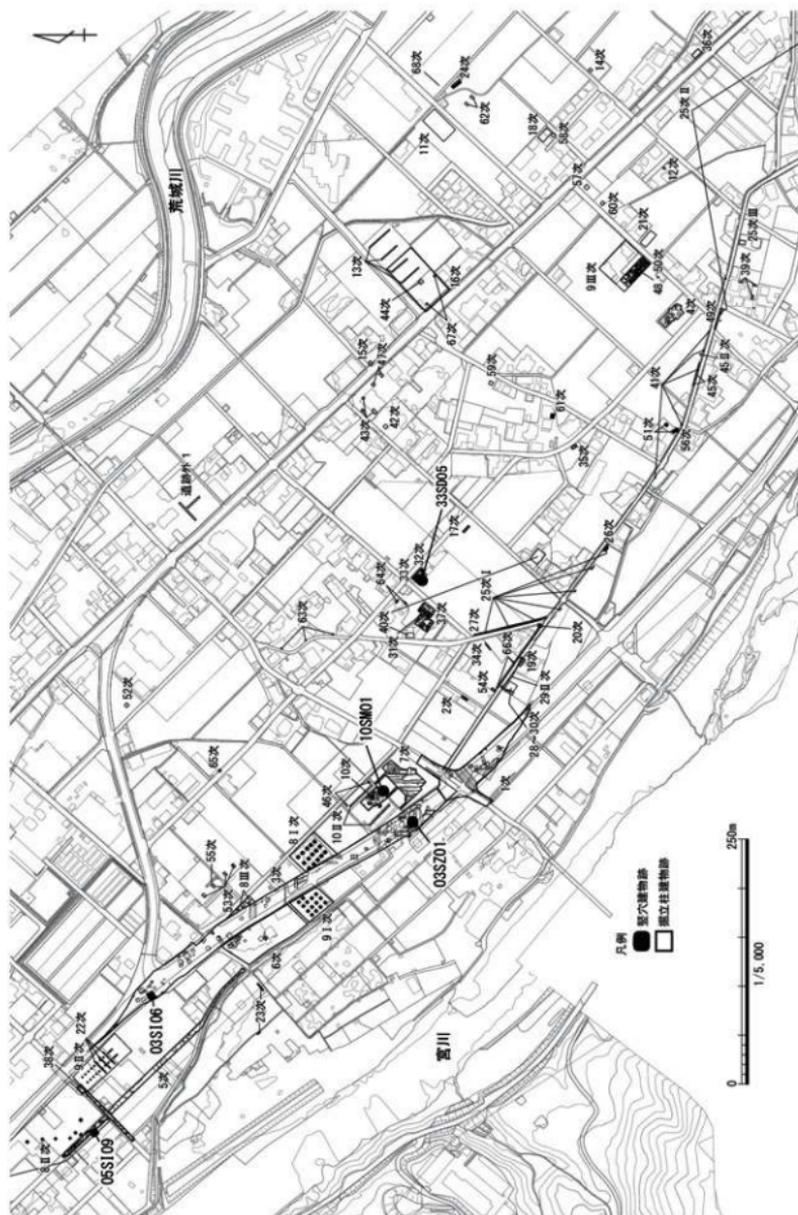
なお、第1・5・26次調査では、当該時期の竪穴建物跡を重複する状況で検出している。建て替えによるものと考えられ、居住域は固定されていたものと想定される。

**上町遺跡3期** 7世紀後葉から8世紀中葉までである(第150図)。

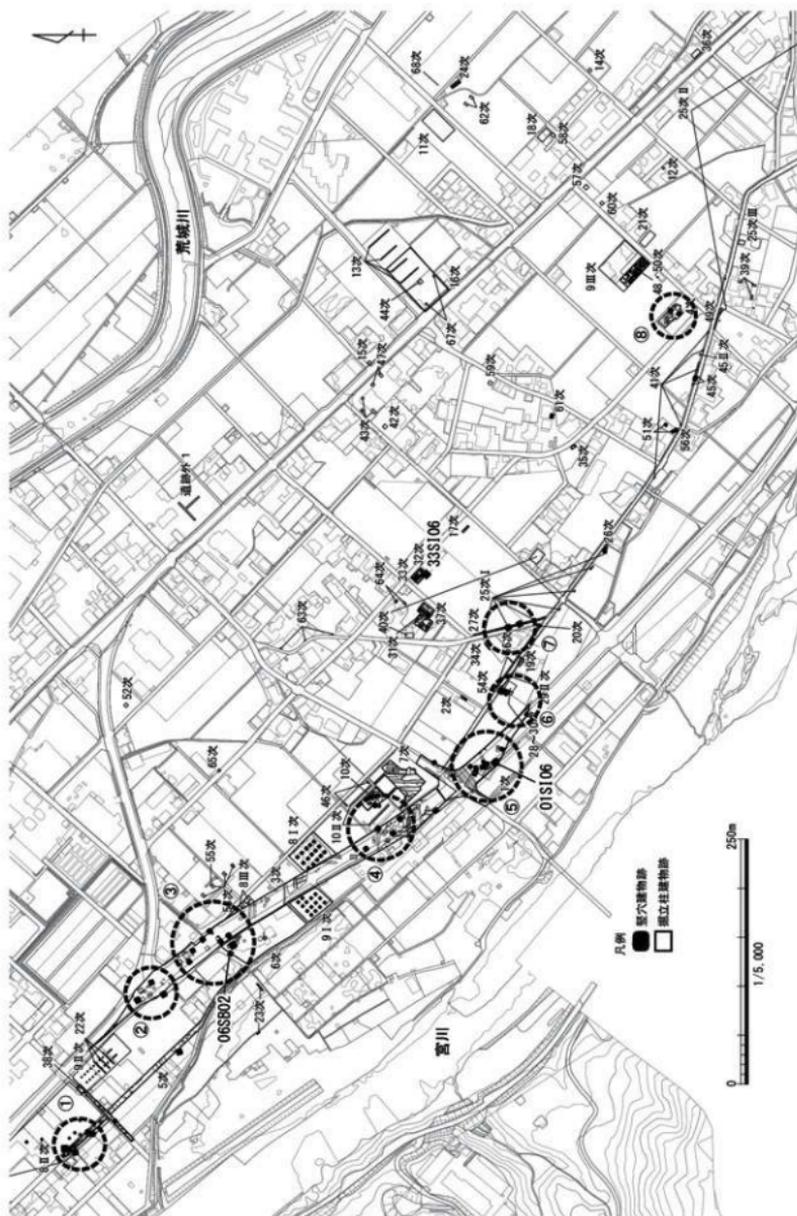
第3の画期は7世紀末葉から8世紀初頭に認められる。竪穴建物跡31軒・掘立柱建物跡11棟を確認し、2期の終期と比べて遺構数が飛躍的に増加する。8世紀前葉から中葉では、竪穴建物跡20軒を確認でき、新たな掘立柱建物跡は認められない。継続して建っていたものと推測されるが、それ以降も新たに建築した痕跡が認められないため、終期は8世紀中葉と考えられる。

3期では、第1・7・10次調査で検出した遺跡の中央に位置する大型の掘立柱建物跡群が特筆される。その特徴は、方位を正方位に揃えること、建物間の柱筋を揃えること、建物や区画施設の距離も完数尺で揃えることなどであり、溝も伴う。高い計画性をもって配置したものと考えられ、飛騨国荒木郡衙に関わる中枢施設であった可能性が想定される。最も大きいものは桁行7間×梁行2間の03SB07である。地方官衙の政庁脇殿を彷彿とさせる。

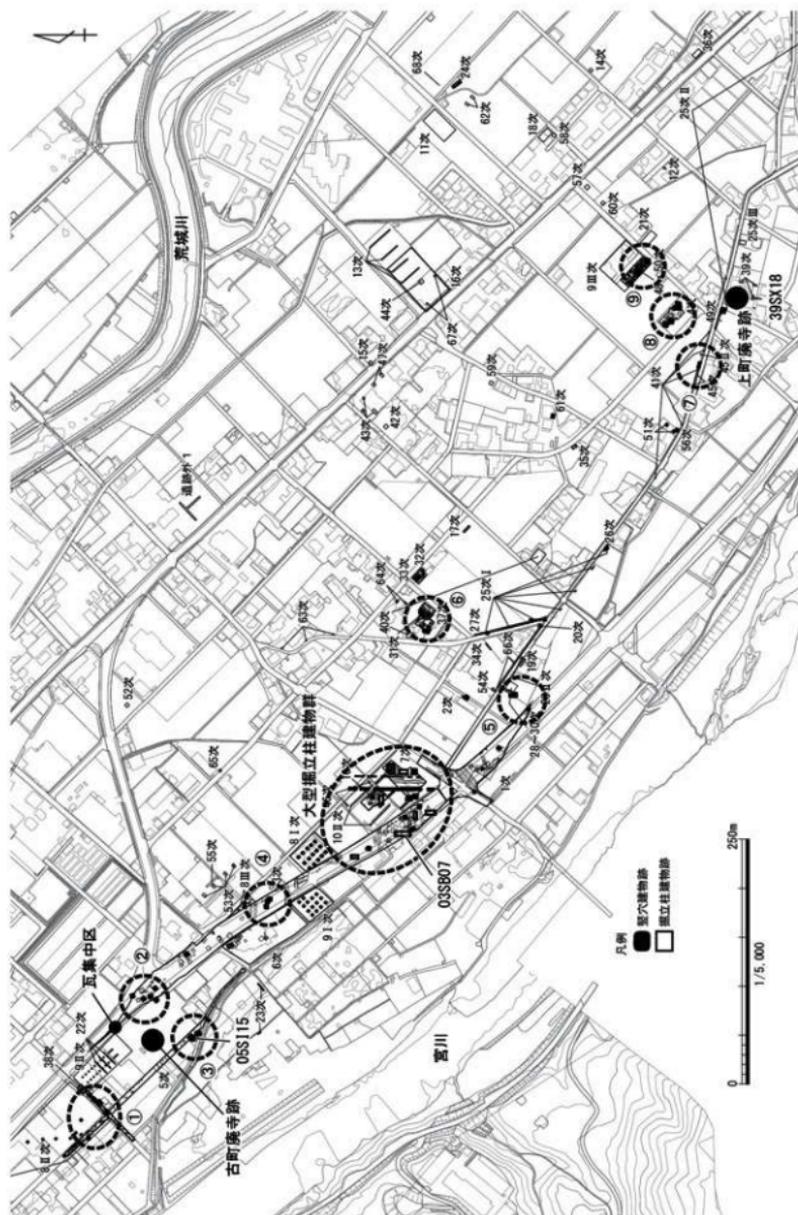
また当該時期には、第3次調査の瓦集中区・第5次調査の完形の軒丸瓦が出土する05SI15から、



第148図 上町遺跡1期遺構図



第149圖 上町遺跡2期遺構圖



第150図 上町遺跡3期遺構図

古町廃寺跡の成立を想定している。さらに第39次調査地点で基壇状の遺構 39SX18を検出し、上町廃寺跡の成立を想定している。郡衙中枢域に隣接して2つの古代寺院が建立されたものと考えられる。なお、高山市国府町境の荒城川近くで瓦片が採集され、塔ノ腰廃寺跡の存在も想定されている。その場合、近隣に3つの古代寺院が存在したことになる。

集落の単位としては、西から順に第5・3・7・10・29・37・45・4・50次調査で2軒以上の堅穴建物跡を近接して確認した。大型掘立柱建物跡近くのものを除き、グループ①～⑨とした。堅穴建物跡の遺構数では、グループ①・②・⑥・⑧で認められる5軒が最も多い。また掘立柱建物跡が伴うのは⑨のみである。このことから、郡衙や寺院周辺に集住する集落の単位には、同規模のものが多かった状況であったと考えられる。

なお、第5・3・37・45・4・50次調査では、当該時期の堅穴建物跡を重複する状況で検出している。このため、居住域は固定されており、建て替えを行いながら集落を営んだと想定される。

**上町遺跡4期** 8世紀後葉から9世紀前半までである(第151図)。

第4期の画期は、8世紀後葉である。堅穴建物跡6軒、掘立柱建物跡2棟を確認している。3期の終期と比べ、遺構数は激減する。郡衙に関連すると考えられた大型掘立柱建物跡も存続しない。この後も9世紀前半の堅穴建物跡2軒の確認に留まり、集落衰退が継続する様子をうかがうことができる。このため、4期の終期は9世紀前半と考えられる。

4期で2軒以上の堅穴建物跡を確認できるのは第37・45・50次調査であり、グループ①～③とした。グループ①は3期⑥、グループ②は3期⑦、グループ③は3期⑨の位置と重複する一方、大型掘立柱建物跡をはじめ、3期の他のグループ①～⑤・⑧の6グループは4期に継続していない。このため、郡衙関連建物の廃絶と共に、集落グループの多くが途絶したものと考えられる。

また、古町廃寺跡周辺では、第3・5次調査で建物等の遺構を確認していない。このため、古町廃寺跡は3期で廃絶した可能性が想定される。一方、第39次調査では8世紀後葉から9世紀後半の遺物が出土している。ここからは、上町廃寺跡は4期も存続していたものと考えられる。

**上町遺跡5期** 9世紀後半から10世紀後半までである(第152図)。

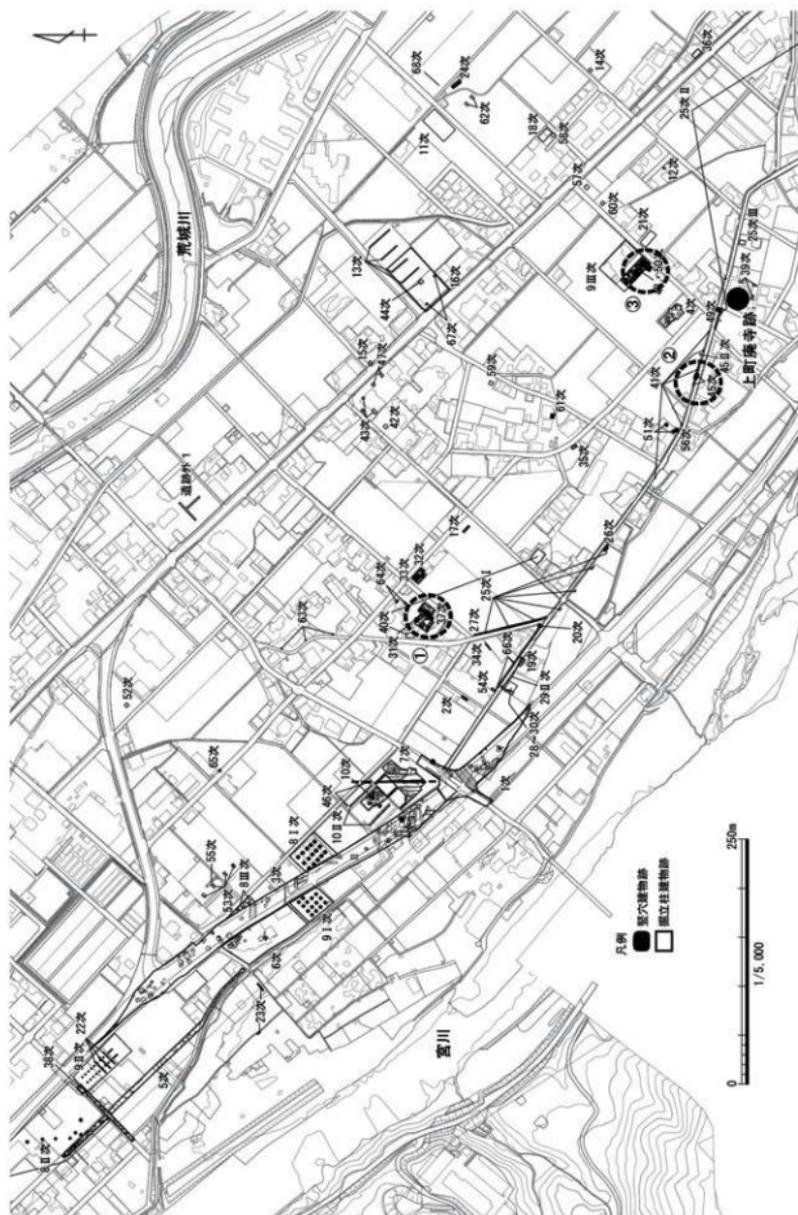
9世紀後半には第5次調査で5軒の堅穴建物跡を確認し、集落グループが再び見られるようになる。また、10世紀中葉の堅穴建物跡も4軒確認できる。しかし、10世紀後葉の遺構を確認できず、この頃に集落は一旦途絶えたと考えられるため、5期の終期は10世紀中葉と考えられる。

5期で2軒以上の堅穴建物跡が見られるのは、第5次調査地点のグループ①3軒と第37次調査地点のグループ②2軒である。グループ②は4期①と同地点であるが、いずれの堅穴建物跡も10世紀中葉のものであり、4期の終期から半世紀以上の隔りがある。このため、グループ①②とも、4期のグループを踏襲していない可能性が高い。

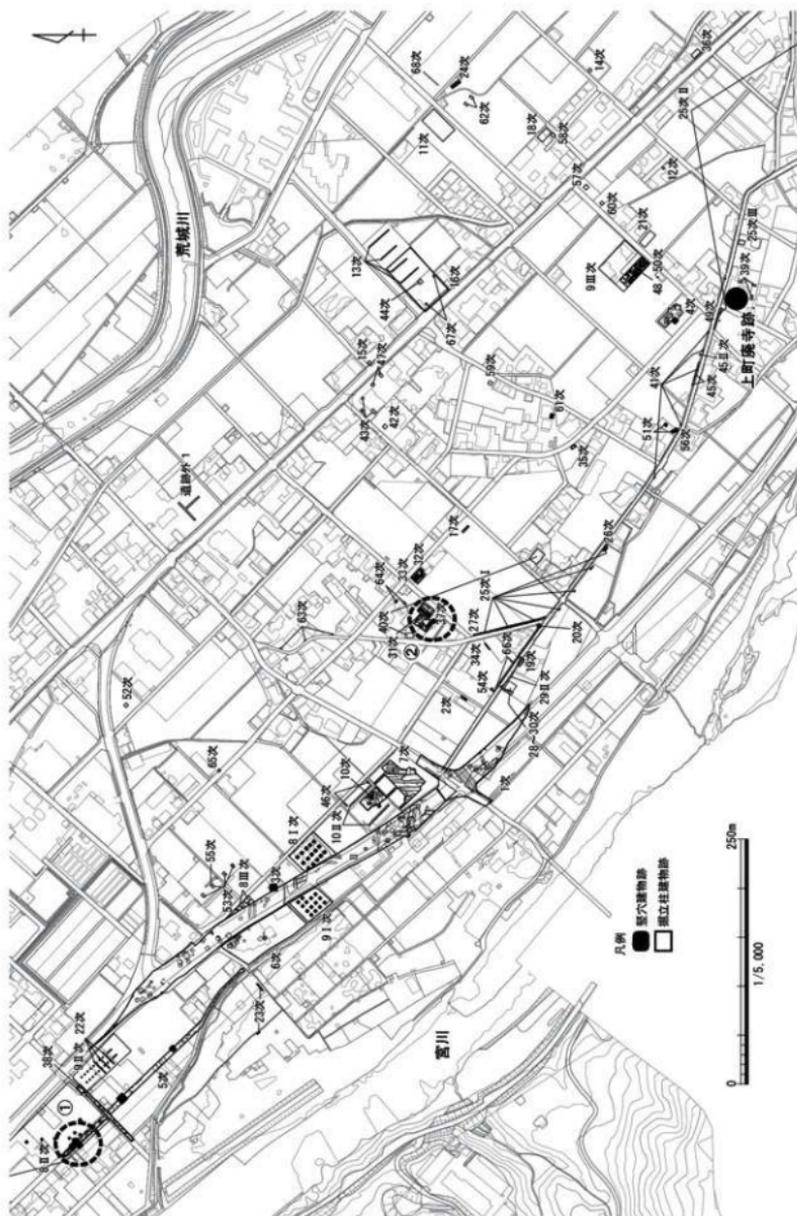
また、第39次調査では9世紀後半の遺物も出土する。このため、上町廃寺跡は5期まで存続し、ここで廃絶したものと考えられる。

**上町遺跡6期** 11世紀後葉から12世紀中葉までである(第153図)。

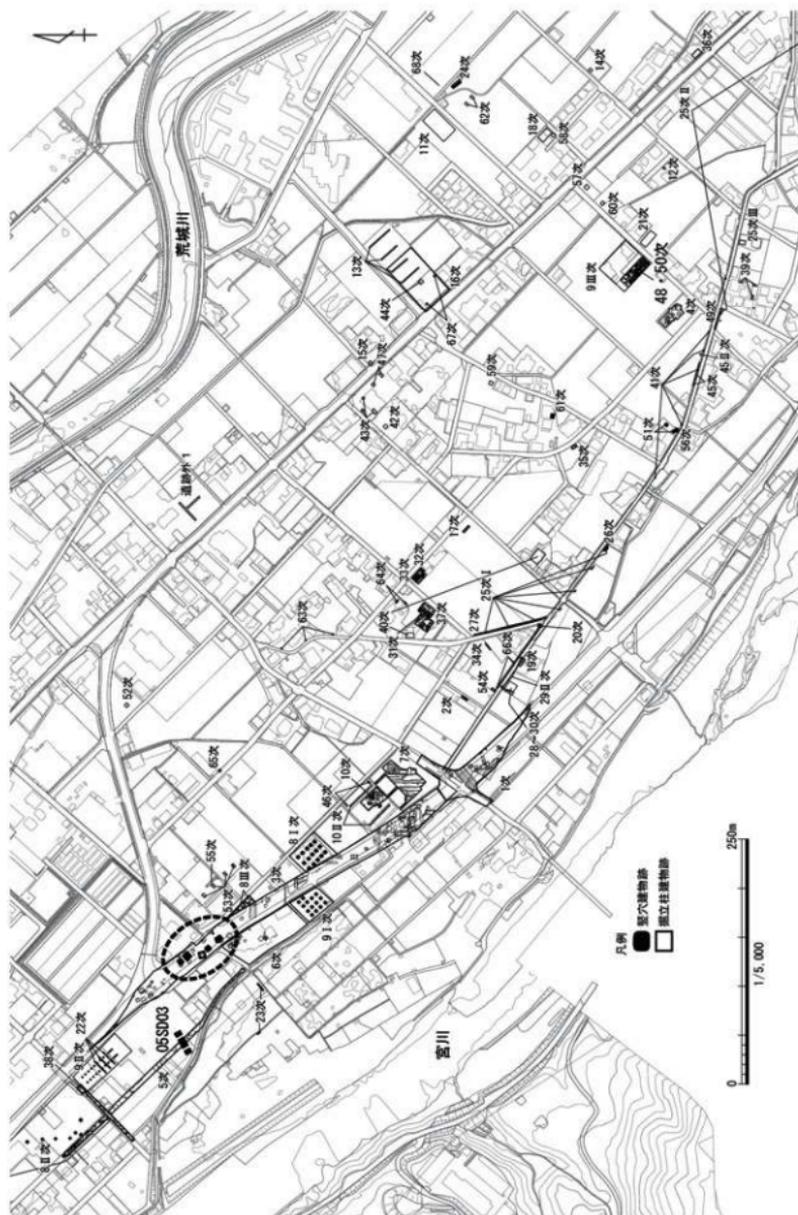
11世紀後葉以降の堅穴建物跡4軒と掘立柱建物跡1棟を第3次調査で確認している。第5次調査では大規模な溝 05SD03を確認した。第50次調査では、この時期の貿易陶磁や山茶碗が出土し、炭化物の年代測定でも該当し、土坑や溝などを確認したものの、建物遺構を検出できていない。多く確認した柱穴はこの時期の掘立柱建物跡を構成するものと想定され、この頃から徐々に堅穴建物跡から掘



第151図 上町遺跡4期遺構図



第152圖 上町遺跡5期遺構圖



第153図 上町遺跡6期遺構図

立柱建物跡へと移行していったものと考えられる。

また、12世紀後葉以降の遺構・遺物は確認できなくなる。このため、6期は11世紀後葉から12世紀中葉までと考えられる。

**上町遺跡 7期** 15世紀から17世紀初頭までである(第154図)。

この時期の遺構としては、第3次調査で検出した2条の道路遺構が該当する。その他、明確な遺構を確認できていないが、第50次調査で当該時期の古瀬戸後期の瀬戸美濃焼や土師器皿5類が散見される。このため、調査で確認された柱穴は当該期のものもあり、掘立柱建物跡で構成された集落であったと想定される。

7期は、上町遺跡から宮川対岸に位置する古川城跡との関連が想定される。古川城跡は姉小路氏城館跡の一つであり、発掘調査で15世紀末から16世紀前葉に築城され、16世紀中葉から後葉頃と、16世紀末葉から17世紀初頭頃に改修されたと考えられた。それに関連した文献史料調査・歴史地理調査では、第52次・65次調査付近より西側で15～16世紀に荘園の存在を想定した。また、第5次調査付近・第63次付近・第59・61次調査付近で集落の存在を想定し、第5次調査付近の集落は近世初頭の増島城跡建設に伴って移転した可能性を想定している(飛騨市教育委員会2022)。このため、小規模な集落は現代まで存続するものの、終期は17世紀初頭と考えられた。

#### 4 遺跡の様相

これまで、調査範囲に制約があることを前提に上町遺跡の消長から時期を設定し、各期の集落構造と変遷について述べてきた(第49表)。

集落は1期の弥生時代末頃から見られ、集落域と墓域が分かれる可能性があった。集落として本格的に成立するのは2期の6世紀中葉以降である。その集落では、拠点となるグループで堅穴建物跡が多く、掘立柱建物跡も伴うものと考えられた。

また、3期の7世紀末葉から8世紀初頭にかけて、郡衙関連と考えられる大型掘立柱建物跡と、古町廃寺跡・上町廃寺跡の2つの古代寺院が出現した。上町遺跡における最も大きい画期である。それに伴う集落単位は、同規模のものが多く様相が明らかとなった。

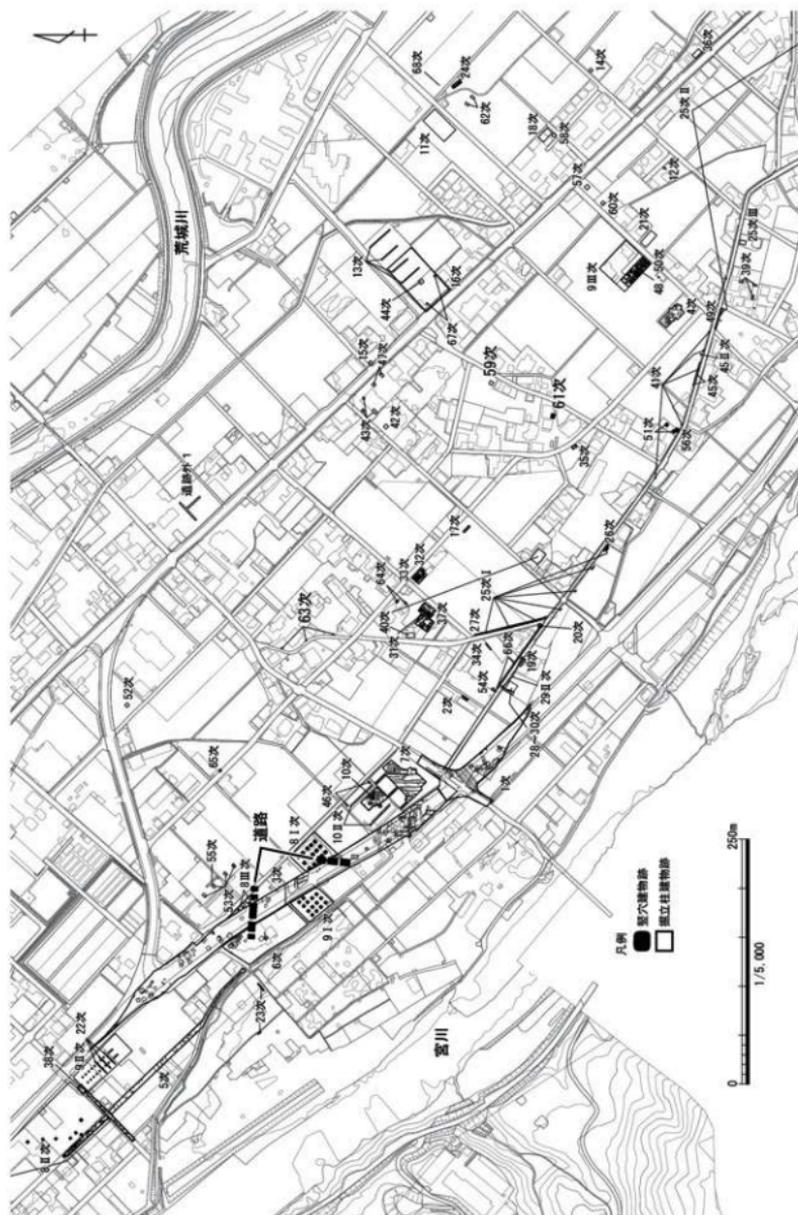
4期の8世紀後葉には大型掘立柱建物跡と古町廃寺跡は衰退する。それに伴って、集落も衰退していく。このことは、律令制の衰退というイメージと重なる。以降、5期の9世紀後半、6期の11世紀後葉、7期の15世紀と遺構・遺物が散見され始める時期はあるが、17世紀初頭の終期をむかえるまでの全体の様相は明らかにしえなかった。

居住施設としては、堅穴建物跡が12世紀前半まで見られた。この頃から掘立柱建物跡へ徐々に移行し、完全移行は上町遺跡では15世紀以降と推測された。

以上のように、遺構から見た上町遺跡の変遷について考えてきた。一方、郡衙関連遺構周辺と集落グループごとの土器の提示や墨書土器の分布など、遺物の検討に踏み込むことができなかった。このことは今後の課題として、引き続き検討を進めていきたい。

第49表 上町遺跡の消長表

時期	1期			2期			3期			4期			5期			6期			7期		
暦年代	3世紀	4世紀	5世紀	6世紀	7世紀	8世紀	9世紀	10世紀	11世紀	12世紀	13世紀	14世紀	15世紀	16世紀	17世紀						
上町遺跡	—			■			■			—			—			—			—		



第154図 上町遺跡7期遺構図

## 引用・参考文献

- 愛知県史編さん委員会 2010『愛知県史』(史料編4 考古4 飛鳥～平安) 愛知県
- 愛知県史編さん委員会 2015『愛知県史』(別編 窯業I 古代 猿投系) 愛知県
- 蘆田伊人編 1968『大日本地誌大系 斐太後風土記』雄山閣(富田礼彦 1873『斐太後風土記』)
- 伊東隆夫 1995「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ」『木材研究・資料』31 京都大学木質科学研究所
- 伊東隆夫 1996「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ」『木材研究・資料』32 京都大学木質科学研究所
- 伊東隆夫 1997「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ」『木材研究・資料』33 京都大学木質科学研究所
- 伊東隆夫 1998「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ」『木材研究・資料』34 京都大学木質科学研究所
- 伊東隆夫 1999「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ」『木材研究・資料』35 京都大学木質科学研究所
- 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部久・内海泰弘(日本語版監修) Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E. 編 2006『針葉樹材の識別』(IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト) 海青社
- 伊東隆夫・藤井智之・佐伯浩(日本語版監修) Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. 編 1998『広葉樹材の識別』(IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト) 海青社
- 伊東隆夫・山田昌久編 2012『木の考古学 出土木製品用材データベース』海青社
- 大阪府教育委員会 1978『陶邑Ⅲ』
- 大阪府立近つ飛鳥博物館 2006『年代のものさし』(陶邑の須恵器)
- 大野政雄ほか 1960『村山遺跡』
- 大野政雄・佐藤達夫 1967「岐阜県沢遺跡調査予報」『考古学雑誌』第53巻 日本考古学会
- 岡村利平編 1909『飛州志』住伊書店(長谷川忠嵩『飛州志』(享保年間))
- 片山博道 2016「第5章第1節 出土遺物の検討」『上町遺跡第28～33・37次』飛騨市文化財調査報告第9集 飛騨市教育委員会
- 河合英夫 1989「第IV章 上町遺跡C地点の調査成果と課題」『上町遺跡C地点発掘調査報告書』古川町教育委員会
- 河合英夫 1991「第IV章 結語」『上町遺跡D地点発掘調査報告書』古川町教育委員会
- 河合英夫 1994「第V章 結語」『上町遺跡トヨタ地点・O地点・栗原センター地点発掘調査報告書』古川町埋蔵文化財調査報告第4集 古川町教育委員会
- 河合英夫 2001「第IV章 結語」『上町遺跡金子地点・氷見地点発掘調査報告書』古川町埋蔵文化財調査報告第6集 古川町教育委員会
- 河合英夫 2013「第4章 総括」『上町遺跡向町地点』飛騨市文化財調査報告第6集 飛騨市教育委員会
- 河合英夫 2015「第1部第4章 遺跡からみた飛騨古川の古代」『飛騨古川歴史をみつめて』飛騨市上町遺跡金子地点・氷見地点発掘調査団 2001『上町遺跡金子地点・氷見地点発掘調査報告書』古川町埋蔵文化財調査報告第6集 古川町教育委員会
- 上町遺跡C地点遺跡発掘調査団 1989『上町遺跡C地点発掘調査報告書』古川町教育委員会
- 上町遺跡C地点遺跡発掘調査団 1991『上町遺跡D地点発掘調査報告書』古川町教育委員会
- 上町遺跡トヨタ地点・O地点・栗原センター地点発掘調査団 1994『上町遺跡トヨタ地点・O地点・栗原センター地点発掘調査報告書』古川町埋蔵文化財調査報告第4集 古川町教育委員会

- 岐阜県教育委員会 2005『岐阜県中世城館跡総合調査報告書 第4集（飛騨地区・補遺）』
- 岐阜県博物館 1992『特別展 飛騨のあけぼの』
- 岐阜県博物館 1995『特別展 美濃・飛騨の古代史発掘—律令国家の時代—』
- 岐阜県博物館 2017『壬申の乱の時代—美濃国・飛騨国の誕生に迫る』平成29年度秋季特別展
- 建設省・財団法人岐阜県文化財保護センター 1992『国道41号線改良工事に伴う発掘調査報告書』
- 国府町教育委員会 1993『岐阜県国府町遺跡地図』
- 国府町史刊行委員会 2007『国府町史』（考古・指定文化財編）
- 国府町史刊行委員会 2011『国府町史』（通史編1）
- 国立歴史民俗博物館 1993『日本出土の貿易陶磁 西日本編1』国立歴史民俗博物館博物館資料調査報告書4
- 小澤司 2011『飛騨の須恵器と灰陶陶器』『研究事業報告』（平成22年度版）岐阜県ミュージアム飛騨財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター 2005『太江遺跡Ⅱ』岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書第94集
- 財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター 2006『西ヶ洞廃寺跡・中野山越遺跡・中野大洞平遺跡・大洞平5号古墳』岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書第98集
- 財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター 2007『中野大洞平遺跡Ⅱ』岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書第107集
- 財団法人岐阜県文化財保護センター 1992『深沼遺跡』岐阜県文化財保護センター調査報告書第8集
- 財団法人岐阜県文化財保護センター 1995『岡前遺跡』岐阜県文化財保護センター調査報告書第20集
- 財団法人岐阜県文化財保護センター 2002『太江遺跡・寿楽寺廃寺跡』岐阜県文化財保護センター調査報告書第74集
- 齊藤孝正・後藤健一 1995『須恵器集成図録』（第3巻 東日本編1）雄山閣出版
- 島地謙・伊東隆夫 1982『図説木材組織』地球社
- 杉崎廃寺跡発掘調査団 1998『杉崎廃寺跡発掘調査報告書』古川町埋蔵文化財調査報告第5集 古川町教育委員会
- Stuiver M. & Polach A.H. 1977『Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of 14C Data』『Radiocarbon』19
- 東海土器研究会 2000・2001『須恵器生産の出現から消滅』（猿投窯・湖西窯編年の再構築）
- 中野山越遺跡発掘調査団 1993『中野山越遺跡発掘調査報告書』岐阜県吉城郡古川町教育委員会
- 中村浩 2001『和泉陶器窯出土須恵器の型式編年』芙蓉書房出版
- 奈良市教育委員会 2013『西大寺旧境内発掘調査報告書1-西大寺旧境内第25次調査-』奈良市埋蔵文化財調査研究報告3
- 奈良文化財研究所 2005『地方官衙と寺院—郡衙周辺寺院を中心として—』
- 奈良文化財研究所 2014『長舎と官衙の建物配置』第17回古代官衙・集落研究会報告書 奈良文化財研究所研究報告第14冊
- 奈良文化財研究所 2021『古代集落の構造と変遷1』第24回古代官衙・集落研究会報告書 奈良文化財研究所研究報告第30冊
- 奈良文化財研究所 2022『古代集落の構造と変遷2』第25回古代官衙・集落研究会報告書 奈良文化財研究所研究報告第36冊
- 奈良文化財研究所 2022『古代集落の構造と変遷3（古代集落を考える3）』第26回古代官衙・集落研

## 『究集会 研究報告資料』

- 八賀晋 2004 『信包八幡神社古墳測量調査報告書』 飛驒市教育委員会
- 早川万年 2015 「第2部第4章 荒城郡の古代」『飛驒古川歴史をみつめて』 飛驒市
- 林昭三 1991 『日本産木材顕微鏡写真集』 京都大学木質科学研究所
- 飛驒市教育委員会 2010 『増島城跡』 飛驒市文化財調査報告書第3集
- 飛驒市教育委員会 2012 『杉崎廃寺跡2』 飛驒市文化財調査報告書第5集
- 飛驒市教育委員会 2013 『上町遺跡向町地点』 飛驒市文化財調査報告書第6集
- 飛驒市教育委員会 2014 『黒内細野遺跡』 飛驒市文化財調査報告書第8集
- 飛驒市教育委員会 2016 『上町遺跡第28～33・37次』 飛驒市文化財調査報告書第9集
- 飛驒市教育委員会 2017a 『沢遺跡』 飛驒市文化財調査報告書第10集
- 飛驒市教育委員会 2017b 『信包中原田古窯跡』 飛驒市文化財調査報告書第11集
- 飛驒市教育委員会 2017c 「百足城跡現地説明会資料」
- 飛驒市教育委員会 2018a 『飛驒市遺跡地図』 飛驒市文化財調査報告書第12集
- 飛驒市教育委員会 2018b 『上町遺跡7』 飛驒市文化財調査報告書第13集
- 飛驒市教育委員会 2019 『飛驒市遺跡詳細分布調査報告—古川町・神岡町—』 飛驒市文化財調査報告書第14集
- 飛驒市教育委員会 2022 『姉小路氏城館跡—総括報告書—』 飛驒市文化財調査報告書第16集
- 藤澤良祐 2008 『中世瀬戸窯の研究』 高志書院
- 古川町 1986 『古川町史 史料編三』
- Bronk RC. 2009 「Bayesian analysis of radiocarbon dates」『Radiocarbon』51
- 堀祥岳 2018 「『飛驒における古代寺院の再検討』にむけて」『国府史学会平成30年12月例会資料』
- 三好清超 2016 「第10章第1節 古代寺院」『高山市史 先史時代から古代編』高山市史編纂資料第5号 高山市教育委員会
- 三好清超 2017 「上町遺跡第50次調査における礎石建ち堅穴建物跡」『飛驒の中世』第8号 飛驒中世史の会
- 三好清超 2019 「飛驒における軒瓦の一様相」『古代寺院史の研究』 思文閣出版
- 三好清超 2021 「姉小路氏関連遺跡で出土する中世土師器皿の編年試案」『中井均先生退職記念論集 城郭研究と考古学』 サンライズ出版
- Reimer P., Austin W., Bard E., Bayliss A., Blackwell P., Bronk Ramsey, C., Butzin M., Cheng H., Edwards R., Friedrich M., Grootes P., Guilderson T., Hajdas I., Heaton T., Hogg A., Hughen K., Kromer B., Manning S., Muscheler R., Palmer J., Pearson C., van der Plicht J., Reimer R., Richards D., Scott E., Southon, J. Turney, C. Wacker, L. Adolphi, F. Buentgen U., Capano M., Fahrni S., Fogtmann-Schulz A., Friedrich R., Koehler P., Kudsk S., Miyake F., Olsen J., Reinig F., Sakamoto M., Sookdeo A., & Talamo S., 2020, 「The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP)」『Radiocarbon』62
- 吉岡康暢 1994 『中世須恵器の研究』 吉川弘文館



第 50 次調査 全景 (南東から)

図版 2



第 50 次調査 全景（北西から）



第 50 次調査 全景 (西から)



第 50 次調査 全景 (上から)

図版 4



第 50 次調査 S103 完掘状況（北西から）



第 50 次調査 S103 遺物出土状況（北東から）



第 50 次調査 S103 カマド遺物出土状況（西から）



第 50 次調査 S103 南西側礎石調査終了状況（南東から）



第 50 次調査 S103 カマド西側焼土検出状況（西から）



第 50 次調査 S103 南東側礎石調査終了状況（南東から）



第 50 次調査 S103・S112 D-D' 土層断面（北東から）



第 50 次調査 S112 調査終了状況 (南西から)



第 50 次調査 S112 遺物出土状況 (西から)



第 50 次調査 S112 A-A' 土層断面 (北西から)



第 50 次調査 S112 B-B' 東側土層断面 (北東から)

図版 8



第 50 次調査 S1101 完掘状況 (南西から)



第 50 次調査 S1101 遺物出土状況 (北東から)



第 50 次調査 S1101 北東カマド埋土掘削状況 (西から)



第 50 次調査 S1101 北東カマド G-6 土層断面 (南西から)



第 50 次調査 S1101 北西カマド調査終了状況 (南東から)



第 50 次調査 S1101 遺物No. 76 須恵器積み重ね出土状況 (南東から)



第 50 次調査 S1101・SB112 C-C' 土層断面 (南東から)



第 50 次調査 S1137 調査終了状況 (北西から)



第 50 次調査 S1137 A-A' 土層断面 (北東から)



第 50 次調査 S1142・SP148 調査終了状況（北東から）



第 50 次調査 S1142 カマド B-B' 土層断面（南西から）



第 50 次調査 S1147 調査終了状況 (北東から)



第 50 次調査 S1149 調査終了状況 (北東から)



第 50 次調査 S1151 調査終了状況 (北から)



第 50 次調査 S1190 調査終了状況 (東から)



第 50 次調査 SB49 北半分調査終了状況 (北東から)



第 50 次調査 SB49(P1) C-C' 土層断面 (東から)



第 50 次調査 SB49(P3) E-E' 土層断面 (南東から)



第 50 次調査 SB49(P5) G-G' 土層断面 (北東から)



第 50 次調査 SB49(P7) I-I' 土層断面 (北東から)



第 50 次調査 SB112 完掘状況 (北西から)



第 50 次調査 SB112(P1) C-C' 土層断面 (南東から)



第50次調査 SB112(P1)・SP193 E-E' 土層断面(南東から)



第 50 次調査 SB112(P6) H-H' 土層断面 (東から)



第 50 次調査 SB112(P7) I-I' 土層断面 (東から)



第 50 次調査 SS01 調査終了状況（北から）



第 50 次調査 SS01 礫検出状況（西から）



第 50 次調査 SS08・09・62・63 礫検出状況（東から）



第 50 次調査 SS08・09 A-A' 土層断面（南から）



第 50 次調査 SD15 調査終了状況 (北東から)



第 50 次調査 SD15-SK28-SP25 土層断面 (北東から)



第 50 次調査 SD15-SP36 C-C' 土層断面 (北東から)



第 50 次調査 SD194 C-C' 土層断面 (北から)



第 50 次調査 SD194 B-B' 土層断面 (南から)



第 50 次調査 SD194 検出状況 (南から)



第 50 次調査 SD194 調査終了状況 (南西から)



第 50 次調査 SD208 調査終了状況 (北東から)



第 50 次調査 SD232 調査終了状況 (南東から)



第 50 次調査 SK205 調査終了状況 (北東から)



第 50 次調査 SK205 B-B' 土層断面 (北東から)



第 50 次調査 SK165・166・167・SP168 完掘状況 (北西から)

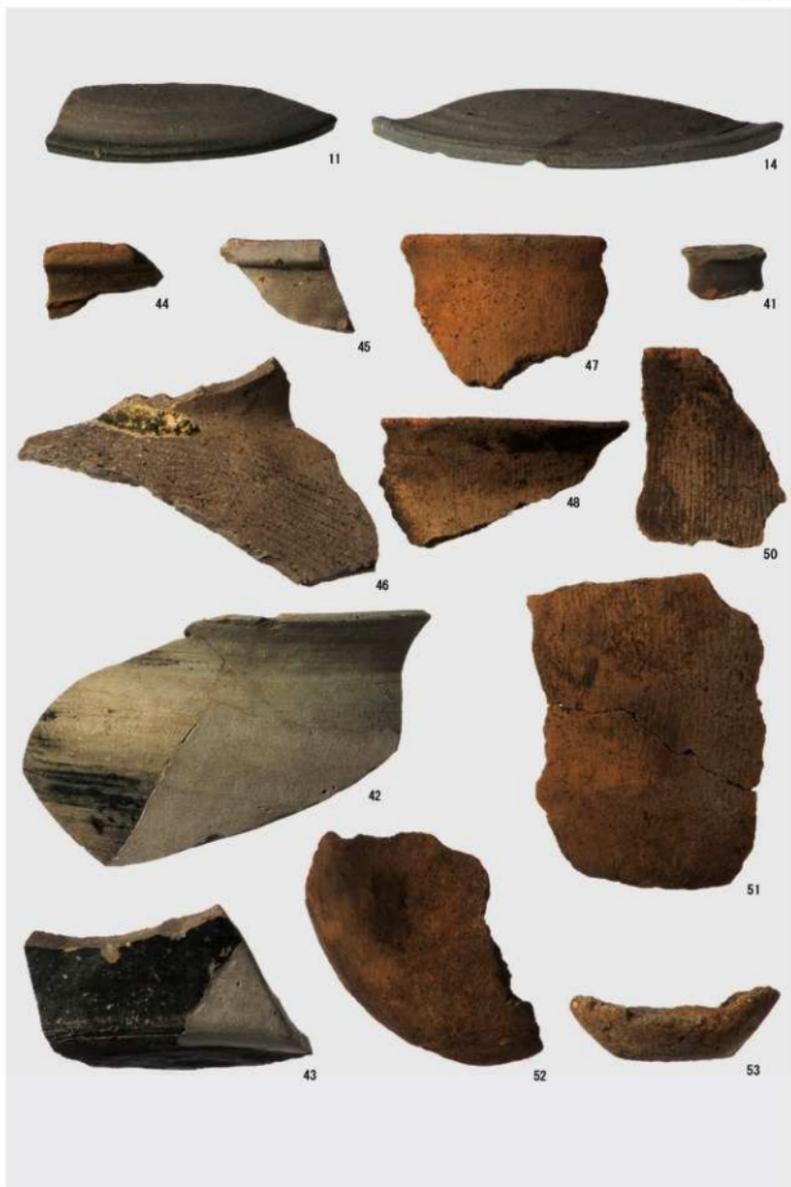


第 50 次調査 SK186・187・SP210 調査終了状況 (南から)



第 50 次調査 SK238・239 完掘状況 (北西から)





第 50 次調査 S103 出土遺物 (2)



第 50 次調査 S112 出土遺物

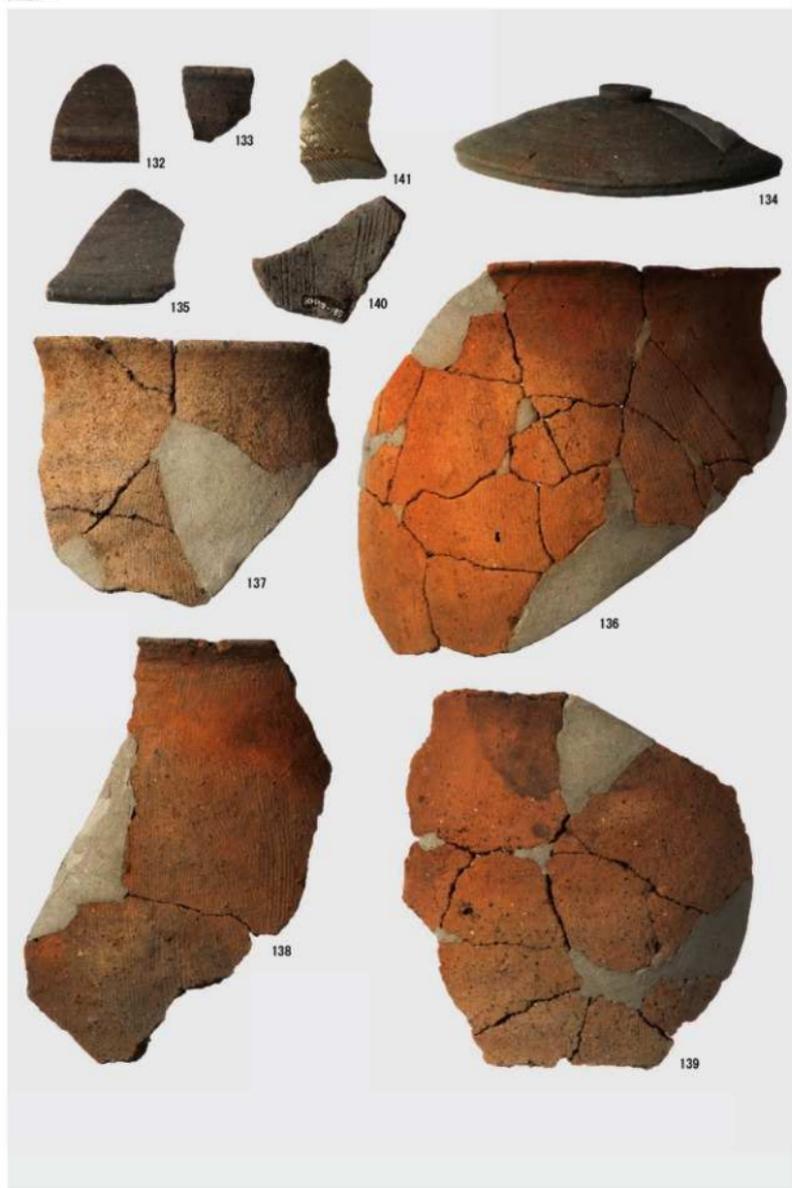


第 50 次調査 S1101 出土遺物 (1)





第 50 次調査 S1・S8・SD 出土遺物





第 50 次調査 SK 出土遺物



第 50 次調査 SP 出土遺物





第 39 次調査 T1 調査終了状況 (北から)



第 39 次調査 T3 調査終了状況 (西から)



第 54 次調査 T1 調査終了状況 (南西から)



第 64 次調査 T2 調査終了状況 (北西から)

## 報告書抄録

ふりがな	かんまちいせき8							
書名	上町遺跡8							
副書名	—							
シリーズ名	飛騨市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第17集							
編著者名	三好清超、石川 嵩							
編集機関	飛騨市教育委員会							
所在地	〒509-4292 岐阜県飛騨市古川町本町2番22号 TEL. 0577-73-7496 FAX 0577-73-7497							
発行年月日	2023年3月3日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
かんまちいせき 上町遺跡 (第50次)	ぎふけんひがし 岐阜県飛騨市 ふるかわちようかんまち 古川町上町	21217	06433	36° 13' 15"	137° 11' 51"	20161121 ～ 20161220	518	個人住宅
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
上町遺跡	集落跡	奈良～平安時代、中世	竪穴建物跡5、竪穴状遺構4、掘立柱建物跡2、柵列遺構1、溝4、集石遺構17、土坑37、柱穴203	須恵器、土師器、灰釉陶器、中世陶磁器、石製品、金属製品等		8世紀代を中心に竪穴建物跡5軒と掘立柱建物跡2棟を確認した。また、中世期の溝・土坑を確認した。		
要約	<p>上町遺跡は、宮川右岸の沖積地に立地する大規模な遺跡である。1987年以降68次にわたり延べ21,615㎡の発掘調査を実施してきた。結果、大型掘立柱建物跡の存在などから古代飛騨国荒城郡衙の関連する遺跡と考えられている。今回は、個人住宅による敷地耕作土撤去に伴って発掘調査を実施した。</p> <p>遺構では8世紀代を中心に竪穴建物跡5軒と掘立柱建物跡2棟を確認した。また、中世期の溝・土坑を確認した。これにより、8～9世紀、中世期の遺構の状況と変遷を確認した。</p> <p>また、未報告であった試掘確認調査・工事立会の報告を行い、上町遺跡全体の遺跡の変遷を考えた。それにより、集落としては弥生時代末から古墳時代初頭に集落域と墓域を形成したようであった。一旦断絶し、集落が本格的に成立するのは16世紀中葉以降である。その集落では、拠点となるグループで竪穴建物跡が多く、掘立柱建物跡も伴うものと考えられた。一旦衰退するものの、7世紀末葉から8世紀初頭にかけて、郡衙関連と考えられる大型掘立柱建物跡と、古町摩寺跡・上町摩寺跡の2つの古代寺院が出現した。上町遺跡における最も大きい画期である。それに伴う集落単位は、同規模のものが多く様相が明らかとなった。</p> <p>8世紀後葉には大型掘立柱建物跡と古町摩寺跡は衰退する。それに伴って、集落も衰退していく。このことは、律令制の衰退というイメージと重なる。以降、9世紀後半、11世紀後葉、15世紀と遺構・遺物が散見され始める時期が続き、17世紀初頭に終期をむかえる様相が明らかになった。</p>							

飛騨市文化財調査報告書 第17集

## 上町遺跡 8

発行日 令和5(2023)年3月3日  
編集・発行 飛騨市教育委員会  
〒509-4292 岐阜県飛騨市古川町本町2番22号  
TEL 0577-73-7496 FAX 0577-73-7497  
印刷・製本 有限会社 毛野考古学研究所 岐阜営業所  
〒509-4254 岐阜県飛騨市古川町上町782番2  
TEL 0577-73-5312  
毎日印刷社  
〒506-1161 岐阜県飛騨市神岡町船津1152番地1  
TEL 0578-82-0447 FAX 0578-82-5101